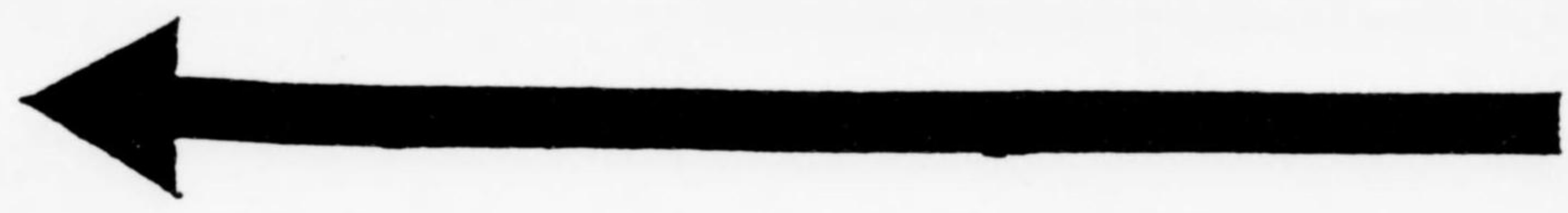


384
192



始



經濟的強力車



ニッサン トラック・バス

國 策に順應して生れた 國產自動車として發賣以來
皇軍の御用を蒙り前線に於て多數御役に立つて居る事
は深く光榮と致す處であります。

銃 後に於ても自家用車、タクシー、トラック、及び
バスとして全國を通じ盛んなる御愛用を蒙り誠に感謝
に堪えませぬ。需要家各位、業者各位の深厚なる御支
持を拜謝し一層の御愛顧
を御願致します

東京・丸の内
日產自動車販賣株式會社

營業所 大阪 江戸 堀上 通・名古屋 大池町
福岡 天神 町・横濱 櫻木町



特235
190



自動車事業と人



自動車情報社

序

我國は、今や曠古未曾有の非常時局に直面して世界歴史の一頁に一新紀元を劃すべき最も重大にして最も光榮ある使命遂行の途上にある。その一環として自動車界の一舉一動が悉く國家的の關聯を持つといふ未だ曾て經驗しなかつた時期に際會したのである。この秋にあたり自動車界も亦國策に呼應して蹶起、事業は澎湃たる躍進的氣運を醸成しつゝ無前の飛躍を示めし劃期的な進展を見るに至り、これを運營する無數の新英雄を産み、是等新時代の事業家は各方面に活動し、飛躍して、自動車事業の建設に邁進してゐる。併し乍ら本書を讀んで、此の躍進的事象と、新英雄の華々しき活躍をのみ讀むものは、未だ本書を精讀理解せるものとは言へぬ。眼先紙背に徹する活眼を以て本書に接

する者は、斯業が如何に建設への努力を續け戦時體制下の諸情勢を反映しつゝあるか、これを運行する人々が、いかに明日の自動車日本を創造せんがために苦惱し努力してゐるかを看過しないであらう。

自動車情報社が、戦時下に自動車界再認識の目的を以て出版せられた「自動車事業と人」は思ふに斯業の再認識に止まらず、事業と人を通して更に來るべき時代の自動車日本を如何に建設すべきかに對する後進青年への指針たらしめんとするものであらう。

吾輩は、斯かる觀點より本書の公刊されることを欣懷とし、所感の一端を陳ねて、序に代へる次第である。

昭和十三年盛夏

編者序

國防上自動車の重要性が確認されたのは歐洲戦であつたが、爾來科學の進歩と共に、自動車の有する機械的優越力はあらゆる角度より科學的に活用せられるに至り、兵器として、或ひは陸上輸送機關として、近代國防上重要不可缺なものとなつてきた。

支那事變は漢口攻略により戰局の一大進展を見るも、その前途尙遠慮なり、第三國の支援を頼み長期抵抗の國民政府潰滅のため我國有史以來の大軍は陸海空に奮戦を重ねつゝあり、自動車の軍事的活躍は世界戰史に燦たる光輝を放つてゐる。この秋にあたり國產自動車の量的増加と質的改善とを圖り以て自動車工業を磐石の安きに置かなければならないと感するのである。勿論自動車工業の確立は國防上の觀點からのみでなく、本邦に於ける基礎産業確立と云ふ點からも必要である。如斯自動車工業の振興確立は戰時經濟體制の今日緊要不可缺の問題で國民全般の翹望して已まざる所であるから自動車業界人は一人一物を残すところなく斯業確立の重大使命遂行に動員してこれが達成に邁進せねばならぬ。この曠古未曾有の非常時局に際會して本書を刊行し、斯業の現況を確認、歴史的事業を擔當する人材華々しき活躍の足跡を辿ることは現下時局に鑑み極めて意義深きことであらねばならぬ。幸にして忍苦孜々編者の微意認容せらるゝならば望外の光榮である。

昭和十三年八月

自動車情報社

目次 (イロハ順)

イリス商會	八〇	五十嵐竹次郎	七八
イソイ商店	一四七	泉自動車工業株式會社	八一
一三六商行	一五三	泉 藤 吉	八一
石 澤 愛 三	一一	泉谷製作所	八三
石橋計器製作所	一一	犬塚製作所	二二三
石橋モーターサイクル商會	一一四	市金製作所	七九
石 橋 工 場	七七	市川金次郎	七九
石川ガスケット商會	八三	磯村商店	一五三
稻原啓三郎	二二五	飯島製作所	一五三
稻岡七右衛門	二二六	飯島ラヂエター工業所	八〇
伊澤自動車商會	二四	移動式薪炭瓦斯發生爐工業組合	八二
猪狩博愛	一七九	肥川 政 雄	二九二
猪瀬商店	四八	萬歳貿易商會	七二
池貝自動車製造株式會社	七八	萩原 拳 吉	八五
池田權次郎	一一	長谷川自動車鍍金工業所	一九二
池田自動車商會	一一二	橋本工業所	八七
池袋自動車教習所	一七八	橋本鐵五郎	八六
岩 本 商 店	二四六	橋本圭三郎	八六
岩本虎之助	一五二	晴山自動車機械工場	二六七
岩村電機工業所	二一九	晴山直吉	八四
岩田噴付塗裝機製作所	八二	土倉 木 二	八四
五十嵐商店	七八	白山蓄電池合名會社	二〇三
		原 商 會	一八八

早房工場	八六
蜂巢工業所	八五
日産自動車株式會社	一三四
日産自動車販賣株式會社	一三九
日本自動車株式會社	一八
日本ゼネラルモーター株式會社	三〇
日本フォード自動車株式會社	三一
日本石油株式會社	二六六
日本内燃機株式會社	二八
日本電池株式會社	二〇六
日本蓄電池株式會社	二〇七
日本自動車工業株式會社	二二四
日本商會	二四
日本精工株式會社	一四九
日本S.K.F.興業株式會社	一九
日本車輛株式會社	二二四
日本特殊陶業株式會社	九〇
日本氣化器製作所	八七
日本ディーゼル工業株式會社	三二
日本ビストンリング株式會社	八八
日本ワイバーレング株式會社	八九
日本ステンレス株式會社	二二五
日本輪業ゴム株式會社	二七〇
日本ビクターパッキング製作所	九二
日本ラヂエーター製作所	九一
日本トラック製造株式會社	二二五
日本タイヤ協會	二七三

日本聯合自動車協會	二七二
日本自動車協會	二七四
日本自動車學校	二四四
日本工業新聞社	二九三
日本自動車競争俱樂部	二七四
日本聯合自動車協會々報	一九九
日東商會	二〇八
日刊工業新聞社	二九二
日滿工業新聞社	二九四
日滿交通新聞社	二九三
新潟鐵工所	二九
新倉文郎	二五一
西野製作所	九三
西原ダイヤ商會	一八八
西村商會	九二
西萩濱自動車教習所	二四七
ホーヅ製作所	九四
堀内良平	二五二
堀内製作所	一四六
堀切パネ製作所	九四
堀越時次郎商店	四一
本田商店	三九
トヨタ自動車工業株式會社	三八
トキヨ商會	一三四
東京自動車工業株式會社	一五四
東京トヨタ自動車販賣株式會社	四二
東京機器工業株式會社	一四七

東京鋼材株式會社	一四八
東京チゼル自動車株式會社	六九
東京地下鐵道株式會社	二五三
東京横濱電機株式會社	二五五
東京環狀電氣自動車株式會社	二五五
東京車輛製作所	九五
東京鍛工所	九五
東京ルノー販賣株式會社	三三
東京自動車用品販賣株式會社	九六
東京自動車興業株式會社	一五一
東京自動車工業所	二四一
東京レザー商會	二二六
東京自動車常設市場	一七九
東京自動車電機商會	二〇八
東京正田工業所	九六
東京自動車教習聯盟	二四六
東京自動車教習所	二四七
東京自動車商組合	二七五
東京タクシ一商會組合	二七六
東京自動車業聯合會	二七七
東京聯合自動車業組合	二七七
東京貨物自動車業組合	二七八
東京タイヤ販賣業組合	二七九
東京自動車機械工業組合	二八一
東京中古自動車販賣業組合	二八一
東京自動車金車體工業組合	二八二
東京小型自動車商工組合	二八九

東京自動車車庫業組合	二八三
東京蓄電池商業組合	二八二
東京團體貸切自動車業組合	二八五
東京ラヂエーター工業組合	二八四
東京自動車解體商組合	二八三
東京タイヤ業協和會	二八五
東京自動車ボディ工業組合	二八四
東京礦油商組合	二八一
東京毎夕新聞サンデー自動車街	二九四
東京交通新聞社	二九五
東京自動車新聞社	二九五
東洋自動車株式會社	七六
東洋ラヂエーター製作所	九七
東洋商會	九八
東洋ベアリング製造株式會社	一四八
東洋モーターサイクル商會	一四八
東武鐵道株式會社	二五三
東都聯合自動車株式會社	二五二
豊田利三郎	四〇
豊田喜一郎	四〇
德永商會	九八
德永寛治	九八
德文堂	二七一
中央自動車株式會社	二四四
中央商會	九九
中外自動車商會	四三
理研自動車改造株式會社	七五

陸自聯合會……………二八六
 オートン自動車株式會社……………二五六
 オートモビル社……………三〇六
 オートグラフ社……………二九六
 大江邊之助……………一六六
 大久保正二……………三七
 大村屋商店……………一〇〇
 大塚製作所……………一〇一
 大塚蓄電池會……………二〇九
 大垣商會……………一〇〇
 大山商店……………一八〇
 大谷商店……………一五四
 大關清備……………二二七
 大河電氣工業所……………二〇九
 大橋電氣工業所……………二〇九
 近江屋商店……………二〇一
 小川菊造……………二〇一
 小川榮四郎……………二五九
 小津線平……………二五九
 小野格式……………二二
 小椋商店……………一五五
 奥田雲藏……………二六八
 越智貞雄……………二三
 岡村リムホキール工場……………一〇二
 岡村リムホキール製作所……………一〇二
 岡崎自動車工場……………二二六
 新橋商店……………四五六

尾崎製作所……………一五〇
 尾久バルブ製造所……………一八九
 尾久自動車教習所……………二四八
 四凸會……………一八九
 和田喜次郎……………二五六
 和氣商會……………一五六
 和氣商會……………一五六
 渡部商店……………四九
 若松製作所……………一〇三
 豆飯金工場……………一〇三
 カプト商會……………一五三
 神谷正太郎……………一四一
 神谷プレス作業所……………一〇五
 河田務……………六九
 川崎車輛製造株式會社……………四六
 川田電機研究所……………二〇四
 川柳塗料店……………二〇七
 香川商會……………一〇四
 金井ダイヤ商會……………一〇四
 金子商店……………一〇四
 金子佐久男……………一〇四
 影山ダイヤ商會……………一〇四
 神田橋自動車商會……………一〇四
 横濱モーターパーツ製作所……………一〇六
 横濱護謨製造株式會社……………一〇六
 吉武進……………四一
 吉田政治……………四三

吉金常助……………二五七
 吉崎久一……………二五七
 吉澤製作所……………一〇五
 吉原商店……………一五八
 吉原常吉……………一五八
 吉原商店……………一八一
 米澤賢治……………一六二
 四ツ目ボデー製作所……………二二八
 ダンロップ護謨株式會社……………一九四
 ダイハツ商會……………一五
 ダイモントライニング營業所……………一〇七
 タクシー問題研究會……………二九六
 タイヤ之日本社……………三〇七
 太平洋自動車株式會社……………四七
 太平自動車株式會社……………五〇
 大正海上火災保險株式會社……………二六九
 大日本機械工業株式會社……………一〇
 大日本スプリング製作所……………一〇九
 大東自動車商會……………五二
 大東自動車會中古車部……………一七八
 大惣商店……………一〇
 大陽商會……………一〇九
 第百商店……………一六〇
 第百ラヂエター瀧之川支店……………一五〇
 竹村商會東京支店……………一〇六
 竹村商會電機部……………一一一
 竹内半市……………二五八

竹内車室工場……………二二九
 竹内長利……………二二九
 玉田彦三郎……………二二九
 玉井市太郎……………二二九
 玉商會……………一〇七
 高橋内燃機工業株式會社……………一〇七
 高橋英治商店……………二二九
 高梨商店……………一六一
 高梨豐司……………一六一
 高梨誠一郎商店……………一六二
 高岡正義……………一〇一
 高田蓄電池株式會社……………一〇一
 高田儀三郎……………一〇一
 田中ダイヤ商會……………一〇一
 田中ダイヤガスト合資會社……………一〇一
 種邑商會……………一〇八
 種邑つち……………一〇八
 田村鱒三商店……………一〇八
 田所鷹一……………一〇八
 田添ダイヤ商會……………一〇八
 辰口硝子店……………一〇八
 溜池自動車教習所……………一〇八
 染谷商事株式會社……………一〇八
 染谷關太郎……………一〇八
 岡塚商店……………一〇八
 鶴岡スプリング製作所……………一〇八
 鶴岡瀧吉……………一〇八

幸輪社	一九八
神戸電機製作所	二一七
江東モーター商会	二五七
江東ボデー製作所	二三五
江東自動車増體商組合	二八七
甲田光人	三三三
金剛自動車商会	六三三
近藤電氣工業所	二一六
工業日新聞社	三〇一
交通日新聞社	三〇〇
交通日報社	三〇二
交通通信社	三〇二
交通経済新報社	三〇三
エンパイヤ自動車商会	六四
エービーシー商会	一八五
海老原製作所	一八六
海老原直太	一八五
榮久自動車工場	二四三
T.O.方向器商会	二四三
帝國自動車工業株式會社	二二八
帝國發條製作所	二二九
帝國ゴム工業所	二二九
帝國ビストン製作所	二二七
帝國實用社	一九九
帝國自動車協會	二八七
帝國自動車新聞社	二八七
帝都運輸新報社	三〇四

寺村春三郎	二六三
寺岡製作所	一三〇
アボロ商会	一三〇
アトラス商会	一三〇
アイト商会	一三〇
鮎川義介	一三一
朝日自動車株式會社	一五一
朝倉每人	四七
朝日ゴム工業所	一六
愛國自動車株式會社	一九九
愛國燃料機株式會社	一六二
愛國電機工業所	二七一
安自動車株式會社	一三一
安全自動車株式會社	五九
安部甚工業所	六六
若田定次郎	一三三
天本淑郎	二〇
新井源水	一九三
新井政吉	三六
雨宮商店	二七三
雨宮貢	一七三
曙石綿工業株式會社	一三二
旭工業所	一三二
赤羽蓄電池工業所	一三二
東商會	二一八
安藤米太郎	二一九
佐藤喜美治	一六〇

佐藤虎吉	六八
佐藤積善	七七
佐々木儀助	三三
佐々木ボデー製作所	一八三
佐久間章商店	一八三
三和自動車株式會社	一八三
三工商会	七〇
三寶製作所	一三四
三德商会	二二〇
三德自動車商会	一八四
齋藤商店	一七四
汽車製造株式會社	一三七
共同電氣株式會社	一三四
共和レザー株式會社	一三六
木村兼治郎	一三五
木村硝子店	一三五
木村銅作	一三五
木村カレージ	一八四
キング商会	二〇〇
極東書院	三〇七
弓削靖	三〇七
湯淺蓄電池株式會社	二二一
有信商会	一三六
目黒ボデー製作所	一三六
明治商会	一三七
明輪商会	一七〇
ミナト商会	一七五

みのる商会	一八五
三菱重工業株式會社	七一
三浦商会	一三七
三澤工業所	二四四
三原商会	二二九
三宅電氣工業所	二二二
水津亭	一七
水田政吉	二六七
水野叶商店	一七四
宮本ラッパ製作所	一三八
宮原製作所	一三八
宮崎ラヂエター工業所	一三八
宮坂タイヤ商会	二〇一
宮司タイヤ商会	二〇一
都商會製作部	一三九
南檢裝所	一三九
ジャパンモーター	二三八
城南乗合自動車株式會社	二六四
城南乗合自動車株式會社	二六四
城北自動車體商組合	二八八
志保澤忠三郎	二八八
庄司製四郎	二八八
清水商店	三三
清水新作	一四〇
清水秀樹	一四〇
昭和自動車株式會社	二七
昭和商工通信社	七二

信濃ボデー工場	二四〇
芝自動車學校	二四五
芝浦スプリング製作所	一四二
自動車投資株式會社	七三
自動車商工株式會社	一八一
自動車技術協會	一四一
自動車日新新聞社	二八八
自動車タイムズ社	三〇四
自動車知識社	二九八
自動車商工新聞社	三〇七
自動車界社	二九七
自動車之世界社	二九七
自動車出版社	二九七
自動車工業新聞社	三〇八
自動車雜誌社	三〇五
島田本店	一七六
島田喜太郎	一七六
品川自動車教習所	二四九
品川解體店	一七六
下浦商店	一四三
白雲自動車教習所	二五〇
尙電社	二二二
受驗自動車教習所	二二二
常武ゴム精練所	二〇二
新炭瓦斯普及會	二八九
新東京商會	一四二
日立製作所	七四

聖自動車製造株式會社	四九
樋口四郎	一八六
比原商店	一八七
廣野自動車商會	一八七
モーターファン社	三〇八
森田商會	一四五
森下飯金工場	一四三
森自動車商會	一八七
森源	二四一
ゼネラルタイヤ工業所	二〇二
全國自動車業聯合會	二九〇
全日本小型自動車協會	二九一
盛工會	一四四
關矢タイヤ商會	二〇四
全聯會報	三〇九
スミヤ商會	一四六
スピート社	三〇九
鈴木保里	二二八
鈴木木友調	一四八
鈴木自動車教習所	二五〇
鈴木ラヂエター工業所	一五一
末廣商會	一七七
末廣商會	二二七
隅田ゴム工業所	二〇四
杉山丹三郎	四三
菅野製作所	一四四
洲崎自動車教習所	二五一

池貝自動車製造株式會社

本社 芝區三田四國町二
 電話 芝三田 二九五—三番
 創立 昭和十二年六月
 資本金 壹千五百萬圓
 役員 取締役社長 池貝庄太郎、常務取締役、今井四郎、
 取締役 千葉恒次郎、同 池貝秀雄、同 池貝三郎、同
 正田善太郎、監査役 千葉胤吉、同 千葉龍太郎、設計課
 長 山本信夫、製作課長 今井武雄、總務課長 土田武雄
 沿革 當社は池貝鐵工所の傍系事業にして昭和十二年
 六月、池貝鐵工所自動車部を分離獨立して創立せられた
 るものなるが、既に昭和七年自動車製造への進出を企圖
 してダイゼル自動車研究に着手種々の困難に逢着せるも
 屈せず翌八年に試作車を完成するに至り、爾來鋭意研究
 の歩を進め代用燃料車として劃期的成功をおさめて、こ
 れが製造に着手せり、昭和十一年川崎工場完成により
 生産規模も著しく擴大せられるに至り一部市販を開始、
 ダイゼル自動車燃料節約と國防的立場より一大増産を
 必要とする戦時體制になり、標準型ダイゼル自動車とし
 てその指定を見ることになれり。
 營業種目 池貝ダイゼル自動車並同部分品製造販賣
 工場 川崎市

販路 内地、朝鮮、臺灣、樺太、滿洲國
 従業員 一〇〇〇名
 取引銀行 安田、第一

特色 當社は旭日昇天の池貝王國の代表的會社で將來
 の事業の主體となるものである。既に傍系事業として日
 本鐵工、東京鐵工、池貝鑄造、日本飯金工業等の自動車
 關係事業あり、所謂池貝自動車プロツクを結成しつゝあ
 る。創立第三期の今日既に相當の利益率をあげるに至り
 來期より配當開始となつた、現在のところでは五分配當
 程度と見られてゐる。事業内容は目下製造中のものは全
 部軍部納入のものであつて、こゝ數年この方面の需要に
 應ずるため民需へ振り向ける餘力がないが、川崎工場は
 引續き擴張計畫で車體工場、エンジン工場組立工場も更
 に増設されるものと見られ生産能力は數倍の増加を見る
 べく、これが稼行すれば収益力も増大するから、その前
 途は洋々たるものあり、ダイゼル自動車界の白眉であ
 る。注目すべきは先頃標準型に指定されたことでマスプ
 ロも可能となり今後に期待さる。

浅く自動車工業が今次事變に直面して國防の整備、産業發達に如何に重要な役割を演じ、且つ特殊需要の激増に應ずべく生産力の擴充に次ぐ擴充を圖り一意増産に努め眞に國策線に沿つた活動の第一線に立つ筆頭第一の會社である。當社も時局的背景の下に全面的な生産力の擴充を行ひ収益力も更に倍増するに至つたので重工業界の新進花形會社として日産コンツェルの自動車部門を代表して華々しく登場することゝなつた。願れば昭和八年十二月同社が巨額の資本を投じ新子安に東洋に於ける最大最初的大量生産組織のコンベアシステムによる自動車工場を建設した時は、日産の暴舉なりと云はれたが、併し當社は果敢であつたが決して無暴ではなかつた、果斷の前に極めて慎重な準備と調査、研究が積まれたことを知らねばならぬ、國策に立脚した不動の大信念と慎重な用意とを持つてをつた日産自動車は愈々隆昌、國産自動車工業の制覇完成に邁進しつゝある。

日産本社が時局の波に乗り國家的難事業に着手せるもので當時鮎川社長は將來の大成を期するため五年や六年の缺損は覺悟である。そのため株式は全部日産本社の所有として缺損しても株主に迷惑を及さぬ云はゞ背水の陣をひいてかゝつた、鮎川氏の先見、果斷と山本氏の慧眼達識とはダットサンを小型自動車の代用語とせるのみならず創立より一ヶ年半経過せる第四期には既に五・三分の利益率を擧げるに至り、第六期迄五分の配當を續けるに至り既に所期以上の業績を擧げ、第七期には更に七分に増配するに至り、利益率も一割八・三分の利益率となり好調の一途を辿りつゝあり、將來滿業系の第一線の會社としてその活躍が確約されてゐる。當社は今春滿業より日立製作所に約半數株の肩替を敢行したるも實質は依然滿業が支配的地位にあり、五月には三千萬圓に増資せられ興銀、銀行シンジケートよりの借入金返済する一方工場の擴張に充當して増産計畫を遂行してゐるが、今秋を期して一部株式の公開を企圖してゐるが客觀情勢の惡化その他の事情から中止されて一意内容の充實にあたることゝなつた。

尙當社は二百萬圓の巨費を投じて従業員養成所を開設して、將來大日産を背負ふべき青年従業員の集團訓練を基調とする養成にあたることゝなり今春四月より開所、既に約八百名の少年を收容して養成に努めつゝあり。更に將來は二千人迄收容し得る用意のもとに極力整備をして居り又滿洲國子弟約二十名今後の試験的意味から收容してゐる、國策に呼應して鮎川氏の國産自動車工業の獨占化の大方針のもとに躍進する當社は明日への大きな期待がかけられてゐる。

鮎川 義介 日産自動車株式會社社長

自宅 龜町區三番町六ノ一八(九段一五二番)

時代は新しい型の人間を要求する、氏の今日の地位は如何によく、時代の要求に合致してゐるかを物語つてゐる。氏は長州閩の名門の出身、母堂は井上馨侯の姪、令妹は井上勝之助氏夫人、氏の夫人は高島屋飯田新七氏の息女、木村久壽彌太、貝島太市、久原房之助氏とは義兄弟の仲である。併し氏の事業への出發はこうした財閥を利用して安易なコースをとらず獨自の途を開拓してゐる。帝大工科を卒業後芝浦製作所の職工となり、更に明治卅八年渡米して鑄物工場の職工となつて、可鍛鑄鐵の製法を實地に習得した、この修業が、今日重工業發展時代に、日本の經濟界を支配する地位を決定したのである。飯朝後井上侯の後援で戸畑鑄物を創立した、これが事業界へのスタートで三十二才の時である。

氏は久原氏が財界から足を洗ふので、その後を引受け今日の日産に仕上げた當時久原鑄業は放漫政策が祟つて銀行も相手にしない程の不信用であつたが、氏はこれを更生させる方法を久原財閥の個人的會社としてではなく、株式を公開して公衆持株會社として經營することであつた、昭和三年五千萬圓から出發した日産は短日月の間に二億二千五百萬圓に膨脹した、それと共に氏の名も日本的一等星の地位にのぼつてしまつた。

久保田篤次郎 日産自動車株式會社常務取締役

自宅 大森區田圃調布三ノ七五(田圃二三三五番)

氏は大阪府東山篤義二男同藤藏の養兄にして明治廿四年七月十四日出生、後久保田權四郎に望まれて養子となり、昭和二年分家す、大阪高等工業學校機械科を明治四十五年卒業、直ちに實業界に入りダット自動車株式會社監査役に擧げられて自動車工業界への第一歩を踏み出すに至り、技術家出身として自動車製造事業に對する造詣深く、日産自動車株式會社が創立せられるや取締役兼大阪工場長に推されてダットサン製造の技術部門を擔當して山本惣治氏と協力して今日の如きダットサン時代を現出するに至る。後常務取締役に昇任して製造部門の全責任者としてダットサン、ニツサン號製造に全魂を傾け着々その功を奏しつゝあり、先年自動車製造事業法の許可會社となるや鮎川社長の命を受けて渡米、快腕を揮つて米國グラハム自動車工場の機械設備を買収することに成功、現在は鮎川社長滿業經營のため不在勝ちのあとを受けて朝倉常務との好コンビを以て日産自動車の隆昌發展に努めつゝあり、

株式會社久保田鐵工所、株式會社隅田精鐵所等各社監査役を兼ねて重工業界の重鎮たり。趣味にゴルフを愛好、スポーツマンライクの人である。

朝倉 每人

日産自動車株式会社常務取締役

自宅 小石川區大塚仲町四一(電話大塚四〇一番)

大分縣の人明治十五年出生、明治四十年京都帝大法科を卒業、富士瓦斯紡績株式會社に入社よく業務に勉勵して漸次頭角を現はすに至り、當時の社長たりし和田豊治氏に認められるところとなり多に重用せられて取締役に列し少壯實業家として早くも中央財界に活躍、和田氏亡きあと富士紡を背負つて常務取締役として經營第一線に立ち、傍ら富士水電取締役として活動業績多いにありたるも同社を辭し民政黨所屬の代議士とし國政に參與後裕々自適の生活に入つたが、日産自動車の飛躍的發展を前に人的要素の必要なることを痛感せる鮎川社長は秘かに人材を要求せるが國産自動車界に人材多しと雖も一社を代表するに足る人物の貧困して居るとき、時の商工大臣にして自動車製造事業法生みの親である小川郷太郎氏より人物識見共に大日産を背負に足る人として推挽鮎川社長の懇請により日産自動車株式會社常務取締役に就任せり、自動車には全然の素人であつた氏は就任一年を出ずして自動車工業のエキスパートとなり、渡邊専務亡きあとを受けて日産の事務方面を擔當して好評噴々日産自動車販賣と協力レニツサン、ダットサン共に隆々たる躍進をつけてゐるが、氏の不撓不屈の努力によるところ尠からざるものがある。三千萬圓増資成り第二段階の發展期に立つ日産と共に大いに期待さる。

村上 正輔

日産自動車株式會社取締役

自宅 牛込區市谷加賀町二ノ三三(牛込一六六八)

氏は兵庫縣の人、明治十一年生れ同三十八年京都帝大工學部機械科を卒業して各會社を歴任樞要の地位を占むるに至り鮎川義介氏と相知り重用せられて日産コンツェルの陣營に其人ありと知られ國産工業株式會社長として重工業界の重鎮で重きをなし國産工業株式會社が日立製作所に合併せられるや氏は日産自動車株式會社長代行者として鮎川社長の不在勝なる爲、實際上業務の指揮者として大いに經綸を揮ひつゝある。日産自動車株式會社取締役たる他日産自動車販賣株式會社、東京自動車工業株式會社の取締役を兼ねて居り、國産自動車工業界の代表的會社の重役陣に加つて益々重きを加へつゝある。建設期より發展期への劃期的な段階に立つて氏の如き重工業界の重鎮を迎へて人的強化をはかる日産自動車株式會社の前途は洋々たるものあり、日満一體となつて自動車工業確立を期せんとするその活動には多大の期待がかけられてゐる。滿業傘下のプレントラストの一人としてその手腕力量は定評あるところ鮎川幕下の逸才で日満一體とする重工業建設の重大使命遂行に協力して、今や日産自動車を足場として目的達成に邁進してゐる。

久原光夫

日産自動車株式會社取締役
自宅 澁谷區代々木山谷一九六(四谷二〇三番)

氏は明治三十四年九月東京に於て出生、政界の惑星久原房之助氏の長男である。東京帝大法學部政治科を優秀な成績で卒業するや久原本店代表社員となり實業界に投じて、人生第一歩を踏み出すに至り、往年財界を測歩して久原王國を建設せる父君の血を繼いで氏の事業家的才幹は少壯有爲の青年實業家として認められるに至る、父君房之助氏の子たらずとも必らずや實業家として大成したであらうことは日産自動車株式會社取締役として時局下に躍進する同社の第一線にあつて敏腕を揮ひつゝある今日何人にも認められるに至つた。氏は亦販賣會社取締役として製造、販賣兩部門にたづさはり専ら業務に精勵してゐるが、將來は日産コンツェルの中心的人物として活躍が期待される。現に日産コンツェル總帥として滿洲重工業開發には又國産自動車工業の獨占制覇に心魂を傾けつゝある鮎川義介氏は氏の叔父君にあつて居り、鮎川氏は早くより氏の秀才なるを認めて少壯の氏を一躍日産自動車株式會社の取締役に拔擢して自由にその才腕を揮はしめ、將來日産コンツェルを擔ふものへの試金石たらしめたのである。氏よく十全にその機能を發揮して今や日産に於ける業務の中樞にあり、必らず鮎川氏の期待に副ふものである。

水津 享

日産自動車販賣株式會社取締役
自宅 本郷區駒込曙町一三

氏は山口縣士族水津郁長男として明治十七年一月十七日出生、明治四十四年分家す、明治四十二年東京帝大法科佛法科を卒業して三井銀行に入社、英才を認められ横濱支店庶務係長に拔擢され次いで深川支店、神戸支店の樞要の地位につき縦横に敏腕を發揮して重用せられ、丸の内支店次長となる。後ダットサントラック販賣株式會社が設立せられるや取締役經理部長に就任して自動車販賣界に入り、ダットサントラック販賣に石澤社長と協力して業績大いにあがり、同社が日産自動車販賣株式會社となるに及び、取締役に就任、經理部長として經理事務を主宰して天才的手腕を揮ひ圓滿なる人格と多年の經驗と相俟つて社内に重きを加へつゝあり、今や日産自動車販賣は我國最大の自動車販賣會社となり販賣網は全國的に整備せられ、自動車販賣の金融事業も亦重要性を加へて自動車販賣經理事務は愈々複雑多岐にわたり、これが業務に通曉せる士を要望するとき氏の如き適材なく、これを適所に置く日産の隆昌は期待すべきものがある。氏は狩獵弓術を趣味と心身の鍛錬に努めてゐる。

日産自動車販賣株式會社

本社 麹町區丸ノ内
電話 丸ノ内 四五七一—四五七五番
創立 昭和十年十二月
資本金 五百萬圓
役員 專務取締役 山本惣治、取締役 村上正輔 同 内田
慶三、同 小野悟次、同 越智貞雄、同 若田定次郎、同
水津亨、同 後藤成之、同 久原光夫、監査役 吉田寅五
郎、同 山田金次、相談役 石澤愛三

沿革 當社は日産自動車株式會社の傍系的事業として昭和十年創立せられたるダットトサントラック販賣株式會社を昭和十二年二月大衆車ニッサンの市販開始と共に機構を擴大強化、製造販賣兩部門を分離獨立せしめ販賣の一元化を圖るべく五百萬圓に増資、日産自動車販賣株式會社と改稱するに至る。次いで株式會社東京ダットトサン商會を合併して、ニッサン、ダットトサンの綜合的販賣機構を整備確立し現に大阪、名古屋、福岡、横濱に直轄營業所を置き、近く更に神戸、京都、京城にも設置の計畫を有し全國的に販賣網を確立して今日に及べり。

營業種目 ニッサン(乗用、貨物)、自動車、ダットトサン(乗用、貨物)自動車並に部分品販賣

營業所 大阪、名古屋、横濱、福岡、川崎、熊谷、豊橋、千葉

サービス工場 (東京)本芝サービス工場、神田サービス工場、巢鴨サービス工場、明石町サービス工場、新宿サービス工場、(大阪) 恩加島サービス工場、辰巳橋サービス工場、中津サービス工場、(名古屋)高辻サービス工場、大池町サービス工場

販路 内地及本邦領土、滿洲國、支那、濠洲、印度、比律賓、ジャバ、南米諸國、其他

従業員 一五〇〇名

取引銀行 安田銀行

特色 日産自動車株式會社の仔會社として創立せられた當社は磐石の如き基礎の上に立つて居り、本邦自動車販賣界の革新の理想のもとに邁進して代理店制の販賣機構を製造會社の直販制度に一新して國產車販賣界の搖がぬ王座より更に本邦販賣界の全覇權を掌握すべき第二期大飛躍を迎へるに至つた。既に當社は本邦最大の機構のもとに充實せる販賣網と完備せるサービスを以て顧客奉仕の完璧陣を結成してゐる。即ち自動車販賣の特異性をしてあげられることは「サービス」であつて、賣り渡したる車の點檢、調整、修理並に部分品の補給である。自動車に於ける「サービス」は極めて重要問題で自動車事

業がサービス事業と云はれる所以も此處にある。當社では既に直屬サービス工場を十ヶ所開設して居り、全國主要都市に設けられた特約販賣店も完備せるサービス工場が設置されて車の調整、修理、部分品の補給に遺憾なきを期して居るので、近時タクシーに、トラックに、バスに進出目ざましきニッサン、オーナに、中小商店、工場に小型タクシーに進出するダットトサンの使用家より異句同音にサービス萬點の讚辭を浴びてゐる。併し當社のサービス網擴充に要する費用も亦尠からざるものあり、今後ニッサンの本格的活動の暁は當社の機構にも刷新を要するものと見られる。かくサービス施設のために要する費用は莫大である。既に當社も収益期に達して居り、今事變によりニッサンは殆んど特殊需要に振り向けられて民需は僅かにその一部に過ぎず當社の弗箱と云はれたダットトサンも可成の生産制限を受けるのでこの打撃尠からざるものありと雖も、特殊需要はそれを補つて餘りあり、今後販賣の主力は漸次ニッサンに集まるものと見られる既に大都市には直營の營業所を置いてこれが販賣にあたりつゝあるが、將來は尙増設される見込で當社の營業費は相當今後嵩んで行く筋合にあり自動車販賣がワンブライズ制になりつゝあるとき當社今日までに果たした役割は大きく、所謂直販制による所期の目的は一部達成せられ

たのであるが、それによつて生じきたる營業經常費の自然増加と人員の統制を如何するか、この解決は大膨脹を遂げ現在直ちに解決を要する問題である。即ち今後當社はニッサン號の本格的生産により社員もこれに準じて増加するので、これが人的統制を如何すべきか、營業所並にサービス工場の統制等の問題が起つて来る。由來當社がかく發展せるは山本專務の勢力の均衡上(日産自動車との——)かく膨脹せるもので、氏と鮎川社長の關係に於て滿業の自動車部門を擔當する人であり、何時までも販賣會社に留まるべき人でない。さうなると販賣會社の今後行くべき路も異なつて来るであらう。

何れにしても本邦最大の資本と販賣機構を有して邁進した當社は自動車販賣界の革新的勢力から逐次に推進力となつてフォード、シボレーを壓倒する最先線を行くものとして多大の期待がかけられてゐる。

山本惣治

日産自動車販賣株式会社専務取締役
自宅 大森區田園調布三ノ三(田園調布五三番)

氏は山本明次郎氏五男として明治廿一年高田市に於て生る。高田中學を経て明治四十五年東京外國學校卒業大正八年渡米詳さに各種事業界を視察して新智識を得て飯朝、氏が今日我國自動車工業の最高指揮者としての素地は此外遊で培かはれた。藤田組、藤永田造船所を経て戸畑物産株式會社に入社するに至り鮎川社長と相結び今日我が國自動車工業を双肩に擔ふ楔となつた。戸畑入社は氏が藤永田に於て少壯課長として才腕を揮ひ業界の騏驎兒として英才を認められるに及び鮎川氏より篤に懇望されて實現したものだ、同社營業部長として活躍鮎川社長が事業界に乗り出す物質的基礎と經驗が戸畑にあつたと同様氏も今日雄飛の基礎は此處に出發してゐる。昭和八年鮎川社長に自動車工業進出を懇願日産自動車株式會社の創立にあたり常務取締役に就任、横濱工場のバラツク事務所を砂原にまみれながら自動車工業建設の歴史的な事業遂行に苦闘して遂にマスプロダクションによる自動車製造に見事成功、ダットサン、ニツサンを擁して國産自動車工業の支配的地位に立ち、販賣界革新を目ざして日産自動車販賣株式會社を創立、専務として同社を主宰し、其躍進は業界驚異の的となる。自工發展史に歴史的役割を果し、且明日の自工業を擔當する第一人者である。

芦田定次郎

日産自動車販賣株式会社取締役
自宅 大森區市之倉二七二(池上七五三番)

氏は明治十七年東京市に生る。長じて横濱商業學校を卒業直ちに將來への雄飛を志して渡米、バンダービル大學經濟科を卒業し森村組ニユーヨーク支店に入社、業務に勉勵してニユーヨーク支店に芦田ありの聲は本社にまで響き、同支店にても多い重用せられ其人材を惜むも決然獨立を志して鐵材、絹織物輸出業をニユーヨークで經營前後八年に及その間異邦にあつてつぶさに辛酸を嘗め少壯實業家として同地在留邦人にも信望高かりしが昭和元年錦を飾つて飯朝、日本ゼネラルモーターズ株式會社が設立せられるや幹部社員として才幹を揮ひ本邦自動車販賣界を今日の水準まで到達せしめたる功勞者である。ゼ社在社當時販賣擴張部長として全國津々浦々其足跡を印せざるところなく販賣界の事情に通曉せるは氏を以て他になく自動車販賣の權威者である。氏は早くより國産自動車が外車勢力を驅逐して本邦市場は勿論世界市場への進出も近き將來にありとの信念を以て持論となしてゐたが、日産自動車株式會社に招聘せられ多年の經驗より國産車の大方針を定め、日産自動車販賣株式會社の創立と共に取締役販賣擴張部長にあげられついでサーピス部長も兼務するに至り外内に於て絶大な信望を博しつゝある。

内田 慶三

日産自動車販賣株式会社取締役
自宅 世田ヶ谷區玉川等々力三ノ三四(田園調布三三三八)

氏は明治廿四年静岡縣熱海市に出生、蕪山中學校を経て、東京高等工業學校機械科を卒業、三井物産株式會社より三昭自動車株式會社が設立せられるに及んで同社に轉じ自動車界への本格的スタートを切るに至つた。同社にあつて樞要な地位を占め技術家としてより事業家としてその鋭鋒を現はし將來を囑望されるに至り、日産自動車株式會社が創立せられるや直ちに幹部社員として入社山本常務のよき補佐役として敏腕を揮つて同社販賣部支配人となり山本氏と共にダットサン育ての親として並々ならぬ努力を拂つて遂に數年ならず小型自動車即ちダットサンと持て囃やされるに及び今昔の感に堪えぬものがあらう。技術者として叩き上げた氏は今や山本氏のもとに事業家として大成すべく取締役ニツサン部長の樞軸にあつて日産自動車販賣株式會社の運営に心膽を砕き山本専務のよき内助者となつて活躍してゐる。鮎川社長滿業經營に全力を傾倒し自動車工業の全面的擔當者として山本氏の起用を見ると山本氏と不離不即の關係にある氏も又明日を確約される一人である。資性濃厚篤實、社員

石澤 愛三

日産自動車販賣株式会社相談役
自宅 小石川區關口台町三(牛込四六番)

氏は信州飯田藩家老石澤謙吾の三男大倉發身の令弟、明治十一年八月を以て生れ、同四十五年分家す、卅八年早稻田大學政治經濟科を卒業東京日日新聞社に入つて論說委員となり、東京毎日經濟部長に轉じて新銳ジャーナリストとして活躍せしが、實業界に入りて大倉男の信任を得て日本自動車株式會社を創立同社社長に就任して本邦自動車界を今日になせる歴史的役割を果し自動車販賣界の大御所として陰然たる勢力を有す、昭和十年同社取締役會長に推れたるも程なく辭任して國産自動車工業の將來を卜して、挺身斯業の確立の捨石となる決意のもとに日産山本氏等の援助を得てダットサントラック販賣株式會社を設立するや氏の徳を慕つて集まる者多く直系社員を以て新會社を組織し一大家族の觀をなせり、人格、識見徳望を兼ね備へたる氏にしてなし得ることであるが青少年時代漢學者深井鑑一郎氏の感化によるところ尠しとせず、ダットサントラック販賣會社が日産自動車販賣となるに及んで第一線を退き後進に譲り相談役となる。東京商工會議所議員、東京自動車商組合長に歴任すること數回に及び商工業界に貢獻せし事績甚大なるものあり今日でも業界の長老として重きをなしてゐる。

小野悟式

日産自動車販賣株式會社取締役
自宅大森區田園調布二ノ六六田園調布三六番

氏は山口縣萩の人、山口高商を卒業して實業界に入り後範多商店に入社。同店に於て縦横に敏腕を揮つて機械輸入界に重きをなしその將來を多に囑望さる。範多氏の資本的後援を得て東西モーター株式會社を設立し専務取締役として同社の經營に心魂を傾け小型發動機J・A・Pを輸入發賣するや恰も小型自動車勃興期にあり果然小型自動車製造界を風靡して各メーカーこぞつてJ・A・Pエンジンを採用するに至れり、これより氏は山成豊、又木周夫氏等と相諮つて日本小型自動車協會を設立して小型自動車發展に重大役割を演じ斯業の向上に盡力せしが同郷の鮎川義介氏の推輓により昭和十年日産自動車株式會社に總務として入社、建設期の日産にありてよく内外の事務を處理し側ら山本氏を援け小型自動車販賣に就き多年の経験より種々建策するところあり、同方面に於ける官廳方面の折衝を擔當しダットサン今日の隆昌に力を盡したり、日産自動車販賣株式會社が設立されるや山本氏等と共に同社に入り取締役總務部長に擧げられて同社樞要の地位に就き、その才腕を揮ひつゝ内外の信望を博しつゝあり、現に前職の他東西商工取締役、モロゾフ製菓取締役を兼ねてゐる。

後藤 成之

日産自動車販賣株式會社取締役
自宅世田ヶ谷區上馬三ノ九三(世田ヶ谷三三)

氏はダットサン商會に入り吉崎良造氏を輔けてダットサン販賣につぶさに辛酸を嘗め文字通りダットサンと共にある生活に終始せり其當時に於けるダットサンは市販を開始して間もなくのこと一般は頗る冷淡なるため販賣の苦心も一方ならず自から販賣第一線に立つて吉崎氏と共に苦闘、ダットサンのマスプロダクションが可能となるに及び、一般よりも認識せられるに至り東京ダットサン商會が設立せられるや取締役支配人にあけられ、東京市場を中心に積極的販賣に乗り出し同商會創立以來の記録的な販賣成績をあげるに功あり小型自動車販賣界に後藤の名を次第に昂むるに至る。東京ダットサン商會が日産自動車販賣に合併せられるや氏は同商會を代表して取締役ダットサン乗用車部長に就任、ダットサンが小型自動車の代名詞となるまでに全国的に普及せられたる功勞は没すべからざるものがある。

氏は亦小型タクシーの普及が燃料國策に沿ひかつ行詰まれるタクシー界の更生のために絶對必要なりとして大いに力を注ぎ日本小型タクシー協會を設立してこれが普及發達に乗り出し、小型タクシーの躍進目ざましく、タクシー界に貢獻するところ大なるものがあつた。資性濃厚にして情義に厚く内外の信望を博しつゝある。

越智 貞雄

日産自動車販賣株式會社取締役
自宅 淀橋區戸塚三ノ九二九(牛込二六四四)

君は東京の人明治廿五年三月廿二日を以て生る。自動車界に關係しては先づ東京乗合自動車株式會社購買部長として長年勤続し昭和六年同社を辭し大日本自動車保險株式會社營業部長に招聘せらる。昭和七年同社を辭し、偶々ブリヂストンタイヤの代理店を引受けし昭和自動車株式會社が同方面の人材をもとめてやまず、遂に招かれて同社タイヤ部の販賣部長となる長年購買に關し造詣深く通曉せる業界事情を利用して逆に販賣に従事す。賣る者買ふ者の機微を捉へること妙腕見事に極つて同部の成績頗る擧る。爾來タイヤ販賣に自動車販賣に活躍して多にその才腕を認められるに至り石澤愛三氏がダットサントラック販賣株式會社を創立するやその樞機に參與して同社取締役販賣部長に就任、縦横に才腕を揮つて小型自動車の處女地開拓にあたり毎月百臺を突破する驚異的な販賣記録を樹立、業界注視の的となる。同社が日産自動車販賣に組織を擴大せられるや取締役ダットサントラック部長に就任して現在に至る。まさにダットサントラック時代を現出して小型自動車を現在の水準線に引上げたる功勞者の一人である。

中根 良介

日産自動車販賣株式會社宣傳部長
自宅 横濱市神奈川區栗田谷三〇

氏は現に日産自動車販賣株式會社宣傳部長兼廣告課長としてニツサン、ダットサンの嶄新な宣傳を以て知られる躍進日産自動車會社の宣傳、廣告陣のスタッフの中樞としてよくこれを績率して獨創的な廣告に洗練された宣傳に、近代的なセンスを持つた文化人で、まさに適材適所、ニツサン、ダットサンが國産車の代表車として内外の認識を深めてゐる所以のものとの巧妙な宣傳戰術によるところ大である。

氏は現山本専務とは同郷同窓の深い交友で山本氏が日産自動車株式會社に入社せられるや、氏も同社に入社して創立當時の日産自動車の宣傳を擔當して山本、内田氏等と共に同社建設に努力、日産自動車會社がダットサンを發賣する當時の宣傳には並々ならぬ苦勞をして遂にダットサンを今日あらしめた、日産自動車販賣株式會社が創立せられるに及んで總務部文書課長に轉じ、濃厚篤實業務に精勵して社内の信望をあつめ名課長として社業の進運に力を盡し重用せられ、和木本廣告課長の跡を繼いで再び宣傳廣告を擔當するに至つたものである。就任半歳既に名廣告課長の名を高めつゝある、高潔濃厚その人格は圓熟し接するものをして感嘆せしむるものあり。

株式會社日本商會

本社 麹町區内幸町一ノ六
電話 銀座二一四一—四、二一三九番
創立 大正十二年十月
代表者 取締役社長 鈴木茂、代表取締役 稻岡七右衛門
沿革 大正十二年日本タクシー商會を設立自動車販賣を開始、昭和五年日本フォード株式會社と特約成り、業務の發展に伴ひ昭和十年株式に改組して、株式會社日本商會と改稱フォード特約販賣店として本邦自動車販賣界第一流に伍し今日に至る。
營業種目 フォード自動車特約販賣店、並に部分品、附屬品販賣、中古自動車販賣、修理
販路 東京一圓
従業員 五〇名

取引銀行 三和丸の内支店 同京橋支店 安田銀行本店
特色 當商會は堅實經營を以て知られ、フォード販賣店として不動の地盤の上に立つ、フォード新製發表にあたり恒例的に大阪交通株式會社(前大タク)に百臺の大量納入を行つて話題を提供するなど需要層も亦不動のもの多くすべて堅實主義に則つてゐる。鈴木社長と稻岡氏の好コンビに依つて鈴木氏の資本金的背景と稻岡氏の經營の敏腕とは相俟つて、都下有數の一流デライアとして盛名愈々高し。

稻岡七右衛門

日本商會代表取締役

自宅 中野區鷺の宮一ノ二(三三三番)

明治三十三年十月大阪に於て出生、大正十三年京都帝國大學理學部を卒業、實兄中島幾三郎氏の經營する大阪市土佐堀所在中島機械工場に入り、印刷機械材料の研究に従ひ、昭和五年日本商會がフォード自動車特約販賣店となるに及び、社長鈴木茂氏の輔佐役として上京同商會の經營の樞軸となり、社長大阪在住のため事實上の同社主宰者として敏腕を揮ひ同商會を磐石の礎の上に立しむるに大いに力あり、昭和十年株式に改組して代表取締役として自動車販賣に辣腕振りを發揮業界の英才として名聲噴々、輸入車販賣の非常時に當面しては經營の合理化を斷行して近代的システムに經營方針を改變するなど、氏の事業家としての才腕振りをよく現はすものである。少壯實業家としてその將來を期待されるところ尠からざるものがある。

氏は亦趣味人としても聞え高く特に演劇通として知られ劇評の如き素人の域を脱する程の造詣を持つてゐる。資格温厚にして俊敏なる事業家的な鋭角はなく温容で部下を愛しこれを統率し主従一體となつて事業の發展にあたつてゐる。將來の大器たるを失はない有爲の士である

日本自動車株式會社

本社 赤坂區溜池町三〇番地
電話 赤坂一〇一—九番
創立 明治四十二年十一月
資本金 參百萬圓
役員 會長 玉木誠次郎、専務 小川菊造、常務 稻原啓三郎
取締役 又木周夫、同 山口傳、同 齋藤繁二、同 清水秀樹
監査役 今井修二、同 野田寛治、同 武田正巳

沿革 大倉組傍系事業として明治四十二年創立、自動車並部分品、用品販賣にあたり鋭意新業の進展に努め來たり、漸次事業の擴充を圖り内國、朝鮮、臺灣、滿洲、北支の各地に支店、出張所三十餘ヶ所を設置し、その事業も自動車製造販賣より自動車部分品並附屬品、飛行機用塗料の製造販賣に至る自動車百般にわたり本邦第一の販賣高をあげて今日に至る。

營業種目 自動車製造販賣並に米國製ハドスン及テラプレン輸入販賣店國産ダンロップタイヤ日本同滿洲國總代理店、理研ピストン及ピストンリング代理店、N・G・Kスパークプラグ代理店、飛行機用塗料及油類製造販賣、其他一般自動車部分品及附屬品販賣
出張所 大阪、京都、名古屋、横濱、廣島、福岡、金

澤、新潟、仙臺、札幌、松山、京城、清津、臺北、奉天、新京、天津

工場 赤坂區溜池、中野區中野驛前、東京市外國立大學町、横濱市神奈川區守屋町、大阪市北區西堀川町

販路 日本全土、朝鮮、臺灣、滿洲、支那
従業員 社員二百名、従業員三百名

取引銀行 三和銀行

特色 當社は大倉財閥の支配下にあり本邦自動車界最古最大の歴史を有する販賣會社である。JACラインは全土より鮮滿北支に伸びて今や開發途上の北支交通界、重要役割を占めてゐる。自動車界が戦時下に急變革を遂げ所謂販賣會社は經營難に陥りつゝあるが、當社は戦時體制に呼應して多角的經營に乗り出し自動車製造を傘下に收め聖號の増産を企圖、國産JACを製造發賣して中級車界の堅陣確保、或ひは日本自動車工業の創立、日の丸鐵工の買収、東洋自動車の薪炭車界への進出など時局對處にその體勢を整備するに至り、小川専務稻原常務の名コンビを以て業界の王座に君臨してゐる。傍系會社の主なるものは日本自動車工業株式會社、中央自動車株式會社、昭和自動車株式會社、東洋自動車株式會社、聖自動車製造株式會社等である。尙當社は現在配當六分で決算は三月九月、總會は五月、十一月である。

小川 菊造

日本自動車株式會社專務取締役
自宅 中野驛前三(中野三八五〇番)

明治二十一年五月廿一日靜岡縣田方郡對島村小川徳造四男に生る。明治四十二年大倉商業を優秀な成績を以て卒業、大倉商事株式會社より大正二年日本自動車株式會社に入社、同七年中央自動車合資會社の設立にあたり代表社員となり超えて十三年株式に改組されるや取締役社長に就任して日本自動車取締役を兼ね業界第一線に活躍内外の充實をはかり社業の進展に孜孜として撓まず、上下一視融和親睦を常とし、責任を重じ、業務に忠實なることをモットーとして實踐躬行して社員の訓陶に努め一意社運の隆昌に力を盡し、石澤氏の跡を襲つて專務取締役となり同社を主宰し業績多いに向上今や自動車界の第一流の人物として重きをなし氏の一舉一動は業界の注目の的となる。現に東京商工會議所議員、自動車製造事業委員として交通産業振興に多大の貢献をなして財界の一角に頭角を現して大倉組參事となり大倉財閥の樞機にあづかり同財閥の明日を擔ふ人として絶大なる期待をかけられてゐる。中央自動車、聖自動車、日本自動車工業社長たる他東海自動車、昭和自動車日本アクセプタン取締役を兼任してゐる。賦性敦厚にして禮節を尙び崇神の志厚く、徳望を以て鳴る。

稻原啓三郎

日本自動車株式會社專務取締役
自宅 東京市中野區住吉町五八(中野四五三七番)

氏は明治二十二年十一月十五日出生。夙に東京大倉高等商業學校を卒業直に日本自動車會社に入る。當時はまだ自動車界も今日の如き勃興を見るに至らず従つて一般的にはその需要も閑散であつたが獨り日本自動車會社は斷然斯界に頭角を抜き出でてゐたことは當時衆人の知るところである。その社に勤めて良く斯業の將來性を透視し自動車報國の志を立て、爾來幾星霜、その間實に眞摯なる研鑽を積み、克く社運隆盛に力を致し爲めに上司の認むるところなり、取締役販賣部長としてJACラインの強化にあたり驚異的な販賣成績をあげて氏の才腕の非凡なるは衆目の一致するところ、小川專務のもとに常務取締役となりよくこれを補佐して社業の進展に努め益々隆昌に向ひつゝあり、現に全日本小型自動車協會關東本部長として挺身小型自動車の普及發達に努め、名本部長として好評噴々、聖自動車、日本アクセプタン取締役、中央自動車、昭和自動車、東洋自動車監査役の諸職を兼ねてゐる。

山口

傳

日本自動車株式會社取締役
自宅 世田ヶ谷區世田ヶ谷三ノ二〇九二

氏は大倉商業を卒業して日本自動車株式會社に入り黙々と業務に精勵し次第に重用せられるに至る。タイヤ部主任となるに及んで縦横に才腕を揮ひ混沌として定まるところなきタイヤ界に嚴然とダンロップタイヤ絕對的優勢を示めしてタイヤ界に於ける山口の名を多に高めた。

タイヤ部主任になるまで同社の各部を擔當しその間地方へも轉出して將來の利器たるを期待せられたるもこのときを得て氏の同社に於ける地位は將來を確約せられ、小川氏の常務時代をタイヤ部主任とし、かつ日本タイヤ協會東京支部主事として小川理事を輔けて活躍せる頃より小川常務にその才腕を愛せられて重要役割を果し、小川氏が石澤氏のあとを受けて同社を主宰するに及んで稻原常務と共に小川專務側近の一人としてよく小川氏を輔け、かつ取締役タイヤ部長となり日本タイヤ協會理事としてタイヤ界の刷新に努力して功あり、今や日本自動車の經營第一線に立つ重撃機として旺盛な闘志と冷徹な理論とを以て未曾有の困難なる時局に當面せる同社の業績向上に全魂を傾けつゝある。小川、稻原兩氏のあとを受け繼ぐ一人として社員の輿望を擔つてゐるので、將來の利器として多に今後は期待をかけられてゐる。

清水

秀樹

日本自動車株式會社取締役
自宅 世田ヶ谷區北澤五ノ六二九

福岡縣人立花千住の三男、明治廿八年十一月三日山川郡城田村に生る。清水才吉の養子となり明治三十八年家督相續せり、大正八年早稻田大學理工部機械科を卒業直ちに日本自動車株式會社に入社技術部に入り同社中野工場主任に歴任してその才腕の非凡なるを認められ多に重用せられる。昭和二年同社より拔擢せられてアメリカへ留學を命ぜられ、米國に二年留學して自動車工學並に技術の習得にあたり新進エンジニアとして昭和四年阪朝、溜池工場長となりJAC技術部門の代表者として斯界に重きを加へつゝあり、昭和十年取締役に就任技師長として大いに活躍しつゝあるが、技術家として極めて滋味な活動をしてゐるため餘り對外的には顔を出してゐないが、氏の研究によるものは數多く軍部方面に於ける氏の技術は高く評價せられてゐる。

資性明朗潤達にしてビジネスライクな一面は米國型實業家として接するものに好印象を與へ、在社三十年に垂々とし社實的存在となり社員の衆望を擔ひつゝあり、潤達な一面には九州男兒特有の負じ魂は信ずれば譲らず飽迄もその主張を通す果敢な闘志を持つてゐる。JACの明日を背負ふ人として多大の期待がかけられてゐる。

日本内燃機株式會社

本社 大森區大森三ノ五八
 電話 大森二二五二、二一四、六六八六番
 創立 昭和三年一月
 資本金 五百萬圓
 役員 代表取締役社長 寺田甚吉、專務取締役 又木周夫、
 常務取締役 蒔田鐵司、取締役 石井久次、同 豊田喜一
 郎、同 中村賢一、監査役 岩田宗次郎、同 山田宗三郎
 同 坂東舜一、相談役 今村奇男

沿革 當社は昭和三年一月以來日本自動車株式會社自動自轉車工場として自動自轉車並に自動三輪車の製作に従事せしが、昭和七年九月資本金貳拾五萬圓の獨立會社として次て昭和九年一月資本金五拾萬圓、昭和十一年五月資本金二百萬圓、昭和十三年七月資本金五百萬圓に増資、大森工場の擴張、川崎工場の新設、機械の増設を行ひ以て製品の完壁と増産をはかり今日に及びり。

營業種目 飛行機、自動車、自動三輪車、自動自轉車及び其部分品、附屬品及び之に關聯する物品の製造販賣修理

營業所 京橋區寶町三ノ二ノ一、大阪市東淀川區天神橋際、第一工場 大森區大森三ノ五八、第二工場大森

區大森三ノ六四、川崎工場 川崎市池上新田(未完成)

販路 日本内地、朝鮮、臺灣、樺太、滿洲國
 従業員 五〇〇名
 取引銀行 第一、第百、三和

特色 當社は時局會社として近年著しく發展膨脹して近々五、六年の間に資本は二十倍となり小型會社の白眉をなすものである。一昨年大倉組株式を大阪寺田財閥が肩替りして輕工業界より重工業への進出の足場とし日本航空工業と共に双翼をなし、トヨタ自工豊田喜一郎氏が重役となり寺田、豊田兩資本の握手は近來益々緊密の度を加へてゐるので當社の今後の動きも注目される。然し當社今日不動の基礎を築いた又木、蒔田兩氏のコンビは依然堅く一は專務として營業部門を一つは常務として製造部門を擔當として新資本に對して堂々の陣をはり時局の波に乗り増産に次ぐ増産をはかりよく高率配當を續けて不安なく、今後工場の新設、擴張相次ぐので資本の膨脹により利益率は多少低下するも川崎新工場の稼行によりカバーされるものと見られるから更に一段の發展が期待される。

又木氏は温厚篤實の紳士にして實業家として著名、蒔田氏は自工界の至寶で技術の最高權威者である。

株式會社新潟鐵工所

本社 麹町區丸の内三ノ四(有樂館)
 電話 丸ノ内 一、二〇一番
 創立 明治二十八年
 資本金 壹千萬圓(貳千萬圓増資決定)
 役員 取締役社長 笹村吉郎、專務取締役 長島吉次郎、
 取締役 橋本圭三郎、同 山田誠太郎、同 山口八次、同 鈴木春雄、同 加藤重男、監査役 齊藤庫之助、同 中野孝次、同 白勢暲作

沿革 弊社は明治廿八年日本石油株式會社の附屬工場として創立せらし同四十三年同社より分離して株式會社組織になりたるものなるが、創業以來石油發動機の修理及製作に従事せるも大正六年デゼル機關製作を企圖して其の實行に着手し大正九年には船用百馬力、陸用三百馬力を完成して發賣するに至れり、之實に本邦最初の産業用デゼル機關なり。大正十年其の専門工場として高級精確なる工作機械を設備せる蒲田工場完成し科學的管理のもとに能力の増進をはかり優秀低廉なる製品を提供し尙逐次其設備を充實需要も亦漸次増加せるを以て今や本邦に於ける最多數の機關を供給するの榮譽を擔ひつゝあり。

昭和十二年デゼル自動車工業に本格的に進出すべく蒲

田工場内に高速機關製作専門工場を増築して此種機關の増産をはかり今日に及びり。
 營業種目 デゼル機關、燒玉機關、工作機械、鐵道車輛、鑿井及製油機械、船舶新造修理、汽機及汽鍋、空氣壓縮及ポンプ、蒸氣及空氣槌

出張所 大阪市中之島三ノ三(朝日ビル)
 京城市長谷川町百十六番地(京城ビル)
 工場 東京市蒲田區、新潟市入船町 新潟縣柏崎 長岡市西神田町

販路 國內、滿洲、支那、南洋、ソ聯邦其他
 従業員 約四千名
 取引銀行 三菱、三井

特色 當社は工作機械五大メーカーの筆頭にありその内容の堅實なる點では事業會社第一流と云はれて居る、現下の如く工作機械其他各製品の生産力擴充が要求されてゐるとき堅實主義より積極策への轉換が要望されるに至り昨年増産を見たのであるが、再増産により工作機械増産に全力を傾倒することになり、性能の優秀なるところからこれが市販を待望されてゐたデゼル自動車は後廻しとなつたので、時局安定まで一時中止されるが市販開始も近き將來と見られ多大の期待がかけられてゐる。

日本ゼネラルモーターズ株式會社

本社 大阪市大正區鶴町
電話 櫻川 四九一五一四九一七番
創立 昭和二年四月
資本金 八百萬圓
代表者 専務取締役 ジェームス・エ・ラッツ 販賣擴張兼廣
告部長 濱本正勝

沿革 昭和二年四月シボレー自動車の本邦市場へ積極的進出をなすべく米國ゼネラルモーターズ會社の傍系事業として帝國法人組織に依る日本ゼネラルモーターズ株式會社を創立してシボレー組立を本格的に着手、爾來ゼネラルモーターズ製造各車の組立作業も行ひ本邦市場に進出して自動車の飛躍的發展に多大の貢獻をなす、昭和十一年七月自動車製造事業法の制定實施により許可臺數内に生産を限定せられ今日に及べり。

營業種目 シボレー乗用車、同貨物、乗合シャシー、オールズモビル、ボンテアツク、GMCシャシー、ピウイツク、其他米國ゼネラルモーターズ會社製作車組立販賣。

出張所 東京市麴町區有樂町三信ビル
工場 大阪市大正區鶴町

販路 内地、朝鮮、臺灣、樺太、滿洲國、支那

從業員 一、五〇〇名

取引銀行 正金、三井

特色 當社は日本フオード株式會社と共に本邦市場を二分する大勢力を持つて自動車販賣界を壓倒して居り、ゼ社獨特の積極的販賣政策をとり今日の地盤を築くに至り、フオードの堅實主義と好對照をなすものである。事變勃發以來輸入管理を受けて各車の輸入は一時的禁止状態となりたるもシボレーの輸入は特殊需要旺盛なるため許可臺數の範圍で可能であるから業績上から見るときはさしたる打撃はないものと見られるが、事變を契機として急激に生産力が膨脹せる國產自動車はその全力を民需に注力して、外車驅逐の好機なりと積極活動を展開するときは果して現状維持が出来るか如何か、かゝつて將來にあるが、今日まで當社の利益は如何に巨額にのぼつたか稅務署の査定によつても明かなる如く日本フオードに拮抗する利益を収めて居る。當社は先年日產自動車との肩替問題が前専務メー氏と鮎川日產社長との間に折衝されたことがあつたが遂に不調に終りたるも、極東市場に於ける米本社側の方針は消極的と見られてゐるから、今日でも條件如何によれば肩替に應ずものと見られラッツ専務の動向は注目さる。

日本フオード自動車株式會社

本社 横濱市鶴見區新子安
電話 本局 二〇九〇番
創立 大正十四年

資本金 八百萬圓
代表者 支配人 ベンジャミン・コップ、副支配人 アンケニー、販賣部長 稻田久作

沿革 大正十四年本邦自動車市場を獨占制覇すべく米國フオード自動車株式會社が日本法人組織を以て資本金四百萬圓の日本フオード株式會社を創立フオード各車の本邦市場に於ける配給の圓滑化を圖る、八百萬圓増資を期に新子安組立工場完成して本邦最初のコンペアーシステム採用に組立能力二萬臺を有するに至り爲に本邦自動車の長足の發展をなして今日に及べり。

營業種目 フオード自動車、フオードソントラクター、リンコンゼファ、C型フオード自動車組立

工場 横濱市鶴見區新子安
販路 日本全土、極東諸國
從業員 五〇〇名

取引銀行 正金、ニューヨークシティバンク

特色 當社の特色は今更云ふまでもなく本邦最大の自

動車會社と云つて過言でない、資本金は僅か八百萬圓であつてもその収益力は年々二十割以上と見られて居り、本邦自動車界の最高峰に立つものである。昭和十一年自動車製造事業法の制定實施を見るに至り、當社の組立臺數も一定制限を受けると共に新設擴張を禁ぜられ、新工場計畫 鶴見區潮田十一萬坪、工費三百五十萬圓も遂に法を以て禁ぜられた爲放棄の止なきに状態となつたが、許可制限の範圍で輸入が許可されてゐるので今後の發展性はさして期待されないが、現状維持には何等の苦痛を感じない實情にあつた、然るに支那事變勃發以來當社はその大半を特殊需要に振向けるとため民需に多大の不足を來たし市場の配給難を多少でも緩和すべく狂奔しつゝある状態だから、今期の収益力も巨額にのぼるものと見られてゐる。これがため當社は今春事變公債百萬圓を買上げて帝國法人としての統後の責務を果すなど當時統後佳話として喧傳された處だ、かく驚異的な業績をあげてゐる當社も事變を契機に飛躍的生產力擴充を見た國產自動車製造會社との間に展開される市場争奪戦こそ注視的となつてゐる問題である。コップ支配人の鐵の如き意志と烈々たる闘志は棟腕家として事業界を畏怖せしめて居り、アンケニー副支配人の巧な外交術と好對照をなすも、邦人社員として販賣部長の重要地位にある稻田久作氏も亦自動車界の諸般事情に通曉して名販賣部長として好評噴々たり。

日本デイズル工業株式会社

本社 埼玉縣川口市彌平町二五三
電話 川口 三〇三〇、三二四〇番
創立 昭和十年十二月
資本金 貳千萬圓
役員 取締役社長 安達堅造、取締役副社長 清家登三郎、
同 松本辰三郎、同 白石喜之、同 莊田達彌、同 陶山
繁雄、同 尾崎清一、同 西彦太郎、監査役 大賀基作、
同 増田麟三

沿革 當社は昭和十年資本金六百萬圓を以て創立せられ、獨逸クルツプ會社ユンカース・デイズル・エンヂンの特許權讓渡を受けこれが製作販賣に従事すべく川口市に工場建設によりユンカース國産化に乗り出し昭和十一年三月第二日本デイズル工業株式會社を設立同十二年三月第二日本デイズル工業株式會社を吸収合併して本格的活動を開始して現在に至る。

目下朝鮮工場建設進捗中で、北支進出の據點として有限公司永増鐵廠を買収して傘下に入れ活動を開始す。
營業種目 自動車用、航空機用、据置用デイズル機關自動車部品、航空機部品、軍需品製作販賣
東京營業所 麴町區丸の内三菱二十一號館
工場 川口工場、朝鮮工場、北京工場（永増鐵

工廠）
販 路 内地、朝鮮、臺灣、滿洲國、北支、中支
從 業 員 七〇〇名

特色 當社はクルツプ會社よりユンカースの特許權を讓渡されてこれが國産化を目的として設立せられた、所謂時局の波に乗る野心的な企業であつた、強力な資本的背景を有せず唯ユンカースの世界的存在に投資的關心を集め創立せられたため第一回拂込徴收の特許權の買収費に使つて仕舞ひ工場建設や工作機械購入などの建設費に行詰り第二デイズルの設立となり、矢繼早の拂込徴收を行つてこれが資金に充當せるため一般より疑惑の眼を向けられ兎角の評が飛んだ、事實重役陣の一部に難點がありこれが再編成にあたり松本、莊田氏等三菱系重役が加つて愈よ三菱支援のもとに企業方針の再檢討刷新となり軍需品製作に注力して局面の轉換をはかることになつた川口工場も漸やく本格的操業を開始するに至り、朝鮮工場も完成も近く、かつ北支進出のため永増鐵工廠を買収經營することとなり内地より技師熟練工を送つて事業を開始した。商事部の活動も滿洲、北支方面に於て可成の成績をあげてゐるので、事業漸やく軌道に乗つたと云へよう、それにしても設立當初より事業の見込違多く、固定資本も膨脹してゐるから一層と引緊めが必要である。

東京ルノ一販賣株式會社

本社 赤坂區田町四丁目十四番地
電話 赤坂 一二六一番
創立 昭和十二年十一月
資本金 四拾五萬圓
役員 取締役社長 兒玉衛一、取締役 佐々木儀助、
常任監査役 庄司胤四郎、經理部長 甲田光人、販賣部長 野村武雄

沿革 昭和ルノ一工業株式會社の輸入に係るルノ一自動車販賣の目的を以て昭和十二年十一月設立さる。
營業種目 佛蘭西ルノ一自動車會社製品販賣
販 路 關東一手販賣
年 商 五、六十萬圓
從 業 員 十三名

取引銀行 安田銀行本店、日本晝夜銀行赤坂支店
信 用 自動車販賣會社として創立日淺く、かつルノ一自動車輸入管理のため目下輸入難にあり事業の積極的活動は稍困難なるも、強力な資本的背景もあり、販賣陣容も整備してゐるので、時局が安定すれば好望と見られる、唯輸入車販賣事業自體が將來性にとほしいので自動車販賣單一は相當考慮の餘地あり。

兒玉 衛一 自宅 中野區江古田四ノ一五二〇

電話 中野 三、七五七番

明治十六年長野縣小縣郡和村に生る、早稻田大學政經科を卒業、現に東京ルノ一販賣株式會社々長たる他八十二銀行、信濃電氣株式會社取締役、日本アミノサン將油會社々長を兼ねて實業界に活躍してゐる。
佐々木儀助

大正五年慶應義塾卒業、梁瀬自動車會社、東邦自動車會社、三昭自動車會社を経て東京ルノ一販賣取締役就任す、その間終始自動車販賣に従事す。

庄司胤四郎

大正三年慶大卒業、梁瀬自動車會社名古屋支店長、名古屋バス會社常務取締役に歴任して、現に東京ルノ一販賣會社常任監査役となり活躍。

甲田 光人

アミノサン醬油會社より兒玉社長に抜擢せられて東京ルノ一販賣會社經理部長となる。

野村 武雄

波部自動車商會販賣部員として活躍中を一躍抜かれて東京ルノ一販賣會社販賣係長となる練達の士である。

東京自動車工業株式會社

本社 品川區東品川
電話 高輪三二一〇—三二一四番
創立 昭和十二年
資本金 二千七百萬圓
役員 取締役會長 小平浪平、取締役社長 松方五郎、取締
役副社長 新井源水、常務取締役 横田千秋、取締役 石
井信太郎、同 星子勇、同 大久保正二、同 松永令三、
同 松村菊男、同 天谷知彰、同 三宮五郎、同 弓削靖
同 三ツ木秀治、同 高橋省三、同 村上正輔、監査役
大澤住郎、同 安井清

沿革 當社は國產自動車工業最古の歴史を有する東
京瓦斯電氣工業株式會社自動車部（創業大正七年）の
T・G・Eと石川島自動車製作所（後に自動車工業株式會
社となる創業大正八年）のウズレーの製作にその源を發
し實に國產自動車工業の處女地に鐵を入れ幾多の難關障
壁を乗り越えて此處に國產自動車工業確立の重大使命の
一端を果して昭和十二年兩社の合併成り本邦最大の誇り
に輝やく東京自動車工業株式會社の創立を見るに至れり
其の間幾多の變遷を示めし政府は國產自動車工業界の先
驅者の犠牲的努力に刺戟せられて、大正七年軍用自動車
補助法を制定實施して兩社の保護助成のため補助金を交

付さる、昭和六年自動車工業確立委員會を組織し、國產

自動車工業の勃興を目的として標準型式純國產貨物自動
車を完成することになり商工省、鐵道省、内務省、民間
製作會社等より専門委員を擧げて標準型いすゞの完成を
見るに至り瓦斯電、石川島、ダウト三社を以て國產自動
車組合を組織してこれが製造を擔當することとなり企業
的發展の第二段階に到達せり、同八年四月石川島自動車
製作所を合併して自動車工業株式會社を創立せり。同九
年自動車工業株式會社と東京瓦斯電氣工業株式會社と共
同出資により標準型「いすゞ」號販賣機關として協同國
產自動車株式會社を創立して、市販開始民間各方面より
の需要は次第に激増するに至りて生産力を要求せられる
に及び工業一元化により合理的經營を以て増産に意を注
ぐこととなり舊自動車工業株式會社、舊東京瓦斯電氣工
業株式會社自動車部、舊協同國產自動車株式會社の三社
一體となり當社の設立を見るに至つたものである。支那
事變も長期體制に入り自動車の重要性が益々加はるとき
國策に順應する當社の地位愈々高まり需要も増大の一路
を辿つて今日に及べり。

營業種目 商工省標準型いすゞ、ちよだ、スミダトラ
ック、バス、陸軍保護六輪自動車、陸式薪炭瓦斯自動車
高級乗用車、デイズル自動車製造販賣

出張所 大阪市北區中之島

大森製造所 大森區入新井一丁目

鶴見製造所 横濱市鶴見區

川崎製造所 川崎市大島町

販路 陸、海軍、鐵道省、内地、朝鮮、臺灣、樺
太、滿洲國

従業員 約五〇〇〇名

取引銀行 第一、十五

特色 當社は既に論ずるまでもなく本邦最大の自動車
製造會社であつて、國產自動車工業の一大推進力である
時局發生以來當社は準兵器會社となつてゐるから詳細
にわたつて數字的に解剖することを許さないが、現在大
森、鶴見兩工場共に晝夜二交替制をとつて工場能力を休
止することなくフルに動して生産をつゞけてゐるもその
受註量の三分の二程度しか消化し得ざる状態で、現能力
を以てすれば後に明後年度上半期までの受註となつてゐ
る。今夏より川崎製造所が一部操業を開始して、年内に
は第一期計畫に着手されることとなるから収益力は一
段と増加されるもの見られる。然し川崎製造所の第二期
（二百五十萬圓）鶴見製造所（二百萬圓）自動車部分品製
造（二百五十萬圓）の擴充新設計畫を急速に進めねばなら

ぬ筋合にあるので目下倍額の五千四百萬圓増資が準備中
で、近く最終拂込九百七十五萬圓が徴收されるものと見
られる當社は現在まで八分配當を續けてゐるが、餘裕あ
るもので不安なく未だ本格的な収益期に達せず所謂建設
途上であるから今後の躍進には多大な期待がかけられて
ゐる。

今春當社の東京瓦斯電工所有にかゝる株式廿七萬株は
日立製作所、日本高周波重工業に折半肩替されて滿業の
支配下に移り、日産自動車との資本的、技術的提携をは
かり、一方高周波重工業より資材の供給を受けることとな
り新陣容が決定した。此處に一段と資金關係に材料關係
に強味を増すこととなつたので當社が將來斯界の王座を
占むることは確約されてゐる。尙自動車部分品製造會社
を創立して自動車部分品の大量生産によつてパーツの自
給化に着手することとなつた、大森製造所の移轉計畫と
して目下二十萬坪の大工場敷地を物色中であるこの計畫
も明春には具體化されるので當社の現状は飛躍の一語に
盡きる。

尙當社は目下薪炭瓦斯自動車年産一萬臺計畫遂行に着手
した。これがため各方面の休止工場も動員されてゐるこ
とは注目し値する。

松方 五郎

東京自動車工業株式會社社長
自宅芝區櫻川町一二番地 (芝二〇九三番)

氏は故公爵松方正義氏の五男(松方巖、正作、幸次郎正矩の弟同正能、義輔氏の兄)として明治四年四月生る。明治二十九年東京帝國大學法科英法科を卒業、川崎造船所倉庫課長兼庶務課長たりしことあり。後歐米に數次留學、現在東京自工取締役社長たる他、瓦斯電氣工業會社、株式會社常盤商會社長、日本エヤーブレーキ株式會社監査役、昭和生命保險相互會社相談役等の要職に在り。戰時體制下の我國重工業界を擔つて活躍、今や瓦斯電工にありては航研機完成の覇業を完成し、自工界にありて國產車の眞價を發揮して時局の人として多大の活躍をなしつゝあり。齡既にして古稀に達せると雖も矍鑠壯者を凌ぐの慨あり資性高潔にして温情に富み名門の出と雖も毫も豪邁不遜のところなく近代的紳士の典型と云ふべし。家庭には令夫人カメ(明治十年生)大阪府澁川千之助氏の養妹を中心に男正廣(明治三十九年生)正信(明治四十年生)女徳子(明治四十二年生)在り、女清子(明治三十六年生)女子學習院卒は三重縣多額納稅者田中治郎左衛門氏二男齊氏嫁し居り。

新井 源水

東京自動車工業株式會社副社長
自宅豊島區駒込五ノ九八七
(大塚四六五三番)

明治十六年埼玉縣に生る。大正三年東京帝大獨法科を卒業して實業界に入り、石川島造船所に入社して敏腕を揮ひ將來の利器として多に囑望せられる。後石川島自動車製作所に移つて國產自動車工業の確立のため心膽を砕き自動車工業の事業的發展のため日夜奔走して軍部當局と懇談し商工當局の指導を受けて自動車製造事業を経営的に採算點に達するに至るまでの苦心は常人の及ぶべからざるものであつた、石川島自動車ガット自動車と合併されて自動車工業となるや故加納友之介社長を輔けて事業的發展に刻苦精勵し昭和十一年加納社長の逝去されるやそのあとを襲つて社長に就任せり、其間十餘年自動車工業の育成に努め遂に今日の隆昌を見るに至る、自動車工業が東京瓦斯電氣工業株式會社自動車部と合併して東京自動車工業株式會社の創立されるに及んで取締役副社長に就任國產自動車工業界の第一線に活躍せらる。氏の軍部方面に於ける信望は絶大なるものあり、東京自工が準兵器工場として今日同方面の需要に應じつゝあることを併せ考へるとき氏の自動車工業に確立への熱誠に烈々たる闘志となつて今日社業の隆昌の礎となつたものである。

弓削 靖

東京自動車工業株式會社取締役
自宅荏原區小山三三〇

氏は明治二十九年一月十三日千葉縣弓削千代吉氏長男として生る。大正九年東京高商を卒業して直ちに三井物産石炭部に入社早くも敏腕を顯はれ幸運のスタートを切つた、同社を辭して神田銀行に入り財界に雄飛せる故神田氏を輔けて大阪支店長、本店支配人として縦横に商才を揮つて金融界に於ける少壯氣鋭の士と謳はれるに至り斷然頭角を現はす、大正十四年時の石川島自動車製作所常務藤澤正雄氏に懇望されて同社營業課長として入社華々しき自動車界入りをして濳澤常務の片腕となつて建設期の同社經營の衝にあたり益々その英才を認められるに至つて次第に重用せられ石川島自動車製作所とダット自動車製造株式會社と合併され自動車工業株式會社が創立せられるや支配人となり營業の全權を握つて國產自動車工業確立に寧日なく奔走、協同國產支配人をも兼ねて大久保氏と共に國產自動車販賣の權威者である。先年歐米自動車工業界を視察して版朝、製作販賣に一新機軸を劃するに至る。現に東京自工の取締役總務部長として益々重きを加ふ。氏の今後の動きは自動車界に再びセンセーションを捲き起すものと見られ期待さる。

大久保正一

東京自動車工業株式會社取締役
自宅世田ヶ谷區代田二ノ六九(松澤三四九番)

氏は幼少より秀才の誇れ高く早くより實業界に雄飛すべく志して東京瓦斯電氣工業株式會社に入社するや、その才幹を發揮して鬼才と謳はれるに至る。東京瓦斯電工が苦境時代もよく氏は得意のゼスチュアを以て重工業界をリードする日の到來することを説き、文字通り東奔西走の活動は松方社長を感動せしめしこと一再ならず、次第に重要地位に登り同社の中樞たる營業課長となるや豪放な營業振りは心膽を寒からしむるものあり、整理會社であつた同社を時局下第一の軍需工業會社として大をなさしめた最大のもの積極的經營であつた、然しそこには細心の注意と遠大な計畫が樹てられ無軌道な放業的經營ではなく、めき／＼と業績をあげ協同國產自動車營業部長に就任するや國產自動車の處女地開拓に全精力を傾倒して現に氏の軍部方面に於ける信望は益々高く、國產車製造を國策に併行せしめかつ今日の如く莫大な利益を得る有望事業となせる功勞は獨り氏のみならずかからざるも負ふところ大なるものがある。今や旭日昇天の如き勢威を以て重工業界の大久保として日本的な存在となつてきた、現に東京自工取締役營業部長として大世帯を双肩に擔つて時局の人としてその一舉一動を注視されてゐる。

トヨタ自動車工業株式會社

本社 愛知縣碧海郡刈谷町
販賣部 名古屋市中區小林町四 片倉ビル
創立 昭和十二年十月一日
資本金 壹千貳百萬圓
役員 取締役社長 豊田利三郎、取締役副社長 豊田喜一郎
取締役 大島理三郎、同 竹内賢吉、同 寺田甚吉、同
藤野勝太郎、同 池永龍、同 菅隆俊、同 伊藤省吾、同
神谷正太郎、監査役 豊田平松、同 西川秋二、同 岡本
藤次郎、同 岡部岩太郎、同 岡崎榮一

沿革 トヨタ自動車は豊田自動織機製作所に於て昭和八年九月より製作開始、同十年十一月我國最初の國産大衆車として發表せられたるものである。當社は同十二年十月トヨタ自動車の大量生産の擴充強化を發揮すべく分離獨立して新會社の創立を見るに至る。従來は刈谷自動車工場のみであつたが當社の設立と共に舉母に一大綜合的自動車工場建設を決定して既に昭和十三年六月より一部操業を開始せるが、同工場は複雑な自動車工業を簡潔化して事業進捗をはかるもので完成の暁は一大飛躍が期待される。

尙當社は支那事變の動向に深甚の注意を拂ひつゝあるが北支、中支の産業開發の國策線に沿ひ今春北支進出を

企圖して天津に組立工場、修理工場を建設して北支自動車工業の先驅的役割を果すべくこれが體制的整備を終りたるも、引續き中支交通産業開發のため自動車工業勃興の要望しきりなるに鑑み上海に天津同様組立、修理兩工場を建設することになり敷地の決定を見るに至る、忠勇義烈の勳功をたゞてゐる皇軍將士の聖血を以て戦ひこつた聖域を確保する銃後任務を果しつゝあり。

營業種目 トヨタトラツク及バスシャーシー(一四一吋及一三一吋型)セダン及幌型乗用車(一一八吋)

販路 日本内地、朝鮮、臺灣、滿洲國、北支、中支

従業員 約三五〇〇名

取引銀行 愛知、住友、三井

特色 當社は中京豊田財閥の傘下にあり、豊田自動織機製作所より分離して新會社の創立を見たもので、日産自動車と共に自動車製造事業法による許可會社として國策事業の遂行に努めつゝあり、最近では北支、中支にも進出することになり既に事業を開始せるなど國策的色彩をより濃化してきた。

その特色として舉母新工場をあげなければなるまい。刈谷工場に於ての經驗、研究施設のエキスのみを摘用し之に、歐米自動車工場最新の様式を参考とし、その長所

を採り、我國情に最も適切なる諸施設を整備するものである。大量生産のピツチをあげる萬全を期する一方如何にして廉價なる自動車を提供するかと云ふことがこの會社の眼目になつてゐる。即ち大量生産擴充のため

(一) それに最も必要な流れ作業の方式を十分に完了し、機械の撰擇に嚴格を期するは勿論の事、其の配列に完全を期し、自動車製造の第一工程にかゝると、最後の工程まで一つの道を通ずる間に全部完了仕上る様にす

る。

(二) 従來用ひられてゐたコンビナールな工作機械、例へば旋盤、ミールリンド、ドリリンド等の機械を使用してゐたのでは到底大量生産の實現は覺束ないから、各種の仕事に最も適した能率の高い専門機械を用ひ大量生産の向上を期してゐる。

(三) 各種の部分品の製作、組立等を統轄的に見て行く統制の強化方法が講ぜられてゐる。之は各作業が凡て順調に進捗するやうに、連絡と統制とを兼ねたもので綜合的工業である自動車工業には必要缺くべからざるものである。

(四) 大工具工場の實現——新工場には特に大規模の工具、治具の設計製作にあたる大工場を建設し、此處に日本の國情をとり入れた新工夫、工案をどしどし加へて

新設計の工具を製作するものである。

トヨタ自工は舉母工場の完成に依り新なる發展が約束されてゐる。従來自動車製造事業の如き國家的事業を豊田財閥のみで遂行することは至難なりとして可成その前途を憂慮されたものである。然るにこれを遂行して異常な飛躍を遂げ北支、中支にまで事業の觸手を伸ばすに至つたが、未だ建設期にあり尙數年は忍苦の時代であるが今次事變を契機とする國産自動車の需要は益々増大されて居り、市場に於てはニツサンより早く市販せられたる強味を有して民需に最も力を注いでゐるから舉母工場の完成と相俟つて多に期待されてゐる。舉母工場の本格的操業と北、中支進出とで莫大な資金を要するので、三井物産より機械購入費其他借用金も相當の巨額に登つてゐるから遠からず増資が行はれるものと見られる。而して増資にあつては國策事業遂行のため無配當も覺悟だから株主に迷惑を及さないやうにと豊田一門に縁故株によつてかためられてゐた同社の株式の公開により一般より公募すると傳へられてゐる。既に北支進出の第一期計畫である天津組立工場も一部操業を開始するに至つてゐるので資金充實は焦眉の急となつてきた。

豊田利三郎

トヨタ自動車工業株式会社社長
名古屋東區白壁町二ノ一五 (東 七八七番)

明治十七年三月、故東洋棉花株式會社社長たりし兒玉一造の弟として生る、豊田佐吉氏の養子となり同四十二年三月東京高等商業學校を卒業、豊田自動織機、豊田紡織各株式會社社長を兼ね、曩に内閣調査局専門委員に任ぜられ、中京實業界の重鎮として同市商工會議所副會頭たり、亦中京紡織株式會社取締役、豊田紡織常務、中京毛織紡織、豊田押切紡績、日亞拓殖、吳羽紡織各株式會社取締役を兼ね東邦瓦斯、福壽生命保險各株式會社監査役たり。昭和三年同氏多年實業界に貢献せるの功を嘉せられ紺綬褒章を授けられ同六年飾服を賜ふ。昭和八年國產自動車製作に着手、三ヶ年間苦心研究の結果遂に國產トヨタ號の大量生産の確信を得、昭和十年十一月國產大衆車の第一陣としてトラックを發表、越へて同十一年五月バス、九月大衆乗用車を發表本邦自動車製造事業に先鞭をつけ、トヨタ自動車工業を創立し社長に就任自動車工業の確立に萬進し、つあり。同夫人は先代豊田佐吉氏の長女、仲に幸吉郎(大八)二男大吉郎(大九)三男信吉郎(大十三)を儲く。

趣味 自動車

豊田喜一郎

トヨタ自動車株式會社副社長
名古屋市東區白壁町三ノ二 (東 一八四〇)

明治二十七年六月紡織機界先覺功勞者先代佐吉氏の長男として静岡縣に生る。東京帝國大學工學部を卒業現に豊田系諸會社常務取締役たるの他藤井紡織、豊田押切紡績、庄内川レーヨン中央紡績各株式會社取締役を兼ね、株式會社庄内川染工場監査役たり、氏の先代佐吉氏は豊田式紡織機の完成者として、從來輸入に俟ちし紡織機を驅逐し國內需要の殆ど全部を完全に充たすと共に逆に歐洲諸國にも進出し工業日本の名を發揚すると共に、積年斯界へ盡せる功を以て藍綬褒章を賜はりし事は多くの人の知る處なり、豊田紡織機今日の大をなさしめたる所以のものは固より先代に負ふ處多しと雖も守成の兄弟在りてよくその進むべき道を誤らざりし結果と云ふ可く、同社のゆるぎなき基礎を築くや轉じて自動車製作てふ國策的大事業に邁進すべく決意萬難を排して國產大衆車として自工業に積極的になり出せり。今やトヨタ自工業副社長として自工業に縦横に才腕を揮ひトヨタの名譽を高め自動車界に豊田王國を建設するの日亦近きありと謂ふべし、同夫人は高島屋社長飯田新七氏次女で名夫人の聞え高い。

神谷正太郎

トヨタ自動車工業株式會社取締役
自宅 愛知縣刈谷町

氏が自動車界へのスタートは日本ゼネラルモーターズ株式會社に入社によつて華々しく切られた。久しくゼ社東京出張所々長としてフォードに對抗して東京市場に於ける激烈なシボレー、フォードの争奪戦はまさに外車黄金時代の紛糾たる豪華繪巻であつた。ゼ社東京探題として小驅ながら全身これ闘志、而かも情熱にあふれたる奔馬の如き闘志ではなく、冷徹な澄み切つた境地にあつて倒さずんばやまずと云つた烈々たる氣魄のこもつた闘志を以てよく群雄を制壓して一頭地を抜きん出す、本社に飯り、廣告部長の要職について間もなく豊田自動織機製作所トヨタ自動車工場の營業部長となつた、此處に於て氏は國產大衆車トヨタ號を初めて市場に送り、遂に氏の鍊腕は本邦販賣界の大御所として確固たる地盤を有する山口佐助氏と相提携して日産勢力を制壓せんとする大計畫の第一段階に於て發揮された、日産が今日直販制を決定せるのもこの大魚をトヨタにとられた爲に最後の切札として日産販賣を設立せるものとも傳へられ、一躍トヨタに神谷ありの勇名をとどろかせた、豊田社長を輔けて今や東洋市場を制覇すべく北支に中支に飛んで自工業の立役者として東奔西走トヨタ王國建設に邁進してゐる。現にトヨタ自工業取締役營業部長たり。

堀越商會

自宅 京橋區木挽町七ノ二

電話 銀座 五六九番

創立 大正九年

代表者 堀越時次郎

沿革 大正十二年より京橋區寶町にて單車販賣

昭和十年十月現所在に移轉イーストン販賣をなし現在に至る

營業種目 英國製小型車オーストン東京府關東一手販賣

販路 東京府、近縣

従業員數 五名

取引銀行 日本晝夜銀行、第百銀座支店

堀越時次郎 明治二十七年十月七日福島縣二本松町に生れ、明治四十四年十七歳のとき上京、實業に従事して大正九年期するところあり獨立自營を決定して小型自動車(單車)の輸入販賣にあたり、昭和十年オーストン關東販賣權を獲得して、國產車萬能のとき獨りオーストンの牙城を守る。その性堅忍不拔、東京小型自動車商工組合會計、木挽町會議員にあげられ公共團體のために大いに盡力するところあり、趣味に狩獵をよくす。

東京トヨタ自動車販賣株式會社

本社 芝區田村町五丁目九
電話 芝 一一七二—一一七四 三四七六番
創立 昭和十年十二月
資本金 壹百萬圓(貳拾五萬圓拂込)
役員 取締役社長 深見實、取締役 吉田政治、同 本尾多
嘉助、監査役 瀧澤文造
幹部社員 支配人 吉田政治、支配人補佐 島田義雄、庶務
鹿田眞義、會計 平賀俊男、金融 須藤喜久雄、販賣 島
田元術
中古車 荒木克己、修理 鈴木政治、部分品 川浦榮三
沿革 昭和十年十二月國產大衆車トヨタの完成と共に
創立トヨタ自動車東京、神奈川縣の販賣權獲得、昭和十
二年五月現社屋完成に依り移轉、取締役社長山口佐助氏
退任により深見實氏社長に就任今日に至る。
支店 横濱出張所 主任 市川眞惠智
販路 東京、神奈川
年商 三百萬圓
従業員 百三十名
取引銀行 第百銀行
特色 當社は國產大衆車トヨタが昭和十年十一月國民
待望裡に發表されるや、國產車界の將來への雄飛を企圖

せる大洋商會山口佐助氏は豊田財閥との提携を策して當
社を創立せらる、當時シボレーを獨占販賣せる山口氏の
英斷もさることながら、これを補佐してトヨタ販賣を敢
行せる明敏吉田支配人の功績も決して得ざるものがある。
創業當時に於ける當社の經營苦心は並々ならぬものであ
つた、即ち當時發表早々のトヨタ號はその機構に於ても
フォード、シボレーに比して遜色あり、需要家も國產大
衆車の認識が薄く、少しの故障も故大に宣傳せられ販賣
の苦心容易ならぬものがあつた。その後トヨタもその眞
價を發揮して機構も改良せられ、製作も順調を辿つて年
産一萬臺の生産遂行と共に配給も圓滑となり當社の活動
も軌道に乗つて、昭和十二年には新社屋を建設して隆々
たる發展を示し歩調も快速となり、東京市營はじめ公私
營バスに大量納入あり、一方タクシーに、トラツクに、
自家用に躍進目ざましきものがあつた。
當社は山口氏が大半を出資してゐるので、堅實經營の
方針は一貫してその信用は絶大なるものがある。事變下
の今日と雖も配給に不安なく都下外車ディーラーを尻目に
日産販賣と覇を競ひつゝ、確固たる地盤を築いてゐる、時
局に恵まれた當社の今後は益々期待されている。

吉田 政治

東京トヨタ自動車販賣株式會社取締役
自宅 杉並區高圓寺六ノ七一六

氏は大洋自動車株式會社支配人となるに及んで大洋の
吉田として華々しく登場、猪狩氏共に山口幕下の寵兒で
今や東京トヨタ自動車販賣株式會社取締役營業部長の重
要地位にあつて國產車販賣界の第一線的な人物として益々
重要性を加へてきた。今日では東京トヨタの吉田ではな
く、山口資本の代表者としてトヨタ販賣陣營の最高幹部
としてその才幹を縦横に發揮してゐる。トヨタに拮抗す
るものはニッサンで、この兩車の間にはかつてフォ
ード、シボレーが華やかに對立競争をせると同様激烈な販
賣戦が展開されることゝならうが、その一方の鬪將とし
て既に氏は國產車販賣に投じて、數年の苦闘の結果、今日
の地位を占めるに至つたものである。シボレーの山口と
して切つても切れぬ社に爆彈を投ぜるトヨタ販賣進出
の巨弾は吉田、神谷の合作であつた、それだけに處女地
開拓の鉞を入れる重大な役割をつとねねばならぬ氏の苦
心も一方ならぬものがあつた、然し時局は急旋回して國
產車の急擡頭となり車輛の配給難と云ふ豫期せざる事態
の發生には、いさゝか驚ろいたが、飽迄も好運兒で今や
順風滿帆、躍進の大道をひた走る氏の得意や思ふべし、
大洋の資本の第一線的鬪將として今後に期待さる。

中外自動車商會

所在 赤坂區溜池町二
電話 赤坂 一二八八—九番
創立 昭和十二年
代表者 杉山丹三郎

沿革 同商會は中外自動車株式會社が業務整理に依り
解散せられたるためその事業を繼承して昭和十二年創立
せられ、自動車販賣に従事して今日に及ぶ。

營業種目 いすゞ特約販賣店
販路 東京
従業員 二十名
取引銀行 第百

特色 當商會はその前身は日佛シトロエン會社にはじ
まり可成りの變遷を経て販賣界の重鎮杉山氏の單獨經營
となるに及び、多年にわたる販賣界の舊殻を脱して刷新
せる經營方針に則り、國產車時代の前驅として前進を開
始して業績良好なり。

杉山氏は明治廿一年麻布島井坂町に生れ、米國ボスト
ン大學を卒業、戦後には東京瓦斯電、日本シトロエン、中
外自動車と重用せられて今日に及べり、人格高潔にして
徳望多いに高し。

中央自動車株式會社

本社 麴町區有樂町二ノ七
電話 九の内 一四三一—四番
創立 大正七年
資本金 壹百萬圓
役員 取締役社長 小川菊造、常務取締役 吉武進、取締役 河本芳藏、同 大崎新吉、監査役 武田正巳、同 高本榮二郎、同 稻原啓三郎

沿革 當社は大正七年合資會社組織を以て設立せられ大正十三年一月資本金壹百萬圓の株式會社に組織を變更しフォード特約販賣店たるの他運送部を設けて運輸事業を併せ行ひ業界發展に寄與す。

營業種目 フォード自動車、ダンロップタイヤ、白土式木炭瓦斯發生爐、自動車用品販賣

支店 第一用品部 芝區櫻川町一八
第二用品部 麻布區材木町八、サービス部 麻布區材木町八、運送部 城東區砂町

販路 全國

従業員 社員 六十名、従業員 一五〇名
取引銀行 三和銀行銀座支店、第一銀行丸の内支店、日本晝夜銀行

特色 當社は大倉財閥の傍系事業の一つとして日本自動車會社の仔會社的存在である。當社の事業はフォード自動車を中心とする白土式木炭瓦斯發生爐、中古自動車販賣の販賣部とダンロップタイヤを中心とするフォード純正部品、附屬品販賣の用品部、郵便物集配の運送部とが中樞事業であつて何れも資本的な背景と堅實な經營方針とを以て業界に於ける有力會社として重きをなしつつあり小川社長が日本自動車の經營に腐心してゐるため當社の經營は吉武常務が主宰して小川社長は事業を總轄的に見て適當な指導をなしてゐるものと見られるから凡て吉武常務の經驗によつて事業は運行されてゐる。同常務の所謂事業方針を検討して見ると當社の動向の全貌を知ることが出来るやう。吉武常務は所謂堅實主義の人で己の才幹に溺れることなく部下を統率しても積極的に策略を與へると云ふより誤まらしめざるやう指導すると云つた側の人で悪くする石橋を叩き過ぎる嫌ひがある位の慎重さを以て臨んでゐる。このため近來配當も五分の据置きで極めて浮沈のない業績をあげてゐる。従来タイヤ販賣は當社の弗箱とまで云はれたが最近ではダンロップの出荷制限により可成りの打撃もまぬかれ難いやうだ。白土式木炭車の時局的事業もあり、佐々木鑄造所を買収して製作方面への進出など注目に値するものあり當社今後の動きは注視される。

吉武 進

中央自動車株式會社常務取締役
自宅 中野區本町通四ノ一四 (中野四五〇八番)

氏は明治十九年茨城縣土族吉武一氏の三男として同縣古河に生る、生家は土井家にあつて劍道師範をつとめた名家として知らる。氏は長ずるに及んで官界に身を投じ逓信省に入り、爾來精勵恪勤二十年の長きに亘り同省に勤務、その間南洋、朝鮮等に歴任せられたることあり、大正十二年官を辭して小川社長に懇望せられて中央自動車に入社、運送部主任として經營の樞機にたづさはり同社發展のために粉骨碎身の努力を續けて運送部の業績多にあり事業的才腕を認められて大正十三年株式改組と共に抜擢せられて支配人に昇任するに及んで愈よ多彩な手腕を發揮して小川社長の片腕となり同社の躍進に力を盡し、小川吉武の名コンビを以て今日の中央の基礎を確立す、昭和四年推されて常務取締役就任、小川社長が日本自動車經營に専念するため、社長事務を代行して益々業績をあげてゐる。氏は徳望の人として業界稀にみる人格者でよく部下を愛し敬慕さる。東京自動車商組合副組合長、東京タイヤ販賣業組合常務理事として業界發展のため貢献するところ尠からざるものあり。

折橋 商店

所在 芝區田村町二ノ四
電話 銀座 三〇五七番
創立 昭和拾壹年拾月
代表者 折橋勇治

沿革 昭和拾壹年拾月東京自動車工業株式會社東京府特約社賣店として「いすゞ」號販賣をなす。

營業種目 いすゞ號自動車販賣及自動車部分品加工製作

工場 大森區大森九ノ四九二二

販路 東京府

取引銀行 十五銀行本店 安田銀行新橋支店

折橋 勇治
自宅 杉並區西荻窪三ノ一二三
電話 二二六六番

明治廿八年六月八日富山市に於て生る。大正六年仙臺高等工業學校機械科を卒業して梁瀬自動車株式會社に入社して自動車技術を磨き、秋口自動車、山田自動車等に歴任して石川島自動車製作所に入社、國產自動車製作に従事協同國產自動車株式會社の設立と共に同社に移り、昭和拾壹年秋獨立を志して折橋商店を創立して同店代表者として國產自動車販賣第一線に立つて活躍しつつあり

川崎車輛株式會社

本社 神戸市林田區和田山通一ノ三
電話 兵庫 三二一七番
創立 昭和三年五月
資本金 壹千萬元
役員 取締役 長 鎌谷正輔、専務取締役 下田文吾、取締
役 川崎芳熊、監査役 松村守

沿革 當社は川崎造船所の整理手段として同造船所車
輛部を分離獨立せしめ川崎車輛株式會社を創立せるもの
である。國產自動車「六甲號」の製作を開始せるは昭和
七年で、トラック、バスシャシーを完成し續いて乗用車
を完成して本邦自動車工業界に本格的進出するに至れり

營業種目 汽車、電車、車輛製造、自動車製造販賣
工場 神戸市林田區和田山通
販路 興國自動車商會、葵自動車株式會社販賣權
委讓

従業員 一、五〇〇名
取引銀行 十五銀行
投資會社 同和自動車株式會社

特色 當社は車輛、自動車共に大繁忙を告げてゐるた
め銳意生産力の擴充をはかりつゝあり、當社の「六甲號」

太洋自動車株式會社

本社 神田區今川橋
電話 神田 二一三一七番
創立 昭和六年三月

資本金 參拾萬圓
代表取締役 深見實、販賣部長 酒井右衛門

沿革 太洋商會と大澤商會と共同出資の下に昭和六年
創立せられ、シボレー特約販賣店としてシボレー乗用車
貨物車販賣に従事し、昭和十一年一月貨物車販賣を分離
して今日に至る。

營業種目 シボレー特約販賣店
販路 東京

従業員 社員 四〇名、工員 四〇名
取引銀行 住友人形町支店、第百旅籠町支店

特色 當社は太洋系資本の代表的會社で都下有力販賣
店の一つである。シボレーが特殊需要に振り向けられか
つトラックがその大半を占めるに及んで當社も亦時局の
重壓を感じざるを得ないが、既に大洋系資本はトヨタ販
賣權を掌中に收めてゐるので、東京トヨタを中心に國產
車販賣によつて時局切抜けが講ぜられつゝあり、シボレ
ーが外車としては優先權を持つてゐる點から見ても高級
車販賣店の如き打撃はなく今後の活動如何は注目される

は東京目工、三菱重工等のメーカーと共に自動車製造に
乗り出しその歴史も古く性能も優秀なるは既に定評のあ
るところ、近く川崎造船所航空機工場を買収せるので此
處に自動車工場と車輛工場を建設の豫定である。トラッ
クは特殊需要に追れて目下のところ民需へは殆んど注力
出来ないが、販賣にあたる葵自動車會社の如きは當社の
積極的増産によつて國產車販賣界へ積極的進出をはかる
べく既に北支方面へも進出を計畫し現地の視察により工
場建設が具體化されるなど、比較的に消極的であつた自
動車製造への乗り出しは多大の期待がかけられてゐる。

當社は九年下期に五分の配當復活してより十年上期七
分、下期九分、十一年上期以降一割配當を繼續して居り
一割配當なら不安なく更に増配が期待されてゐる。尙當
社ではディーゼル自動車製造も代用燃料問題やかましき折
柄是非進出すべく久しき間苦心研究の結果川崎式ディゼ
ルエンジンの完成を見るに至り六甲號ディーゼルとして本
格的に製造すべく計畫されてゐる。自動車事業が逐次擴
張せられて急速に生産力擴充を必要とするに至つてゐる
ので大英斷を以て東京目工、三菱重工の二大勢力に對抗
して積極的活動を開始することになつた。バス、トラッ
ク、乗用車、ディーゼル自動車と各種車の大量生産設備完
成の日は期待されてゐる。

朝日自動車株式會社

本社 麹町區内幸町一ノ六
電話 銀座 四一八一五番
創立 昭和八年二月

資本金 五拾萬圓
代表取締役 猪狩博愛、販賣部長 奥村喜一

沿革 昭和八年大洋商會の傍系會社として創立せられ
シボレー特約販賣店としてシボレー乗用車、貨物車販賣
に従事、太平自動車株式會社の設立せられるに及んで貨
物車を分離して現在に至る。

營業種目 シボレー特約販賣店、自動車部分品販賣
サビース工場 麹町區内幸町一ノ六

販路 全國、南洋
従業員 八十名

取引銀行 住友銀行内幸町支店、第一日比谷支店

特色 太洋自動車の姉妹會社として創立せられ初代社
長は故生方繁三郎氏で猪狩、井上兩氏が第一線で活躍販
賣界を壓倒せり、現在は奥村販賣部長指揮のもとに傳統
的地盤によつて斷然たる勢力を張り外車不振のとき氣培
をあぐ時局の重壓によく打勝ち最も最近の配給難に太洋
自動車同様の時局對策が講ぜられつゝあり注目される。

山口 佐助

丸石商會社長
自宅 大森區新井宿二ノ一七四二

明治九年三月栃木縣山口常吉弟として生る。明治三十一年東京高商を卒業、横濱川口商店に入り貿易に従事、同三十三年獨立して丸石商會を設立、同商會を母胎として大洋商會を設立各種貿易にあたり業績多いにあり兩商會をホールデンカンパニーとして自動車販賣界に進出しては太平洋自動車、朝日自動車、大洋サービス、東京トヨタ、東京ディーゼル、京豐販賣あり、丸石商會系資本として丸石塗料、日本ダンロップ、伴傳、永峰セルロイド、大同チエンを支配し山口コンツェルンの總帥として財界の一角に確固たる勢力を扶殖してゐる。

氏は全國トヨタ販賣店協會長として自動車製造事業委員に推され、自動車製造事業に歴史的役割を果し本邦自動車販賣界への貢献と共に國產自動車工業確立に預つて力大なるものがある。トヨタ販賣に敢然として立ち全國販賣業者に一大センセーションを巻き起したが、豪毅果斷是なりと信すれば飽までも進み全力を傾け盡す氏の經營方針は遂に今日まで數十會社を經營して成功し、何れも業績良好である。事業の表面に立つことを欲せず、爲に誤解をうくること一切ならず、還曆を迎へて人格圓熟の極致にあり衆の敬服指く能はざるところなり。

猪狩 博愛

朝日自動車株式會社專務取締役
自宅 横濱市鶴見區東寺尾一六七九

明治廿四年福島縣双葉郡川内村に於て生る、郷里の中学校を卒業して上京、横濱税關に勤務して貿易に關心を持ち大正八年山口佐助氏の經營せる丸石商會に入社、生來商才にたけた氏はその外交術に妙を得て優秀な成績をあげ内外の信望を擔ひ重用せられて名古屋支店長に拔擢されて丸石の名を高め九州支店長に轉じ縦横に才腕を揮ひ丸石經營陣の樞要の地位にありたるも朝日自動車株式會社が創立されるに及んで同社支配人に就任、自動車販賣界の第一線の人物として活躍、都下販賣界の強豪有力販賣會社に伍して譲らず販賣界の新鋭として令名を轟はれ朝日自動車今日の隆昌を見る基礎を確立するに至れり、山口氏の秘蔵ツ子で現に太平洋自動車、朝日自動車兩社の專務取締役としてシボレー販賣陣を統率して猪狩の名を販賣界に高からしめしつゝあり、吉田、猪狩、岡山氏等が次代の太平洋資本を代表して自動車界へ雄飛する日も近きものと見られる。

氏は資性圓満にして堅實と之に和するに天才的經營の手腕は今日の大を成すに至る。今や圓熟期に入り將來の大成を期待さる。

聖自動車製造株式會社

本社 赤坂區溜池町三〇番地
電話 赤坂一〇一——一一〇九番

創立 昭和十年
資本金 五十萬圓

役員 取締役社長 相澤正、取締役 小川菊造、同 稻原啓三郎、同 清水秀樹、同 晴山直吉

沿革 昭和九年國產自動車部分品製作組合が共同製作車JAPを完成するに至りこれが企業化を目的として同十年創立、同組合員を株主として組織しJAPを聖號と改稱これが製造を開始、事業の發展と共に芝浦に組立工場を設立す、昭和十三年資本を日本自動車に肩替して同社傍系事業となる。

營業種目 聖號製作
工場 芝區芝浦
販路 日本自動車、昭和自動車、東洋自動車の各社に於て販賣にあたる。

特色 當社は創立以來その事業の有望性あるに比して資金難のため未だ活動期に入らず、部分品擔當株主の間が兎角圓滑を缺くため製造能率も上らず、根本的な建直しが必要に迫まれてゐるとき日本自動車に肩替せられ甦生することゝなつた。

渡部 商店

所在 芝區田村町三ノ八
電話 銀座 三三八九番

創立 大正五年
代表者 渡部龜吉

沿革 當店は明治三十二年創立せられ自轉車販賣に従事して大正五年タクシー部を創設自動車業界へ進出するに及び、シボレー副代理店、ウキルス關東總販賣店となり自動車販賣を兼營、昭和八年プリムス、ロツクネ自動車販賣に轉じ業績大いに擧る、昭和九年現店舗に移轉スチュードベカー關東販賣店として今日に至る。

營業種目 スチュードベカー採用貨物乗合自動車販賣
販路 關東
従業員 五名
取引銀行 安田芝支店

特色 當店は自動車販賣の歴史は可成り古く、都下中堅販賣店として活躍しつゝあるが、外車輸入禁止とガソリン消費規正實施の時局的影響は相當深刻に反映して現在では靜觀的態度を以て成行きを注視して時期到來に備へてゐる。賢明な策をとつてタクシーその他の經營に意を注いでゐる。

太平自動車株式會社

本社 芝區新橋田町二〇
電話 銀座二五九二・六三二一―六三二二番
創立 昭和九年
資本金 五拾萬圓
代表者 專務取締役 村上 一夫

沿革 昭和九年太平自動車株式會社を創立、東京シボレー特約販賣店のシボレー・トラック販賣權の譲渡を受けて事業を開始、シボレー・トラック販賣の他にポンテアック GMC トラック販賣に従事せるも昭和十三年よりポンテアック販賣權を返上、シボレー・トラック販賣に全面的に注力して販賣市場に確固たる地盤を擁して現在に至る。

營業種目 シボレー・トラック、同部分品販賣

販 路 東京一圓

従業員 五十名

取引銀行 安田、住友

特色 當社はシボレートラック販賣會社として本邦最大のものである。現下の時局はトラック時代となりシボレー、フォード共に輸入車はトラックに殆んど制限をされてゐるやうな實情にあり、シボレー乗用車が配給難を

訴へてゐる程痛切な打撃は蒙つて居らず、シボレー多年の傳統的地盤を確保すると共に更に新分野へも積極的に手を伸ばさんとする積極販賣策は注目される。

當社は創立當時山田社長の資本に村上專務の手腕と東京シボレー特約販賣店の協力とによつて事業を開始されたもので初代社長には當時の朝日自動車會社社長たりし故生方繁三郎氏が就任せられ、太平洋朝日兩資本も参加せられたものであるが、漸次太平洋系資本の後退となり現在は同資本とは完全に手が切れて太平自動車は独自の資本を以て進むこととなり、その後時局の急變に乘用車販賣より遙か優位な地位を占めて、外車デイトラー何れも苦悶の様相に轉向の機を狙ひつゝあるとき獨り積極的な活動をなしてゐるのも時局性を物語るものであるが、事變後の見透しに於て他のデイトラーが何れも悲觀的觀測をなしてゐるのに反して當社は現在配給に可成の窮屈を感じてゐるが、事變が安定すれば乗用車には可成りの制限が加へられてもトラックはその軍事的な重要性からも國內自動車保有量を確保する建前から制限を蒙るが如きことなく輸入されるであらうとの見解を持つて居り、スタートに於て杞憂された當社は漸やく實力を發揮する秋を迎へたわけでの將來性に期待さる。

村上 一夫

太平自動車株式會社專務取締役
自宅 世田ヶ谷區玉川奧澤町一ノ四一六

氏は熊本の人、明治廿九年三月二十四日生る、大正八年早稻田大學理工學部機械科を卒業するや直ちに梁瀬自動車株式會社に入り芝浦工場勤務となる。此處に於て自動車技術を習得して次第に重用せられたるも同十五年同社を辭して日本自動車株式會社に入り販賣部に勤務して自動車販賣の第一線に活躍、洗練せられたる外交と自動車専門的智識を有する氏は新進ながら社内信望を博して、同社がシボレー特約販賣店日本モーターを創立するに及び拔擢されて支配人の重職に就き東都販賣界に於て日本モーターの村上の名を高めるに至りたるも昭和十一年一月同社が解散となるや獨立を企圖して資本金山田氏と相提携してシボレートラック特約販賣店太平自動車株式會社を設立して專務取締役支配人として同社を主宰するに至り、遂にシボレー特約販賣店のトラック販賣を同社に統轄することとなり同社の業態を改革して今や時局下に特殊需要の旺盛に新展開を示めしつゝあり果して今日の洞察してトラック單一販賣に乗り出せるかは知らず、時局を享けて業界の寵兒となる。技術家出身として自動車工業に深甚の關心を寄せ自動車技術協會の創設に盡力現に協會のリーダー格となり國產自動車技術向上と獨創的設計に成る國產車の完成を期して歐米模倣の現状打破を目ざす革新的意見を有してゐる。

株式會社ダイハツ商會

本社 神田區美倉町十番地
電話 神田 一六五 三六三一 一六五七番

創立 昭和八年六月一日

資本金 參萬圓

役員 代表取締役 井畑田一、取締役 柴田貞一、同 百瀬信弘、同 横山壽雄

沿革 昭和八年六月一日發動機製造株式會社の出資により大村商店自動車部とツバサ商會を合併して三者の出資により株式會社ダイハツ商會を設立す。

營業種目 發動機製造株式會社製造ダイハツ號小型自動車販賣

販 路 東日本一帯

月 額 高 百五十臺

従業員 九十名

支店工場 中古車部 日本橋區本町二ノ七
神田區鍛冶町ガレージ下

取引銀行 第一銀行堀留支店、住友銀行日本橋支店

特色 當商會は自動三輪車販賣界に獨占的地歩を有する堅實無比の會社である。ダイハツ號が今日の如く他車を壓倒的に引離してゐるのは製造元發動機製造會社の努力もさることながら、ダイハツ商會の積極的な販賣政策によるところ大なるものあり、小型車販賣界の王者の貫録充分。

株式會社大東自動車商會

所在 大森區大森海岸二四九八
電話 高輪 六九一 大森 二七三
創立 大正十三年
代表者 代表取締役 横山新松

沿革 大正十四年合資會社大東自動車商會を設立して日本フォード株式會社特約販賣店となり活動、昭和十年株式會社に改組して現在に至る。

營業種目 フォード並部分品、附屬品販賣、ボデー製作及自動車修理

販 路 京濱一帯
従業員 四十名

取引銀行 第百川崎支店

特色 當社は京濱フォードディーラーの中堅として販賣第一線にあり、自動車販賣の合理化經營を斷行して業績多にあり、戦時體制下にフォードの配給も意の如くならざるなかにあつてよく難局を切抜けつゝあり、之は横山氏の眞摯な科學的經營の賜である。氏は自動車販賣研究のため渡米これが要諦を収めて飯朝、東京自動車商組に車籍登録部を創設して自動車販賣の刷新を圖り、經營の合理化を率先斷行するなど業界の革新的人物である

中島製作所

本社 大阪市港區九條南通一丁目
創立 明治三十八年
資本金 貳百萬圓(壹百貳拾五萬圓拂込済)
代表者 社長専務取締役 中島市二郎

沿革 明治三十八年現社長の個人經營として創立、漸次業務發展に伴ひ株式會社に改組、大正十四年蓄電池車の製作開始、昭和十二年電氣自動車の研究に就いて商工省より工業研究獎勵金を下附せらる、現に乗合用、貨物用各種電氣自動車を製作しつゝあり。

營業種目 蓄電池車、水壓機、送風機、鋳物、鐵骨、架空索道、人絹用機械、一般鐵工品

放出工場 杭瀬工場、佃工場
販 路 内地及滿洲國及北支地方
従業員 七〇〇名

特色 當社は關西に於ける電機メーカーとして有數の存在である。社長中島市二郎氏の事業的手腕は業界切つての棟梁家として定評あり、今日の大をなすに至る。大正十四年に蓄電池車の研究に着手してより爾來銳意電氣自動車研究に没頭して昭和十二年には研究獎勵金を交付され捷まず研究の結果乗合、貨物用電氣自動車の完成を見るに至り、實用化時代の先鞭をつけて斯界に貢獻しつゝあり。

ライト自動車工業株式會社

本社 芝區芝浦二ノ三
電話 三田 一三二〇番
創立 昭和九年十二月
資本金 三百萬圓
代表者 取締役社長 遠藤柳作、専務取締役 野村保之輔、常務取締役 戸賀崎一男

沿革 昭和九年野村保之輔、牧田雅男氏等發起のもとにライト自動車製造株式會社(百萬圓)を創立せられ、小型四輪車スピリット號を製造販賣、昭和十二年九月三百萬圓に増資を機にライト自動車工業株式會社と改稱し粕壁工場の完成と共にライト號の市販を開始して今日に至る。

營業種目 ライト小型自動車製造販賣

芝浦工場 芝區芝浦二ノ三
粕壁工場 埼玉縣粕壁町

従業員 三百名
取引銀行 第百、武州

特色 當社は武州銀行系の遠藤社長はじめ尾高豐作、大川鐵雄氏等の重役就任に依り果然活潑な活動をはじめ三百萬圓に増資して粕壁工場に於てライト號のマスプロダクションを開始すべく第一次計畫として月産六十臺の

生産を開始するに至り、自動車投資、日新自動車を販賣の樞軸とする販賣網も確立し、資金關係も圓滑に進むに至り建設期より稼行期に移行する過渡的段階に立つて今次事變に遭遇するに至り、既定計畫を變更するの止なきに立ち至る。ライト號の生産に併行して軍需工業、東京自工の下請工場として工場の生産能力を振向けることになつた。物資需給計畫遂行により蒙る打撃は相當甚大なるも一部轉換により新事業への進出は別種の期待をかけられてゐる、時局會社して活動大いに注目さる。

遠藤 柳作

埼玉縣の人、明治十九年出生、東京帝大獨法科を卒業して内務省に入り愛知縣知事をはじめ各縣知事を歴任し滿洲國總務長官を最後として實業界に入り當社々長たる他數社の重役を兼ね現に貴族院議員たる他公職を多數かねてゐる。

野村保之輔

埼玉縣の人、自動車運輸事業界に於ける強大な勢力を以て小型自動車工業へ進出せり、實業家として既に隆々たる基礎の上でありライト自工を双肩に擔つてこれが經營にあたり、ライトの大量生産を企圖して武州財閥と提携し事業漸やく軌道に乗らんとす。

矢野自動車商會東京營業所

所在 下谷區上車坂町二九(新田ビル)
電話 下谷 八〇〇六番
創立 昭和十年(東京營業所開設)
代表者 矢野登

沿革 昭和十年矢野自動車商會東京營業所として創設せられ、ダイヤモンド關東總代理店となり東都に進出せり、爾來自動車販賣界の第一線にありて大いに活躍現在に及べり。

營業種目 ダイヤモンドT貨物、乗合自動車販賣、ブルハーフ・セミトレーラー販賣

本社 栃木縣宇都宮市

販路 關東一圓

従業員 十名

取引銀行 安田銀行

特色 當商會は宇都宮市に本社を置き地方自動車販賣會社として陰然たる勢力を有して居り、乗合自動車、團體貨切自動車、タクシー等の營業を行つて事業は各部門にのび關東一帯に確固たる地盤を有して、堅實な内容と事業の積極化は既に早くより認められてゐるところである。東京進出により果然矢野の存在を明かにして販賣界の新進として將來を期待さる。

合資會社黒澤商店

所在 麹町區内幸町一ノ六
電話 銀座 八八四 三七四八番
創立 昭和四年十二月五日
資本金 八萬五千圓
代表者 代表社員 黒澤茂雄

沿革 昭和三年十一月東京プリムス自動車商會を創設しプリムス關東總販賣店となり、翌四年合資會社黒澤商店と組織を變更、プリムス、ダッジブラザースの販賣にあたり今日に至る。

營業種目 プリムス、ダッジブラザース、日光號販賣、附屬品タイヤ販賣

販路 關東

従業員 三十名

取引銀行 日本晝夜赤坂支店、第一赤坂支店、第百日比谷支店

黒澤 茂雄

黒澤商店代表社員
自宅 澁谷區長谷戸四七

明治十五年愛媛縣宇和島市に生る、氏は自動車販賣界の第一人者にして販賣手腕の傑出せることは業界隨一と稱せられ黒澤商店を主宰して益々敏腕を揮ひつゝあり、趣味人として盆栽を愛し、東郷元帥を敬慕するなど豊かな風格を有し、前田山後援會を結成して同會を牛耳る相撲道の鼓吹にあたるなど氏の一面を物語るものである。

梁瀨自動車株式會社

本社 日本橋區通三丁目四番地ノ一
電話 日本橋三三七一—六番
創立 大正九年二月廿七日
資本金 九拾壹萬圓
代表者 取締役社長 梁瀨長太郎、常務取締役 大澤喜市
販賣部長 鈴木義五郎

沿革 大正四年三井物産機械部の組織變更に伴ひ梁瀨長太郎氏が同自動車部を繼承して梁瀨商會を創立、同八年日比谷より吳服橋に移轉、同九年二月同商會を改組梁瀨自動車株式會社となす、業務の擴張により礦油、雜貨販賣を分離して梁瀨商事株式會社を創立するに至り、販賣網も全国的に擴大されて本邦一流販賣會社として確固たる販賣地盤を有す、昭和七年減資し九拾壹萬圓となり事業の整理を斷行して今日に至る。

營業種目 ビウイック、キヤデラック、ラサール、ボンテアック、ファイヤット、レオ、乗用貨物乗合自動車及附屬品、部分品、ボデー材料、礦油類輸入製作販賣並に修理

支店 大阪
出張所 名古屋、福岡
工場 芝區南濱町二ノ七
従業員 二〇〇名

梁瀨長太郎

梁瀨自動車株式會社社長
自宅 麹町區一番町七(九段六八七)

東京高商明治廿八年卒業、大阪商船より三井物産に移り、自動車係として活躍するうち同自動車部の事業を繼承して獨立今日の隆昌を招來するに至る、本邦販賣界の大御所として斯界に重きをなす、現に梁瀨商事株式會社關東礦油株式會社、昭和ガソリン、相武ガソリン販賣株式會社取締役社長たる他彌榮商事株式會社、高速自動車販賣、愛國自動車株式會社、山王ホテル取締役を兼ねて昭和十二年度所得稅二萬九百三十二圓を納めてゐる。

梁瀨長太郎

梁瀨自動車株式會社社長
自宅 麹町區一番町七(九段六八七)

東京高商明治廿八年卒業、大阪商船より三井物産に移り、自動車係として活躍するうち同自動車部の事業を繼承して獨立今日の隆昌を招來するに至る、本邦販賣界の大御所として斯界に重きをなす、現に梁瀨商事株式會社關東礦油株式會社、昭和ガソリン、相武ガソリン販賣株式會社取締役社長たる他彌榮商事株式會社、高速自動車販賣、愛國自動車株式會社、山王ホテル取締役を兼ねて昭和十二年度所得稅二萬九百三十二圓を納めてゐる。

八洲自動車株式會社

本社 赤坂區溜池町三一
電話 赤坂一一九一—三番
創立 大正十四年八月
資本金 拾萬圓

役員 専務取締役 ジェームス・メーソン、常務取締役 木村兼次郎、取締役 中谷保、監査役 佐藤虎吉

沿革 大正十四年八洲自動車株式會社を創立、芝區新櫻田町に店舗を設けてクライスラー自動車日本總代理店として業務を開始するに至る。プリムス、フアーゴの總代理權をも獲得して自動車販賣界に確固たる地盤を擁して活躍事業の發展に伴ひ昭和九年社屋を建設、昭和十三年輸入管理に遭ひ各車の輸入杜絶するや國産日光號の販賣に進出して今日に及べり。

營業種目 クライスラー、プリムス乗用車、フアーゴ貨物自動車日本總代理店

大阪出張所 大阪市北區大融寺町一二〇

工場 横濱市鶴見區共立製作所工場

從業員 日本全土

取引銀行 五十名

第一赤坂支店 日本晝夜赤坂支店

特色 當社はクライスラーラインの代表的會社で、クライスラー販賣にあたり高級車界に缺くべからざる需要

層を持つてゐる一方プリムスが經濟車としてフォード、シボレーに迫つてタクシー界へも進出して近年好調を示めし、フアゴも亦自動車投資の努力により地方市場で賣行き素晴らしく車の配給難をさへ惹起するやうな販賣成績をあげて、これがエーゼントを持つ當社は業界美望の的となり、販賣單獨會社として利益率の高率なるは各方面の齊しく注目するところであつた。然るに事變を契機とする輸入販賣界は未曾有の難局に當面した。輸出入品臨時措置法の實施により當社の車は輸入が禁止的制限を加へられるに至り、自家用自動車のガソリン割當の激減等から需要不振に陥り戦時下の今日堅忍持久して時局の安定を待つか、國産車への轉向かはた又轉業か豫期せざる難局に立つに至つた。明哲木村氏は既に國産日光號を擁して國産車への轉換態勢を示めして各方面の注目をひいたが、中谷氏を盟主とする日光ブロックが何の程度の積極性を示めすか、中谷氏は各部門にわたり事業部門も多いが、木村氏は販賣一本槍だけに悩みも多き、日光ブロックの強化に最も大きな期待がかけられてゐる。輸入販賣界の見透は現在のところでは困難で恐らく事變安定後と雖も輸入管理は財界の反動來に備へて強化して行くと思はれるので當社もこの見透のもとに動きつゝあるやうだ。

木村兼次郎

八洲自動車株式會社常務取締役
自宅 澁谷區長谷戸町四三(青山三一七六)

氏は愛知縣加藤次郎氏の三男、明治十年四月十五日を以て生る。後ち木村直吉氏の養子となる。夙に横濱商業を卒業後直ちに自動車界に入り明治三十四年京橋區銀座四丁目モーター自動車商會の設置されるや入つてその販賣に従事す。三十八年同商會閉鎖されるまで外交手腕を發揮相當の販賣成績を挙げたり。後ち高田商會機械部に入る。大正九年同商會自動車部設置に就き拔擢されて販賣主任となり鬼才を振ひしも、大正十四年高田商會解散に漸せし時、奮然起つて獨立の計畫を樹て同年八月芝區新櫻田町に八洲自動車株式會社を興しその常務取締役となる。爾來氏の奮闘克く社運の隆昌を致し、其販賣網を全國的に及ぼすべく大阪に出張所を設置するの勢となれり。今や赤坂區溜池に社屋を移しクライスラー及びフアーゴトラック、プリムスの總代理店として八洲自動車の名聲業界に冠たるの概あり、その間昭和五年同社の組織を變更し安全系の資本を加へ君は依然常務取締役として經倫を行ふ。

支那事變を契機とする輸入販賣界は未曾有の難局に逢着するに至りデイラーの去就も注目的となるとき敢然舊殼を脱して中谷安全社長と提携共立製作所を主體とする日光號製造に乗り出す、現に東京自動車商組合自動車部長として時艱克服に任じつゝあり。

江東モーター商會

所在 深川區門前仲町二ノ九
電話 本所 二五三、四六四九番
創立 昭和四年五月
代表者 鶴見勇

沿革 昭和四年現所在地に江東モーター商會を創立して、日本ゼネラルモーター商會社副代理店としてシボレー、ボンテアツクの販賣にあたり、後轉じてプリムス關東販賣店となり今日に至る。

營業種目 プリムス販賣、金融業

從業員 東京及近縣

取引銀行 安田銀行

特色 當商會は江東方面に位地して居り、同方面の需要家につちり喰ひ込んで、プリムスをタクシー用車として普及せしむるに大いに功あり、側ら金融業を營み内容實に堅實、業界の中堅として定評あり。

鶴見 勇

江東モーター商會主

明治二十七年愛知縣刈谷に出生、年少早くも自動車界の將來を洞察して運轉者より身を起し日夜精勵タクシー事業者として成功するに及、販賣に轉じて天才的な商才を揮つて今日の隆昌をかち得たる立志傳中の人である。

株式會社松永商店

本社 神田區佐久間河岸一二號
電話 下谷 六〇六三—八 七六一四番
創立 大正十二年六月

資本金 參拾萬圓
役員 取締役社長 小津綠平、取締役 小津秋平、同 小野昇、同 鈴木留藏、監査役 池田豊松

沿革 大正十二年六月株式會社松永商店と組織變更してフォード特約販賣店となり自動車販賣界に進出第一歩を踏み出す、爾來業界の進運に伴ひ事業を擴張して自動車ボデー製作、自動車各種計器製作の傍系事業に従事して今日の隆昌を見るに至る。

營業種目 フォード、フォードソントラクター、並に部分品、附屬品、自動車用計器類、タイヤ販賣

工場 本所區徳右衛門町二七
従業員 一二〇名

取引銀行 三和東京支店

傍系事業 目黒ボデー製作所、東京メーター製造株式會社、イワイ商會

特色 當社はエンバイヤ、中央、日本と相並んで京濱フォード四大ディーラーの一として牢固たる地盤を持つて

居り、就中官廳納入には最強の地盤あり今日販賣界でエンバイヤに伍する大販賣店となり自動車界の躍進に寄與するところ大なるものあつた最近フォードの輸入制限より配給潤滑を缺くと雖も所謂特殊需要により同方面の配給潤滑なため時局の影響は比較的尠なく収益力の大きな點では販賣界のトップを切るものと衆目の一致するところだ、先年シボレーの太平洋商會山口氏と結んでトヨタ販賣に進出することとなりこれが準備を完了せるところ日本フォード會社より國産車進出を抑壓されたことがある。かゝる事實から推して見ても當社のフォードに於ける位地の如何に重要なかがひ知られやう。フォード販賣より國産車勢力の擡頭に呼應してこれが對處の體制をとり既に目黒ボデー製作所を經營してボデー製作に進出する一方東京メーターを設立、メーター制實施と共にメーター界を獨占制覇すべく相當の大資本を投じてこれが經營にあたるなど所謂多角的經營にその方針が定められてきたことは外車販賣店の今後を示唆するものである。小津社長を輔ける鈴木、小野兩氏の三位一體は業界の一大勢力であつてこのトリオを推進力とする當社の今後は大いに期待されエンバイヤ、日本とビックスリIとしてフォードの城壁を固守するものである。

小津 綠平

株式會社松永商店社長
自宅 品川區大井廣町四六六一

氏は明治二十三年十一月十八日三重縣松坂市に於て生る。大正五年上京して貿易事業により大成すべく日露貿易會社を創立、大阪、ハルビン、モスコに支店を設置して日露貿易に従事雄圖益々伸展して業務の擴張を期するときロシア革命に遭遇して斷念の止なきに立ち至り再起を圖るべく令兄の主宰する松永商店に入社、敏腕を揮つて早くも業界の新進實業家として内外の信望を博し前途囑望されるとき令兄小津貞祐氏の逝去に遭ひ、昭和四年十月其跡を繼いで社長に就任、爾來社務に精勵し三大ディーラーの一として今日の隆々たる社運を招來す、慧眼明哲なる氏は國産自動車工業界の將來を卜して山口佐助氏と結んで國産車販賣にその觸手を動かすに至つたが、思はざる障害のため一頓産を來たすに至り斷念するを余儀なくせしめられたが必らずこの實現を胸中に秘して他日雄飛の日を待つてゐることであらう。濃厚篤實な人格者として徳望殊に高く現に東京自動車商組合副組合長として次期組合長を確約されて居り、亦東京タイヤ販賣業組合常務理事スーパ部長として公平妥當の論旨を以て業界の諸案件の解決にあたるなど業界の重鎮なり。

葵自動車株式會社

本社 赤坂區溜池町三五番地
電話 赤坂一〇〇一—二番
創立 大正七年四月
資本金 參拾萬圓
代表者 專務取締役 菅野利兵衛

沿革 大正七年合資會社葵自動車商會を設立ハイヤー營業を經營、後伊太利ビヤキン會社總代理店なり自動車販賣を併營するに至る。大正十二年米國ナツシュ會社總代理店なりナツシュ販賣に注力、昭和八年株式會社に改組して今日に至る。

營業種目 ナツシュ、六甲、インデアナ輸入販賣、附屬品、部分品販賣

出張所 大阪市北區大融寺五、新大和通四四
工場 横濱市鶴見區潮田町二七三五
販賣路 内地、滿洲、北支
従業員 七十五名

取引銀行 第一銀行

特色 當社は創立者菅野專務の獨裁下にあり、温良なる人格者たる氏の堅實經營は都下一流販賣店として官廳方面に確固たる地盤を擁してゐるが、輸入管理でナツシュの輸入困難となるや川崎車輛と結び六甲號販賣に全面的に注力して輸入車販賣の重壓から脱する鮮やかな手腕は圓熟せる才腕によるものである。慧眼な氏は北支進出を企て天津、北京に工場建設計畫を進め注目されてゐる

京豊自動車工業株式會社

本社 横浜市鶴見區市場本町
電話 鶴見四〇八一—三番
創立 昭和十二年五月
資本金 壹百萬圓
役員 取締役社長 小早川常雄、常務取締役 樋口佐兵衛、
取締役 豊田喜一郎、同 上野喜左衛門、同 山田三郎、
監査役 山口左助、同 奥山一雄、同 池永龍
沿革 昭和七年京三製作所に於て小型自動車製造をな
し、別に京三自動車商會を創立此の販賣にあたり居りた
る處、業務發展に伴ひ生産設備の擴張と専門的經營にあ
たる爲、昭和十二年京三製作所の小型自動車に關する事
業を繼承して當社を設立して今日に至る。

營業種目 京三型七五〇CC水冷式直角V型二氣筒機
關小型貨物自動車

工場 横浜市鶴見區市場町字本町四〇〇番地
販路 國內市場

取引銀行 住友銀行 三井銀行

特色 當社は京三製作所、トヨタ自工、大洋商會の強
力な資本的背景を有してゐる小型會社ながらエキスパス
シヨン性に富む會社である。近時小型車製造の禁止的制
限にトヨタ自工の專屬パーツ工場として活路を開きつゝ
あり注目さる。

京豊自動車販賣株式會社

本社 日本橋區本町四丁目五番地
電話 日本橋 四五七七番
假營業所 京橋區銀座西六丁目東京チーゼル株式會社内
創立 昭和十三年四月十二日
資本金 四拾萬圓
役員 代表取締役 岡山福四郎、取締役 山口佐助、同 樋
口佐兵衛、同 深見實、同 吉田政治、監査役 山田三郎
同 辻卓三
沿革 京豊自動車工業株式會社の業務發展に伴ひ製造
販賣兩部門の専門的經營にあたるを便とするに至り、販
賣部を分離獨立して、昭和十三年當社の設立を見るに至
る。

營業種目 京三號小型自動車販賣
大阪營業所 大阪市東區内本町二ノ四五

販路 國內市場
従業員 五〇名

取引銀行 住友、第百

特色 當社は大洋商會の傍系會社にして一部京三製作
所が投資して居り、資本的背景は有力なもので本邦販賣
界の最高峰を行く山口資本の支配にダツトサン、オオタ
號に伍して小型自動車界に特異の地盤を築きつゝある。
最近小型車生産制限より可成の打撃は蒙つたが基礎は益
々鞏固となつてきた。

高速機關工業株式會社

本社 品川區東品川五ノ五〇
電話 高輪 三一五一番
創立 昭和十年四月

資本金 壹百萬圓

役員 専務取締役 齋藤實理、常務取締役 福井孝一、取締
役 太田祐雄、同 新精一、同 藤野至人、同 野口豊、
監査役 尾崎獎、同 坂田實穂

沿革 現取締役太田祐雄氏は明治四十五年太田自動車
工場を設立して自動車研究に着手し爾來幾多の困難を克
服して優秀なる國產小型自動車の完成を見るに至り、こ
れが大量生産を圖り自動車工業確立に寄與すべく、昭和
十年三井物産株式會社の傍系事業として當社を設立、近
代的裝備成れる品川工場で本格的生産を開始して今日に
及べり。

營業種目 オオタ號小型自動車製造
販路 内地、朝鮮、臺灣、滿洲國
従業員 五〇〇名

取引銀行 三井銀行

特色 當社は三井財閥の自動車工業進出の足場と見ら
れてゐたが、最近の材料入手難と資金調整法による重壓
は遂に事業の一部轉換を餘儀なくするに立ち至つた。當

社第六期決算報告は左の如く記載して當社の現状をか
く述べてゐる。

「車輛の製産に就いては引續き工場施設其他幾多の改
善を加へ一路多量生産の軌道に躍進したる結果豫定の如
く今期早々月産百臺の實現を見たるも、時局の進展に依
る經濟界の變動に伴ひ諸材料の昂騰と其入手難工員の移
動等依然として滲らざるものあり、遽かに營業成績の好
轉を見る能はず遺憾ながら今期も損失に終りたるが、來
期より製品値上の實行に依る収益の増加と月産豫定百五
十臺の實現に因るコストの抵下となり逐次成績の向上を
挙げ得る見込なり」

然るに時局の重壓は益々加つて減産より製産中止にと
發展するに及んで小型車界の花形會社として登場した同
社も轉換の餘儀なき事情となつた。

齋藤實理氏は三井物産株式會社に入り玉造船所設計部
長として造船界にありて令名を轟はれ、多にその才腕
を揮つたが、園山芳造氏退任のあとを受けて専務取締役
に就任、未曾有の困難なる時局に當社の經營を主宰して
よりこれが難局の打開に努めつゝあり、現に玉造船所が
獨立して新會社を創立されるや同社取締役役に推され依然
造船部門に於て重きをなしてゐる。氏との好コンビを期
待された福井常務は應召出征中である。

高速自動車販賣株式會社

本社 赤坂區溜池町一三番地
電話 赤坂
創立 昭和十一年
資本金 五拾萬圓
役員 専務取締役 丹羽義次、取締役 中谷保、同 梁瀬長太郎、同 木村兼次郎
沿革 小型自動車オオタ號販賣を目的として安全自動車、愛國自動車、梁瀬自動車、八洲自動車の四社共同出資に依り創立せられたるもので、現に小型自動車販賣界に雄飛しつゝあり。

營業種目 小型自動車オオタ號販賣

工場 品川區東品川五ノ五〇

販路 全國

従業員 二十名

取引銀行 三井、第一赤坂支店

特色 當社は創立日淺いが小型自動車界の活況に乗じて急速な發展を遂げるに至り業績も注目的となつたがオオタ號の減産により需給の不圓滑は當社の活動も勢ひ消極的となり發展途上にあるだけにその打撃も大きくオオタ號の減産により當社も亦縮少の止なきものと見られる。

愛國自動車株式會社

本社 赤坂區溜池町三〇番地
電話 赤坂 一三八九番
創立 昭和十年三月
資本金 拾萬圓
役員 取締役社長 丹羽義次
沿革 當社は昭和十年創立せられ、米國グラハムベーチ自動車會社總代理店となりグラハムベーチ自動車の販賣に従事して今日に及ぶ。

營業種目 グラハムベーチ輸入販賣

販路 日本全土

従業員 二十名

取引銀行 第一銀行本店

特色 當社は輸入車販賣界の全面的壓迫下に立つて巍然たり、輸入車界にも時艱克服の曙光が投ぜられつゝあるので今後に期待大、高速自動車販賣と會社資本的關係を有してゐる。

丹羽 義次 愛國自動車株式會社社長

明治八年愛知縣丹羽郡大口村に生る。三十二年東京高商を卒業するや三井物産に入り才幹を認められて重用せられ樞要の地位を占むるに至る、更に東京モスリン常務として敏腕を揮ふこと六年、昭和十年愛國自動車會社を創立社長に就任せる他、數社の重役を兼ねてゐる。

金剛自動車商會

所在 城東區南砂町四ノ五六〇
電話 本所 三一五八 三六二九番
創立 昭和八年七月
代表者 屋代勝

沿革 昭和八年七月合資會社東海モーターズ商會の事業を繼承して金剛自動車商會を創立、ダイヤモンドテイ日本及滿洲總代理店として本邦運輸自動車界に確固たる地盤を築き大阪、京都に支店、出張所を開設、品川に綜合的自動車修繕工場を建設して本邦一流販賣會社の列に加はる。

支那事變を契機とする斯業の急激なる變化に對處して國産金剛號の製作を企圖して第一號車を今秋發表の見込である。

營業種目 ダイヤモンド・テイ一日滿總代理店、並附屬品、部分品製作販賣

支店 大阪市北區堂島(堂ビル六階)

出張所 京都市河原町通り五條下ル

工場 品川區北品川一ノ二二〇

販路 内地、朝鮮、臺灣、滿洲國

従業員 百五十名

取引銀行 第百、安田

特色 當商會がダイヤモンドTを擁して近年の活躍は目ざましく業界驚異的であつた。即ち當商會の成功は青バスのダイヤモンドT採用にあつた、青バスが全車輛ダイヤモンドT單一化計畫は着々進められて年々二百臺以上の新車が青バスに納入せられ、本邦代表的バス會社のダイヤモンドT化は運輸自動車界にセンセーションを捲き起してこぞつてダイヤモンドTの採用になつた。此處に當商會の異常な躍進の原因がある、然しそれまでに拂つた屋代氏の努力も並々ならぬものがあり、明敏果斷な氏はダイヤモンドTの微細にわたる科學的研究をなし本邦運輸事業に最もよき條件を具備してゐる車として確信を持つてこれが積極的販賣を開始した、まさに乾坤一擲の氣持を以てあらゆるものをこの一點に注いで販賣にあたり今日の成功をかち得た、今や國産自動車工業の國策に沿ふの秋にあたりダイヤモンドT國産化を多大の犠牲を拂つて敢行しつゝあり近くこれが發表を見る豫定である、屋代氏の雄圖がこゝに完成を見ることゝなつた。氏は先年母校早稲田大學研究所に五十萬圓を寄附して鑄物工業の研究に資するなど徳望家として聞へ高き人である。金剛號を擁して颯爽と自工界へ登場する氏の得意や思ふべし。

エンバイヤ自動車商會

所在 日本橋區吳服橋二ノ一
電話 日本橋 一六一一—四番
創立 大正元年
代表者 店主 柳田諒三、販賣部長 吉岡照義

沿革 當商會は柳田諒三氏の個人經營として大正元年創立せられ、當時は自動車業界は誠に微々たる存在にして多大の犠牲を拂ひ經營に腐心努力し一意業界の進展にあたり、フォード特約販賣店として本邦販賣界の王座に君臨すること久しく、其の間芝浦サービスイ場場の完成、リンコン部開設等あり業務を益々擴張して今日に至る。營業種目 フォード、フォードソントラクター特約販賣、リンコンゼファ關東一手販賣、及び純正部分品、附屬品、タイヤ販賣

芝浦サービスイ場 芝區芝浦二丁目
販 路 關東(フォード東京一圓)
従業員 社員一三〇名 従業員 八〇名
取引銀行 第一、日本書夜

特色 當商會は創立既に三十年を迎へんとして居り、柳田諒三氏が心膽を砕いて經營に苦心すること一切ならず、同商會の歴史は本邦自動車販賣史と云つても過言で

ない程その名は高くフォードのエンバイヤかエンバイヤのフォードかと稱せられ、自動車發達に寄與する處からざるものがある。經營陣は柳田氏を中心に販賣に名部長として販賣界の俊英吉岡照義氏あり、用品部は敏腕手塚三男氏が擔當して第一線に活躍し、紫田芝浦工場長亦重厚よく百餘の工員を指導してサービスイの萬全を期して居り、陣營は多士濟々エンバイヤの販賣界に於ける不動の地盤は揺がず、常に帝都第一の販賣高をあげて一千臺を突破する快記録を出すこと一切ならず、事變下新車饑饉に販賣界未曾有の不況をよそに民需に特殊需要に活潑な活動を展開しつゝあり、フォード純正部分品の在庫値上りに依る利益のみでも莫大なものと見られてゐる。

唯今日までフォードに依存することによつて大をなした同商會は國產車急擡頭はやがてフォードにも凋落の秋の到る日あるを思はせるものあり、その將來性を卜するとは至難なるもフォードの名を守る最後のものとして残る同商會は依然販賣本年度のトップを切るものと見られて居る。店主をはじめ社員従業員が一致結束して何物をも、如何なる難關をも突破せしめば止まずのエンバイヤ精神がその眞價を發揮するのはこれからである。フォードダイラーのピックスリーのトップに立つ當商會の一舉一動は多大の關心を昂めつゝある。

柳田 諒三

エンバイヤ自動車商會主
自宅 本郷區向ヶ岡彌生町二

氏は明治十六年一月十日長野縣白田哲彌次男として生れ柳田茂十郎の養子となる。大正十四年分家す、立教中學校、第四高等學校を経て専修大學を卒業、一年志願兵となり歩兵少尉に任ぜらる。大正元年エンバイヤ自動車商會を創立して自動車並に附屬品、電氣の販賣修理業をはじめ今日隆昌の基礎を固む、創立當初に於ける氏の經營は並々ならぬ努力が拂はれ建設者として茨の路を辿つたことも一切ならず、大正十二年關東大震災にて店舗車輛其他一切のものを灰燼に皈せるも雄々しく起ちあがり遂に帝都本邦販賣界の王座を獲得するに至つた、氏生來剛毅果敢、事に臨んでは飽迄も積極政策をとり、社内には毅然たるなかに温情をこめて社員を訓陶し店主を慈父の如く敬慕す、氏の崇高な人格のしからしむる處である。氏の援助により、業界に活躍する者多く業界の大長老として現に東京自動車商組合長、東京タクシー商業組合理事長として斯界の發展に献身的努力を拂ひしてその指導に任じてゐる。先年東京市會議員に當選せることあり、亦ゴルフの名手として聞え高し。

三和自動車株式會社

本社 赤坂區溜池町七番地
電話 二二四 一六二九、一七六五番
創立 昭和六年七月三日
資本金 八萬圓

沿革 昭和六年合資會社三和商會の事業を全部繼承し三和自動車株式會社を創立、パツカード車輸入販賣の業務を開始して本邦自動車販賣界の第一線に活躍し現在に及ぶ。

營業種目 米國パツカード自動車會社日滿總代理店
支店 大阪市北區堂島中一ノ五三
販路 内地、朝鮮、臺灣、滿洲
従業員 二十名

取引銀行 三菱丸の内支店、第百丸の内支店
特色 當社は傳統的な地盤を擁して三和のパツカードかパツカードの三和かと云はれて上流層に不拔の勢力を有してゐたが、近時輸入管理により相當の打撃はまぬかれず、同社の今後は高級車界の動向を決定するものとして注目されてゐる。經營の第一線に立つ藤原氏は人と爲り剛氣活潑よく部下を指導し盤石の重きをなす、氏は米國ウエスレアン大學を卒業の異色ある經歷の持主である。

安全自動車株式會社

本社 赤坂區傳馬町三丁目四番地
電話 赤坂(代表)一一四一——一一四六番
創立 大正七年
資本金 百萬元(全額拂込済)
役員 取締役社長 中谷保、取締役 佐藤虎吉、同 佐藤喜
美治、同 玉田彦三郎、監査役 吉岡正修、同 中曾根治
郎、宣傳部長 河田務、工場長 原藤、横濱主任 佐藤清
一、大阪主任 飯田幸二

沿革 當社は大正七年自動車並に附屬品、部分品を輸入販賣するを目的として設立せらる。爾來業務を擴張して事業の進展を圖りダツジ部を創設これが東日本總代理店となり、次いで代々木工場の建設、共立製作所の創立により自動車會社の體制を整備して自動車部分品製作並にこれが輸出にあたり、國産日光號を發表して自工業界進出第一歩を踏み出すに至る。

營業種目 自動車部分品、自動車用品雜貨輸出、自動車機械輸入、工作機械、アレイト給油器、空氣壓搾機製造販賣、ガソリン、鍍油類、電氣機械販賣

支店、工場 横濱支店 中區山下町二五八
大阪支店 北區堂島中通二丁目
金澤、千葉、名古屋、金澤、函館、
代々木工場 澁谷區代々木山谷一九一

芝浦ボデー工場 芝區西芝浦四ノ四
品川販賣所 品川區北品川三ノ一九四
淀橋販賣所 淀橋區角筈一ノ七三五
全國、滿洲、支那、印度、シヤム、南洋
仕入 全國、米國、獨逸
從業員 社員 五〇〇名、工員 一五〇名
取引銀行 第一銀行

特色 當社は本邦一流の自動車販賣會社としてダツジ東日本及朝鮮總販賣權を有して居り、亦本邦最大の自動車用品卸商たる他各種商品を扱ひ多角的經營を以て自動車業界全部にわたり活躍、今次事變にも些さかの微動だもせず内外に絶大の信用を博す、傍系會社として共立製作所、富士工業株式會社、高速自動車販賣株式會社、山王ホテル、富士觀光株式會社、ムツミタクシー、其他多數あり。

ダツジ販賣に於て既に決定的地位を占めた同社は外國車の輸入禁止によつて著しくダツジの輸入抑壓を受けるに至り、中谷社長多年の野望なりし國産自動車工業へ進出する絶好チャンスなりとして大英斷を以て同社を主體とする日光號製造に乗り出すに至る。既に製造を開始して絶讃を博しつゝあり、共立製作所の擴充と共に本格化するものと見られる。今春軍部より百萬圓のパーツ發注ありこれを完納して絶大な信用を得。

中谷 保

赤坂區傳馬町三ノ四
自宅 安全自動車株式會社社長

明治十八年十月石川縣江沼郡鹽津村に元代議士中谷宇平氏の弟として生る。郷里金澤中學校を卒業するや、明治三十七年雄心を抱きて渡米、機械及自動車學を修め、今日の大をなす素地を培ひ、貿易商伴商店に入り縦横に才腕を揮ひ支配人、副社長に累進、同店を在米日本人商店中一流の大商店に築きあげ、日本人會議長、國語學校維持會長として在留邦人に令名噴々たるものあり、青年實業家として重きをなし、十有五年の長歲月にわたり日米親善に盡せる功亦尠からず、大正七年飯朝するや自動車界の將來あるを洞察して安全自動車株式會社を創立、自動車輸入販賣に身を投じて既に二十餘年、其間幾多の辛酸を嘗め不屈不撓これを克服、性豪毅果斷時流の動きに敏感、よく本邦自動車販賣界に盤石の重きをなす、その事業も多方面にわたり小型コンツェルとして近時嶄然たる頭角を事業界に現す、國産日光號の製作に乗り出して國策線に躍り安全の名を更に高からしむ、現に安全自動車社長たるの他共立製作所、會津合同自動車會社、山王ホテル、宇都宮市街自動車會社、富士觀光自動車會社の各社取締役社長、自動車投資會社、八洲自動車會社、相武乗合自動車會社、上山交通自動車會社の取締役として縦横に敏腕を揮ひつゝある。

玉田彦三郎

安全自動車株式會社取締役
自宅 世田ヶ谷區下北澤九八四番地

明治二十一年一月石川縣江沼郡勸橋村本字中島に生る。氏は大正元年渡米、オレゴン州に於て雜貨、貿易等の經營をなしてゐる伴商店に勤務精勵、偶々同商店のマネージャーとして采配を振つてゐた現社長中谷保氏が令兄萬六氏(當時安全自動車專務取締役)の關係から自動車用品類の取次に當つてゐたので茲に自動車界に轉業を思ひ立つに至り中谷氏より一年遅れて同店を辭し大正九年歸朝せり、歸朝するや直ちに迎へられて安全自動車會社用品部長の位置に就き、爾來常に中谷氏の下にあつて氏を輔け倦むなき活動を續けつゝあり。同社用品部近來の活動は實に目醒ましく輸入車販賣に依存する販賣業者が時局の重壓に悩みつゝあるとき多角的經營に移り國産部分品の製作販賣に進出せる慧眼は氏の建築に基くものと見られ、今日では安全自動車用品部は全國第一の用品部品の商内ありて販賣界をリードしつゝあり、事變勃發するや特殊需要百萬圓の大量注文に接して納期に完納して一躍安全の名を高からしむるに功勞あり、氏は亦東京自動車商組合副組合長、東京タイヤ販賣業組合常任理事の要職にあり公平なる意見を以て業界の向上發展に貢獻しつゝあり。

佐藤 虎吉

安全自動車株式會社取締役
自宅 杉並區大宮前六ノ三九番地(荻窪區)

氏は新潟縣の人。佐藤廣吉氏の三男にして明治二十一年七月十五日を以て生る。夙に新潟縣立高田中學校を卒業、渡米してセントラビヂネスカレッジに學び同校を卒業するやコロラド州デンバー市伴商店に勤務して米國の事業界を實地に就て學ぶ、生來明晰なる頭腦に豊富なる新知識を得て歸朝。大正五年安全自動車株式會社に入り取締役に就任今日に至る。尙現に山王ホテル株式會社取締役に。八洲自動車。京水モーター。碓氷乗合自動車、武藏野乗合、房總乗合等各株式會社の監査役として業界に重きをなしてゐることは人のよく知るところ、中谷氏が積極的に事業の擴張をはかるとき氏は黙々としてその事業の育成に努め内の守りを固くして中谷氏のよき女房役として飽迄も地味な活動をつゞけてゐる。今日安全自動車をはじめ中谷氏の關係事業は隆々たる發展を示してゐるが、その陰にある氏の功勞も没すべからざるものあり、社内においても徳望高くよく氏の統制に服してゐるために安全は中谷社長を中心に家族的な會社として上下の對立もなくよく業務に勵んでゐるのも、その統率宜しきを得てゐるからで氏の存在は益々大きくなり更に一層の重要性を加へつゝある。

佐藤喜美治

安全自動車株式會社取締役
自宅 澁谷區原宿一ノ八五

氏は岡山縣佐藤勘吉の長男、明治廿年十一月二十四日出生。明治四十年岡山縣立笠岡商業學校を卒業後渡米、オレゴン州伴商店に入る。中谷氏の下にあつて業務に精勵して認められるに至り、大正十一年返朝するや直ちに安全自動車株式會社に入社して自動車用品部より自動車部の新設と共に主任として自動車販賣に身を投じ、自動車の本場なる米國仕込みの洗練された販賣外交によつて早くも業界の鬼才として注目されるに至つた、爾來ダツチの佐藤の勇名は斯界に鳴り安全自動車が今日の大をなすに至りたるは中谷氏の非凡なる經營的才腕に待つところ大なるものがあるが、ダツチの販賣高の増大に伴つて飛躍的發展せるを考へ合せて見るとき佐藤氏の存在の如何に大なるかが知られやう。氏は現に取締役ダツチ部長としてセフティラインの強化に腐心してゐるが、偶々事變の勃發により輸入車販賣界は未曾有の輸入制限に殆んど新車の輸入は不可能と見られるに至り、徒らに時局旋風の吹き荒さぶにまかせてゐるとき果斷の名將中谷氏を援けて日光號製造の大事業を企圖着々これが軌道に乗つて將來國產車販賣界への大進出の計畫が進められてゐる。趣味として野球を愛好す。

河田 務

安全自動車株式會社宣傳部長

氏は高松市に明治十九年十月三十一日を以て生る。縣立丸龜中學を卒業するや同三十九年七月單身米國に渡る同地邦人宅にありて語學を修むる事二年、後四年農業に従事して心身を鍛鍊異境の風俗慣習になれるに及んで貿易商伴商店に入社、同店に於て中谷社長と結ばれるに至る、デンバー市支店詰を経てシャイエン市支店支配人となり同支店の經營を一新するに及んでその才腕を認められ、伴商店東京支店輸出部主任に拔擢されて大正八年返朝、事業の擴張にあたり翌年大阪支店長に榮轉縦横に才腕を揮はんとするとき東京伴商店が資本金百萬圓を以て設立せられるや懇望されて支配人に聘せられ貿易界に華々しく登場せるも大震災により不幸解散となり後獨立せるも感ずるところあり廢業、大正十四年二月安全自動車株式會社に入社して礦油部の創設をはじめタイヤ部、輸入部、輸出部等を歴任して現に宣傳部長として該博なる智識を以て自動車宣傳に新機軸を出してダツジ躍進に、用品界制覇の素因をなせり。氏剛直を以て鳴り清廉の士として社内信望を集めつゝある。又書をよくし學堂と號して能筆を以て知られ、透徹した理論家として斯界の論將たり。

東京ヂーゼル自動車株式會社

所 在 京橋區銀座西六丁目
電 話 銀座十二
創 立 昭和十二年
資本金 拾萬圓
代表者 專務取締役 岡山福四郎

沿革 弊社は大洋商會と日立製作所の共同出資のもとに日立ヂーゼル自動車販賣の目的を以て創立せられたるもので、ヂーゼル自動車専門販賣會社として最初のものである。

營業種目 日立ヂーゼル自動車日本總代理店
工場 日立製作所龜有ヂーゼル工場
取引銀行 住友銀行

特色 日立製作所ではヂーゼル自動車の市販開始にあたりこれが販賣機構を如何なる方法で持つか注目されてゐたのであるが、自動車販賣界に一大王國を建設してゐる大洋系資本を結んで當社を設立したものである。太平洋にしてもトヨタ、京三號と國產車の經驗も積み、將來の運輸界を支配するためにはヂーゼル自動車販賣に進出せねばならぬとの見透から兩社合體のヂーゼル自動車販賣の専門會社が出来た、日立ヂーゼルの市販の本格的と共に期待されてゐる。

株式會社三工商會

所在 赤坂區溜池町十一
電話 赤坂 二二七四 二三五六番
創立 大正七年三月
資本金 貳拾萬圓
代表者 專務取締役 仲田定之助

沿革 大正六年七月京橋區尾張町新町に三工商會を設立して鐵合金販賣に従事、同七年株式會社に改組して店舗を京橋區宗十郎町に移轉、同十五年高田商會解散に依り米國フェデラル會社の總販賣權を委讓自動車販賣の業務を開始するに至り昭和三年有樂町に移轉フェデラル販賣に専念して業績大いにあがり昭和十一年には赤坂區溜池現所在地に移轉して躍進の一途を辿り重量運輸界に確固たる地盤を築きつゝあり。

營業種目 フェデラル貨物及乗合自動車及び部分品輸入販賣

支店 大阪市此花區上福島中二ノ七七
工場 芝區芝浦二丁目
販路 日本全土
従業員 二十五名
取引銀行 第百泉橋支店

特色 當商會は本邦重量運輸界に獨自の地盤を有して居り、フェデラル自動車の堅牢無比、強大馬力を有す性能もさることながら仲田專務の才腕と社員協力のよるところからなるものがある。特に地方市場に於けるフェデラルの人氣は頗る高く他車を壓倒してゐるが、近時戰時體制下の經濟界の急變革は外國車の輸入に禁止的制限を加へられるに至り當商會も新車輸入難より經營には一段の苦心を要することとなり、目下銳意局面の打開に努めてゐる。

仲田定之助

三工商會專務取締役
自宅 品川區大井瀧王子町四四〇(大森四〇)

氏は明治廿一年七月日本橋區元大工町に生る。錦城中學卒業後獨學にて語學を修め明治四十一年高田商會鐵山部に勤務、大正六年同社を退社して三工商會を創立専務に就任して自由に商才を揮ひ業績大いにあがる。大正十一年美術研究のため獨逸に遊學滯獨二ヶ年にして同十三年春阪朝、爾來自動車販賣界に投じて獨自の分野を開拓し三工商會をして本邦販賣界に特異の存在を知らしむるに至る。亦氏は美術専門批評家として一家をなしその鋭い批評眼を以て知らる。質朴敦厚の紳士なり。

三菱重工業株式會社

本社 麹町區丸の内二ノ四
電話 丸の内二〇七二 二一三一番
創立 明治二十年
資本金 壹億貳千萬圓
役員 取締役會長 斯波孝四郎、常務取締役 郷古潔、同 伊藤達三、同 元良信太郎、東京機器製作所長 渡部友次郎

沿革 當社の沿革は極めて古く、今を去る約八十年前安政三年徳川幕府が和蘭人を聘し地を長崎に相して海軍修理用工場を創設せるのに初まり、明治以後工場は工部省の所管となり明治十七年經營を三菱社に委ね、同二十年工場設備一切を擧げて三菱社に拂下げられ、同廿六年同社の組織變更と共に三菱合資會社の所管となる。爾來重工業界の進運に伴ひ一大發展を遂げ造船、航空機兩部門を合併して三菱重工業株式會社と改稱して現在に至る。

弊社に所屬する工場は八工場を算し、陸、海、空の各種製品の製作に従事し、其の規模の廣大、設備の充實、技術の優秀なる點に於て世界重工業界の第一流に伍して優るとも劣ざること誇としてゐる。

自動車製造事業に着手せるは昭和七年七月神戸造船所に於て「ふさう」トラック、バスシャシーを完成せるに初まり、東京機器製作所に於て自動車用ディゼル機關を完成して自動車製造事業に進出、昭和十三年玉川機器製作所の工場完備により大量生産機構の整備と相俟つて今後の飛躍期待さる。

營業種目 自動車用ディーゼル機關、各種船艦艇の建造並修理、各種航空機製造並修理、自動車用發動機、航空機用發動機、陸用機械類、車輛類、鐵工製品、其他

工場 長崎造船所、神戸造船所、彦島造船所、長崎兵器製作所、名古屋航空機製作所、東京機器製作所、横濱船渠、長崎製鋼所、玉川機器製作所

販路 鐵道省、臺灣總督府、鐵道總局其他

特色 既に當社はその内容を述べる要なき世界的な重工業會社で時局景氣を満喫して躍進をつゞけてゐる。當社の自動車製造はその規模から云つても未だ造船、航空機等に比して一少部門であるが玉川機器を中心に自動車工業への全面的進出が進められてゐるので三菱の強力なる背景のもとに當社の今後には多大の期待がかけられてゐる。「ふさう」バス、トラックは既に省營に、局營にその眞價を發揮してゐるので第二期飛躍段階に入った自動車事業は注目される。

昭和自動車株式會社

本社 物町區丸ノ内一丁目
電話 丸ノ内 三四四七—九、三四四〇番
創立 昭和三年
費本金 拾萬圓

役員 相談役 本宿家全、小川菊造、専務取締役 配川政雄
取締役 丸定吉、同 大杉榮市、同 平木泰治、監査役 三
島八喜藏、稻原啓三郎

沿革 昭和三年日本自動車株式會社よりデゾット、ホ
ワイト總販賣權を譲渡せられて創立、事業の躍進に伴ひ、
筑波號自動車一手販賣權を獲得して國產車販賣にも進出
逐次聖號販賣、ボデー製作に業務の伸張をはかり現在に
及べり。

營業種目 筑波號自動車、聖號貨物及乗合自動車販賣
米國デゾット乗合自動車會社、米國ホワイト・インデア
ナ貨物及乗用自動車會社、米國フアゴー自動車會社（滿
洲）代理店、ボデー設計製作
工場 城東區南砂町（東京自動車製造株式會社）
販路 筑波號日滿及諸外國總發賣元

取引銀行 三和銀行丸の内支店、第百銀行
特色 當社は日本自動車會社の仔會社であつて内容の
充實せるは定評あり主要營業科目のデゾットの輸入制限

自動車投資株式會社

本社 赤坂區池町三一番地
電話 赤坂 五七二番
創立 昭和四年
費本金 壹百萬圓

役員 取締役社長 堀江吉之助、取締役 藤井武清、同中谷
保、同 小川鐵五郎、同 山田忍三、同 山本三郎、同 相
羽、有田善介、監査役 榊本米一、同 安藤又三郎

沿革 昭和四年業界有志を以て創立せられ自動車販賣
に従事、後フアゴ貨物自動車東日本總代理店となるに
及んで本格的活動を開始するに至る。昭和十三年小型自
動車ライト號代理權を獲得して國產車界に進出し今日に
及ぶ。

營業種目 フアゴ、ライト自動車販賣
販路 東日本
取引銀行 第百銀行

特色 當社は資本的背景として安全中谷氏、白木屋山
田氏等の有力者を控へて居り、堀江社長の敏腕と藤井氏
の才腕と相俟つて東都販賣界の異色ある、存在として運
輸界には確固たる地盤を擁して居る當社はフアゴ販賣
の單一的經營から國產小型車ライト號の二本立となりた
るも時局的重壓を蒙り可成りの打撃はまぬかれ得ないが
資本力と傳統的地盤とは搖かず安泰なるを得て今後の飛
躍期待さる。

筑波號の生産制限とは戰時體制下の今日止むなきことな
がら可成りの壓迫はまぬがれず、慧眼なる配川専務は時
艱克服策として聖號販賣に注力する一方ボデー製作に進
出するに至つた、既に今春より操業を開始してニッサン
ボデーの受註に事業は一段の飛躍性を認められるに至り
輸入車販賣に依存した同社の營業方針は時局に一大廻轉
を示めすこととなり大に注目されてゐる。

配川 政雄 昭和自動車株式會社専務取締役

自宅 中野區中野驛前三（中野五一八六番）

氏は長州の人明治廿七年九月十二日を以て生る。物理
學校、中央に學び大正十二年日本自動車株式會社に入社
業界へのスタートを切り溜池工場、中野工場主任を経て
第二販賣部長の樞要の椅子を占め敏腕を揮ひ業績大いに
あがる、參事に拔擢せられ社命により昭和元年渡米在留
一年詳さに自動車界を視察見學して昭和三年昭和自
動車株式會社設立に參劃して同社代表取締役に就任、新
進實業家として自由にその才腕を揮つて同社の販賣界に
於ける基礎を確立す。

氏は業界隨一の理論家として定評あり、その博學達識
は自動車技術協會のリーダとして國產自動車工業確立に
大きな役割を果しつゝあり、理論と實踐を兼ね備へてた
る開將である。

藤井 武清

自動車投資株式會社取締役
自宅 大森區大森二ノ一五五五

明治十九年山口縣柳井津に出生。郷里の中學校を卒業
するや直ちに上京、實業界に投ずべく研鑽を積み青年時
代に他日雄飛する素地を築いて大正五年少壯事業家とし
てのスタートを切り下谷區御徒町に貸自動車業を開業、
翌六年には常盤自動車商會を買収して新古自動車賣買業
に進出して今日自動車販賣に専念する第一歩を此處に踏
み出した。氏不羈奔放の性格に積極的方針をとり神田美
土代町に辰巳自動車株式會社を設立してこれを主宰する
などその端的の現れである。十年麹町區元園町に藤井商
店を起して貸自動車及び賣買業を営み業績とみに好調な
るも之を他に譲渡してやまとタクシー株式會社を創立し
て専務取締役に就任、大いに敏腕を揮つたが之を辭して
スター自動車販賣權を獲得して販賣に専念にするに及び
スターの躍進凄まじきものありたるもこれをやめて、自
動車投資に入り販賣代表者として辣腕を揮ひ東都販賣界
に異色ある。存在を誇示しつゝある。

氏今や齡五十を過ぐると雖も益々身體壯健、豪放、磊
落な性格は枯淡の風格をなし名利に淡々として、時に山
師的事業に手を出して失敗するなどその反面を出したも
のである。襟度宏量よく人を容れ、販賣界の長老として
後進の養成に努めつゝある徳の人である。

日立製作所

本社 麴町區二ノ二〇
電話 九ノ内 二五九一—八番
創立 大正九年二月
資本金 壹億壹千七百九拾萬圓(近く倍額増資)
役員 取締役會長 鮎川義介、取締役社長 小平浪平、専務取締役 高島直三郎、常務取締役 馬場兼光、常務取締役 秋田政一、取締役 六角三郎、同 山下興家、同 下河邊建二、同 森島貞一、同 横田千秋、同 大庭滿平、同 池田高次、同 堀岡利一

沿革 當社は大正九年久原鑛業株式會社機械工場を分離獨立して創立せられたるものにして爾來我國重工業界の躍進に伴ひ當社も飛躍發展を遂げ特許權二千數百種を數へその製品も各部門に及び製品の優秀經營の積極性を以て今日の隆昌を見るに至れり、その間逐次資本の増資を見て昭和十二年五月に四千五百萬圓の増資を行ひ同時國産工業株式會社を合併して二千七百萬圓の増資により本邦最大の資本を誇る本邦第一の重工業會社として内外より認められるに至る。

當社は自動車部分品、電製品製作に古い歴史を有し、ダイゼル自動車製造への進出は既に昭和十年に始まり、同十二年には東京ディーゼル株式會社を創立して販賣機構をも整備せられたり、尙日産自動車株式會社、東京自動車工業株式會社の本邦一を誇る兩社は當社の仔會社で自

動車工業界の一大推進力である。

營業種目 發電機、電動機、電氣用諸機械、ダイゼル自動車、電線、電氣機關車、蒸氣機關車、電話機、可鍛鑄鐵、特殊鋼工場、日立、笠戸、龜戸、戸畑、若松、大阪、東京、鳥根、山口、神奈川、尼崎
販路 日本全土、滿洲其他海外各地

特色 當社は近く再額増資が決定されてゐるから今後の飛躍は一段と期待される筋合にある。自動車部門のみに見ても製作は繁忙を極め異常な好成绩で龜有ダイゼル自動車工場も本格的活動をつゞけて居り特殊需要を中心に一部民需にも振向けられてゐる。自動車部分品の東京工場、自動車用可鍛鑄鐵、電製品の龜戸工場、戸塚工場、の自動車用電機部分品等何れも日産、東京自工、トヨタ等からの大量受註して居りこれが製作に追はれてゐるやうな状態である。

當社ダイゼル自動車に六百萬圓の資金を投じて今後の計畫を進めんとして居りこれが本格化すると共に日産自動車、東京自工も大いに發展するから自動車工業の實勢力は獨り當社に集中せられるものと見られ多大の期待をかけられてゐる。

自動車部分品 電製品等もその製品の優秀なところから定評あり、需要に應じて生産力の擴充をはかるものと見られる。

理研自動車改造株式會社

本社 麴町區有樂町二ノ一
電話 銀座 七六一—九番
創立 昭和十二年四月
資本金 壹百五十拾萬圓
役員 取締役社長 大河内正敏、専務取締役 荒木重義、取締役 中川正左、同 後藤國彦、同 林邊賢一郎、同 矢部又吉、同 星野一、監査役 大久保八朗、同 原賢吉、同 牛島鐵司

沿革 當社は理研コンツェルンの一翼として昭和十二年創立せられ大河内博士の科學主義工業を實踐に移す一として再生自動車の大量生産設備を完了して事業に着手後代用燃料車として理研型木炭瓦斯發生爐製作をも併せて行ひ、生産力擴充のため芝浦工場の建設に着手して現在に及べり。

營業種目 自動車再生工業、木炭瓦斯發生爐製作販賣
王子工場 王子區神谷町
芝浦工場 芝區高濱町
販路 日本全土
従業員 七十名
決算期 四月 十一月
取引銀行 十五、三菱、安田

特色 當社は創立後未だに第二期を迎へたるのみであるが早くも配當を開始せり、即ち第二期營業成績を見る

に極めて順調で純益二萬一百五圓を計上するに至り配當六分を行つた。

當社は従來は廢車となつてゐたやうな中古自動車を再生するものである。エンヂン等の主要部分を再生することによつて自動車の壽命を二倍以上長くすることが出来る自動車經濟のみならず國家經濟の上から輸入車をこの種の再生自動車によつて減少せしむることは國幣の流出を防止することになるので近時新車輸入禁止により自動車饑饉の折柄これが需要も次第に増加するものと見られてゐるから一段と活況が期待される。而して理研ピストンリング株式會社が完成せる理研型木炭瓦斯發生爐の大量生産をなすやうになるとこの方面の利益も相當あるものと見られてゐるので今後の飛躍性が大いに認められてゐる理研コンツェルンでは既に自動車關係事業に積極的に進出しつゝあり、理研鍛造理研ピストン城南スプリング、理研鋼材等あり將來は當社を主體とする総合的自動車工業へ進出する足場となるものと見られてゐる。今後木炭瓦斯發生爐増産によつて収益力が増加され、現在工事中の芝浦工場も來期よりは本格的に操業を開始の豫定であるから資金充當のため第二回拂込徴收を行つても配當には何等の不安なく理研コンツェルンの中新銳會社として注目されてゐる。

ジヤパンモーター株式会社

本社 横濱市中區櫻木町七ノ四一
電話 本局 五三七 四七五八番
創立 昭和四年
代表者 取締役社長 長谷川敬二、販賣部長 南鐵次

沿革 昭和四年長谷川自動車商會と横濱モーター商會と合併してジヤパンモーター株式會社を創立、横濱市唯一のフォード特約店としてフォード自動車販賣に従事して今日に至る。

營業種目 フォード自動車、フォードソントラクター、リンコン自動車特約販賣

販賣路 横濱、神奈川縣一圓

従業員 二十五名

取引銀行 正金、第百

特色 當社は横濱市に唯一のフォードディーラーとして堂々たる店舗をかまへて横濱自動車販賣界に斷然たる頭角を現はして獨り好成績をあげてゐる。輸入制限と特殊需要から配給に不安を生じつゝあるも、地方特約店としては最も恵まれた地位にあり長谷川社長を主軸とする販賣陣は粒揃ひでこの時局と闘つてゐるので當社の基礎は微動だもしない。

東洋自動車株式會社

所 在 赤坂區田町七丁目二番地
電話 本局 四一六五番
創立 昭和十二年
代表者 取締役 關 泰三

沿革 當社は日本自動車株式會社の傍系事業として創立、自動車販賣に従事してディーラーの新鋭として強力な背景のもとに躍進、木炭自動車界の飛躍的發展に對處して三浦式木炭瓦斯發生爐發賣元として木炭自動車販賣に乗り出し今日の隆昌を見るに至る。

營業種目 三浦式木炭瓦斯發生爐發賣元、聖貨物、乗合自動車販賣、ハドスン、テラブレイン販賣

販賣路 東京、地方

従業員 二十名

取引銀行 三和銀行銀座支店

特色 當社は日本自動車株式會社販賣部の精銳を以て創立せられ、自動車販賣界の第一線の闘士を揃へて販賣界に華々しく登場するに至つた、現在では三浦式木炭車の販賣に力を注いで業績は漸次好調に移りつゝある。既に自動車販賣界は輸入車時代より國産車時代に移行してゐるとき當社が三浦式木炭車と聖號を擁して販賣界に颯爽と登場古豪強豪に相伍して堂々の布陣は販賣界の偉觀である。

東洋モーターサイクル商會

所 在 四谷區龜町十三丁目
電話 四谷 三九一四番
創立 大正十一年六月
代表者 佐藤積善

沿革 大正十一年六月中古小型自動車販賣を開業、漸次事業を擴張して陸王、日曹號特約販賣店となり今日に及べり。

營業種目 リッピン號、陸王號特約店、其他中古小型車販賣

支店 豐島區池袋、荏原區荏原町

販賣路 市内、内地及臺灣、朝鮮

従業員 九名

取引銀行 三和銀行四谷支店

特色 當商會は小型自動車中古車販賣店として定評あり、積極的販賣策はよく各方面に廣汎に宣傳せられ、遠く朝鮮、臺灣にまで販賣擴張しつゝあり。

佐藤 積善
明治三十一年十月六日山梨縣東山梨郡初鹿野村に生る十八才の年少にして上京、修業をつんで大正十一年早くも獨立して中古小型自動車販賣を營む、最も經驗を要するこの商賣に天才的な手腕を有する氏は若くして地盤を確立、進取の氣象に富みすべて積極主義をもつて困難を打ち破り新分野を開拓しつゝあり。

石橋サイクル商會

所 在 本所區堅川町二丁目六番地
電話 本所 二〇一一番
創立 大正十二年十月廿五日
代表者 石橋巖

沿革 大正十二年十月小型自動車、自動三輪車買入専門店を開業、爾來小型車の發展に伴ひ各種パーツ販賣に業務を擴張して今日に至る。

營業種目 小型自動車、自動三輪車買入、小型自動車パーツ、小型タイヤ販賣

販賣路 商店、工場

年 商 一萬圓

従業員 四人

特色 當商會は小型自動車、自動三輪車、オートバイ等の買入専門店として東都唯一の店。

石橋 巖

明治三十五年現住所にて出生。大正十二年小型自動車買入専門店を開業、豊富な商才を以て縦横に敏腕を揮ひ小型自動車販賣界に鞏固な地盤を築き上げ今日に至る。人情豊かな性格は同業者と相和し信望を高む。
趣味 寫眞

五十嵐商店

所在 京橋區銀座西五ノ五
電話 銀座 五三五、五三六、四三八一
創立 大正九年
代表者 五十嵐竹次郎

沿革 大正九年五十嵐商店を設立自動車用品販賣を開始す、F・R・Bローラーベアリングの完成を見るに至りベアリング専門工場を建設これが製作にあたり、自動車、機械両方面に大いに進出して今日に至る。

營業種目 F・R・Bローラーベアリング製造販賣、各種ベアリング販賣、A Yスパークプラグ代理店

販路 自動車、機械、一般

従業員 五十五名

取引銀行 第一京橋支店、十五、野村銀座支店

特色 當店は五十嵐氏が日本精工時代より研究の結果完成せるF・R・Bローラーベアリングが近時需要激増するに至り現生産を以てしては到底間に合はず、機械方面への進出は特に目ざましきものがある。

五十嵐氏は北海道の人明治廿四年生る。大正六年上京直ちに日本精工に入り大阪支店長を最後として獨立、剛毅果斷な氏は遂に今日の成功を獲ち得たり。

合資會社猪瀬商店

所在 深川區佐賀町一ノ二
電話 本所 一四四四番、七六六九番
創立 大正十三年一月
代表者 猪瀬喜代治

沿革 大正十三年猪瀬商店を神田に創立鑛油販賣を開始、鑛油専門店より自動車用品部分品販賣にと業務の擴張をなす、爾來店舗を永代橋々畔に移し自店工場を設立して製作方面にも進出して今日の盛大を見るに至る。

營業種目 自動車用品、タイヤ、鑛油、フエンダー製作販賣

工場 足立區千住河原町一ノ二八

販路 東京、地方(特に近縣)

従業員 十五名

取引銀行 安田深川支店、日本晝夜深川支店

特色 猪瀬喜代治氏は明治三十年七月會津若松市に生る。同市立商業學校を卒業して上京、ホーカー化粧液本舗に入社、大正十三年獨立、苦闘十餘年獨特の手腕を發揮して着々地歩を固め都下一流用品商として認めらる。東京自動車商組合評議員たること數回に及び九日會員として少壯業界人の第一線的人物として活躍す、用品界の急變革に對處して自社工場を整備して商品の充實をはかるなど當店の業態は最近好調を持続してゐる。

合資會社市金製作所

所在 芝區西久保巴町六〇
電話 芝 一〇一〇、一〇一一番
創立 大正四年
代表者 代表社員 市川金次郎

沿革 大正四年市金製作所を創立して、自動車附屬品(光物)専門製作に従事、自動車用品界の向上發展に伴ひ事業は逐次擴張せられ自動車各種用品の製造に従事し都下用品製作界に嶄然頭角を現すに至る。昭和十一年品川工場の完成により大規模生産設備を以て大量生産を開始す、昭和十三年組織を法人に改め合資會社市金製作所となり現在に至る。

當所製テールランプは昭和十一年警視廳公認となり標準型として好評を博しつゝあり。

營業種目 各種自動車用品、自動三輪車用品、航空機電機用品、プレス抜搾加工

工場 品川區東品川四ノ三四

販路 各自動車用品販賣店、各自動車製造會社、小型自動車製造會社、航空機製造會社

従業員 百二十名

取引銀行 第百芝支店

市川金次郎

市金製作所代表社員
自宅 芝區西久保巴町六〇

群馬縣の人明治廿九年七月三日を以て生る。年齒十二才にして單身上京、京橋西野製作所に入り陰ひなたなく實直に仕事に精勵して主人の信用を一身に集めて大いに引立られ、同所に勤務すること十三年の永きにわたり一意御家大事に忠勤をはげみ、顧客よりも將來ある青年として嚆望せられ、氏の獨立を拍車して大正四年遂に市金製作所を創立するため圓滿辭職して事業を開始、詳さに辛酸をなめ同所の信用、並びに基礎の確固たることは今更事新らしく述ぶるまでもない處、氏は技術家出身なるため取引上の掛引の如きを斷乎として排撃し製品主義で進んでゐる。自動車附屬品製作では東都第一位にありて他の追隨を許さないまでに至る。

現に品川工場は最新式設備を完備せる理想的な工場で「市金」の名は遠く海外市場にまで進出するに至れり。國産自動車工業は恰も潮の如き流れを以て躍進しつゝあり、氏は既に三十年の久しきにわたりその搖籃期より斯業に投ぜる先覺者でその述べるところの意見は一識見を有して誠に妥當なる論旨で斯業開發に示唆に富むものあり、業界の至寶として益々重きを加へつゝある、人格者として百數十名にのぼる工員を統率して日々市金の飛躍、進んでは自工界確立に携まざる精進をつゞけてゐる。

イリス商會ポツシユ部

所 在 赤坂區溜池町一五
電話 六四〇、四六〇番
創立 大正三年七月
代表者 山田潔

沿革 イリス商會ポツシユ部として大正三年創立せられ獨逸ポツシユ製品の本邦總輸入元として我國工業界に嚴然として存在、ポツシユ製品が自動車界に寄與貢獻するところ少なからざるものあり、近時ポツシユ製品はその跡を斷たず益々その輸入量を増加する傾向を示して居る。

營業種目 ポツシユ製品輸入元、オベル、アドラー販賣工場 赤坂區溜池町一五
販路 全國
従業員 二十名
取引銀行 第一赤坂支店

特色 ポツシユ製品が世界的な製品で未だ絶対に他の追隨を許さざる特殊性能を有して居り、戦時體制下の我國工業界は當社製品に待つ處大なるものがある。日獨防共協定の成立兩國の親善友好關係は益々深まつて行くので當社の事業も貿易不振の折柄時局の影響はまぬがれ得ずとしても有望事業たるを失はない、オベル、アドラーの歐洲車はシックなスタイルにオーナの美望の的となつてゐるが此處は相當に時局の重壓をうけてゐる。山田氏は優良な近代的紳士、名スポーツスマンとして誇れ高し

飯島製作所

所 在 世田ヶ谷區駒澤上馬七八〇
電話 世田ヶ谷 六一〇番
創立 大正十三年
代表者 飯島佐登

沿革 大正十三年飯島製作所を創立して自動車部分品製作に従事、スプリング専門製作所として認められるに至る逐次事務の擴張をはかり今日に至る。

營業種目 各種スプリング、フォード、シボレー用飯島式スプリング、サイドブレーキ、自動車用品製作販賣工場 世田ヶ谷區駒澤上馬七八〇
販路 自動車部品用品販賣店、自動車修理業者、其他
従業員 十五名
取引銀行 昭和澁谷支店

特色 當所はスプリング専門製作として定評ありしがスプリング製作が大規模生産に移りつゝあるに鑑み、フォード、シボレー用補助スプリング製作にあたり飯島式として獨特の工夫を以て知らる。

所主飯島佐登氏は徳次氏未亡人にしてこの難事業を繼承して女性の片腕にしてよく經營をつゞけ困難とたゞかつて今日の隆昌を見るに至れり、正に偉とするに足る女丈夫で業界より齊しく賞讃されてゐる處である。

泉自動車工業株式會社

本 社 赤坂區田町六丁目六番地
電話 赤坂 四四四六番
創立 大正十二年
資本金 四拾五萬圓(全額拂込済)
役員 取締役社長 泉藤吉

沿革 大正十二年東京營業所及赤坂田町工場を創立、昭和六年川口工場(鑄造工場及機械工場)を設立、昭和八年横濱支店を設置して、製造、販賣兩部門を大擴張す、昭和十二年自動車鑄造の需要増大せるため大宮工場を新設して積極的進出をなし、昭和十三年四月に株式會社に改組して現在に至る。

營業種目 シリンダー、シリンダーヘッド、シリンダーライナー、ピストン、トランスミッションケース、フライホイール、輕合金、可鍛鑄鐵、鑄鋼。

支店工場 横濱支店 横濱市中區櫻木町七丁目
川口工場(一〇〇〇坪)川口市飯塚町三丁目
四三
大宮工場(六〇〇〇坪)埼玉縣大宮町
東京工場 赤坂區田町六ノ六
販路 陸軍、海軍、逓信、農林、内務各省、東京市、横濱市、各バス會社、東京自工、三菱重工
従業員 二百三十名
取引銀行 三菱銀行本店、十五銀行丸の内支店

泉 藤 吉

泉自動車工業株式會社社長
自宅 埼玉縣大宮町三橋新國道西側
電話 大宮 三二六番

明治二十八年一月二十一日靜岡縣三島町に生る。學業を卒るや直ちに榮潮自動車株式會社修繕部に入り果進して主任たり、大正九年七月同社より二ヶ年間米國自動車工業研究の爲出張を命ぜられ、米國に渡り具さに彼地狀況を視察新知識を得て同十年九月歸朝す。

大正十二年十一月榮潮自動車を圓滿辭職し同時に現在の場所に東京工場を創立、東京市電氣局を初め一流諸會社の指定工場となりシリンダーボーリングクランク、シヤフト研磨とは同社の最も得意とする處にして、今や自動車部分品工場として従業員二百三十名を擁し東都屈指の名を悉にす。昭和七年に川口工場を設立し鑄造部機械部を設け、越へて同八年には横濱市に支店を設置す。川口工場は専ら自動車鑄造品の製造に當り型込機(造型機)大小廿餘機を有し使用電力合計百二十餘馬力に達す。昭和十年再度渡米自動車鑄物工業を視察の上最新機械多數を携へて歸朝。自動車鑄物の精密技術に於て第一人者たり昭和十二年大宮工場を新設して自動車用鑄造品精密鑄造に積極的進出をはかり隆昌を極む。昭和十三年四月には懸案の改組を斷行して泉自動車工業株式會社を設立、取締役社長となりこれが經營の第一線に立つてゐる。

岩田噴付塗装機製作所

所 在 澁谷區向山三七
電話 高輪 五一八五八番
創立 大正十三年
代表者 岩田初太郎

沿革 大正十三年岩田製作所を創立してエヤーコンプレッサーの製作にあたり、これが需要増大せるため生産設備を擴張して岩田噴付塗装機製作所と改稱してエヤーコンプレッサー専門製作に従事、逐次事業も發展して滿洲國代理店として契約成立、同市場進出して現在に至る

營業種目 イワタエヤーコンプレッサー噴霧塗装機製造販賣
販 路 全國、朝鮮、臺灣、滿洲、北支

従業員 三十五名

取引銀行 昭和廣尾支店

特色 エヤーコンプレッサー及噴霧塗装機など當所の如く特殊メーカでなければ容易に製作困難であり、イワタ式には幾多の諸特徴あり、近時サービスの萬全を期するため顧客の汲集策として需要が増加しつゝあるから業績は頗る好調である。

所主岩田氏は明治三十四年澁谷區に生れ温厚な紳士として業界人によく親しまれてゐる徳の人である。

飯島ラヂエーター工業所

所 在 下谷區龍泉寺町三九三
電話 淺草 二三四六番
創立 昭和五年
代表者 飯島庸嘉

沿革 昭和五年現所在地に飯島ラヂエーター工業所を創立して自動車放熱器製作修理に従事して現在に及べり

營業種目 一般自動車放熱器製作修理
販 路 一般運輸業者、修繕工場(市内、地方)

従業員 十名

特色 當所は最近ラヂエーター製作界の繁忙から活況を呈してゐる。所主飯島氏は明治二十三年十月廿五日茨城縣眞壁郡大宮村に生れ、十五歳にして上京、横濱ドック、石川島造船所、内務省土木局千住機械工場等に勤務して技術を練磨して昭和五年獨立自營の決意を以て當所を設立せるものである。氏の經營方針は顧客本位で一個のラヂエーター修理にも入念の技術を以てこれが修繕にあたり、工場設備の改善に努力するなど同業者間での特異の存在となつてゐる。氏は現在東京ラヂエーター工業組合の相談役としてラヂエーター工業の確立に盡力してゐる。最近ラヂエーター製作界も家内の生産から大量生産へ進みつゝあるので當所の如き工場として經營方針に一新の必要がある。

泉谷製作所

所 在 芝區田村町二丁目十五番地ノ二
電話 銀座 四六一七番
創立 昭和八年
代表者 泉谷武雄

沿革 大正十二年七月泉谷八郎氏に依り國産品製作卸商として業務を開始し、昭和三年御大典記念國産博覽會にて自動車部分品優良品として賞品を授與さる。

昭和八年泉谷八郎氏より全事業を繼承して稻場武雄氏の經營に移り今日に及べり。

營業種目 各種自動車用品一般、シボレー、フォード部分品、各種スピード・メーター、諸機械工具及ゴム、電氣用絶縁材料。

販 路 全國、國産自動車會社、用品問屋、其他
取引銀行 安田銀行芝支店

特色 當所はその創立古く傳統の地盤あり、その製品の精巧優秀なるは定評あり、稻場氏の經營的才腕と相俟つて中堅メーカとして第一線にある。

稻場 武雄

富山縣の人、性重厚なるも經營的手腕は早くより認められ、泉谷製作所の事業を繼承して未だ日淺きも中堅として不動の地位を築く蓋しその敏腕に依るもの。

石橋 工場

所 在 本所區龜澤町二ノ四
電話 本所 六九三五番
創立 昭和六年
代表者 石橋勝

沿革 昭和六年部分品修理即ち再生工業の重要性に鑑み石橋式修理法を以て再生修理事業を開始、近く本所區堅川町一ノ一の新工場竣工を待ち移轉の豫定。

營業種目 ホーシング、ドラム、ハブシャフト修理再生

工 場 本所區龜澤町二ノ四
販 路 東京、關西、東北バス、トラツク業者

従業員 五名

取引銀行 日本晝夜銀行

特色 従來等閑視されてゐた自動車部分品はその修理技術の優秀性に依つて完全なる再生品として需要家の欲求を満足し經濟的恩恵を蒙ること甚大なるものがある。當工場は此處に着眼し石橋式修理法を以て各種部分の修理に卓越せる技術を揮ひ最近では一般バス、トラツク業者より引合は殺倒してゐるので堅川新工場の完成により更に積極的進出をなすことになつた、顧客本位に而かも國策に順應する當工場の今後は期待される。尙當所は近く餘力を馳つて軍需工業に進出せんと着々準備を進めつゝあり。

晴山自動車機械工場

所在 芝區白金三光町一五九
電話 高輪 五四六〇番
創立 大正十年
資本金 拾萬圓
代表者 晴山直吉

沿革 大正十年晴山機械工場を創立して自動車部品製作の魁をなし、鋭意自動車部品製作振興に努力し今日の如き活況を呈するに至れり、其の間業務の擴張をはかり自動車部品各種の製作に従事して性能優秀なるを認めらる。裏に自動車工業振興展覽會に於て優良品として表彰さる。

營業種目 車軸、ギヤ、バルブ製作卸
出張所 大阪市此花區上福島南一ノ五五
工場 芝區白金三光町一五九
販路 全國、海外各地
従業員 一〇〇名
取引銀行 第一三田支店

特色 當工場は都下有數のパーツメーカーで時局に乗つて百萬圓程度の株式に改組、大擴張案が進展してゐる當工場のギヤは國産唯一のものでこれが製作には独自の技術を揮ひつゝあり、部品工業界に於てその將來を最も期待される一つである。

晴山 直吉

晴山自動車機械工場主
自宅 芝區白金三光町一五九

氏は岩手縣の人、明治十八年を以て生れ、弱冠にして上京、機械工業界に志して一工員として技術の習得に努め大いに研鑽を積み各機械工場に技術員として勤務、工場經營の實務にたづさはつては多に才腕を揮ひ認めらる。氏はこのときより獨立自營を目ざして先づ自工の先進國米國に渡りミシガン大學に入學、傍ビツイク自動車會社の研究生となり滞米三年着々これが準備を遂げ大正十年に晴山機械工場を創立して青年工場主として未開の自動車部品製作に敢然として乗り出す、爾來事業は順調な發展を遂げ今や都下有數の自動車部品工場として確固不動の地盤を築き上げるに至る。

氏は亦自動車部品品の搖籃期より斯業に投ぜられた先覺者でこれが識見は斯業の指導に任ずる崇高な論旨となり、昭和八年同業同志と相諮つて國産自動車部品製作組合を結成し、同氏の唱導によつて組合共同製作車「聖」號の完成を見たり、聖號完成までに拂ひたる氏の涙ぐましき努力はこの結晶となり、當時の國産車界に劃期的なセンセーションを捲き起してパーツ製作界の實力を示めすと共に國産車製造の先驅的役割を果して貢獻せり。

萬歲貿易商會

所在 日本橋區通一ノ六
電話 日本橋 一五七〇、三九三四、四五二七番
創立 大正十三年三月
資本金 八拾萬圓
代表者 白田壽治、營業主任 山崎三郎、總務主任 倉島誠一郎

沿革 大正十三年四月エンパイヤ自動車商會輸入部を分離して萬歲貿易商會を創業、自動車部品、用品の直輸入に從事、業務の進展に伴つて製造方面にも積極的進出をなし、大阪奉天に支店を設置して今日の發展を見る

營業種目 自動車部品、附屬品及び各種機械工具製作
大阪支店 西區阿波座下通一ノ一〇
奉天支店 奉天加茂町十七
東京工場 蒲田區仲六郷一ノ十七
販路 日本、滿洲、支那、印度、南洋、近東亞細亞、アフリカ、濠洲、歐洲、南アメリカ
従業員 百餘名
取引銀行 第一吳服橋支店

特色 店主白田壽治氏は人格圓滿にして情誼に厚く稀にみる人であるが、現下の時局に鑑みて急變革に對處すべく思ひ切つた革新を斷行して全國第一流用品卸商として海外市場にその眞價を問ふべく計畫されて居り、BTCの名を愈よ高からしめてゐる。

蜂巢工業所

所在 芝區神谷町二六
電話 芝 二六〇七番
創立 昭和八年
代表者 長尾源太郎

沿革 當初自動車用品製作に従事し居りたりしが、昭和八年より現所在にラヂエーター製作修理を始め今日に至る。同十三年中野工場完成す

營業種目 専門ラヂエーター製作修理
工場 中野工場 中野區榮町
本所工場 本所區石原町四ノ二四
販路 内地及鮮滿地方
従業員 二十三名
取引銀行 安田銀行芝支店

特色 當所はラヂエーター製作修理界の繁忙により受註殺倒して鋭意これが消化に努めてゐる状態で、中野工場の新設操業開始により生産能力も倍増するに至つたから今後の積極策は注目されてゐる。

明治三十一年二月神田區小石川町一に生れ、江戸ッ子的な豪快な氣質のなかに緻密な技術家的な肌合はよく従業員を統制して今日の盛況を呈するに至る、令息賢一氏が營業の第一線に立ち父子相協力してゐる。

橋本工業所

所在 京橋區月島通二ノ四
電話 京橋 二〇六〇番
創立 昭和五年
代表者 橋本鐵五郎

沿革 昭和五年現所在に橋本工業所を創立して自動車附屬品製作販賣に従事して事業の發展を圖り自動車部分品製作にも進出して現在に至る。

營業種目 自動車用飛沫除器、乗合用バンパー、トラツク補助スプリング、其他附屬品一式製作販賣

販 路 全國自動車販賣、ボデー工場、乗合會社等
從業員 十一名

取引銀行 第百深川支店

特色 當所は近時地方へ目ざましく進出しつゝあり、就中東北、北海道地方には確固たる地盤を擁して居る。東京もシロー附屬品を獨占的に納入して居り、飛沫除器の製作販賣では東都第一と稱せられ用品製作界の中堅メーカーの代表的なものである。

所主橋本氏は明治三十九年四月一日麻布に生る、長じて大正十五年専門學校卒業と共に室蘭鋼管に入社するも病氣の爲退社、池田氏と提携して富士商會を創立するに至るも後獨立し今日に至る。業界の新人として期待さる

合資會社早房製作所

所在 芝區愛宕町一ノ十五
電話 芝 二三一二番
創立 大正十五年
代表者 早房米作

沿革 大正十五年芝區琴平町四〇番地に早房製作所を獨立開業、自動車部分品製作に着手し後現所在に移轉優秀機械を裝備せる新鋭工場によりシリンドーボーリング其他各方面に進出して今日に及ぶ。

營業種目 自動車、航空機、船舶シリンドーボーリング、シリンドーリースリーブ製作挿入、ピストン及ピストンピン、クランクシャフト研磨、各種部分品製作

販 路 全國運輸、乗合業者、各自動車會社
從業員 五十名

取引銀行 第百銀行芝支店

特色 早房米作氏は明治廿九年三月靜岡縣富士郡に呱呱の聲をあぐ、日本自動車會社に於て刻苦精勵上司の信望厚きものありしが、決するところあり獨立して年來の宿望を達成自から職工服をまとひ製品の研究にあたり、工場の機械化により能率の向上を圖り數十萬圓を投じて設備の改善をなし日夜繁忙を極め都下の模範工場たり。

長谷川自動車鍍金工業所

所在 蒲田區糞谷二ノ七〇一
電話 大正十二年九月
創立 大正十二年九月
代表者 長谷川正信

沿革 信濃ボデー工場内に同工場専屬として長谷川鍍金部を創設して鍍金加工、ボデー外鍍に従事し業務の發展に伴ひ現所在に新工場を建設して規模を擴張、長谷川自動車鍍金工業所と改稱して現在に至れり。

營業種目 自動車一般鍍金加工業

販 路 ボデーメーカー、其他一般
從業員 十四名

長谷川正信

明治二十二年一月十日東京市に出生。大正十二年九月信濃ボデー工場開所と共に入所してボデー鍍金加工の技術を習得し後、同工場に長谷川鍍金部を設けて専屬工場となり業務によく勉勵して信用を博し昭和十二年工場經營に専念するため辭職して今日に及べり、氏は昭和十年には東京自動車商組合長より十年勤績により賞状を授與せられ現に東京自動車々體鍍金工業組合幹部に推されて同業者間の信望厚く事業も益々盛大に向ひつゝある。

株式會社日本氣化器製作所

本社 品川區北品川五ノ四二八番地
電話 高輪 四一四九、四三六六番
創立 大正十年
資本金 壹百萬圓
役員 取締役社長 大來修治、取締役 齋藤茂一郎、同 高田益三、同 樋口延太郎、監査役 藤崎三郎助、同 岡田祐二

營業種目 自動車用、航空機用、一般發動機用氣化器並燃料ポンプ、空氣清淨器、油濾器

工場 品川區北品川五ノ四二八
販 路 陸軍省、海軍省、鐵道省、各自動車製造會社、各航空機製造會社、各發動機製造會社

從業員 百五十名
取引銀行 第百、三井

特色 當所は陸軍省はじめ諸官廳、著名會社の指定となり、最も困難と謂はれる氣化器製作に特殊の技術を以て居り、大來社長の敏腕よく先進國の技術を習得して独自の技能となし日本氣化器の名聲を上ぐ、大來社長の存在は當所を安泰の地位に置き、重工業界の飛躍發展に呼應して當所の躍進も目覺しきものあり増資擴張も近き將來と見られ、時局會社として工業界への進出は注目に値する。商工省の優良部分品に二種認定さる。

日本ビストンリング株式会社

本社 東京市芝罘田村町四丁目四番地
電話 芝一三一七、二〇八六番
創立 昭和九年

資本金 參百萬圓
役員 取締役社長 鈴木友訓、専務取締役 田所鷹一、取締役 池貝杉二、同 遠山清太郎、監査役 鏡山忠男、同 野口清三郎、顧問 明渡泰次郎、同 陸軍航空大佐 香宗我此秀、同 海軍機關大佐 兒玉傳一

沿革 當社は現社長鈴木友訓が明治四十五年京橋區月島に鈴木製作所を創立し爾來船舶用機關並に船舶石油發動機に従事せしが大正十二年の震災に因り工場を埼玉縣川口に移轉せり、昭和六年一月日本ビストンリング製作所と改稱し各種ビストンリングの製作を専業とせしが昭和九年十二月組織を法人に更め日本ビストンリング株式會社と改稱し一切の事務を譲渡繼承せり、時局により重工業界の隆運に需要増大し舊來の第一、第二工場漸やく狹隘に告ぐるに至り現川口工場に新設統一して昭和十年十一月竣工と共に移轉し増産を圖りたり、又昭和十一年一月ビストン及びシリンドラーの製作にあたる日本特殊合金株式會社を合併しビストンリングの外にビストン、シリンドラーの製作並に特殊鑄物部門にも進出して多方面に活躍す、然るに相次ぐ生産力の擴充も到底需要を満すに至

らず昭和十三年五月埼玉縣與野町に一大工場建設の計畫を進め目下工事中なり、尙堀切パネ製作所を五月その傘下におさめて自動車スプリング製作をはじめ各種パーツ製作に進出せんとす。

營業種目 各種ビストンリング製造販賣

支店、工場 東京營業所 芝罘田村町四丁目四番地
大阪營業所 北區曾根崎新地三丁目一六番地
神戸營業所 淡路區相生町四丁目四十五番地
福岡營業所 福岡市中石堂町四番地
川口工場 川口市元郷町二丁目
與野工場 埼玉縣與野町

販 路 日本全國並に滿洲國及諸外國
從業員 一五〇〇名
取引銀行 三菱、野村、第百

特色 當社は時局景氣の波によつて急激な膨脹を遂げた、當社の事業は時局が痛切に要求してゐるため需要は激増して現在の生産能力では受注に應じ切れないため與野に新工場を建設するため二萬坪の土地を購入して工事に着手した、工場新設により資金が必要となるので増資が計畫されてゐる。唯資金認可の方針が變つたので資金工作を他に求めるものと見られる。現に一割二分の配當は不安なく拂込を漸次徴收して資金膨脹となつてゐるが配當は依然高率配當は繼續するから當社は時局によつて重工業界の花形となつたと云つても過言でない。

田所 鷹一

日本ビストンリング株式會社専務取締役
自宅 世田ヶ谷區根木一八三八
電話 松澤 二三六八番

明治二十八年一月一日和歌山縣邊町に生る。郷里田邊中學を経て慶應義塾理財科を大正八年卒業、東洋製鐵株式會社に入社し同社が委託經營に移ると同時に退社、千代田組に勤務、大正十一年岳父鈴木友訓氏の創立せる鈴木製作所月島機械工場の營業にたづさはり、岳父を援けて日本ビストンリング製作所を起しビストンリング専門製作にあたる。鈴木氏の技術と氏の經營的才腕との鐵桶のコンビはあらゆる困難を克服して東京營業所を昭和七年開設してより國産ビストンリング界に獨歩の地位を有して理研ヒストンと共に國産ビストンリング界を二分するに至る。蓋し氏の撓まざる努力と濃厚なる人格の反映である。本邦自動車工業發展に盡せる氏の献身的な努力は東京自動車商組合製作部長として、東京自動車工業組合常務理事としてよく同業者の向上發展を圖るため活動をするを見ても知られる處である。躍進する日本ビストンリングの専務として活躍する一方、堀切パネ製作所社長を兼ねて獨りビストンリング界のみならず、自動車航空機工業界にもその人ありと知られてゐる。同社が一千萬圓増資も近きものと見られてゐるから、氏の活躍は一層期待されてゐる。

日本ワキバー、レギュレター株式會社

本社 麹町區有樂町二ノ二
電話 銀座 二二三四番
創立 昭和十二年

資本金 貳拾萬圓
役員 専務取締役 小林光榮、取締役 中谷保、同 梁瀧長太郎、同 柳田諒三

沿革 日本ワイバー製作所と日本レギュレター製作所を合併して昭和十二年創立せられ、ワイバー・レギュレターの大量生産を目的とするものである。

營業種目 日本ワイバー、レギュレター製作卸

工場 品川區大崎

販 路 全國

取引銀行 三井丸の内支店

特色 當社は小林専務の獨裁的經營下に置かれて居り先きに日本ワイバー製作所を設立してトリコワイバーと特許權問題で係争の結果遂に勝訴となり日本ワイバーとして大々的に國産ワイバーを市場に供給し得るやうになつた、この問題解決により都下一流用品店後援のもとに創立せられたるもので販路は廣く、國産車は全部採用してゐる有望事業として將來を大いに期待されてゐる。

日本特殊陶業株式會社

本社 名古屋市南區堀田通一ノ十七
創立 昭和十一年十月
資本金 壹百萬圓
役員 取締役社長 江副孫右衛門

沿革 昭和十一年十一月日本碍子株式會社より點火栓に關する權益と技術の一切を繼承して分離獨立して日本特殊陶業株式會社を創立、MGKスパークプラグの製作販賣を開始して現在に至る。

NGプラグは日本碍子が夙に研究を開始せるもので大正十五年第一次製品の完成を見て、陸軍の検査に合格、昭和三年九月トネル窯の構築が完成して品質の均一性が確立同五年九月NGのマークのもとに市販を開始、同六年十月陸軍自動車學校の國產自動車點火栓として最優秀であると折紙付けられ、陸軍兵器本廠より軍用國產自動車用點火栓に指定、昭和九年三月には海軍購買名簿に登録せらる。

昭和八年九月NGK點火栓と改稱するに至る。
營業種目 自動車用、航空機用船舶用、内燃機關用、NGKスパークプラグ、耐酸セメント濾過器
出張所 東京出張所 麹町區丸の内ビルディング

日本エス・ケイ・エフ興業株式會社

所 在 東京市麹町區有樂町一丁目(三信ビル)
電話 銀座二一七一—七四、三五六九番
創立 昭和七年十月
資本金 三百萬圓(拂込済)
役員 社長 ジー・カストン、副社長 エッチ・メリン・エム・カリン、取締役 青松政臣、志摩亮平、エッチ・ブリー・マン

沿革 明治四十一年以來現チエルヘルジ株式會社内にSKF部として營業し來りしを昭和七年七月に分離獨立したるものなり。

營業種目 ボール及ローラー・ベアリング、スチールボール、スチール・ローラー
支店 札幌、金澤、長岡、名古屋、大阪、小倉、京城、高雄、大連、奉天
販路 日本全土、朝鮮、臺灣、滿洲國
取引銀行

特色 當社はSKFベアリングの本邦總販賣權を掌握して自動車は勿論航空機、機械工業の發展に伴ひ需要も亦増大せるが、近時輸入管理により著しく壓迫を受けるに至りたるも、その優秀性能は需要家渴望の的なり、本年四月芝區新橋に近代的な工場並に營業所を新設せり、國產ベアリングの擡頭念なるものあり、當社も時局に鑑み國產化への歩みが期待されてゐる。

大阪出張所 北區中之島堂島ビルディング
福岡出張所 上吳服町片倉ビルディング
京城出張所 京城市南區大門通日華ビルディング
大連出張所 大連市山縣通東拓ビルディング
工場所在地 名古屋市南區堀田通一ノ一七
販路 内地、朝鮮、臺灣、滿洲國、支那、南洋、印度、其他諸外國
従業員 五百名
取引銀行 愛知、住友

特色 日本碍子の傍系事業としてNGKプラグのみを分離せられたるものであるが、國產プラグとしては最も大規模に本格的生産を開始してゐるものである。由來自動車部分品でプラグが舶來に比して最も遜色ありと云はれてゐるものであるが、當社の出現によつて一躍水準線を突破して滿洲國、支那、印度から南米、歐洲諸國にまで進出して「工業日本」のために萬丈の氣を吐くに至り今やボツシュ、AC、チャンピオン等の著名プラグと大いに競争して着々その地盤に進出してゐる。かく當社の活動は目ざましく、一方ではJACラインを通じて賣り出され全國各地に於てNGKプラグの需要は激増されて來た。當社は事變以來急速な發展をしてゐる。所謂時局が大いにこれを要求して來たのだ。軍需を中心として事變を契機に飛躍的な發展段階に進みつゝある當社の今後には絶大な期待がかけられる。

日本ラヂエーター製作所

所 在 蒲田區六郷町一四六
電話 蒲田 二三二七番
創立 大正十三年十一月
資本金 拾萬圓
代表者 古川貞治郎

沿革 大正十三年十一月芝區金杉四丁目に設立、昭和九年八月現所に工場新築(四五〇坪敷地)移轉工場建坪一〇〇坪事務所兼住宅二〇坪。

營業種目 自動車用ラヂエーター一般内燃機關NRS用ラヂエーター製作販賣
販路 内地及鮮滿
年商 二十五萬圓
従業員 四十名
取引銀行 三菱銀行大森支店

特色 當所は堅實經營を以て知らる。近時國產自動車工業の發展に伴ひ受註繁忙を極め、工場の新設擴張により受註能力を倍加し車輛用ラヂエーター製作にも本格的に進出しつゝある。
古川貞治郎
明治三十年九月新潟縣西蒲原郡吉口町に生る。二十歳にして上京、東京瓦斯電氣工業に入社社務に精勵、大正十三年古川ラヂエーター製作所を設立、後日本ラヂエーター製作所と改稱、時運に乗つて飛躍今日の大をなす。

日本ビクターパッキング製作所

所 在 芝區高輪北町五二
電話 高輪 五五八四番
創立 昭和八年
代表者 小島正次郎

沿革 昭和八年現所在に日本ビクターパッキング製作所を創設し、爾來各種ガスケット、パッキング専門製作販賣に従事して逐次發展と共に業務を擴張して今日に及び。

營業種目 自動車用、飛行機用、各種内燃機開用ガスケット、パッキング専門製造販賣
販 路 日産、高速、トヨタ、東京自工、日立各會社、清水、安全、萬歳其他全國同業者
年 商 十萬圓
従業員 十五名
取引銀行 第百金杉支店、住友人形町支店、日本晝夜田町支店

特色 所主小島正次郎氏は大正元年十一月新潟縣高田市に於て出生。工業專修學校機械科を卒業して工業用材料商として修業をつみ昭和八年弱冠二十二歳にして獨立自營、新人ながら天才的商才を以て躍進を遂げ既に同業者の間の驚異的存在となる。冷徹な技術家的肌合のうちにも漲る闘志をたくわへて少壯有爲の人である。

西村 商會

所 在 芝區神谷町二
電話 芝 三三六九番
創立 昭和七年
代表者 西村繁晴

沿革 昭和七年芝區神谷町二八に西村商會を創立して自動車用品卸に従事、事業の發展に伴ひ同十三年現所在に新店舗を設けて移轉、自動車スプリング専門卸に従事して現在に至る。

營業種目 自動車スプリング専門卸
販 路 全國各地
従業員 五名
取引銀行 第百芝支店

特色 店主西村繁晴氏は日加商會支配人として自動車用品販賣界に活躍せること久しく同商會をして一時は都下第一と稱せられるまで發展せしめし手腕家で、昭和七年獨立以來業界の新鋭として近年めき／＼擡頭し來たり自動車スプリング専門卸として認められるに至る。新店舗も今春落成して非常時局下の業界に縦横に活動しつつあり、將來部分品販賣界を擔ふ人として嚆望されてゐる。

合資會社西野製作所

所 在 京橋區本掘町六丁目
電話 銀座 二七九、四三五四、四八七七番
創立 明治三十年
代表者 西野慶次郎

沿革 合資會社西野製作所を設立して自動車部分品、用品の製材を開始し、販賣部を擴張して輸出方面にも進出せり、昭和十二年整理完了と共に再び開業今日に及ぶ

營業種目 自動車用品、部分品製作販賣
營業所 大阪、福岡、名古屋、京城、臺北
工場 芝工場、板橋工場、大井工場
販 路 内地、朝鮮、臺灣、北支、近東地方
取引銀行 第百京橋支店

特色 當所は都下自動車用品メーカーとして有數のもので、早くより海外市場の有望なるに着目して多大の犠牲を拂つて輸出に注力する一方、製作部門より販賣部門を確立して卸商として積極的活動をなすに至りたるも、雄圖空しく挫折するに至り、昭和十二年遂に整理の止なきに状態となりこれが整理の完了を待つて再び業務を開始することゝなつたものである。現に誕生の意氣凌まじく傳統の地盤もあり、日産、其他の大に需要層も舊に復して再度發展を期して積極的活動を開始しつつある。

本田 商店

營業所 赤坂區溜池三一
電話 赤坂 五二二番
創立 大正六年
代表者 本田重藏

沿革 麻布區廣尾町に大正六年創立、大正十二年三月溜池町に店舗を移轉 今日に及び。

營業種目 自動車、荷車用タイヤ新古販賣、中古タイヤ全國販賣、自動車用品部分品販賣、セーム皮製造販賣
サンライイト方向器
工場 荒川區三河島
販 路 市内一般運輸業者並内地鮮、滿、臺
従業員 六名
取引銀行 仕入支拂現金主義 三菱銀行本店

本田 重藏
自宅 赤坂區丹後町四二
明治二四年十一月長崎縣南高米郡三會村に生る。大正五年上京タイヤ修理業を修め翌六年遂に事業熱抑へ難くタイヤ修理、ゴム製品販賣をはじめ事業の隆昌に伴ひ皮革、方向器の製作販賣に進出す、店員に方針を指示して自發的に活動せしめ無干渉主義をとり、店員を明朗に訓練して居り、自己の接するあらゆる人の笑顏を見ることを人生觀として稀に見る逸才なり。

株式會社堀切パネ製作所

本 社 葛飾區堀切町九五
 電話 淺草 三八九三、足立 二四四九番
 創立 昭和十年(株式改組)
 資本金 拾六萬圓(近く五拾萬圓増資決定)
 役員 取締役社長 田所篤一、専務取締役 梁瀬弘作、取締役 中谷保、同 高島直介、同 山田忍三、同 山本光雄
 監査役 殿村松平、同 野田正一
 沿革 堀切パネ製作所は當初高級スプリング製作を開始、逐次事業を擴張して各種スプリング製作に従事、昭和十二年堀切精機株式會社を合併して資本金拾六萬圓となる。七月一日臨時總會を開き資本資替を正式決定せり
 營業種目 諸機械用高級スプリング、船艦、兵器用各種スプリング、航空機、電機用各種スプリング製作
 工場 葛飾區堀切町九五
 販 路 陸軍、鐵道省、自動車製造會社、機械製作會社、造船會社
 従業員 一〇〇名

特色 當社は郵船系の資本によつて設立せられたるもので自動車用スプリング製作への進出も既にかなり古く今回商工省の優良部分品と認定されるに至りその性能は定評のあるところ、この程日本ビストロンング初め自動車工作機械界の重鎮が株を肩替して經營に乗り出したので内容も一變して業態も改善される。

ホーシ製作所

所 在 本所區江東橋一ノ一〇ノ一
 電話 本所 五七四五番
 創立 大正十三年四月
 代表者 北條二郎
 沿革 大正十三年神田松枝町にホーシ商會を設立、昭和三年製作工場を設置、昭和七年現所在地に新規工場を設立しホーシ製作所と改稱、事務所、熔接工場をも併置して現在に至る。
 營業種目 自動車一般部分品製作並に修理
 工場 本所區江東橋一ノ一〇ノ一
 第二工場 本所區江東橋一ノ一二ノ一
 販 路 全國自動車業關係一般
 取引銀行 興業銀行、住友銀行

特色 當所は既に十有餘年の永きにわたり堅實經營を以て知られ、バス、トラツク業者を顧客層として都下中堅メーカーでの一流どころとして確固たる信用を有す。
 北條 二郎 自宅 船橋市九日市一五八番
 明治廿八年八月福島縣に於て生る。大正十三年自動車の搖籃期にホーシ商會を起して青バス指定商として活躍その後時運の進展に伴ひ製作方面に轉じ、技術の優秀なるを以て知らる。濃厚の士にして業界稀に見る研究家である。

株式會社東京車輪製作所

本 社 麹町區丸の内九ビル六一四區
 電話 丸の内 三六三五番、四九九八番
 創立 昭和九年五月
 資本金 百五拾萬圓
 代表者 取締役社長 野長瀬忠男
 役員 取締役 下出義雄、同 石井太吉、同 田中資郎、同 富永丈吉、同 高木嘉六、監査役 太田壽雄、同 野長瀬弘男
 沿革 昭和五年東京帝國發條製作所工場に於てシボレ「リム・ホキール」を試製、研究を重ね製造を開始す昭和七年鐵道省の指定となり、同九年五月東京車輪製作所(資本金參拾五萬圓)として獨立し蒲田六郷河畔に専門工場を設立營業を開始す、昭和十一年十二月五拾萬圓に増資、昭和十二年六月壹百五拾萬圓に再増資して今日に至る。
 營業種目 自動車用車輪製作並に附屬品
 支 店 大阪市北區堂島濱通一ノ一堂ビル五階
 工場 東京市蒲田區南六郷二丁目三二番地
 販 路 日産、トヨタ、東京自工、日本フォード、日本ゼツ社
 従業員 二〇〇名
 取引銀行 三井、三菱、第百、十五、野村、各銀行

株式會社東京鍛工所

本 社 品川區東大崎一ノ五四六
 電話 高輪 三八五五、四五〇三番
 創立 大正七年四月
 資本金 五百萬圓
 役員 専務取締役 池田清藏、取締役 難波又三郎、同 池貝杉二、同 山口勝藏
 沿革 大正七年資本金四萬圓の合名組織を以て創立せられ、業務擴張に伴ひ五拾萬圓の株式に改組、逐次増資第二東京鍛工所(資本金參百五拾萬圓)を昭和十二年九月合併して資本金五百萬圓となる。
 營業種目 自動車部品、航空機部品、兵器部品、各種スパー類、其他一般型鍛製品
 本社工場 品川區東大崎一ノ五四六
 川崎工場 (目下建設中年内操業豫定)
 販 路 内地に於ける各國產自動車製造會社、其他一般重工業會社
 従業員 二百五拾名
 特色 當社は國產自動車部分品會社の花形で年一割二分配當をなし而かも將來の事業の有望性より株價七十圓(五十圓拂込)を遂に突破して居り、トヨタ、自工、日産へ大量納入をしてゐる。川崎工場が稼行するやうになるに収益力は四、五倍するものと見られる。時局會社としてエキスパッション性あり。

東京自動車用品販賣株式會社

本社 京橋區銀座西二ノ一
電話 京橋 三一七七、三一七八、三一七九番
創立 昭和十一年
資本金 參拾萬圓
代表者 代表取締役 深見實

沿革 昭和十一年大洋商會の傍系事業として創立せられ、シボレー部分品はじめ自動車部分品輸出入販賣を目的として創立され、自動車用品販賣界の第一流に伍して躍進現在に至る。

營業種目 ラツクス・スパークプラグ、TMCピストン、TMC自動車スプリング全國一手發賣元、各種自動車用品、部品輸出入卸

販 路 全國

從業員 四十名

取引銀行 住友丸の内支店

特色 當社は大洋資本傘下の自動車パーツを中心とする會社である、各デイトラーの部分品部も此處に總轄されて居り伊達支配人の敏腕と大洋の強力な資本背景によつて近來めき／＼躍進して用品販賣界の老國をどん／＼陥落せしめて業績多ににがり注目されてゐる。最近同系統のBS商會を設立してパーツ界へ乗り出すのも當社の好調により企劃されたものと見られる。

東京正田工業所スプリング工場

所 在 本所區青妻橋三ノ三
電話 墨田 八一七番
創立 大正十一年二月
代表者 正田九二松

沿革 大正十一年二月東京正田工業所スプリング工場を創立して小物スプリング製作を開始、爾來事業を逐次擴張し各種小物類の製作にあたり今日に至る。

營業種目 スプリング製作、製繩機用千枚バネ、金屬打抜網各種、ゼンマイ磨卷鋼板、鋼線、鋼材スボーク、各種工具及ベルト、ボールドナウト、ネチ類、ネームプレート調製

販 路 一般

從業員 營業所 六名、工場 十二名

取引銀行 第一三輪支店、第百向島支店

特色 當工場は自動車用小物スプリング製作に獨特の技能を有して居り、當工場製品は他の追隨を許さず、その他所謂小物類の創立以來専門メーカーにして定評あり各方面よりの注文で現在工場能力の全力をあげてゐる。材料關係も比較的困難を感じてゐない。

所主正田氏は明治廿六年十一月埼玉縣大金郡岡部村に生る。技術家的な肌合の人で研究熱心である。

株式會社東洋ラヂエーター製作所

本社 芝區田村町五ノ七
電話 芝 一二六〇番
創立 昭和十一年十月
資本金 五拾萬圓

役員 取締役社長 小林三平郎、取締役 近藤敏夫、同 鹽川正藏、同 橋谷鑑郎、同 青柳半三、監査役 田邊福次郎、同 大畑義郎

沿革 昭和八年一月資本金四千圓を以て合資會社東洋ラヂエーター商會を設立、昭和十一年六月資本金壹萬圓に増資して第一次業務の擴張をなす、昭和十一年十月株式會社東洋ラヂエーター製作所を設立、昭和十二年一月東洋ラヂエーター商會を買合併し資本金五十萬圓になり本邦最大のラヂエーター専門製作會社となる。

近く川崎工場大擴張のため百萬圓に増資豫定

營業種目 自動車及航空機用ラヂエーター及同部分品製作並販賣

工場 川崎工場 川崎市堤根八番地

(電話川崎三三三七番)

販 路 日産自動車、トヨタ自動車、池貝自動車、帝國製紙、東京自動車工業、安全自動車、川崎車輛

從業員 二百五十名

取引銀行 第百銀行

特色 當社は國産自動車工業の躍進に伴ひその前途益々洋々たるものあり、川崎工場は設備の完備せる點、生産能力の點でも本邦最大を誇るものである。然るに近時當社の主要納入先なる日産、トヨタ、東京自工、池貝、川崎等の各社よりの大量注文の殺到にこれが消化難に陥る盛況で既に現生産力を以てしては明年度下半年迄の注文を受注せる期定となる、これがため當社は近く倍額増資をなし川崎工場の大擴張工事を完成することになつた先に商工省より優良部分品としての指定を見るに至り製品の優秀なることは定評あり、大量生産システムの完成により當社の生産能力は五倍の増加を見るものと期待されてゐる。

ラヂエーターが手工業的生産より機械的生産への移行は當社によつて始めて着手されるもので自動車部分品の量的發展の期待されてゐるこれに着目せる當社首脳部の英斷もさることながら、時局景氣の波に乗つた時局會社なればこそ出来る大規模生産様式の採用である。時局の動きに敏なる經營當局者は事變後の斯界の動向に注視して増資を期に多角的經營への轉換が考慮されてゐるからその將來性は益々期待される筋合にある。

東洋 商會

所在 下谷區元黒門町十三
電話 下谷 一五一—一五五六番
創立 昭和五年

代表者 志賀 郁郎

沿革 當社は東洋時計株式會社の姉妹會社として創立せられ、方向器、計器類の製作販賣を以て自動車界へ積極的進出をなして今日に及び。

營業種目 東洋方向器發賣元、東洋自動車用時計、自動車用、オートバイ用スピードメーター販賣

大阪支店 大阪市南區順慶町三ノ八

第一工場 (東洋時計) 小石川區丸山町

第二工場 埼玉縣上尾

販 路 各省並に諸官衙、東京自動車工業會社、川崎車輛株式會社、三菱重工業會社、各乗合自動車會社、各フォード特約販賣店

従業員 三百名

取引銀行 第百、三井

特色 東洋方向指示器は著名自動車會社への指定納入品として大量に生産され方向指示器製作界を壓倒してゐるが、當商會では研究改良して優秀品製作に努めてゐる。東洋時計の計器類も當商會が販賣にあたり各自動會社に納入して居り近來需要が著しく増大した。

徳永 商會

所在 京橋區新川一ノ八
電話 京橋 八二八〇番
創立 大正十年

代表者 徳永寛治

沿革 大正十年芝區田村町一丁目徳永商會を設立して自動車部分品販賣にあたり事業の進展に伴ひ昭和十年現所在に移轉擴張す、其の間支店を開設し、指定專屬工場を設けて積極的進出を企てて今日に至る。

營業種目 自動車部分品、工具、ゲンビーム自動車電球、コード類、ボデー用材料

販 路 東京 地方

従業員 十三名

取引銀行 安田芝支店、昭和芝支店

特色 當商會は創立大正十年で用品販賣界ではその歴史は可成り古く堅實な内容を以て知らる。従來はフォード、シボレー部分品に主力を注ぎつゝあつたが、國産品に轉じ最近では工具類などに可成り力を注ぎつゝあることが注目されてゐる。

徳永氏は明治廿七年熊本縣に生れ、大正六年上京商業學校を卒業して海外貿易社より東京瓦斯電工に入社して三年の後に獨立今日の隆昌を見るに至る。

中央 商會

所在 赤坂區澁池町三〇
電話 赤坂 一〇二六、三九七四番
創立 昭和七年九月一日

代表者 尾須敬三郎

沿革 昭和七年九月神田區關口町に中央商會を創立、國産自動車部分品製作界漸く發展の緒にあるとき敢然國産部分品専門店として國産優良品販賣に従事、國産部分品の發展に貢献せり、昭和十一年現所在に業務擴張のため移轉異常な發展を示めして今日に至る。

營業種目 理研ピストンリング、同ピストン販賣、セントラルキングピン、セントラルピストンピン發賣元、C・T・Rオイル・チャッキ、スクール・チャッキ發賣元、純國産優良部分品卸、販賣

販 路 全國自動車會社、用品部分品販賣業者、其他
従業員 十人

取引銀行 三和日比谷支店、日本晝夜赤坂支店

特色 當商會は日本自動車、中央自動車の後援のもとに創立せられ、國産パーツを専門的に取扱つて今日の隆昌をなすに至つた。國産パーツでも當商會の取扱ひのものには最高に屬する優良部分品であつて、早くより國産パーツに注力せる結果今日實を結ぶ。

尾須敬三郎

中央商會主 自宅 大森區池上徳持町八九七

明治三十四年七月二十日日本郷區湯島天神町三丁目に生る。同地小學校を経て大倉商業に入學、大正七年同校を卒業するや直ち日本自動車株式會社に入社、會計部に入り一年にして中央自動車株式會社に轉じて會計部、タクシーハイヤー部、附屬品部等を歴任して、同社がフォード自動車特約販賣店となるや販賣部を創設して販賣部長に就任、用品部主任を兼任して同社の樞要の位地においてよく業務に精勵して今日中央自動車會社が内外に活躍するに大いに貢献、在勤十餘年其間文字通り社業の發展のために粉骨碎身の努力を盡し多年の功勞酬ひられ隆々發展の途にある同社を措かれつゝ退社、中央商會を創立して帝都用品販賣界に登場せり、商會を經營するや長年にわたる販賣第一線に活躍せる手腕を以て着實な歩みを續け、國産部品界が發展の萌芽を見るや敢然國産優良部分品を市場に送るべく決意して當時未だ餘り頼れなかつた國産部品の専門取扱を斷行して日々需要の増大するに至り、氏の慧眼遂に今日の鞏固な基礎を築くチャンスに巧みに掴み中央商會の名は廣く全國同業者間にも響くに至る。東京自動車商組合中堅幹部として國産部品販賣界の向上發展に貢献するところ尠からずその將來は大いに囑望されてゐる。

大村屋商店

所在 京橋區銀座七ノ三
電話 銀座 八三二一—八三六番
創立 明治四十五年
代表者 杉浦彌一郎

沿革 食料品店として創立せられ、大正二年横濱市に於て自動車輸入販賣並にハイヤ業に従事、業務の擴張を圖り東京出張所を開設して自動車部分品の輸入販賣をなし後東京に本店を移し今日に及べり。

營業種目 テムケン、デーボード、ローラベアリング、ニュー、デバリー、チューアールベアリング、其他各種ベアリング輸入販賣

横濱出張所 中區山下町一三六

販 路 全國自動車販賣店、用品部品販賣店

從業員 十五名

取引銀行 横濱正金、第百

特色 當店は火曜會の有力メンバーで輸入販賣を經營主體としてゐるだけに國産パーツの擡頭は相當の脅威であり、かつ輸出入品臨時措置法の實施以來輸入制限の強化は經營に大打撃を受けてゐるが、その地盤、信用は絶大なものなり微動だもせず、新なる分野進出が期待される。

合資會社大垣商會

所在 京橋區入舟町三ノ四ノ一
電話 京橋 一五八三番
創立 昭和八年四月
代表者 大垣忠一

沿革 昭和八年大垣商會を設立自動車附屬品販賣に従事、事業の發展に伴ひ自動車附屬品並にダットサン附屬品製作を開始するに至る。同十三年合資會社大垣商會と組織を變更して現在に至る。

營業種目 ダットサン附屬品、ラヂエーターキール、

工 場 浦田區、京橋區入舟町三ノ四ノ二

從業員 十名

取引銀行 日本晝夜銀行

特色 當商會はダットサン附屬品製作卸を開始してよりダットサンの普及に伴ひ需要増大するに至り、新企劃にもとづく經營方針は着々成功して新進メーカーとして躍進してゐる。材料手當は目下のところさして切迫してゐないがニツケルクロム其他各種材料の入手難と高騰で相當打撃を蒙るもその基礎は微動だもせず、ダットサン附屬品製作の好評に乗じ新進メーカーとして今後を多に期待されてゐる。

株式會社大塚製作所

本社 瀧野川區西ヶ原一三八八
電話 王子二三一一—二八九一 三三四五 三八六〇番
創立 大正十二年
代表者 取締役社長 大塚寅松

沿革 大正十三年大塚寅松氏の個人經營を以て創立せられ、逐次事業の進展をはかり各自動車部分品、航空機部分品製作に進出するに至る。後株式會社に改組して事業を整備して各部門に進出今日に及べり。

營業種目 自動車部分品及附屬品、航空機部品、D・M・D金屬硬度計、ダイヤムタイヤチェイン、工作機械器具製造

工場 瀧野川區西ヶ原一、三八八

販 路 内地、朝鮮、臺灣、滿洲國

從業員 三百名

取引銀行 第一銀行 三和銀行

特色 近時急速な發展を遂げ自動車部分品製造の一流メーカーとして不動の地位を占めるに至つた、軍需工場としての色彩も濃厚になり鋼材手當にも不安なく工場設備の擴張も一段落を告げて工員も一年に倍加するに至つた點から推しても當社の驚異的な發展が推察されやう、小型會社としてその事業の將來性よりエキスパウシヨンが認められ、増資も必至と見られてゐるから今後には多大の期待がかけられる。

近江屋商店

所在 品川區北品川三ノ二〇七
電話 高輪 四四〇四番
創立 大正十三年四月
代表者 島本角次郎

沿革 大正十三年京濱國道北品川に近江屋商店を創立自動車用品販賣を開業、銀座西六丁目國文社ビルに卸部事務所を開設して中央部との連絡にあたる、後同事務所を廢止して店舗の擴充をはかり今日に及ぶ。

營業種目 自動車用品販賣、諸油販賣

販 路 京濱一圓

從業員 六人

取引銀行 日本晝夜銀行品川支店

島本角次郎

自宅 品川區歩行新宿一〇五番地
明治十五年三月江州甲賀郡大原村に生る。質實剛健の江州魂に燃えて刻苦勉勵して京濱國道隨一を稱せられる店舗をかまへて今日隆盛を極めるに至る。氏濃厚篤實、その手確き商策は顧客の信用を高め同業者より好評を博してゐる。趣味として園藝を良くし、極めて濃厚な性格はすべて手堅く、着々と事業の育成にあたり近江屋商店の盤石の基礎をなすに至れり。

岡村リムホキール工場

所在 京橋區湊町三ノ一四
電話 六四三六番
創立 大正十四年六月
代表者 岡村金五郎

沿革 大正十四年六月岡村リムホキール工場を創立してリムホキール製作並に修理を開始、逐次事業を擴張して現在に至る。

リムホキールの専門修理としては東京に於ける最古の歴史を有してその技術も優秀なるを以て定評のあるところである。

営業種目 リムホキール製作修理、自動車修繕、用品販賣
工場 京橋區湊町三ノ四
従業員 十五名

特色 當工場はリムホキール製作修理工場として定評あり、リムホキールの修理業としては最古の歴史を有してその技術の優秀なるを以て知らる。當工場はその創業の古いのに比較して表面的な華やかさを持たないのは仕事極めて滋味であるからでその堅實性を物語るものである。工場主岡村金五郎氏は明治廿五年十二月埼玉縣入間郡原市場村に生れ、長じて自動車界に身を投じて二十餘年銳意事業の助成に努めて今日に至る。

岡村リムホキール製作所

所在 杉並區高圓寺三ノ二一
電話 中野 二四六五番
創立 大正十三年
代表者 岡村吉藏

沿革 大正十三年現所在に岡村リムホキール製作所を創立リムホキール、ソリッドタイヤ嵌込製作販賣に従事事業の進展に伴ひ小型自動車部分品製作を開始して現在に及べり。

営業種目 ダットサン部分品、リムホキール製作販賣、ダットサン専屬修繕工場
販賣路 一般
従業員 十八人

特色 當所は創立大正十三年で自動車製作界での古豪でその技術は多年の経験と研究の結果獨特の技術を有してゐる。現在はダットサンパーツ並にダットサン専門修理にあたり漸次業績を盛り返しつつある。所主岡村氏は明治廿七年十一月東京に生れ、自動車界に投じてより既に永年にわたり工場を經營して業界一方の雄將としてその名を轟はれた、氏の趣味は競馬であるが、これに凝り色々の逸話を残してゐる。

若松製作所

所在 品川區南品川五ノ一九七
電話 高輪 六八二一番
創立 大正元年
代表者 若松幸次郎

沿革 大正七年自動車附屬品製作を目的として若松製作所を創立してこれが製作を開始、爾來工場の新設擴張を行ひ生産設備を完備して各種自動車附屬品製作工場として現在に至る。

営業種目 自動車用附屬品専門製作卸
工場 品川區南品川五ノ一九八番地
販賣路 全國自動車用品販賣業者、一般自動車運輸業者及自動車製造會社

従業員 二十名
取引銀行 第百、安田

特色 當所は都下自動車附屬品工場の中で既に操業二十年に及ぶ歴史を有して草分け的な存在である。創立當時は自動車界も微々たるもので經營にも一方ならぬ苦心を要したが、その間辛酸をなめながら鋭意研究に努力して自動車附屬品製作界に不動の地盤を築くに至れり。若松氏は西野製作所にて多年勤務技術の習得にあたり後獨立するに至つた人である。

亘自動車鍍金工場

所在 神田區今川小路一ノ一
電話 九段 三五六番
創立 大正十三年
代表者 亘勲次

沿革 大正十三年神田區今川小路一ノ一に亘自動車鍍金工場を創立して自動車鍍金加工並修理に従事、次いでラヂエーター製作を開始するに至り、工場設備の改善を是より増産に努め、業務逐日好調に經過して隆昌に向ひつつあり。

営業種目 自動車鍍金加工並に修理、ラヂエーター製作並に修理
販賣路 一般運輸業者
従業員 十五名
取引銀行 住友神田支店

特色 當工場は目下ラヂエーター製作に事業の主力を移しつつある。現下ラヂエーター製作界は繁忙を極めて生産力の不足の状態にあり、小工場への外註物が殺倒してゐるので同工場も今後ラヂエーター製作に進出する一方鍍金加工をも併せ行はんとしてゐる。亘氏は明治廿九年一月七日千葉縣小見川町に生れ、自動車修理技術を習得して獨立今日の隆昌を見るに至る。

川田電機製作所

所 在 日黒區上日黒一ノ二ノ六
創立 大正六年
代表者 片岡登一

沿革 當所は大正六年に麻布區富士見町五〇に創業せられ、自動車用電氣部分品の製作販賣に従事して事業大いに進展し、電氣部分品の技術上の困難とよく闘ひ遂に今日の隆昌を見るに至る。其間幾多の變遷を経て工場の新設擴張等を行ひ一意増産に努めてゐる。

營業種目 自動車用電機部分品並に一般製作
販 路 自動車販賣店並に運輸業者、其他
従業員 二十五名

取引銀行 安田麻布支店

特色 當所の創立は既に早くこれが事業に着手せるのでこれが技術は定評のある處、電機部分品は高度の技術を要するので當所の如きは絶対に推賞し得る優秀品の製作にあつてゐる。

片岡登氏は明治三十六年千葉縣に於て出生さる。その資性は温厚にして眞摯な技術家として捷ます活動をつゞけて今日の隆昌を見るところ、業界の先覺者として今日まで辛苦、孜々として經營をつゞけ來たり今後は多大の期待がよせられてゐる。

香川 商會

所 在 神田區仲町二ノ五
電話 下谷 六三六八、七五四九香
創立 大正十三年一月
代表者 松下九郎

沿革 大正十一年機械油販賣業に従事せしが、大震災に遭ひ店舗を烏有に歸せるも松下九郎氏と協力香川商會を起して自動車直輸入並に附屬品販賣にあたり今日に至る。

營業種目 自動車用品、ダンロップタイヤ卸、小賣、K・Mスプリング、シャフト、テミスバツテリ、各種礦油類販賣、モーター發賣元

支 店 大阪市西區江戶堀北通四丁目

販 路 全國

従業員 十五名

取引銀行 第百神田支店、三井日本橋支店

特色 當商會は傳統的地盤を有して都下用品販賣界の一流店として定評あり、營業分野もかなり多方面にわたる。最近では毛織部を設けて自動車用内張生地「モーター」を製作販賣して材料方面への進出なるものあり、松下九郎氏が經營の第一線に立つて店勢の擴張に腐心して居る。用品界も品拂底より可成跋行的景氣を示めしてゐる。折柄當商會の如きは稀である。

合資會社神谷プレス作業所

所 在 芝區濱松町四ノ二
電話 芝 五七二番
創立 大正十二年十一月
資本金 拾萬圓
代表者 神谷長市

沿革 大正十二年神谷プレス作業所を起しプレス作業を開始、漸次業務を擴張して芝浦工場を建設して自動車部分品製作にあたり、目下品川區東品川に五〇〇坪の新工場を建設中である。

營業種目 自動車部分品製造
工 場 芝浦工場 芝區芝浦町三丁目一番地
品川工場 品川區東品川四丁目四二番地
販 路 國産自動車製造會社、一般卸

取引銀行 安田銀行

特色 當所は目下品川工場建設中で同工場が完成稼行すれば収益力は倍増するものと見られ今後益々發展が期待されてゐる。部分品工場として製品の優秀なるは定評あり。

神谷 長市

明治廿五年一月生れ。實業に身を投じてより明晰なる頭腦と卓越せる手腕を揮ひ今日の隆昌をおさむる至れり氏の性格は剛毅果斷、事に處しては勇猛果敢にそれを處理し情義に厚し。

吉澤製作所

所 在 芝區田村町二ノ十二
電話 銀座 六二二九番
創立 昭和七年
代表者 吉澤清

沿革 昭和七年吉澤製作所を創立してフェンダー、マフラー専門製作に従事、事業を逐次擴張して工場を相次いで設立を一意生産力の増大に意を注ぎ今日に及べり。

營業種目 各種自動車用フェンダー、マフラー専門製作、リングギア製作卸
工 場 品川區大井南濱川一七三九
販 路 東京、地方

従業員 二十名

取引銀行 安田芝支店

特色 當所は最近品川工場の他にも工場を新設して一意生産の擴充にあつて居る。技術の優秀なると納期までに完納することは當所がモットーとしてゐるところである。フェンダー、マフラーが手工業的生產を出でず最近の如く職工の大工場への移動等は各メーカーに相當の深刻な影響を興へてゐるが、當所にはこうした異動もなく活況を呈してゐる。材料の高騰に入手難、工員の賃銀の値上等の影響はまねかれ難く新事業へ進出期待さる。

株式会社横濱モーターパーツ製作所

本社 横濱市鶴見区小野町四三番地
電話 鶴見 昭和九年七月
創立 昭和九年七月
資本金 五拾萬圓(近く二百萬圓に増資決定)
役員 専務取締役 佐藤猛夫、取締役 元木徳治、同 安藤長治

沿革 國産自動車部品工業の大量生産に乗り出すべく昭和九年個人組織を以て創立せられ、同十一年三月株式会社に組織變更を行ひ、逐次事業の發展に伴ひ二回の増資を行つて現在に至る。近く再度増資を行ひ全面的に生産力の擴充を圖るべく内定せらる。

營業種目 自動車用窓枠及モーターリング、スキッチ及一般プレス加工品

出張所 愛知縣刈谷

工場 横濱市鶴見区小野町四三

販路 日産自動車、トヨタ自動車工業、京三製作所、高遠機關工業、東洋工業、日本フォード等

従業員 二〇〇名

特色 當所の近來の飛躍發展振りはまさに業界驚異的である。創立より日淺く既に部品工業會社の新銳會社としてその一角に斷然たる頭角を現はすに至り、各方面の注目を惹いてゐる。佐藤専務を中心とする經營スタッフの敏腕家揃ひにもよるがその製品に特殊性あり、かつ大會社への直接納入によつて成功せり近くトヨタ自工の部分供給工場をトヨタ自工學母工場附近に建設に決定

竹村商會東京支店

所 在 京橋區銀座西八ノ三
電話 銀座 一、七一二—三番
創立 明治四十三年
資本金 貳拾五萬圓
代表者 東京支店主 堀内茂仁

沿革 明治四十三年横濱竹村商會を創立して、大正七年輸入部を開設、自動車用品並にオートバイ輸入販賣を開始、昭和二年東京、大阪に支店を開設して更に業務の擴張を圖り今日に及べり。

營業種目 ユーエスコンプレッツサー各種、セーム皮、タイヤチエン、サクラ方向指示器其他自動車用品部品

輸出入並に販賣

本 社 横濱市中區太田町一

販 路 内地、朝鮮、臺灣、滿洲、支那、近東諸國

従業員 一〇〇名

取引銀行 横濱正金銀行、三和

特色 當社は東京、横濱、大阪に強固な販賣網を有し自動車輸入では最も古い歴史を持つて居り、その内容は堅實の一語に盡る。火曜會の有力メンバーとして都下用品界の重鎮である。堀内氏は竹村商會の代表者として社内で重きをなすは勿論業界の有力者である。

玉商會

所 在 芝罘巴町六〇
電話 芝 一〇三〇—一
創立 天正十五年
代表者 馬渡雄吉

沿革 大正十五年玉商會を創立、自動車部分品の直輸入に従業、逐次事業の發展を見るに至り工場の新設、吉田出張所を開設して製作方面に進出する伴に販賣擴張をなし現在に及ぶ。

營業種目 ビストンピン、ガスケツト、ベアリング類
エンヂンパーツ、ビストンバルブ、ビストンシリンドラー
製作販賣

出張所 山梨縣吉田町

工場 芝罘三田小山町

従業員 三十名

取引銀行 安田芝支店、第百芝支店、住友新橋支店
特色 當商會は内燃機關各種パーツの専門販賣店として都下パーツ販賣店の異色ある存在である。國産自動車工業の飛躍的前進から同商會の需要は増大するのみで新工場と共に生産力は著しく擴大せられたるも尙足らざる状態に再び飛躍計畫が進められてゐる。店主馬渡氏は業界の異色ある存在として廣く知られてゐる。

ダイヤモンドライニング製作所

本 社 板橋區板橋二ノ一二六
電話 大塚 二四七〇番
創立 昭和三年
資本金 貳拾萬圓
代表者 牧野優

沿革 昭和三年東京市三河島に研究所を設立してライニング製作に乗り出すべく研究に着手、同四年研究——完成を見るに至る。同五年板橋區板橋に七百坪の工場を設立し操業を開始、鐵道省、陸軍省指定工場となる。

昭和七年モールドツト・セミモールドツト發賣、同年モールドツト専門工場二百坪を増設して今日に及べり。

營業種目 プレイキライニング、クラツチ フェーシング製造販賣

工場 板橋區板橋二ノ一二六

駐在員 大阪府北區中之島三井物産株式會社大阪支店

販 路 陸軍省、鐵道省、各大都市電氣局、各自動車製造會社、各乘合會社、海外輸出

従業員 七十名

取引銀行 三井銀行

特色 ダイヤモンドライニングの名は石綿工業界に於て定評あり、陸軍、鐵道省指定工場として大量納入せる他著名會社へ大量納入して好評を博しつゝある點から見ても既にその内容の堅實なる點も首肯出来る。

合資會社種邑商會

所在 深川區清澄町二ノ三
電話 本所 五六三六、三八二五、三九二五番
創立 大正十年
資本金 五萬圓
代表者 種邑つち

沿革 大正十一年故種邑馬之助氏が個人經營にて種邑商會を京橋區具足町に創立して自動車用品販賣に従事し逐次事業の發展に伴ひタイガーチェーンの製造を開始、昭和六年三月法人組織に改組して合資會社種邑商會となす、同十年現所在に移轉工場の擴張を行ひ現在に及べり

營業種目 タイガー印タイチェーン、タイガーチェーンプロック製造發賣元、自動車部分品、用品販賣、電氣熔接、鐵鎖

工場 深川區清澄町二ノ三
販路 陸軍省、鐵道省、自動車附屬品販賣店、一般運輸業者

従業員 五〇名
取引銀行 三和銀行

特色 當商會はタイヤチェーン製造を以て餘りにも有名である。タイヤチェーンは今次事變に於て戦線の泥濘惡路には不可缺のもので同方面の需要も多く隆々たる發展をなしつゝある。

種邑 つち

種邑商會代表社員
自宅 深川區清澄町二ノ三

明治十九年十一月廿五日茨城縣結城郡に於に生る、タイガーチェーンの製作者として著名なりし故種邑馬之助氏未亡人なり、夫君と共に初め淺草區南元町に洋靴商を開業せる後故人は大正二年感ずるところありて三井物産自動車陳列場内の吉田商店に勤務、自動車業界に進出の第一歩を踏み出し、更に三井物産自動車部、梁瀬商會を経て自動車販賣の經驗を積んで大正十年種邑商會を創立自動車用品販賣店を開業せるも設立當初は經營伸々容易ならず事志と反するの結果を招來せるも夫君を勉勵して遂に今日の隆昌を見るに至れり、その間内助の功は没すべからざるもあり、良く夫君を扶けて經營に子女の養育に努め家庭を顧慮せしめず夫君を事業に専念せしたるは業界周知の處、事業漸やく軌道に乗つて進まんとするとき夫君の他界の悲運に遭ふも屈するところなく敢然立つてそのあとを襲つて經營の衝にあたり事業の積極的擴張を行つて夫君在生當時よりも更に一段の飛躍をなし業界の女傑として譽れ高し、店舗を深川に移轉して工場を擴張、従業員の増員を行つて時局に對應する生産力の擴充を行ひ軍需方面にも進出して飛躍しつゝあるは獨り果敢な闘志によるもの愛國婦人會正會員として銃後の護りを固めるために一層努力しつゝあり。

大日本スプリング製作所

所在 芝區芝浦町三ノ一
電話 三田 一五一二番
創立 昭和九年八月
代表者 樹下昌

沿革 昭和九年大日本スプリング製作所を創立して自動車用シートスプリング専門製作に従事、逐次事業を擴張して第二工場を建設、日産乗用車六十臺、バス四十臺の生産能力を有して現在に至る。

營業種目 自動車用スプリング専門製作販賣
工場 第一工場 芝區芝浦町三ノ一
第二工場 品川區西品川四丁目
販路 日本フオード、日本ゼネラルモーターズ、トヨタ自工、日産自動車、共立自動車、後藤車體製造、倉田重工業
従業員 六十五名

特色 當所は自動車用シートスプリング専門製作で日産乗用車、バス八〇臺より百臺の生産能力を有して、専門用機も整備して居り國産車の擡頭と共に需要も増加する一方だからその將來性は期待さる。

所主樹下氏は明治三十五年福井縣に生れ。大倉商業を卒業して家業の手傳をなし後旭工業所支配人となり現在に至る。

太陽 商會

所在 麻布區東町二六
電話 三田 八五八、八五九番
創立 大正十三年
代表者 竹内軍平

沿革 大正十三年太陽商會を設立して自動車部分品、附屬品卸に従事、工場を新設して自動車部分品、附屬品各種製作を開始して現在製作卸をなす。

營業種目 トライアングルオートスプリング、タイヤ、トーン、其他附屬品製作卸

工場 麻布區新廣尾町一ノ一二
販路 自動車部分品販賣業者、一般
従業員 十五名
取引銀行 第百金杉支店

特色 當商會は都下中堅メーカーとして既に傳統的な需要層を有して居り、最近の如く鐵鋼配給の制限は可成の打撃を受けてゐるが、資材手當も長い取引關係から比較的潤澤なので需要の増加に伴ひ一般的には活況を呈してゐる。竹内氏は長野縣の人、堅忍不拔の精神を以て勉勵して今日の如き大をなすに至る。技術家的な肌合の人で従業員よりも敬服され上下一致してこの難局にあたつて居り、當商會の前進は大いに注目されてゐる。

大日本機械工業株式會社

本社 本所區築平橋一ノ二
電話 墨田 一一〇一—一番
創立 大正五年十二月
資本金 一千萬圓
役員 社長 岡崎久次郎、常務取締役 江田常吉、
同 岡崎進

沿革 當社は、大正五年十二月大日本自轉車株式會社を創立せられ本邦輪業界の第一流會社として活動せるも時運の進展に伴ひ重工業方面に進出、自動車部分品、精密機械、航空機部分品製造を開始せり、昭和十三年一千萬圓に増資してマキ自動車製造株式會社を創立するに至れり。

營業種目 自轉車、自動車部分品、護謨製品、精密機械、航空機部分品

工場 本所築平工場、向島吾壩工場、大阪工場
販路 内地、朝鮮、臺灣、滿洲、諸外國

特色 當社は時局發生以來重工業界へ積極的に進出してきた、神奈川県大船に新工場を建設すべく目下計畫を進めてゐる。自動車パーツも東京自工、日産、トヨタ等大會社に納入されてゐるのでこの方面の受注も増加するものと見られ、マキ自動車製造會社を存會社として創立、木炭自動車の大量生産にあたることになつたので、當社の自工界への進出は將に目ざましきものがある。

大惣 商店

所在 本所區練町四ノ九
電話 本所 八四六番
創立 大正十三年
代表者 大森和作

沿革 大正十三年大惣商店を創立して機械工具類の販賣に従事せり、逐次事業を擴張し製作方面に進出すべく鋭意各種工具類の研究を積んで昭和四年自動車用工具類の製作を開始、後自動車部分品製作、販賣を開始して自動車界へ進出今日に及べり。

營業種目 I・F・Kベアリング、NDSスパークプラグ發賣元、自動車部分品、自動車用工具類製作販賣

販路 東京、地方(特に鞆固な地盤あり)

従業員 三十名

取引銀行 第一本所支店

特色 當店は多年にわたる地方需要家に呼びかけて地方業者より絶大な信用を博しつゝあり、殆んど全國各地に有力な顧客を有して多年の取引をなしつゝあることは最も強味である。近來東京業者こそぞつて地方進出を目ざしつゝあるときこの先鞭をつけた先覺者である。
大森氏は明治廿八年石川縣に生れ、鬼才を縦横に揮つて今日の偉大なる成功を収めた非常な活動家である。

染谷商事株式會社

本社 麻布區新廣尾町一ノ二二
電話 三田 一六四〇、一六四一番
創立 大正元年(染谷鐵工所設立)
資本金 貳拾萬圓
代表者 取締役社長 染谷關太郎

沿革 昭和十一年二月廿一日染谷鐵工所販賣部の營業を譲り受けて獨立染谷商事株式會社となり自動車部分品販賣に従事して今日に至る。

營業種目 自動車部分品、用品、並に諸機械器具製作販賣

工場 品川、蒲田、川口

販路 内地(樺太ヲ除ク)及海外

年商 參拾萬圓

従業員 十六人

取引銀行 安田銀行麻布支店 紐育ナショナルシチバンク東京支店

特色 從來自動車部分品製作業者は問屋に製品を卸すのみで販賣にあらず、爲に仲間業者が巨利を占める結果となり、當社の前身たる染谷鐵工所では敢然販賣部を設立して仲介を排して販賣網を整備すべく獨立會社に分

離獨立して直販により當所の製品の優秀なるを充分に認識せしめ、海外市場にも積極的に進出して近東諸國は勿論遠く印度、濠洲、南米へも輸出せられ國産パーツ輸出の先驅をなす、染谷鐵工所が理研鍛造株式會社に合併せるも當社は存続して同社の自動車部分品販賣にあつて居り、基礎は磐石の如く信用絶大なり

染谷關太郎

染谷商事株式會社社長
自宅 麻布區新廣尾町一ノ二二
電話 三田 三五二五番

明治十六年十一月横濱市に生れ、年少氣銳の氏は自動車工業の將來を洞察して染谷鐵工所を設立して技術的困難なりと云はれた鍛造品製作に乗り出し業績大いに擧り大正七年には東京鐵工所を設立して社長に就任、非凡なる氏の事業的手腕は染谷鐵工所、東京鐵工所の今日の大をなす基礎となつた。氏の自動車工業に致せる功績大なるものあり、昭和十三年理研コンツェル總師大河内博士と相諮り染谷鐵工所を母胎として理研鍛造株式會社(資本金五百萬圓)を設立社長に就任自動車工業界の第一線に立つて活躍さる。氏は現東京市會議員として市政に參與し市會の明朗化をはかりつゝある清康の士である。東京自動車工業組合常任理事、東京自動車組合役員、所得稅調査委員の諸職を兼ねてゐる。

鶴岡スプリング製作所

所 在 芝罘愛宕町二ノ一五
電話 立 芝罘一七四八番
創立 明治廿四年
代表者 鶴岡瀧吉

沿革 明治廿四年東京馬車鐵道會社のスプリング製作にあたり、明治四十二年に鶴岡瀧吉氏が經營を主宰して自動車用スプリング製作に進出し現在に及べり。
昭和七年安全自動車株式會社指定工場となる。

營業種目 ライオンスプリング製作元
工場 蒲田區六郷三ノ二〇
販 路 内地、朝鮮、臺灣、滿洲國、南洋、印度、濠洲、其他海外市场

従業員 百名
取引銀行 第百銀行、第一銀行

特色 ライオンスプリングは東京安全自動車株式會社が發賣元として販賣に力を注いでゐる結果、他のメーカーの大規模生産のものよりよく市場に出でゐる。而して長年にわたる苦心研究の結果實際使用中の經驗から割出されたものにつかつてつぶさに研究を積んで改良せられたるもので國産として完璧に近いものである。現下の非常時に遭遇して材料手當にかなり窮屈を感ぜられるがさしあたつて不安なし。蒲田新工場の大操業により生産力は更に増大す。

鶴岡 瀧吉

鶴岡スプリング製作所主
自宅 芝罘愛宕町二ノ一五

明治二十二年七月五日芝罘愛宕町に生る。明治四十二年父君の遺業たるスプリング業を継ぎ、刻苦精勵家業の進展に大いに努力専心せり、同所はその創業明治二十四年にして東京馬車鐵道のスプリング製作にあたりスプリング製作の草分けとして當時技術的には並々ならぬ苦心を要したり、氏は自動車本邦にも輸入せられるやこれに關心を寄せ試作的に幼稚なる設備しか有せざる工場に於て自動車用スプリングの試作品を見事完成せり、これより自動車用スプリング製作に確信を有するに至り製作を開始せるも、自動車も數ふる程度しかなくために需要も僅少で自動車用スプリング製作は採算的困難なりしがよくこの經濟的壓迫とたゞかひ、更に研究を重ねて理想的スプリングの完成に努めたり、その勞苦が漸やくにして酬ひられて昭和七年安全自動車株式會社の指定工場となるに及び需要も急激に増加を見るに至り、工場設備の改善を行ひ大量生産設備を完成してその製品は南洋、印度方面の海外市场にまで進出してライオンスプリングの名聲をとどろかせつゝある。氏が今日まで國産自動車工業に寄與せるはこの一事に止まらず東京自動車商組合評議員として亦然り、現に愛宕町會長として近隣の人望益々高し。

合資會社中陸商會

所 在 本所區東兩國三ノ一
電話 本所 五六一二番
創立 大正十四年
資本金 貳萬五千圓
代表者 代表社員 中 陸祐

沿革 大正十四年本所區小泉町に中陸商會を設立、用品販賣を經營、業務の擴張に伴ひ法人組織に改め本所區菊川町に支店を開設して販賣網を擴充してタイヤ其他各種用品販賣に進出今日に及べり。

營業種目 横濱ゴム製造株式會社製品特約販賣店、ヨコハマタイヤ元賣捌店、(自動車タイヤ、小型自動車用タイヤ、コンプレッサ用ホース、水道用ホース、自動車フアンベルト其他)用品販賣

支 店 本所區菊川町二ノ七〇
販 路 東京、地方タイヤ販賣店、運輸業者、一般従業員 十五名

取引銀行 安田本所支店、昭和本所支店
特色 當商會はヨコハマタイヤスーパーディーラーとして東都タイヤ界一方の雄で、一ヶ月のタイヤ受扱高も都下有數に數へられて居り、堅實な内容と商品の豊富なるは常に當店の誇りとしてゐるところである。

中

陸祐

中陸商會代表社員
自宅 本所東兩國三ノ一

明治廿八年四月三日三重縣志摩郡磯部村に生る。長ずるに及んで上京、直ちに中央郵便局に入り通信員勤務の傍刻苦勉學を續けるうち官界より實業界に轉ずべく牛込區山伏町自動車部分品倉谷商會に入る、同商會に勤務すること二ヶ年にして自動車用品販賣店經營の眞髓をつかみ、業界の實情を知悉して獨立の決意を固めて、大正十四年中陸商會を創立するに至る。氏は獨自の經營方法ととり舊套を脱した新機軸の販賣經營は果然顧客の満足を買ふに至り店勢は急速に進展し、昭和四年には支店を開設して専ら販賣の確立に期する一方タイヤ専門販賣との方針を變更せり。爾來タイヤ界の中心勢力となつて東都タイヤ界をリードして今日の隆昌をなすに至れり。

氏は現に東京タイヤ商組合長たる他東京タイヤ販賣業組合常任理事、東京再生タイヤ工業組合常務理事の重要職によりてタイヤ界の推進力となつて多難なタイヤ界の革新のために盡力しつゝあり、氏は自己の所信を遵奉すること厚くかく信するに及んでは容易にその主張を挫けず常に業者大衆の立場に立つて行動するため正義の士として組合員の信任益々厚く、氏も亦組合員を信頼すること深く兩々相和して業界の向上發展に努めつゝあり。

野長瀬忠男

東京車輪製作所社長
自宅 千葉縣船橋市小栗原一三八番地
電話 北千幡 二一六番

明治十一年三月十八日和歌山縣に生る。明治三十五年渡米して工業學校に入り銅の焼入法を研究後製鋼會社にて實地に専門研究をなして最高技術を習得して明治四十二年その明晰なる頭腦に新智識を得て歸朝、大正四年帝國發條製作所を創立して各種スプリングの製造を開始す大正初年我國工業界の水準は甚だ低く氏の拂つた犠牲的努力は甚だ大なるもありしも、不撓不屈の學究的態度は良心的製品の製作のため鋭意研究を重ねて遂に今日を見るに至り、帝發の名と共に氏の盛名は重工業界に高く、國産振興に至せる功勞没すべからざるものあり、昭和九年帝國發條製作所大同製鋼株式會社と合併、常務取締役任に就任し現に東京探題として縦横に活躍す、氏は國産自動車工業の確立を期して昭和九年東京車輪製作所を設立して社長に就任、自動車用車輛の大量生産に着手す、蓋し大組織に依る自動車部品工場の大規模な生産に着手す、蓋し先覺者である。東京車輪製作所の設立計畫も具體化され自動車部品工業界に野長瀬プロックを結成しつゝある。現に前記重役の他石井鐵工所、三泉工業株式會社取締役を兼ねてゐる。

合資會社石橋計器製作所

所 在 芝島區西巢鴨三ノ八二九
電話 芝島田村町二五一
創 立 昭和二年
資本金 拾五萬圓
代表者 代表社員 石橋毅

沿革 當所は昭和二年石橋毅氏が個人經營として創立せられ自動車關係メーターの製作に従事、逐次業務の擴張を行ひ販賣部の新設により販賣網を擴充次いで昭和十三年新宿工場の完成により生産力を擴充して増産にあたり今日に至る。

營業種目 タクシー・メーター、スピード・メーター、ゲージ類、自動車關係メーター、部分品製作販賣
工場 葛飾區新宿三ノ二九八九(一、三〇〇坪)
販 路 自動車製造會社、自動車運輸事業關係者、其他一般
従業員 百五十名

特色 當所は近時異常に躍進せる計器會社で自動車工業界に石橋計器の名は逐日昂りつゝある。當所の代表社員石橋毅氏は千葉縣有数の資産家にして故貴族院議員石橋謹爾氏の嗣子で早稻田大學理工學部を卒業するや計器界への進出を企圖してこれが研究に着手、石橋計器を創立して本格的に乗り出す、需要増加せるため拾五萬圓に増資新工場を建設増産をはかり、再び五十萬圓に増資内定せり、舊工場でパーツ製作を計畫中で躍進を期待さる。

株式會社柳本ブラザー商會

所 在 澁谷區上通二ノ三六
電話 青山 六一七九、七五九二番
創 立 大正十三年六月一日
資本金 拾萬圓
代表者 代表取締役 柳本光三

沿革 大正十三年六月合資會社柳本ブラザー商會を創立して自動車用品商を開業せり、ブリヂストンタイヤ株式會社元賣捌店となるに及んで用品販賣界一方の雄として活動、逐次市内三ヶ所に支店を設けて販賣網を擴充せり、昭和十一年株式會社に改組し資本金拾萬圓となし現在に及べり。

營業種目 プリヂストンタイヤ株式會社先賣捌店(自動車用、小型自動車用タイヤ、チューブ)ガソリン油
販賣、自動車部品、附屬品販賣

支 店 麴町區麴町八ノ一三(九段二七八六番)
赤坂區溜池町三〇(赤坂一六一七番)
四谷區新宿一ノ五(四谷六二六五番)
東京 地方(特ニBSタイヤ販賣店)
從業員 十五人

取引銀行 日本晝夜澁谷支店、第百麴町支店
特色 帝都用品界の第一流店にして、近時頗る活發な活動を展開しつゝあり、中堅販賣業者の九日會の盟主として重きをなし、今や帝都の代表的用品商として縦横に活躍しつゝあり。

柳本 光三

柳本ブラザー商會代表取締役
自宅 澁谷區上通二ノ三六

氏は山梨縣の人、明治三十一年一月十日同縣北多摩郡蕪崎町に生る。甲府商業學校を業技優秀の成績を以て卒業するや新天地を求めて權太に渡り材木業を營み、果敢な闘志と不撓不屈の努力の結果は同地に於て異常の成績を収めたり、氏は秘かに中央進出の機を窺ひ大正十三年上京、柳本ブラザー商會を創立して令弟等これに協力して遂に今日の隆昌を見るに及べり、氏の烈々たる氣魄は青年的意氣と共に遂に帝都用品界の曉將として將來の大成を確約せられ、九日會を結成して用品界の中堅層の進氣鋭の士を糾合して一大勢力となし用品界を縦横に闊歩して業界の革新を實現しつゝあり、九日會の盟主として氏の存在は實に大きく、その行動するところ必らず大きな渦を投ぜり、BS社長石橋正次郎氏の信任厚くタイヤ販賣に於けるよき相談相手としてその進言を容れられ絶大な信用を博しつゝあり、今や石橋氏の後援を得て兩ひ新天地の飛躍を期してゐる。政治に經濟に識見高く高邁なる論旨を以て業界の革新的な指導に任じ、東京タイヤ販賣業組合常任理事、東京自動車商組合用品部副部長の樞要の位地にあつて常に業界向上發展のため盡力、次代の自動車業界を擔當する人として衆望をあつめてゐる。

株式會社柳生商店東京支店

所 在 赤坂區溜池町一五
電話 赤坂 四六〇、六四〇番
創立 大正十年八月一日
資本金 五拾萬圓
代表取締役 柳生喜代治、取締役東京支店長 大江縫之助

沿革 大正十年八月神戸柳生商店主と獨逸ロバートボツシュ株式會社との間にボツシュ製品の本日本一手販賣契約締結されるや大江縫之助氏個人經營に成る大江商店を合併京橋區宗十郎町に柳生商店東京出張所を開設、大正十二年一月柳生商店東京支店と昇格、大震災の厄に遭ひ現所在に移轉、爾來業務は益々擴張されるに及んで昭和十三年株式會社に改組して現在に及べり。

營業種目 獨逸ロバートボツシュ會社日本一手販賣
本社 神戸市神戶區江戶町八四(三宮八九七、一一五三)
支店 福岡市小町一〇
取 引 銀行 日本全土

特色 當社は十三年五拾萬圓の株式に改組された、ボツシュ製品が世界的な著名なるのみならず、その性能は他の追随を許さず、輸入管理下打撃大なるものが見込れるも、友邦獨逸と好誼は善親の度を加へ通商の積極策に好轉されつゝあるので今後の期待大なり。

大江縫之助

柳生商店東京支店長
自宅 目黒區上目黒七ノ四七三

明治二十九年三月廿五日に生る。氏は名門の出身、明治三十六年八月上京、東京ゴム株式會社銀座販賣店に入社傍ら下谷實業補習夜學校を卒業、つぶさに苦學力行の辛酸を嘗めて修養に努め、同社の解散せられるや銀座二丁目三國貿易株式會社に入社せるも在社僅かにして神戸柳生商店に入社滿一ヶ年攸々として貿易實務を習得して一年、その間貿易事業の妙諦を知り雄心勃々として起り獨立を志して上京、下谷區下車坂町に大江商店を創立して貿易事業を開始して事業へのスタートを切る。大正十年柳生商店がボツシュ製品日本一手販賣にあたること、なり全国的に進出せんとする時、氏と柳生氏との提携成り、大江商店を柳生商店に合併して東京出張所長となり柳生商店今日の隆昌に多大の貢献をなす、折柄の歐洲大戰好況の波に乗つて業績著しく躍進、東京支店に昇格して事業の發展を圖る、爾來自動車界も飛躍的な躍進を遂げボツシュ製品の需要も遂に増加、國產自動車製造が着手されるに及んでもボツシュ電機用品は未だ不可缺のものとして自工確立のため重要な役割を果し、東京探題として柳生氏を輔けて今日に至る。株式改組と共に重役に列し、濃厚篤實の紳士として尊敬せられてゐる。東京自動車商組合生みの親の一人で業界のためによく盡力せらる。

株式會社ヤマトメタル商會

本社 京橋區銀座三ノ五
電話 京橋 七二九、四三三七番
創立 大正七年八月
資本金 五拾萬圓
代表者 社長 大塚榮吉、取締役 町田登
沿革 當商會は大塚榮吉、町田欽之助氏等によつて國產軸受用白色減摩合金の不振なる現狀を打開すべく大正七年八月創立せらるに至り、國產メタル界の嚆矢をなすものである。

爾來銳意これが研究に努力し、多大の犠牲を拂つて今日國產メタル界の先驅的役割を果して我國重工業界に寄與するところ尠からざるものあり、東京、大阪兩工場をはじめ全國に七ヶ所の營業所、出張所を開設して躍進しつゝあり、業績も良好に推移して今日に及べり。

營業種目 軸受用白色減摩合金
大阪營業所 大阪市西區立賣堀北通二ノ一四
九州營業所 小倉市島町三三
横濱出張所 横濱市中區住吉町二ノ二一
札幌出張所 札幌市大通西二、八
(名古屋、神戸、大連の三ヶ所に出張所開設)
月島工場 京橋區月島仲通五ノ六
大阪工場 西成區辰巳通
販 路 自動車製造會社、機械製作會社、車輛製造會社、其他一般

従業員 三百名
取引銀行 三井銀行

特色 當商會は國產軸受用白色減摩の専門製作界に於ては最古の歴史を有して居りその性能は頗る優秀なるを以て定評あるところだ、當商會が斯業に進出して今日をなすに至るまではその經營上に於ける苦心は並々ならぬものがある。今や軍需工業を中心とする國產メタル界は未曾有の需要を見るに至り、生産力の不足を嘆いてゐるが、今後斯業は一段の活況を呈するものと見られる。

當商會の社長は今ときめく大塚榮吉氏であるが氏は多忙の身なるため獨りヤマトメタルの經營のみに専念することを得ず各種事業を總覽するため留守勝ちのあと町田氏を中心となりて經營方面を引受け逐日發展に進みつゝある。今や東京をはじめ全國大都市に營業所、出張所を有して堅陣を張り、一方製造工場も近代的設備を有する月島、大阪兩工場を擁して、需要の増大に對して可及的速かにこれが供給にあたることをモットーとして進んでゐる。然るに軍需を中心とする需要の方は逐次増加の傾向にあるので當商會も遠からず工場の大擴張の必要に迫られてゐるので増資擴張計畫を鋭意進めてゐる、時局景氣の波に乗つて躍進への大道をひたはしりに進んでゐるその前途は洋々たるものあり。

山本放熱器製作所

所 在 荒川區日暮里一ノ八三五
電話 下谷 八三九五番
創立 昭和四年八月
代表者 山本一二

沿革 昭和四年山本ラヂエーター製作所を創立して自動車用ラヂエーター其他各種ラヂエーター製作にあたり事業の發達に伴ひ第一工場の他に機械部の新設して國產放熱器製作界に進出せり、國產自動車工業の急擡頭により需要激増するに至り現に第二工場の完成を待つて月産三千五百臺の増産をなすべく鋭意操業を急ぎつゝあり。

營業種目 山本放熱器、山本暖房器製作發賣元
第一工場 荒川區日暮里一ノ八三五
第二工場 荒川區日暮里町屋三丁目
機械部 荒川區日暮里一ノ八三六
販 路 トヨタ自工、萬才貿易、其他自動車製造、販賣業者

從業員 一〇〇名

取引銀行 昭和山谷支店

特色 當所は商工省優秀部分品と認定されるに至り、國產ラヂエーター界のために大いに氣を吐いた、トヨタ自工と特契あり新工場を建設して生産力の擴充をはかる今後の飛躍大いに期待さる。

山本

一一一 山本放熱器製作所主
自宅 荒川區日暮里一ノ八三五

氏は明治三十一年山口縣豊浦郡黒江村に生る。十七才にして單身上京して、當時來朝中のイタリ人パトントン氏とふとした縁より相知るに至り、パトントン氏の研究しつゝあつたラヂエーター研究に助手として入り種々ラヂエーター研究をなし今日ラヂエーター製作界に覇を唱ふる素地を築いた。亦國產ラヂエーターの權威者たりし岩藤重正氏にも師事してラヂエーター製作、修繕の眞髓を極め昭和四年母堂より小資本を貰ひ山本ラヂエーター製作所を創立してラヂエーター修理を始め業界へのスタートを切つた。以來榊風沐雨十數年一日として研究を怠たらず、不撓不屈放熱器を以て目標にかえるの意氣を以て一意これが完成に努め遂に優秀ラヂエーターを完成するに至り、商工省より優良部品として認定されるに至る。氏は立志傳中の人で、烈々たる氣魄のなかに古淡な風格あり大なる包容力を備へてゐる苦勞人である。山本放熱器製作所が今日の大をなした所以のものも撻まざる努力によるものである。今や大飛躍計畫は着々具體化してラヂエーター界制覇の日も近かるべく前途大いに嚮望さる氏は日暮里交和會常任理事、安全委員囑託、水難救濟會正會員、帝大精機協會正員の要識にあり。

株式會社山本工場

所 在 品川區東大崎五ノ七
電話 大正四年
創立 大正四年
資本金 五拾萬圓
代表者 取締役社長 山本榮男

沿革 當工場は山本榮男經營のもとに、故澁澤榮一子故平岡烈氏及び佐々木勇之助氏の出資により設立せられ同十三年山本、平岡兩氏の合名會社組織に改め、昭和十三年四月業務の擴張に伴ひ株式會社に改組して積極的に自動車用スプリング製作に乗り出す、同年七月商工省より優良部品の認定を受けた。

營業種目 自動車スプリング、車輛用スプリング、コイルスプリング、ミネートスプリング

工 場 品川區東大崎五ノ七

販 路 鐵道省、車輛會社、自動車製造會社

特色 當工場は既に設立より二十數年にわたり車輛用スプリング製作では定評あり、自動車用スプリングを製作してより未だ日淺いが既に優良部品の域に入り、學究的な山本氏は完備せる研究室を以て資材の入念検査、製品の改良向上に努力して熱處理にあたつてゐるので當工場製品の性能は推獎さるべきである。

合資會社山尾商店

所 在 下谷區御徒町二ノ二六
電話 下谷 二九三五番
創立 昭和六年十月
資本金 參萬圓
代表者 山尾鹿太郎

沿革 大正二年萬歲貿易商會を起し貿易事業を開始、同商會を白田氏に譲渡して昭和六年獨立、山尾商店を設立せり、爾來業務を擴張して製作方面に積極的進出を圖り今日に及べり。

營業種目 やよい速度計發賣元、自動車用品、部分品
機械工具製作卸販賣

工 場 淀橋區大久保百人町

販 路 各自動車製造會社、自動車用品販賣業者、其他一般

取引銀行 第百芝支店

特色 當店製品は小規模生産ながら性能は絶對的に優秀なもので日産、自工、高速、トヨタ自工の大メーカーの大量納入は近時當店の主要事業となつて居り、山尾氏の多年にわたる業界生活は中庸を得て秩序整然たり、事業も亦同様堅實經營を以てモットーとしてゐる。各方面の信用絶大なるものあり。

第百ラヂエーター製作所 マコト商會

本店 足立區千住東町五一
電話 二一八五番
創立 大正十年
代表者 星野定一郎

沿革 大正拾年本所區堅川町に自動車修理工場を開設昭和七年よりラヂエーター専門修理にあたり繁忙を極め事業の擴張をはかり昭和十一年足立區千住曙町所在に工場を新設して製作方面に積極的進出をなす。

營業種目 ラヂエーター製作修理
支店 本所區堅川町二ノ一(電話本所八五五一)
工場 足立區千住曙町
取引銀行 日本全土、一般運輸業者
從業員 二十名

取引銀行 愛知銀行千住支店
特色 當商會はラヂエーター製作販賣並に修理を主要營業として居り、近時ラヂエーターの需要は國産車の増産に伴ひ激増するに至り、ラヂエーター界は生産力の擴充に努めつゝあるが、尙足ざる状態にあるから、當商會の事業も益々好望されて居る。當主が納期嚴守をモットーとしてゐるので取引の着實なるは定評あり。

星野定一郎 (通稱晴司)

自宅 足立區千住東町五一

明治廿一年十一月十一日栃木縣下都賀郡桑村に生れ、明治卅九年志を立て年少十九歳にして上京、工業で身を立てるべく先づ一般機械工としての修業を重ね、自動車工学に興味を持ちこれが研究に専念、大正三年石川島造船所自動車部に勤務、第一回ウズレー(スミダの前名)試作に従事して、この國産自動車工業史を飾る歴史的事業に参加し、自動車製造技術を習得せり、後渡滿して未開の滿洲に雄飛して歸朝、大正十年今日までの経験と卓絶せる技術を以て東都自動車修理界に登場、漸次事業をも擴張して自動車修理より専門修理にと經營方針を一轉して高級技術を要するラヂエーター修理を始む、これよりラヂエーター界の趨勢を見るに國産自動車工業の據頭は國産ラヂエーター製作機運を促進する筋合にあり、英斷を以て昭和十年には困難視されたラヂエーター製作に着手、今日需要旺盛を極め現工場のみでは需給の圓滑を期し難きまでの隆昌を來たすに至る。氏は性温厚にして潤達之士なり、東京ラヂエーター工業組合長に推され同業者間の信望も亦篤し、學究的な一面はその趣味の科學研究によりよく現はされてゐる。

誠商會

所 在 芝區琴平町二
電話 五七四、五七五番
創立 大正十二年
代表者 守戸平四郎

沿革 當商會は大正十二年設立せられ自動車用品販賣を開業、ついで横濱支店、輸出部を設立して今日に至る。

營業種目 東京鋼材株式會社製品一手販賣、附屬品、部分品、工具類製作販賣
從業員 四十五名
取引銀行 三菱銀行、住友東京支店
特色 火曜會のメンバーで都下有力販賣店である

近來用品卸不振のとき斷然たる強味を示しつゝあり盛大を極む。

代表者守戸平四郎君は岡山縣小田郡笠岡村に生れ長ずるに及んで米國に渡り、數年間研究の上歸朝、麻布區飯倉町に守戸商會を起して自動車用品販賣業を營む。その後大正十二年現在の地に誠商會を創立し用品部分品の直輸入業を開始す。支配人小林氏と協力して遂ひに今日の地盤を築き上げた。當年五十三才、石の如き堅實さに於て業界に並ぶ者無し。

深川商會

所 在 本鄉區湯島二ノ一
電話 小石川 五七三七番
創立 昭和二年四月
代表者 深川豊

沿革 大正十五年深川商會を創立、自動車部分品、附屬品、オイル販賣にあたり、昭和五年電機部を新設して蓄電池製作修理を始む。

營業種目 自動車部分品販賣、電機部品製作修理販賣
支店 靜岡縣御殿場町
取引銀行 市內及地方一部、一般運輸業者
從業員 十名
取引銀行 三和銀行本郷支店
深川 豊

明治三十七年四月三日横濱市中區大岡町に生る。大正十二年芝區末廣商會にて修業、大正十五年深川商會を設立自動車業界へ進出第一步を踏み出す、爾來十年一日の如く自ら陣頭に立ち店員を指導督勵して業務の發展に當り蓄電池製作にまで進出するに至る。現に東京自動車商組合評議員、湯島自動車商工業組合、町會役員の諸職を兼ね、社交圓満にして温情深く業界の中堅として大いに期待さる。

小糸製作所

本社 品川區東品川四ノ二六
電話 高輪 二〇九、二一〇、二一八、六七七八番
創立 大正四年二月
資本金 五百萬圓
役員 取締役社長 小糸源六郎、専務取締役 山本素久、常務取締役 小糸啓介、同 加藤眞一

沿革 大正四年現社長小糸源六郎氏の個人經營として出發し爾來二十餘年本邦照明器界の最高峰として君臨しその間海軍、陸軍、鐵道、逓信省の指定工場となり、照明器製作より硝子製造へ更にこれが加工へと多角的經營に移り昭和十一年資本金五百拾萬圓の株式會社に改組されて近々二年足らずにして五百萬圓に増資せられ一貫作業の徹底を圖り生産力も増大するに至れり。

營業種目 自動車前照燈及部分品、機關車及車輛用電氣機器、航空機用照明器及電氣器具、艦船用照明器及其附帶工事、高級金屬及射鏡、硝子製品（安全硝子、強化硝子、レンズ其他）

出張所 大阪市北區堂島中一ノ三九
販路 諸官廳、滿鐵、自動車會社、造船會社、鐵道會社、電氣會社、其他

従業員 三百五十名

取引銀行 第百銀行

特色 照明器製作工業が、近代産業の重要部門として確固たる地位を占め、これが獨占制覇を完成せんとする當社は今後に確約される斯業の輝かしき發展を一身に擔ふべき會社である。當社が僅々二年足らずのうちに堂々業界を席捲して五百萬圓の大會社となつた所以のものは一、技術に長き經驗を有し製品の優秀さは絶対に他の追隨を許さなかつた、従つて製品の販路も獨占的である。

一、材料から製品への一貫作業が確立し採算的に有利な状態におかれて居り、絶えず時代に順應する新製品の製作に着手してゐる。

この企及し得ざる幾多の優秀性を具備して居ることによるもので、當社が異常な収益力を示めし八分配當を餘裕綽々裡に行ひ近く増配を意圖してゐるのも、この間の事情が十分に覗ひ得られやう、今後の大飛躍には期して待つものがある。

當社は今春五百萬圓増資を機に一部株式の公開を行つたが小糸社長一門によつて大半を所有されて居る時局會社の白眉である。

小西製作所

所在 赤坂區傳馬町一ノ一九
電話 青山 六三三五番
創立 昭和二年
代表者 小西一男

沿革 昭和二年小西製作所を創立してイグニツションパーツの製作を開始、斯業へ先鞭をつけ業績大いにあがり昭和八年店舗を改築、工場を芝區三田四國町に設け、大阪に出張所を開設、製作販賣の機構を整備す、後工場を蒲田に移轉して現在に及べり。

營業種目 タングステン接點、アームデストリビューター、カツプスデイストリビューター、ローターカボンブラツシュ

出張所 大阪市天王子區東高津
工場 蒲田區桃谷二ノ六一三
販路 東京、大阪、各地方自動車用品部販賣店
自動車製造會社、一般

従業員 二十五名
取引銀行 第一赤坂支店

特色 當所の製品は頗る優秀にして既に定評あり、電氣部分品製作が高度の精密技術を要するものなるため製品の優秀は絶對的條件であり、この點舶來を壓倒する優秀製品を有することは大なる強味で電氣パーツ界の權威として知られてゐる。

株式會社石川ガスケツト商會

所在 芝區琴平町三九
電話 三九一四、四四一〇番
創立 昭和七年六月一日
資本金 五萬圓
代表者 社長 石川勝四郎

沿革 昭和七年六月ガスケツト専門製作を目的として石川ガスケツト商會を創立、事業の進展に伴ひ昭和十年四月株式會社石川ガスケツト商會と改稱するに至れり、逐日事業は發展隆昌に進み本邦ガスケツト界をリードするに至る。昭和十三年商工省より自動車優良部分品として認定せらる。

營業種目 自動車、航空機、各種内燃機關用ガスケツト、パツキング、ゴム製造

工場 芝區櫻川町五七
販路 海軍御用達、日産、トヨタ、其他

従業員 二〇名
取引銀行 安田麻布支店

特色 創立當初は問屋の注文によつて年式遅れのフォード、シボレーのガスケツトを造つてゐたものであるが數年ならずしてニッサン、トヨタのガスケツトのみで月産五千個も生産するまでに至り、過般の優良部分品認可になるや目下大いに感奮して増産設備中であつて、數ヶ月後には三倍乃至五倍の増産が可能となるので當商會の前途は洋々たるものあり。

海老原製作所

所 在 蒲田區羽田本町九一〇番地
電話 蒲田 四七一
創立 大正五年
代表者 海老原直太

沿革 大正五年品川區南品川三丁目海老原製作所を開設し自動車鍍金工業を始め、昭和十二年羽田本町現所在地に移轉、同工場建坪五百坪に營業所をも併設、再び昭和十三年三月増築工事完成す。

營業種目 自動車鍍金車體並鍍金製作部分品

飛行機各鍍金部分品一般製作

販 路 日産自動車株式會社指定工場、自動車製造會社、航空機製作會社

従業員 壹百名

取引銀行 安田銀行三田支店

特色 當所は本邦第一流の鍍金工業會社にして自動車工業の飛躍的發展に伴ひ益々事業は進展性を帯び當所の前途は愈々多大の期待をかけられるに至る。現に日産指定工場としてニッサン、ダットサンの鍍金工業部門を一手に引受け、本工場は模範的設備を以て知らる。海老原氏の積極經營は時流に乗つて發展の一途を辿りつゝあり我國産自動車工業界に於ける當所の役割は重要性を加へつゝあるから事業上の妙味も一層加つて業界の花形工場

である。

海老原直太

海老原製作所主
蒲田區羽田本町九一〇番

明治廿六年一月十九日茨城縣守谷町に生る。大正三年上京通信省に勤務官界に投じたるも熱血多感な青年であつた氏は實業界入りをして梁瀬自動車會社芝浦工場車體部長に轉じ本邦自動車鍍金工業界の先驅者として斯界の啓蒙に努力し萌芽期の自工業界の新鋭論客たる氏は遂に海老原製作所の創設となり爾來二十年鍍金工業界に覇を唱え斯界の指導に任じ國産自動車工業確立の線に沿つて活躍に努め、齋藤内閣時代開設せられた國産自動車工業確立委員會に列席して斯業の開發に貴重なる意見を開陳して傾倒せしめ自工業今日の礎となる。蓋し氏の功績の偉大なるは贅言を要せざる處である。統制經濟に先行して東京自動車々體鍍金工業組合を結成し當初より理事長として重責を果しつゝある。氏の唱導する精神主義は國家精神總動員の秋にあたり重大意義を持ち實踐窮行に努め全従業員より慈父の如く敬慕さる。戦時下物資需給計畫の強化に伴ひ東京鐵鋼製品工業組合常務理事に推舉せられ中小工業者の代表として血みどろの活動を續けて居り氏の存在は自工業のみならず迷へる中小工業者の父として益々重きを加へる至つた。

帝國護謨工業所

所 在 芝區今入町八番地
電話 銀座 二五五二、二六七六、五二一九番
創立 大正二年三月
代表者 高橋養治

沿革 大正二年合資會社帝國護謨工業所を創立してタイヤ修理を開始せるも業態惡化のため整理して高橋養治氏個人經營に組織を變更して甦生を策し今日の如く隆昌を見るに至れり、其間業務を擴張してタイヤ修理より自動車用品、部分品販賣に専ら意を注ぎ都下有数の用品販賣店の列に加はるに至る。

營業種目 自動車部分品、附屬品一般、ダンロップタイヤ販賣代理店、ロバートボツシュ會社製品販賣代理店
イワトマイカブラグ發賣元

工場 芝區琴平町二十九

販 路 東京、地方業者、其他

従業員 三十五名

取引銀行 住友赤坂支店

特色 當所は都下の有力販賣店の一として飛躍發展の途上にある。高橋氏の指揮の下に積極的販賣政策をもつて古豪の牙城を陥れて需要層の擴大に努めつゝある。販賣市場の代表的な店として注目され、タイヤ販賣など意表に出て功を収めること一再ならず發展を期待さる。

高橋 養治

帝國護謨工業所主
芝區今入町八(銀座 二五五二番)

明治十八年八月三日宮城縣名取郡玉浦村に生る。氏は長ずるに及んで神戸ダンロップ護謨極東株式會社に入社して、タイヤ製造工業、一般ゴム工業の技術を習得せり既にダンロップは優秀な設備を有して大量生産にあたりこれが技術をマスターするまでの苦心は並大抵のことではなく一意研究にあたり研鑽を重ねて、多年の宿望なりし獨立を胸に抱いて物々たる雄心をおさへて合資會社帝國護謨工業所を創立して事業に着手せるも、暗礁に乗りあげてこれが離礁工作に狂奔せるも利あらず、遂に整理の餘儀なきに至るや氏は敢然整理を斷行して個人經營で再び業界へ歸り咲きすることになつた。爾來業務に勉勵して一層基礎工作の強化に努め、日夜の別なく奮闘して販路の擴張にあたり、之がため當所の業態はめきめきと刷新せられ今や都下屈指の用品販賣店として重きを加へつゝある。就中今日では帝都タイヤ界に陰然たる大勢力を築き漸やく人格圓滿の域に衆望を擔つて業界のために力を盡す、今後の活動は期待される所大なるものあり不惑を越へて元氣一杯自動車事業のため新機軸を出すべく目下考究中、將來業界に大センセーションを捲き起すものと見られてゐる。

TO商會

所 在 赤坂區田町一ノ五
電話 三九一一番
創立 昭和七年四月
代表者 鈴木保里

沿革 昭和七年四月三鈴社を創立して方向指示器販賣に従事、昭和八年十月TO商會と改稱して業務の擴張を圖り現所在地に移轉す、昭和七年方向指示器が法令を以て取付けを決定するや方向指示器製作者は續出して三十餘種を數ふるに及びその無統制亂脈はやがて優良方向指示器のみに淘汰されるに至り、當商會製品はその最優良品として聲價を昂めつゝあり、工場、サービス部を完備して大量生産により獨占制覇を進めて現在に至る。

營業種目 TO方向指示器製作發賣元

工場 瀧野川區瀧野川二〇五六

サービス部 大阪市此花區龜甲町一ノ九〇

取引銀行 第一赤坂支店

特色 當商會は方向指示器界の有力メーカーとして群雄を壓しつゝあり、最近では最新式設備を有する工場と熟練せる技術を以て大量生産に依り漸次王座の地位に進みつゝある。當商會の經營は堅實な經營方針を以て進んでゐる一面亦嶄新なる宣傳を以て思ひ切つた新奇な經營によつてTO方向指示器の眞價を發揮するやう努め、こ

れが成功して今日の如き隆昌を招來せり。

鈴木 保里 TO商會代表者
芝區田町一ノ五

明治三十二年十二月茨城縣北相馬郡山王村に鈴木寅吉の二男として生る。育英中學校を卒業中央大學法科に學び大正十二年卒業、官界に入り逓信省保險局庶務人事課に勤務、克く精勵して上司の認められるところとなり大正十五年十二月大臣官房文書課に轉じて益々その才幹を揮ひ同僚間より將來に期待されるものありたるも實業界へ轉身すべく官を辭す、昭和七年五月三鈴社を創立して方向指示器販賣により業界への第一歩を踏み出す、當時方向指示器は法令實施前で三十餘種にわたる方向指示器が出現して互に他の缺點を指摘して自社製品の長所をあげるに急なるとき、氏はかゝる常習手段をとらず新奇の經營方法を以て進み斷然その製品の優秀なるとに相俟つて需要遂日増大して今日ではTO方向指示器の名は内外に高く斯界の王座を占むるものである。今日かく事業を育成せる氏の經營的手腕は官界出身の業界人としては稀にみるものである。氏は温良の紳士歪んだことを蛇蝎の如く嫌ふ圓滿な人格者として衆望を擔つてゐる。TO商會代表者とし連日繁忙のうちに活躍するも餘暇をさいて俳句、書畫の風雅を愛好す。

大同製鋼株式會社 帝國發條製作所

所 在 向島區寺島町四ノ二二
電話 六九五、六九六、二一九〇、三〇五七番
創立 大正四年五月

資本金 一千三百萬圓

代表者 常務取締役 野長瀨忠男

役員 取締役 長 下出義雄、常務取締役 野長瀨忠男、川崎合恒、取締役 齋藤直武、同 島田忠次、同 齋藤直武、同 志村愷民、同 小野秀一、同 坂下忠雄、監査役 進藤甲兵、同 永松利憲、工場長 河原正貴

沿革 大正四年五月常務野長瀨忠男氏が創立、帝國發條製作所の名稱の下に各種バネ、並彈性鋼製品の製作販賣に従事、昭和六年十二月に至り株式會社に改組經營の積極性を加ふ、更に同九年百萬圓に増資工場設備の充實を期す、同年五月株式會大同電氣製鋼所と合併し優良なる素材を豊富に得、本來の技術と兩々相待ち斯界を制覇昭和十二年末川崎市に一大工場設立を劃し着々整備中なり。

營業種目 自動車用、車輛用、諸機械用、船艦及兵器用、各種バネ

支店 大阪營業所 大阪市北區堂島濱通り一ノ一

工場 東京向島、川崎市

販路 全國各地及朝鮮、臺灣、滿洲、南洋、印度

従業員 三五〇名

取引銀行 住友、三和

大吉商店 帝國ピストン製作所

所 在 日本橋區濱町二ノ三八
電話 五二二七番
創立 大正十三年三月

代表者 大久保 保

沿革 大正十年自動車修繕工場を開設、大正十三年大吉商會となり自動車部分品、附屬品販賣に轉じ後帝國ピストン製作所を設立してピストン製作に進出して現在に至る。

營業種目 特殊輕合金及鑄鐵ピストン

鑄物工場 深川區白河町二ノ十二

販路 自動車製造會社、自動車部分品販賣業者、一般

従業員 十五名

取引銀行 第百銀座支店

特色 大久保氏は明治三十一年日本橋區蠅蝨町一ノ二二に生る。神田工科學校より大村屋商店、宮本自動車、日本自動車等を経て獨立するに至る。その間自動車技術を研鑽して獨立自營するに及んでは販賣より製作に經營の中心を置くに至る。多年の技術的經驗は獨創の工夫を以て帝國ピストンの名を高からしめつゝあり、氏の人と成り剛氣潤達、信念の人として知らる。

寺岡製作所

所在 品川區南品川一―一四
電話 高輪 四六二七番
創立 大正十年二月
代表者 寺尾 省

沿革 大正十年三月寺岡製作所を創立して化學工業界に進出し漸次工場を増設、出張所の開設等を行ひ事業の發展を期し自動車附屬品製作を開始して今日に及べり。

營業種目 電機絶縁材料、化學用品、ゴム製品
出張所 大阪市北區曾根崎町一
工場 品川區南品川
販路 全國各地
従業員 三十名

取引銀行 住友銀行、日本晝夜銀行

特色 當初は大正十年の設立に關はり、特に技術的に深い經驗を有して居りその製品は廣く一般より認められて居る。現在原料手當には相當の苦心が拂はれてゐるが永年にわたる問屋との特殊關係はその點に些さかも不安なく受注も時局下に益々増大してゐるから當初の飛躍性は益々加へられるに至つた。所主寺岡氏は明治二十三年生れ、篤實温厚の紳士として内外の信頼を得て用品界一方の雄である。

株式會社アトラス商會

本社 神田區五軒町二十二番地
電話 下谷 六九八三番
創立 昭和五年三月
資本金 五萬圓

代表者 專務取締役 小谷延藏、取締役 安田右利

沿革 昭和五年三月各種ゴマツト、フェンダー、泥除の製造、販賣を開業、昭和八年十月株式會社に組織變更

營業種目 レインボウツト、ウインドクリナー、自動車用ゴマツト、ツカマリ紐各販賣元

販路 内地、朝鮮、臺灣、滿洲
年商 約十萬圓
従業員 十六名

取引銀行 第百神田支店、三和神田支店

特色 當商會は自動車用ゴム製品のデパートとして定評あり、その販路も遠く海外にまで伸びて居り、年商十萬圓に達してゐる。最近ゴム原料の輸入制限乃至は製品加工の禁止等の時局的重壓を加へられるに至り經營上にも可成りの影響が豫想されるが、取扱商品が多岐にわたつてゐるので深刻な影響はなく、都下優良販賣店として定評あり。

アト商會

所在 小石川區關口町一
電話 牛込 二〇〇六番
創立 大正六年
代表者 榊原郁三

沿革 大正六年アト商會を創立して自動車修理に従事、爾來業務の擴張をはかり分工場を開設、自動車用品製作をも開始するに至る。自動車修理としては最も古く確固たる地盤を有して今日に及べり。

營業種目 自動車修繕並にシリンドーボーリング、用品製作

神田分工場 神田區昌平橋際

販路 一般自動車運輸業者、乗合會社、其他
従業員 四十五名

取引銀行 昭和本郷支店

特色 當商會は創業三十年に及び自動車修理界の元老として重きをなして居る。遠く地方よりの注文も相當にあり現に自動車修理業のみにも収益力大なるものがあり、近年用品製作に進出して益々發展しつゝある。工場主榊原氏は長野縣上田市の人、明治二十六年を以て生る。自動車技術に造詣深く斯界一方の權威である。

愛國電氣工業所

本社 品川區北品川三ノ一九五
電話 高輪 八二五四番
創立 昭和九年二月
代表者 山口松太郎

沿革 昭和九年二月麹町區飯田町にサクラ電機工業所を設立、昭和十一年十二月に品川區鮫洲に工場及營業所を新設移轉、同十二年五月富士工業株式會社に合併、同十三年一月分離獨立して愛國電機工業所を起す。

營業種目 自動車、航空機電機部分品製作販賣

工場 日暮里工場 荒川區日暮里四ノ一一四三
大井工場 品川區大井鈴ヶ森一九三七

販路 國産自動車製造會社、航空機製造會社
従業員 四十五名

取引銀行 日本晝夜品川支店

山口松太郎

藏前高工を卒業、警視廳交通課技手を拜命、自動車々體検査官を経て、昭和九年獨立、昭和十二年五月富士工業會社と合併せるも再び獨立す、電機パーツ界の權威者として令名あり。

曙石綿工業株式會社

本社 豊島區高田南町三ノ七八四
電話 牛込 二八九六、六八三二番
創立 昭和四年一月
資本金 四拾五萬圓
役員 取締役社長 納三治、常務取締役 久本一吉
沿革 昭和四年曙石綿工業所創業、専ら石綿布製、石綿モールド製、セミ・モールド製の各種制動機用制動帶及び聯絡機用摩擦板其他摩擦材料一式の製造に従事、其後事業の進展に伴ひ昭和十一年一日その組織を改め曙石綿工業株式會社と稱するに至る。
營業種目 石綿制動帶並に摩擦板、其他摩擦材料一式
名古屋駐在員、中區南大津町一ノ一〇千代田ビル
大阪駐在員、南區安堂寺通三丁目三菱商事大阪支社内
工場 豊島區高田南町三ノ七五二
販路 主要國產自動車會社、國內自動車一般市場
海外自動車市場、航空機、電氣、工業、鑛業、機械方面
従業員 一一〇名
取引銀行 住友新橋支店、三和
特色 石綿工業界のナンバーワンで近時特殊需要はじめ民需も旺盛で現在の生産力では不足の恐れあり擴張計畫を進めつゝある、諸材料の値上りはさして影響を與へず好業態を持續するものと見られる。

ブライト・アポロ商會

所在地 芝區琴平町三七
電話 芝 三五〇四番
創立 昭和八年六月
資本金 五萬圓
役員 技術代表者 水谷吉太郎
沿革 昭和八年アポロ方向器製作販賣を開始、爾來スタイル、内部構造を變更すること三回に及び、同十一年流線型を完成發賣現在に及ぶ。
營業種目 自動車方向指示器製作販賣
支店 大阪市北區太融寺町一八
工場 東京市芝區西芝浦三ノ一
販路 内地、鮮滿、臺灣、歐米諸國
十二年度 拾五萬圓
従業員 店員 二〇名、職工 二三名
取引銀行 三菱銀行虎門支店、武州銀行日本橋支店、昭和銀行芝支店、三和銀行日比谷支店
水谷吉太郎 自宅 目黒區神ノ木坂四五
明治三十一年二月を以て生る。大正五年臺灣に渡りて林本源製糖に入社、大正十年歸京自動自轉車商を開業、後自動車界に轉じ、昭和八年大迫忠吉氏と協力ブライトアポロ商會を設立してアポロ方向器の製作販賣に従事、國產優秀方向指示器として日本全土は勿論、海外にまで好評を博す。

旭工業所

所在地 横濱市鶴見區鶴見町一一〇九
電話 鶴見 二七〇五番
創立 大正八年
資本金 四萬圓
代表者 工藤智藏
沿革 大正八年個人經營にて開業した後、事業の發展に伴ひ昭和六年三月法人組織に變更し、次で昭和十年八月工場を現在地に新築移轉す、當社はシートスプリング及クローム鍍金に關して他の追隨を許さざる特色を有す。
營業種目 自動車用シートスプリング製造及自動車部品、クローム鍍金
工場所在地 横濱市鶴見區鶴見町一一〇九
販路 日産自動車會社、日本フォード會社、日本ゼネラルモーターズ會社、京豊自動車會社、共立自動車製作所、日本自動車會社
従業員 八〇名
特色 シートスプリング、クローム鍍金に多年の経験と獨特の技術を誇つて居る。近時國產車の急激な躍進に伴ひ當社の製品は特に需要激増を見るに至り、製作も繁忙を極めてゐる。時局影響は資材方面には可成り響いてゐるが材料手當に不安がないのが強味である。

合資會社安部甚工業所

所在地 赤坂區田町七ノ三
電話 赤坂 九五七番
代表者 安部芳爾
沿革 自動車エンジン修理工場として創立せられ後法人組織に變更して合資會社安部甚工業所となる。昭和十一年シリンドラーボーリング數基を購入して最新式設備をなし工場能率のスピード化を圖る一方、中島飛行機株式會社指定工場として航空機部分品製作に従事して現在に至る。
營業種目 シリンドラーボーリング及スリーブ挿入、ピストン製作、クランクシャフト研磨、ホワイトメタル鑄入、ブレイキッドラム修理、酸素及電氣熔接、航空機部分品。
工場 赤坂區田町、府下吉祥寺
販路 東京電氣局、中島飛行機會社、パス會社、地方業者
従業員 七十名
特色 當所は昨年より本格的に航空機部分品に進出した、工場も第二期擴張を行つて居り今後著しく収益力も増大するので斷然好調と見られる。田町工場も活況を呈してゐるので時局下に重壓を蒙ることもなく快調を示めて多大の期待がかけられてゐる。

株式會社三寶製作所

本社 芝區三田四國町二番地十三號
電話 三田 一二二二番
創立 大正十四年六月
役員 代表取締役 本田周一

沿革 代表取締役本田周一氏が個人經營に係り麴町區内幸町東拓ビルに開業し電機用品の製作販賣に従事、昭和四年より自動車用電機部分品製作に轉向し同九年株式會社三寶製作所に組織を變更し今日に至る。

營業種目 國產自動車部分品製作（三寶型軟調ボアール、國產車用新型六極ヒューズボックス、實用新案電氣付フエンドライダ）國產車軍需品

販路 國產自動車製造會社外一般
分工場 本所區横網町十三
従業員 六十名（内二十名は分工場）

特色 電機部分品界に於て著名であるが、最近軍需工業方面へ進出して瓦斯電、東京自工の軍需品を大量に受注して繁忙を極めてゐる。

尙代表取締役本田氏は明治十二年十二月鹿兒島縣小邊郡に生る。京橋區八官町にて大規模に忠勇社印刷所を経営せるも後轉じて現事業に従事す、濃厚な好紳士として徳望が高い。

共同電氣株式會社 PMPマイカ・プラグ研究所

本社 麻布區田島町三二
新事務所 蒲田區古市町一七四
電話 蒲田 三五五〇番
創立 昭和三年（研究所開設）
代表者 寺島正義

沿革 當社は電機製作界に確固たる地盤を擁して、独自の技術を有せるが、マイカ・プラグの研究を開設してこれが研究を着手してより既に十餘年にして昭和十一年國產點火栓として優秀なるP・M・Pマイカ・プラグの完成を見、昭和十三年蒲田工場の完成に依り大量生産を開始するに至れり。

營業種目 P・M・Pマイカ・プラグ製作
第一工場 麻布區新廣尾三ノ一五七
第二工場 蒲田區古市町一七四

販路 總代理店大澤商會自動車用品部を通じて全國的に市販中なるも、主なる納入先は東京乗合、東武自動車樟太廳、名古屋電氣局、大阪交通、外バス會社

特色 當製品は軍部に於ても優秀なる成績をおさめ自動車技術協會の推獎品となり性能優秀を認めらる。蒲田工場の完成により大量生産設備が出来たので増産と共に大澤商會を通じて大々的に市販されることになつた。

木村 商店

所在 京橋區本掘町四ノ一
電話 京橋 七三四四、七四四四番
創立 大正十三年

代表者 木村鋼作

沿革 大正十五年木村硝子店を創立して、自動車用並にオートバイ用安全硝子の製作販賣を開始、爾來事業を擴張してK・Gレンズを完成してこれが市販にあたり好評を博す、後法人組織に改め木村商店と改稱して現在に及べり。

營業種目 G・K各種レンズ、各種附屬品製作卸、スタンダード電球發賣元

工場 城東區大島町三丁目
販路 各自動車製造會社、自動車用品販賣業者、一般自動車運輸業者

従業員 三〇名

取引銀行 第百銀座支店

特色 當店は自動車レンズ、安全硝子の製造販賣では都下有數で年商額は第一と稱せられ業界の一角に確固たる地位を築きつゝあり、大島工場の増設により生産能力を増大するに至り、附屬品製作にも独自の技術を有してゐる。

木村 鋼作

木村商店主
自宅 京橋區本掘町四ノ一

氏は明治三十五年愛知縣清洲に於て出生、學窓を出ずるや直ちに上京して、實業に身を投じ硝子販賣に従事するに及んで今日硝子工業界へ進出するに至る素地を固む爾來不撓不屈の努力を續けて獨立の機の熟するを待つて大正十五年木村硝子店を創設して得意の才腕を揮つて同業者間に抜きんず、自動車用、オートバイ用硝子が特殊の技術を有するため工場經營には血ににじむが如き悪戦苦闘をなしてK・Gレンズの完成にあたり、今やK・Gレンズは世評高く需要とみに増加するに至り、工場の大擴張を行ひ生産能力を倍加する一方販賣網をも全國的に整備擴充するに至り斯界第一と稱せられ今日尙隆々たる躍進を示めしつゝある。

氏は工場經營にあつては積極的に最新式設備を取入れて能率の向上を期し優秀製品の製造を旨とし、販賣にあつては堅實第一主義をモットーとして進み需要層を撰擇して信用ありと見れば積極的援助をおしませと云つた經營上に有効適切な才智を働かせて顧客の信望を一段と高めてゐる。氏の人と爲りは濃厚和平にして事業家としての手腕も圓熟の境に達し衆望を擔ひつゝあり。現に東京自動車工業組合監事。

共和レザー株式会社

所在地 向島區寺島町四ノ一八八
電話 昭和一八二一、三一三九、三五七六、四三〇六番
創立 昭和十年八月
資本金 貳百五十萬圓(拂込済)
役員 取締役社長 原安三郎、常務取締役 宅治川良太、同
濱谷市十郎、同 安藤珍成

沿革 昭和十年八月一日舊日本擬革株式會社舊大日本
レザー株式會社舊富士革布株式會社及舊朝日レザー株式
會社の四社の事業を繼承して創立今日に至る。

營業種目 レザークロス、レザーペーパー、オイル
クロス、ラバクロス、防毒マスク
支店 大阪市西淀川區高見町一ノ三七
工場 三河島工場、寺島工場、曳船第一工場、曳
船第二工場、淀川工場、神崎工場
販路 内地及海外
年商 七百萬圓
従業員 六百人

取引銀行 第一銀行、野村銀行、三和銀行、安田銀行
特色 當社は本邦擬皮工業界を獨占制覇する有力會社
で、昭和十二年四大擬皮會社が資本合同するに至り面目
を一新す、時局の影響は原料手當難あるも差したる打撃
もなく躍進の一途を辿る、新興工業として當社の發展期
待さる。軍需工業方面に進出著しきものあり時局會社の
雄である。

株式會社有信商會

本社 京橋區銀座二丁目三番地
電話 銀座 一九九三、七三一五番
創立 大正十五年七月
資本金 貳拾萬圓

代表者 取締役社長 馬渡俊雄
沿革 大正十五年七月合資會社有信商會を設立、昭和
十一年十二月株式會社に組織變更す、其の間昭和八年十
月大阪支店を開設業務の擴張をなす。

營業種目 自動車及自動三輪車用各種部分品輸出入並
に製作販賣業
支店 大阪支店 西區京町堀上通り一ノ三八
工場 蒲田工場 蒲田區下丸子町一五四
販路 車輛、車體製造會社及卸商
年商 壹百萬圓
従業員 店員 四十人、技工 六十人

取引銀行 野村、野村、十五、三井、三菱
馬場 俊雄
自宅 淀橋區淀橋七二六(四谷)〇六一四番
氏は曾つて東京市高級助役、電氣局長等の要職に就き
政界でその敏腕を顯はれた人である。人格高潔の士とし
て政界財界での信望は益々高い。

合資會社明治商會

所在地 芝區田村町二ノ四
電話 昭和一〇九三番
創立 昭和七年
資本金 參萬五千圓
代表者 有限責任社員 島村定義、同 松力男

沿革 昭和七年九月日本橋區馬喰町四ノ九に合資會社
明治商會を創立し自動車部分品の直輸入販賣にあたり、
事業の發展するにつれて製作にも進出するに至れり、昭
和十二年に現所在地に移轉、業務を大いに擴張して現在
に及びり。

營業種目 各種自動車部分品及び用品直輸入、製作、
卸商
販路 日本内地、滿洲國
年商 三十萬圓
従業員 八名
取引銀行 第百芝支店

特色 當商會は自動車部分品輸入に於ては有数のもの
で各種部分品用品卸元として著名である。年商三拾萬圓
をあげる商店は既に一流商店と云ふべくその點からも當
商會は推しも推されもしない不動の地盤の上に立つてゐ
る。近時戦時體制の強化進展により自動車部品輸入も困
難となり直輸入に經營の主力を置く當商會も打撃はまぬ
がれ得ないが情勢に應じて製作部門に進出してゐるので
カバーされるから新事業への進出は注目に値する。

三浦商會

所在地 京橋區越前堀一ノ五
電話 京橋 二四二六番
創立 昭和七年五月
代表者 三浦 勇

沿革 昭和七年三浦商會を設立して自動車部品、用品
の海外輸出に注力して逐次業務の擴張を圖り、營業部、
製作部を確立して自動車用品、部分品の製作販賣に進み
現在に至る。

營業種目 自動車用スプリング、ステアリングナツク
ル、米國エヂソン會社プラグ輸入元、自動
車部分品、用品輸出入
販路 内地、海外
取引銀行 第百 三和

特色 三浦氏は東京自動車興業株式會社在勤當時より
國産自動車部分品の海外輸出に力を注ぎ、昭和六年には
海外市場調査のため各地を視察して歸朝、昭和七年獨立
するに及んで輸出に専念月額輸出高三萬圓を突破して國
産部分品の聲價をあげたが、四圍の客觀情勢が變化して
邦品防遏工作の進展、事變による重壓等で近時内地卸に
全面的注力しつゝあり、独自の經營のもとに確固たる信
用を得てゐる。

合資會社宮本ラツバ製作所

所 在 淺草區藏前三丁目一番地ノ二
電 話 淺草 二八四五番
創 立 明治四十年
代 表 者 宮本富三郎

沿革 國產ラツバ界に五十年の歴史を有する弊店は業
界に多少なりとも貢献する目的を以て工場の新設、機械
工具の設備、科學的技術、材料の精選等に研究の結果従
來に比して特に優秀なる製品の完成を見るに至れり。

營業種目 各種ラツバ製作販賣

工 場 江戸川區東小松川町五ノ六二八

販 路 日産自動車株式會社、各自動車製造會社、
全國自動車用品販賣業者

從業員 二十名

取引銀行 三和淺草支店

特色 國產ラツバ製作に五十年の經驗を有し特異な存
在として既に早くより認められるに至り、需要は増大す
る一方であつたが、最近材料の供給が制限を受けるの
みならず値上りとなり製品のそれに相當する値上困難な
ところから多少の打撃はまぬかれ得ざるも、全般的には
需要の激増で好調である。

宮崎ラヂエーター工業所

所 在 下谷區金杉下町四六
電 話 淺草 七〇一六番
創 立 昭和六年
代 表 者 宮崎福太郎

沿革 昭和六年下谷區龍泉町に宮崎ラヂエーター工業
所を設立してラヂエーター製作修理にあたり、事業の發
展に伴ひ昭和十年四月現所在地に移轉、業務を擴張して
現在に及べり。

營業種目 ラヂエーター製作修理

販 路 トラツク業者

從業員 十名

取引銀行 日本晝夜銀行

特色 當所はトラツク用ラヂエーター修理に特殊の技
能を有して居り、最近トラツクの拂底より修理につぐ修
理をして車輛の長命法を講じつゝあるから當所の事業も
繁忙を極めてゐる、トラツク専門に注力してゐることは
注目に値するもので小規模工場としては最も賢明な策で
ある。

所主宮崎福太郎氏は明治卅二年群馬縣大筒郡大筒野村
に生る。十五才のとき上京して彫刻士を志して修業に努
め後現事業に轉ぜり、工業組合會計を擔當して信望あり

宮原製作所

所 在 本所區石原町一ノ五四
電 話 墨田 二二〇七番
創 立 大正七年
代 表 者 宮原義次

沿革 大正七年宮原製作所を設立、自動車附屬品製作
に従事、朝日式、宮原式泥除器を發明實用新案をとる。
各種自動車關係用品の製作販賣をも併せ行ひ今日に及べ
り。

營業種目 皮製、ゴム製泥除、ブラシ各種、ステー附
屬品、洗ブラシ刷毛各種、セーム皮検査證入、料金表入
空車札、羽ハタキ、一般セルロイド加工、タイヤ・レバ
ー各種、ルームナンバー各種、エヤーポンプ各種。

販 路 用品販賣業者、一般自動車運輸業者

從業員 一〇名

取引銀行 第百本所支店

特色 當所は自動車附屬品のデパート的存在であつて
あらゆる品種にわたり製作して居り、傳統的な地盤を有
してゐるので時局的重壓も深刻には反映せず業務の擴張
にあたりつゝあり。

所主宮原氏東京の人明治二十七年十一月六日に生れ、
今日の隆昌を致せり。

都商會製作所

所 在 芝區西久保巴町二十一番地
電 話 芝 三九七六番
創 立 昭和十三年二月
代 表 者 橋 陸樓

沿革 昭和十三年二月自動車ガソリン機關部分品専門
製作販賣の事業を開始して現在に及べり。

營業種目 シリンダー研磨機、ピストン研磨機、ピス
トン、シリンドラーライナー製作、内燃機關用氣化器製
作修理、國產虎印オイルシートパツキング代理店、シリ
ンダーボーリング、鑄鐵、アルミニウム及砲金鑄物

販 路 自動車製造會社、大工場、乗合會社

從業員 五人

特色 當製作所は今春設立せられ事業開始以來日淺い
が、所主の永年にわたる自動車内燃機關に對する經營、
技術の經驗は早くも好調の業績をあげるに至る。事業の
將來性大いに期待さる。

橋陸樓氏は明治三十二年岩手縣盛岡市に生る。自動車
工業界に身を投じ泉自動車製作所支配人として同社隆昌
の礎石となり活躍すること十餘年にわたり、今春圓滿退
社して都商會製作所を創立して自動車部分品工業界への
雄飛を目指して活動しつゝあり。

合資會社清水商店

所 在 芝區田村町二ノ五
電話 銀座 四六一、二二七三番
創立 明治十八年
資本金 貳拾五萬圓
代表者 代表社員 清水新作

沿革 明治十八年清水商店を創立して油販賣に従事、現代表社員清水新作氏が經營に乗り出してより經營方針を一變して揮發油販賣に着手、逐次事業を擴張しタイヤ販賣を兼營するに及んで自動車用品界へ進出第一歩を印するに至る。組織を法人に改め合資會社清水商店として用品販賣界に雄飛して現在に至る。

營業種目

自動車部分品、附屬品工具一切、ヨコハマ
タイヤ特約販賣店、其他ゴム製品、マツダ
自動車電球、ピンプクス吹付機、デユコ塗料
ガソリン、モビール類販賣

礦油部 芝區田村町二(電話銀座三〇二八)

従業員 三〇名

取引銀行 三菱、安田

特色 火曜會の有力メンバーで都下第一流用品卸商として定評あり、問屋制に對して兎角の評あるとき益々事業擴張して躍進しつつあり、基礎は搖ぎなく微動だもせず一流商店の貫録を示めしてゐる。

清水 新作

清水商店代表社員
自宅 芝區田村町二ノ四

氏は新潟縣中頸城郡板倉村に於て明治十年十一月山崎家に生る。高田中學校を卒業して海産物商を志し十九才のとき北海道に渡り在島三年にして歸郷せるも、二十六才の折酒店經營の目的を以て上京、後芝區櫻田和泉町清水家に養子に懇望せられて入籍、浮沈の瀬戸際にある清水家の挽回のため日夜刻苦精勵して油販賣のため自から車を挽き悪戰苦闘せるもその効あつて商賣は再び繁昌するに至り昔日の清水商店より更に手廣く商賣をして油店として知られるに至りたるも、時代の移りを見るに敏なる氏は千代田ガソリンが出現して油界を壓倒しつつあるを見るや逸早く揮發油販賣に轉じたり、同業千餘の油店は千代田の進出に倒産者續出するときは獨り活躍して早くも非凡の商才は危機を二回わたり巧みに逃れたり爾來自動車界の將來性ある事業なることを體驗するや持前の進取の氣象を以て積極的に進出して自動車部品、用品販賣店として當店の右に出づるものなき地位に立つに至り、事業に於て成功せる氏は亦東京自動車商組合長東京タイヤ販賣業組合長の重職に推されよくその任を果し、公平妥當の意見を以て業界の進すべき道を明かにして業界の向上發展に寄與するところ尠からず今や一身に徳望をあつめて敬慕の的となつてゐる。

自動車商工株式會社

本社 麹町區内幸町一ノ三
創立 昭和十一年
資本金 貳拾萬圓
役員 専務取締役 田邊明四郎、取締役 久芳小六、
高島直介、岡 五郎

沿革 昭和十一年東京自動車興業株式會社の事業を繼承して創立せられ爾來主として自動車部分品並附屬品製作販賣、輸出に従事せり、自動車部分品の海外輸出の嚆矢にして此の間當社は大なる犠牲を拂ひ海外市場の開拓にあたり漸次業務の進展を見て今日に及べり。

營業種目 各種自動車部分品及附屬品製作販賣輸出

出張所 大連、奉天、京城、臺北

工場 荒川區三河島町七ノ五五八番地

販路 陸軍兵器本廠、陸軍航空本部、トヨタ自動車工業株式會社、日産自動車販賣株式會社、東京自動車工業株式會社、其他自動車業者

南米、濠洲、ニュージランド、近東地方、アフリカ、印度、南洋、シヤム、其他各國

取引銀行 第百銀行

特色 當社は東京自動車興業株式會社の整理に依り事

業の一部を繼承して創立せられたるものなるが、その主要部門を經營するに及んで、自動車用品販賣界に敏腕を以て鳴る久芳、田邊、高島のトリオにトヨタ自工との資本的提携の緊密化と相俟つて活潑な活動を展開するに及んで舊殻を脱する積極的經營方針に業績はとみに好調となるに至り、陸軍關係、トヨタ自工への大量納入は當社の収益力を益々大ならしめて居る。輸出も多大の犠牲を拂つて海外市場に進出しつゝあり廣汎にわたる市場網は有望視せられてゐるも、現下の情勢は輸出入品臨時措置法によりパーター制を採用してゐる當社の打撃は相當大なるもリンク制より新に進出が期待されてゐる。

田邊専務はトヨタ自工より當社に入社、その敏腕は夙に定評あり、自興を整理して當社設立に至るまでの氏の苦心は並々ならざるものもあるも敏腕よく難局を切り抜けて今日に及べり、久芳氏は山口縣の人、東京瓦斯電氣工業株式會社に入社、數年にして退社と同時に岩山商店を設立しパーター専門販賣に従事業界進出第一歩を踏み出す爾來躍進を遂げ高島直介氏と相結んで東京自動車興業株式會社を創立自動車部品、用品界を席捲して手腕を大いに認められ今日に至る。氏は飽くまでも冷靜理智的に事務の處理にあたつては明快果斷、高島氏の豪快放膽、積極主義と好對象をなす。

株式會社芝浦スプリング製作所

本社 芝浦西芝浦四ノ二
電話 三田 一二六七番

創立 昭和六年

資本金 六十萬圓

代表者 取締役社長 中野政雄、常務取締役 高橋實

沿革 大正六年中野兄弟商會を起し人力車、馬車用スプリング製作を開始、漸次自動車用スプリングをも製作して昭和六年芝浦スプリング製作所を創設し業務擴張のため昭和十一年株式會社に改組、鐵道省指定工場となる

營業種目 自動車スプリング、各種スプリング

販路 鐵道省、日産、トヨタ、東京自工

年商 百二十萬圓

従業員 八十名

取引銀行 第一銀行三田支店

特色 時局景氣を迎へて材料手當の不安もなく益々好調を示めつゝある。堅實經營はその資産内容に明なるごとく信用絶大である。

中野 政雄

明治三十二年東京市に生る。長じて直ちに實業に入り尊き經驗を積んで刻苦精勵今日都下一流メーカーとして確固たる地盤を有し製作界の重鎮である。

新京商會

所 在 京橋區木挽町八ノ三
電話 銀座 八四五番

創立 大正十四年

資本金 五千圓

代表者 村井治郎

沿革 大正十四年ムライ商會を創立して芝區琴平町に中古自動車賣買業を開業、爾來多いに事業の發展を見て昭和四年現所在地に移轉、新京商會と改稱、方向指示器、自動車部分品製作にも進出して今日に至る。

營業種目 流線型大洋方向指示器發賣元、自動車部分品製作販賣、中古車賣買

販路 自動車運輸關係業者

従業員 七名

取引銀行 第百新橋支店

特色 當商會は中古自動車賣買業より事業を自動車用品部門に進出せるもので所謂中古車一本槍による經營の合理化をはかり成功して用品界への進出目ざましきものあり。

店主村井治郎氏は明治二十八年岩手縣盛岡に出生、盛岡工業學校を卒業、自動車界に入り梁瀬自動車、千代田自動車株式會社で重要地位にあつたが、大正十四年獨立して現在に至る。

合資會社下浦商店

所 在 淺草區千束町一ノ三
電話 淺草 五三四三、六四九四番

創立 大正十五年

資本金 二萬圓

代表者 下浦弘

沿革 大正十五年合資會社下浦商店を創立して自動車用品販賣に従事、逐次タイヤ、オイル販賣にも進出して今日に至る。

營業種目 自動車用品、部分品、オイル、タイヤ販賣

販路 一般運輸業者

従業員 三〇名

取引銀行 安田千束支店

特色 當商店は淺草方面に於ける著名用品販賣店として知られて居り、所謂積極的販賣を以て一般需要家から知られてゐる。即ち當店是他店に比して廉價販賣であるため遠くよりの顧客も少からずあり特色を持った商店である。かつてタイヤ販賣等に於て話題を提供した店で、店主の下浦氏の豪腹を物語もの、氏は兵庫縣の人、明治三十五年八月九日を以て生れ、弱冠にして獨立今日の大をなすに至る。

森下自動車鍍金製作所

所 在 横濱市神奈川區入江町二ノ一八三
電話 神奈川 二四九二番

創立 大正十一年五月

代表者 森下勘藏

沿革 麻布區北日ヶ窪町一九に大正十一年五月森下自動車鍍金製作所を創立して自動車ボデー外鍍一式、鍍金加工に従事して自動車界の進運に伴ひ事業を逐次擴張して鍍金加工業界に頭角を抜きんずるに至り、昭和十一年横濱市神奈川區入江町に近代的規模を有する工場を新設して積極的進出をなし躍進目ざましきものあり。

營業種目 鍍金加工、ボデー外鍍一式、自動車鍍金製造製作

販路 一般

従業員 八十名

取引銀行 第百銀行神奈川支店

特色 當所は既に鍍金加工業界の一流工場として定評あり、近時横濱工場の全面的稼行によつて受註能力は著増するに至り、倉田重工業の下請工場として同社の外鍍を一手に引受けてゐるから前途は洋々たるものあり大いに期待をかけられてゐる。

森下氏は明治三十二年一月廿日靜岡縣磐田郡熊村に於て生れ自動車界に投じて爾來二十餘年銳意斯業の發展に盡力し現に東京自動車鍍金車體工業組合常務理事として活躍向氏は眞摯な技術者で既に各種の發明をなし自社工場これ製作市販してゐる。

株式會社盛工舎

所在 王子區豊島町五八〇
電話 王子 三五二五番
創立 昭和十三年(株式改組)
資本金 參拾萬圓
代表者 比與森盛喜

沿革 サクラ方向指示器製作元盛工舎を株式會社に改組株式會社盛工舎と改稱、自動車部分品、航空機部品、車輛製作、工作機械工具、プレス型製作、ガソリン節約器、光學機械、發動機製作等の事業を以て各種事業を開始することに決定、下十條工場建設中なり。

營業種目 サクラ方向指示器、自動車部分品、附屬品

工場 航空機部分品製作
下十條工場王子區豊島町五八〇

第二工場 下十條工場に隣接して建設中

販路 陸、海軍省、東京自工、東京トヨタ、竹村商會、富士工業、梁瀬自動車、共同電氣、熊谷陸軍飛行學校、所澤陸軍飛行學校、横須賀海軍工廠

従業員 八十名

特色 方向器製作界より時局産業へと積極的進出をすることになり株式に改組して新工場の建設工事中なり、年内には一部操業と共に新事業に着手するので當社の今後の飛躍は大いに注目さる。

菅野製作所

所在 芝區芝浦海岸通り二ノ一五
電話 三田 四七〇番
創立 昭和三年
代表者 菅野政太郎

沿革 昭和三年自動車フエンダー製作にあたり、昭和六年現工場の新築落成に依り工場移轉、營業所を新橋驛前に移轉業務を擴張、昭和八年芝浦工場に營業所を合併昭和八年輸出を開始、昭和十二年生産力擴充のため工場を増築現在に至る。

營業種目 自動車フエンダー製作卸、自動車鍍金加工一式

工場 芝區芝浦海岸通り二ノ一五

販路 國産自動車會社及海外輸出

従業員 十五名

取引銀行 三菱虎の門支店、第百金杉支店

菅野政太郎

自宅 芝區芝浦海岸通り二ノ一五

明治三四年六月十四日日本橋區寶町一ノ一に生る。プレス加工技術を習得して、海老原製作所工場監督として永らく勤務、後獨立して今日に至る。鍍金工組理事、商工團體統後々授聯盟委員を兼ね徳望の高い人である。

鈴木 友訓

日本ビストンリング株式會社社長
自宅 板橋區上板橋二丁目六四七九
電話 板橋二三番

氏は明治八年二月三日和歌山縣田邊町北新町に生る。技術者として身を立べく横濱ドツクに入り研鑽、技術を磨き、後海軍工廠に入り技術的才腕を認められ、長らく渡米彼地に於て船用機關はじめ内燃機關の技術を習得し研究を重ね歸朝、期する處ありて明治四十五年月島に鈴木製作所を設立單獨營業を開始してより、工場運営に孜孜として努力、學究的な眞摯の研究と絶えなき向上心は震災を一轉機としてビストンリング専門製作に着眼して英断遂に今日の成功をおさむるに至る。昭和九年十二月株式に改組して事業の全面的擴充にあたるも、時恰も重工業の飛躍的發展期に際會して需要の急激なる増加は數年を出ずして三百萬圓に増資して大飛躍を遂ぐ、増資を機に多角經營に乗り出すべく昭和十二年春再度歐米に渡り詳さに各國工業界の視察をなし、獨逸にて新鋭機械を購入して約半歳を経て歸朝す、この新智識を以て明日の自動車工業、航空機工業界への進出を目指し愈よ本格的活動をなすべく再度の増資計畫を進めつゝある。時局に躍る第一線の人物として斯界に益々重きを加へてゐる。

森田 商會

所在 芝區田村町一ノ三ノ六
電話 銀座 三五〇八番
創立 大正九年
代表者 森、鐵五郎

沿革 大正九年京橋區新看町に於て自動車部分品販賣にあたり、大正十二年大震災にて店舗を烏有に歸すも所在地に復興、昭和十三年一月再度店舗類焼の厄に遭ひ同所に四月新店舗の落成を見るに至る。

營業種目 自動車部分品及附屬品卸、販賣

販路 東京、地方

従業員 十五名

取引銀行 安田銀行芝支店

特色 都下屈指の用品商として定評あり、當主一代に二回の災厄に遭ふも微動だもせず舊に倍する復興はその證左である。

森田鐵五郎(森田商會主)

明治二十二年二月京橋に生る。順天中學校を卒業して一般機械商山口商店に入り後日米貿易商會に轉じて精勵大正九年獨立して自動車用品販賣に従事して今日の隆昌を致す。人格識見共に人の範たるべく東京自動車商組合名譽會計、富士工業株式會社取締役たり。

スミヤ商會

所 在 小石川區鷺籠町七〇
電話 大塚 二二〇三番
創立 大正九年四月
代表者 角谷清

沿革 大正九年スミヤ商會を創立してタイヤ修理事業に従事、逐次事業の發展に伴ひ自動車用品販賣を兼營するに至り都下用品界に進出して今日に及びり。

營業種目 BS代理店、自動車附屬品、部分品、オイル計器類販賣、ウインドクリナー、メーター修理

販 路 東京、地方

従業員 五名

取引銀行 昭和駕籠町支店

特色 當商會は九日會の曉將で都下用品界の中堅層の代表店である。店主角谷清氏は明治廿五年日本橋區久松町に生れ、廿九才にしてスミヤ商會を設立して獨立自營爾來日夜をわかつた刻苦精勵、その業績實を結び今日の大をなすに至る。現東京自動車商組合評議員、東京タイヤ販賣業組合理事として業界の向上發展に盡力しつつある。篤實温厚の人となりは顧客の信用を博して今日益々隆昌に向ひつゝある。

堀内製作所

本社 品川區大井鮫洲六五
電話 高輪 二六四七番
創立 大正十二年五月
資本金 五拾萬圓
代表者 取締役社長 堀内金五郎、常務取締役 根本豊吉

沿革 昭和十一年現所在に本社並工場を設けて株式會社堀内製作所と改組して自動車々體製造、機械器具製作に従事、爾來自動車工業の躍進に伴ひ逐次業務の擴張を圖り現在に及びり。

營業種目 自動車々體製造、プレス加工品、器具機械製造販賣

工場 品川區大井鮫洲六五

販 路 各自動車製造會社、機械製造業者、其他

従業員 二〇〇名

特色 當所は自動車工業界への進出既に十餘年にわたる製作界の強豪、製品の優秀なると内容の堅實なるとは既に定評あり、爾來自工業界への進出は一段と積極化するに至る。ボディ部は日産、トヨタ、東京自工の所謂ピツクスリーを主流として動きつつあり、これが資材は潤澤の如くなるも一般メーカーへの資材統制は相當の重壓を加へてこれが入手難には頭を悩ましてゐるところであるが當所は早くよりこれが手當にあたり、製作に差しかえなきを期してゐる。

株式会社イソダメタル工場

本社 品川區西大崎一ノ六七
電話 高輪 一四九九、一六四三番
創立 大正九年四月

資本金 四拾萬圓
役員 社長 服部良太郎、取締役 宮田正之、同 能勢鬼一
岩波喜重、監査役 山越爲次郎、能勢欽之助

沿革 大正九年七月株式會社イソダメタル工場を創立して未だ發達の萌芽期にありし國産軸受用白金減摩合金の製造事業を開始するに至る。創業當時に於ける製作上の困難を克服して遂にイソダメタルを完成して國産の最高峰に立つて漸やく認めらる。

昭和十三年商工省より自動車優良部分品として認定せらる。

營業種目 白金減摩合金
出張所 大阪市西區立賣場南通四ノ九
横濱市神奈川區三津中町四七
小倉市堺町五ノ六七
豊島區巢鴨一五二番地

合金研究所 國産自動車會社、機械工場、其他一般

特色 當社のイソダメタルはその性能の優秀なるところからニッサンはじめ國産車に續々と採用されて居り、今回商工省より優良部分品の認定を得るに至りその聲價を完全に發揮した。需要は今後激増するので目下大飛躍計畫が具體化しつつある。これが發展計畫の遂行により斯業の制覇に進むことになつた。

東京機器工業株式會社

本社 大森區入新井二丁目
電話 大森 一五一五番
創立 昭和十二年
資本金 五百萬圓

役員 取締役社長 小平浪平、社長 横田千秋、常務取締役 橋田肇

沿革 昭和十二年東京瓦斯電氣工業株式會社計器部を分離獨立して自動車用、航空機用、機關車用計器類の大量生産を目的として創立せられたものである。目下川崎工場の擴張工事であるがこれが完成せば本邦最大の計器會社としての偉容を誇ることになる。

當社製品 ショックアブソーバー並に油壓制動機が自動車優良部分品に認定せらる。

營業種目 自動車用、航空機用、機關車用各種計器、油壓制動機、ショックアブソーバー製作

工場 川崎市新町
研究所並に工場 大森區入新井本社内
販 路 東京瓦斯電氣、東京自工、其他

特色 當所は瓦斯電工の純然たる仔會社であつて計器類の大量生産並に瓦斯電工、東京自工への部分品供給のため各種自動車、航空機部分品の製作にのり出すものである。これがため近く一千万圓に増資すべく計畫が進められてゐる。資金認可の關係で何う落着かわからぬが何れにせよ部分品界への積極的進出は明かである。

東洋ベアリング製造株式會社

本社 大阪市北區堂島濱通四ノ十一
 東京支店 芝區田村町二ノ八(櫻田館)
 電話 本所 二三五四、二三五五、二七二六番
 創立 大正十年
 資本金 壹千萬圓
 役員 社長 丹羽昇、專務 水木善四郎、取締役 寺田其吉
 西園二郎、森富吉、長谷川貫一、佐田保一郎、監査役 早瀬太郎、大森吉五郎

沿革 大正十年創始ボール及ローラーベアリングの製作に専念し來たれるがこの間商工省の優良國産品に推獎せられ次いで鐵道省、陸軍省、海軍省指定工場として銳意斯業の進展に努力邁進せり、

昭和十三年商工省より自動車優良部分品の認定あり。

營業種目 各種ベアリング製造販賣並に附帶事業

工場 二重縣桑名市内堀町一七四五
 航空本部、航空本部、鐵道省、各自動車工業會社、各航空機製造會社、各工作機械製作會社、其他

取引銀行 三和、住友

特色 當社は時局以來まさに飛躍的な發展を遂げたものである、その資本も數年に十倍に膨脹するに至り軍需工業の花形會社たるを失はない、現に大阪工場建設が着々と進められてゐるからこれが完成すれば更に一段と躍進が期待されてゐる。自動車用軸承は安全自動車會社が發賣元である。

東京鋼材株式會社

本社 城東區大島町六丁目
 電話 本所 一〇二五番
 創立 大正六年四月
 資本金 五百萬圓
 役員 社長 松田貞治郎、取締役 三好重道、永泉伸雄、川井源八、河手拾二、元良信太郎、山下元美、河村聰、藤村盡、監査役 加藤武男、松村龜太郎、阿久津鏡男

沿革 當社は大正六年四月三菱財閥の製鋼部門として創立せられ、壓延鋼材はじめ各種事業に従事して本邦重工業界の一角に確固たる地盤を築くに至り、自動車部分品、自動車構造用鋼材、自動車用發條等の製作を開始して自動車部分品界へ積極的進出をなし今日に至る。

營業種目 壓延鋼材、鍛工品、引拔磨鋼、MK磁石鋼

出張所 アームスプロンズ、自動車部分品各種

販路 大阪、名古屋、丸の内八重洲ビル四階
 金剛自動車、其他

特色 當社は三菱財閥の強力な資本背景のもとに自動車部分製品作界へ可成り早くより乗り出しこれが市販をなせるものである。就中自動車工業の全面的な躍進に伴ひ自動車構造用鋼材等の需要増大に鑑み同方面への進出著しきものありと見られ今後は大いに注力する方針である。

日本精工株式會社

本社 品川區大崎二ノ三六三
 電話 高輪 八三三五番
 創立 大正五年

資本金 五百萬圓
 役員 社長 高橋是賢、常務 多胡秀藏、取締役 安松俊雄
 監査役 杉浦宗三郎、同 日置秀雄

沿革 大正五年日本精工合資會社の事業を繼承して株式會社となし實に本邦ボールベアリング製造の嚆矢にして多大の犠牲を拂ひ研究を積み遂に陸海軍指定工場となるに至りボール及ローラーベアリング専門製作に方針を變更し以て今日に及べり。

營業種目 ボール・ベアリング、ローラー・ベアリング、グ、スチールボール

出張所 大阪、名古屋、小倉、札幌
 大崎工場 品川區東大崎二丁目
 多摩川工場 蒲田區下丸子
 藤澤工場 神奈川縣藤澤町鶴沼
 販路 陸海軍省、鐵道省、各自動車工業會社、航空機製造會社、其他

特色 當社は昭和九年十一月資本金參百五十萬圓の第二日本精工を創立多摩川工場を新設同十年三月之を合併して五百萬圓となし各工場の大増産計畫を進めつゝある現下の時局は工場能力をフルに動かすも需要の半分も満足得ざる状態にあり再び大擴張を行ふものと見られる。

田中ダイガスト合資會社

本社 日本橋區室町三丁目
 電話 日本橋 三五三六番
 創立 大正六年
 資本金 四拾萬圓

代表者 代表社員 田中香苗
 沿革 大正六年田中ダイガスト合資會社(資本金一萬二千圓)を創立して本邦最初のダイガスト輸入にあたり

これが我國に於ける斯業の嚆矢である。爾來自動車工業の躍進に伴ひダイガストの使用も飛躍的に増大して逐次事業の擴張をはかり今日に及べり。

昭和十三年商工省より第一回自動車優良部分品の認定を受けその性能多に認めらる。

營業種目 ダイガスト部分品製作

販路 陸軍兵器本廠、民間有力工場、其他

従業員 百五十名

取引銀行 三井銀行

特色 當社は目下増資を計畫中で合資會社を株式に改組する案も進められてゐる。田中氏の二十餘年にわたる撓まざる研鑽心と斯業に對する熱は遂に今日の如き盛況を見るに至つた、當社製品の特質は(イ)工賃の低廉(ロ)納期の確信(ハ)一部分品の取換簡易(ニ)大量生産の四大條件を具備して今や自動車工業の飛躍に對處して大躍進をとげることゝなつた。曩に商工省より優良部分品の認定を受けその前途益々好望さる。

尾崎製作所

本所 板橋區板橋町三ノ二九
設立 昭和十年
資本金 大正五年四月
代表者 尾崎清信

沿革 當社は大正五年創立せられ自動車用計器類の専門製作としては既に古き歴史を有しその製品の優秀なるは内外の認められるところとなり陸軍兵器本廠をはじめ陸海軍工廠に採用せられて好評を博せり、商工省より昭和十三年優良自動車部品として速度計が認定せられたり。

營業種目 自動車用計器並にダイヤルゲージ類製作販賣
工場 板橋區板橋三ノ廿九
販路 陸軍兵器本廠、陸軍造兵廠、海軍各地工廠、其他民間有力工場

特色 當所は自動車計器メーカーとして既に確固たる地盤を擁して居り、各種メーターはその性能の極めて優秀なるを以て定評あり、現工場敷地は七六八坪で工場建坪二四七坪(第一、第二、第三、第四工場)で設備用機も全部最新式のもので近代的設備の整備せる工場である。現に大メーターには全部納入されて居り、商工省より自動車優良部品と認定せられるに至つたから今後一段と飛躍するものと見られる。

鈴木ラヂエーター工業所

本所 板橋區大平町三ノ一
設立 昭和十年
代表者 鈴木金五郎

沿革 自動車運輸事業に多年従事せる鈴木金五郎氏が多年の経験より獨創的な考案を以てラヂエーター修理をなすべく之が目的を以て現所在地に鈴木ラヂエーター工業所を創立して事業を開始、其後事業を擴張し工場の新設、設備の改善を行ひ製作にも従事して今日に及べり。

營業種目 ラヂエーター製作並に修理
工場 世田ヶ谷區北澤町三ノ一六〇
販路 一般運輸業者、其他
従業員 五十名
取引銀行 第百本所支店

特色 ラヂエーター製作界での新進で近來躍進目ざましきものあり、ラヂエーター製作界が國産車の急増頭より生産力不足となり都下ラヂエーター製作界には大量の注文が發注されてゐるためこれら外註品の製作に繁忙を極め當工場も活況を呈してゐる。

鈴木金五郎氏は明治三十二年東京市世田ヶ谷區北澤町に生れ、長じて自動車運輸事業に従事して自動車に對する百般の常識を備へるに及び没々たる研究心に刺戟されてラヂエーター修理に獨創的考案をなすに至り、鈴木ラヂエーター工業所を設立して事業を開始し今日に及ぶ。

第百ラヂエーター工業所瀧野川支店

本所 瀧野川區瀧野川區一六三一
電話 九六〇番
設立 昭和十年
代表者 星野治

沿革 昭和十年現所在地に第百ラヂエーター工業所瀧野川支店を開設してラヂエーター製作修理に従事、當初は主として第百ラヂエーター工業所の下請工場なりしも漸次事業を擴張してラヂエーター界に進出して今日に至る。

營業種目 ラヂエーター製作修理
販路 第百本店、一般運輸業者
従業員 四名
取引銀行 日本晝夜銀行

特色 當工場は現工場主星野治氏が應召出征中のため休業中である。星野治氏は第百ラヂエーター工業所主星野皓司氏の甥にあたる人で同氏のもとにあつて自動車用ラヂエーター製作、修理の技術を學んで昭和十年に瀧野川支店として現所在地に創業するに至つたものである。

今日まで主として第百ラヂエーター工業所の下請工場として事業を進め來たつたが次第に各方面に進出して認められるに至りたる昭和十二年八月應召せられたるため休業するの止なき状態となつたものである。氏は栃木縣下都賀郡桑村に生れ、長ずるに及んで工場主となり今日の隆昌を見るに至れり。

東京自動車興業株式會社

本所 麹町區内幸町一ノ二
電話 銀座 二一六一番
創立 昭和八年十一月
資本金 壹百萬圓
代表者 専務取締役 久芳小六、常務取締役 高島直介

沿革 大正七年久芳小六個人經營により自動車用品販賣に従事、匿名組合、大正十二年株式會社岩山商店となり。自動車用品部分品専門販賣會社として業績大いになり、大阪岩山商店と合併して資本金五十萬圓となる。後大阪岩山を分離獨立、昭和八年十一月資本金壹百萬圓に増資して國産部分品の輸出に注力、昭和十年事業上の蹉躓を來たし整理を斷行自動車商工株式會社を設立、鋭意整理の進捗を圖り立直りつゝあり。

營業種目 自動車附屬品、部分品、機械工具製作販賣
販路 (モーター、パワァー、印製品)
全國、海外諸國

特色 當社は目下整理會社であるが、久芳、高島兩氏の名コンビによつて遂次事業も軌道に乗り自動車用品販賣界に昔日の盛感をとり戻しつゝある。久芳、高島氏共に業界切つて敏腕家で縦横に手腕を揮つた人々である。時局は再び兩氏のコンビを要求してゐるので時流に乗らんとする當社の活躍は期待さる。

岩本 商店

所 在 四谷區新宿二ノ九〇
電話 四九五〇番
創立 昭和三年一月
代表者 岩本虎之助

沿革 昭和三年現所在地に岩本商店を創立して自動車解體部分品商を開業、爾來銳意事業の發展にあたり業績頗るよくあがり昭和十二年二月瀧野川區瀧野川一七〇七番地に支店を開設、栗山智行氏を支店長として同方面に進出して今日に及ぶ。

營業種目 自動車解體部分品、シボレー、フォード専門
支店 瀧野川區瀧野川町一七〇七
販路 地方業者
従業員 三名
取引銀行 第百新宿支店

特色 當店はフォード、シボレー専門店である。近年では地方によく進出して確固たる地盤を築いてゐる。地方顧客との取引は一端取引が始められると固定して容易に離れないので當店の如きは粒揃の地方顧客を持つ市内有数の商店である。昨年は瀧野川に支店を開設して同方面にも積極的進出にあたることになつた最近ではめき／＼躍進してきて同業者間の重鎮として重きをなしてゐる。フォード、シボレーの中古車拂底の折柄から材料には些さか窮屈を感じてゐるか、當店の如きは在庫豊富でその不安は比較的少ない。

岩本虎之助

岩本商店主
四谷區新宿二ノ九〇

氏は明治二十三年九月に東京市神田區今川小路に生れた生粹の江戸子である。長ずるに及んで自動車界に身を投ずるに至り自動車解體部分品商に特殊の興味を有してこれが業務にたづさはり、昭和三年一月岩本商店を創立して獨立へのスタートを切つた。爾來氏は經營の合理化をはかり自動車解體部分品賣買の取引上の極めて非事務的なる營業の是正に努める一方、地方への積極的進出を試みて成功今日の地位を築くに至つた、この地方進出の新企劃によつてめき／＼業績を好轉せしめて今日では都下有数の商店となるに及び、氏の明敏なる商才は縦横に發揮せられて同業者間の注目の的となつた。

昭和八年當時の山手方面の解體商は統制、親睦の機關なく業界も可成の亂脈にあり前途を憂慮せる氏は發起人となつて山手解體商組合設立のため同業者を説き創立にあたり大いに盡力するところあり現に副組合長に推されて同組合の中心勢力として業界の向上發展をはかりつゝあり、眞に業界の革新を目指し、同業者相共に手を握り合つて行かんとする情の人である。
今や瀧野川支店を開設して隆々たる發展を示めしつゝある氏の今後の活躍は大いに期待されてゐる。

イヌイ商店

所 在 目黒區中目黒二ノ六四四
電話 大崎 三四二七番
創立 昭和八年六月
代表者 乾 剛

沿革 昭和八年六月中目黒二ノ六一〇番地に於て自動車解體部分品商を開業、昭和十二年六月現所在地に移轉事業の擴張をはかり、今日では都下中堅の解體商としてその前途大いに囑望さる。

營業種目 一般解體部分品、フォード、シボレー、其他
販路 市内運輸業者
従業員 三名
取引銀行 日本晝夜品川支店

特色 當商店は都下解體部分品商のうちで中堅としてその將來を囑望されてゐるものである。經營は如才なく巧みな外交術を以て近年擡頭し來たり、その將來は大いに注目されてゐる。
乾氏は明治三十二年十一月八日福井縣大野郡北郷村に生る、大正十二年大震災直後に上京自動車關係事業に携り昭和八年遂に獨立して今日に及べり。目黒交通事故防止會幹事として亦活動す。

磯村商店

所 在 目黒區上目黒六ノ二一四
電話 澁谷 一二五四番(呼)
創立 昭和十年
代表者 磯村次郎

沿革 昭和十年現所在地に磯村商店を創立して自動車解體部分品商を開業、爾來トラック専門解體商として同方面に於ける隨一と稱せられるに至り、事業益々進展して今日の隆昌を見るに至れり。

營業種目 トラック専門解體部分品販賣、販路 トラック業者
取引銀行 日本晝夜銀行
特色 當店と同方面に於けるトラック専門解體店としては有數で商品の豊富なる點は隨一と見られてゐる。近時トラック物の需要は頗る活潑なるため當店の如きも活況を呈して居り戦時下各部門が時局的重壓を蒙つてゐるとき躍進しつゝある。新進の店ながら磯村氏の顧客本位の營業は確固たる地盤を築いて同方面に於て推しも推しも推されぬ有力な存在となつてゐる。

磯村氏は明治四十二年五月三十一日淺草區壽町三ノ一に生れ長ずるに及んで自動車界に於て身を立てることを志させるも一時時濱濱飯塚商店に勤務して業務に精勵して大いに認められるところあつたが昭和十年同店を辭して獨立するに至つた。トラック専門の有利なるに着目して遂に今日の隆昌を見るに至つた、性温順にして上下の氣よく將來を囑望さる。

トキワ商會

所在 芝區新橋六ノ一
電話 芝二三一五番
創立 昭和五年
代表者 常澤重雄

沿革 昭和五年トキワ商會を創立してT型・B型フォード純正部分品卸を開設して今日に及ぶ。

營業種目 T型・A型・B型・V型フォード純正部分品専門卸、ダンロップタイヤ販賣

販路 市内、部分品販賣業者

従業員 三人

取引銀行 十五銀行

特色 當商會は最も需要多きフォード各型専門卸店として都下唯一のもので部分品販賣業者を需要層としてゐる強味を持つてゐる。最近ではフォード新車拂底よりフォード中古車の動きは活潑で需要も急激しつゝあるのが當商會の今期の収益は著しきものがある。

常澤 重雄

群馬縣の人、明治三十七年に生れ、弱冠にして上京、トキワ商會を設立してフォード純正部分品卸を開設、少壯の氏のこの英断は遂に今日の如き地位を築くに至る不惑に達せず少壯氣鋭の士である。

大谷 商店

所在 本所區堅川一ノ六
電話 本所 五九九五番
創立 昭和七年二月
代表者 大谷武雄

沿革 解體部分品販賣の目的を以て昭和七年二月大谷商店を創立して本所區堅川町二ノ三に開業、同十年十一月現所在地に移轉して事業を擴張現在に至る。

營業種目 解體部分品、蓄電池販賣

倉庫 本所區堅川一ノ四

従業員 四名

取引銀行 日本晝夜本所支店、住友本所支店

特色 當店は江東解體商の中堅店として既に定評あり商内もなか／＼活潑で同業者間の信用も厚くその將來は大に嚆望されてゐる。

大谷氏は明治三十七年三月埼玉縣北埼玉郡村若村に生れ、大正十三年横須賀海兵團に入團、昭和二年十一月満期除隊、其後自動車界に轉じて昭和七年獨立するに至つたものである。氏は既に江東解體商組合幹事をなし業界の向上發展に盡し、かつ、陸海軍在郷軍人會副班長として銃後の責務を果しつゝある。

小椋^{ゴラ} 商店

所在 城東區大島町一ノ一六三
電話 本所 九五五六番
創立 昭和十二年五月
代表者 小椋 茂

沿革 自動車解體部分品販賣の目的を以て昭和十二年五月創業せられ、爾來銳意事業の刷新をはかり漸次同業者間に認められ今日に至る。

營業種目 解體部分品販賣

販路 一般

従業員 四名

特色 當店は城東方面に於ける解體商中での販賣高は随一と稱せられ、創業二年にしてかく繁忙を見るに至りたるは獨り店主小椋氏の顧客に接するや親切丁寧に注文に應じて漸次好評を得るに及び今日の如き盛況を見るに至れるものである。城東の一角より中央進出のチャンスを狙ひつゝある當店の今後は期待されてゐる。

店主小椋茂氏は明治三十五年七月靜岡縣熱海市に生れ昭和二年より自動車運轉者となりタクシー界に身を投じて日夜業に勵み宿望かなつて昭和十二年獨立するに至れるものである。篤實温厚の士で趣味に讀書を良く愛好す。

カプト商會

所在 本所區堅川町二ノ六
電話 本所 八六三一番
創立 昭和三年二月
代表者 太田辰三郎

沿革 昭和三年カプト商會を設立して解體部分品販賣にあたり、漸次業務を擴張して今日に及ぶ。

營業種目 解體部分品、中古自動車販賣

工場 本所區堅川二ノ五(解體部)

販路 一般

従業員 七名

取引銀行 住友銀行本所支店

特色 當商會は本所組合員六十七名中創立は第三位目で開業既に十年、歴史も古く傳統の地盤を擁して居り、中古自動車販賣も活潑な動きを示めしつゝあるから業績は好調を持続しつゝある。

太田辰三郎

カプト商會主
本所區堅川町二ノ六

明治廿八年九月栃木縣佐野町に生る。現に本所解體商組合會計、本所商工俱樂部幹事として同業者と協調を諮り所屬團體の強化に盡す一方堅川三丁目町會理事、防火隊長として社會公共のたあ大いに盡瘁しつゝある。

和氣 商會

所 在 芝區濱松町四ノ一
電話 芝二九九〇番
創立 昭和二年三月
代表者 和氣 茂

沿革 昭和二年三月芝區二本榎二ノ一に和氣商會を創立して自動車解體部分品商を開業、當初フォード専門店として業界へ第一歩を踏み出し経営の刷新を行ひ顧客本位の商店として賣出すに至り同業者間より嶮然と頭角を現はすに至り、次いで事業の進展に向ふや現所在に移轉して大店舗を構え、トラツク再生事業にも進出して都下有數の解體商として磐石の如き基礎を固め今日に至れり

營業種目 解體部分品(フォード専門)並にトラツク再生組立

販路 一般

取引銀行 安田三田支店、日本晝夜三田支店

特色 當商會は解體商間の一推進力であつて、當商會の動向により業界を動かす力を持つに至り推しも推されぬ業界の大御所的存在である。當商會はかく重要なポジションにあるだけに堅實な經營を以て終始し豪末も刺戟的な商賣を禁止してゐる。近時再生トラツクの需要旺盛で、これが利益も素晴らしき純益をあげるものと見られてゐる。對外的な信用は絶大なるものあり。

和氣 茂

和氣商會主
自宅 芝區濱松町四ノ一

氏は明治二十三年十月愛媛縣喜多郡河津村に於て生る幼少より人生の荒波と闘ひ辛酸を嘗めて撓まず屈せず烈々たる闘志を以て苦難を乗り越えて遂に獨立自營の第一歩を郷里に於て踏み出すに至る。氏は身を立つるためには商人たるべしとの信條のもとに此處に物産賣買業を營み少壯氣鋭の氏は日夜の別なく涙ぐまじき努力をつゞけて事業は逐日順調に進み今日の大をなす素地はこのときに出來た、明日への限りなき希望に燃えて決然物品賣買業をなげうつて上京 再び勞苦を重ねた結果、昭和二年には和氣商會を創立して解體商としてのスタートを切つた。爾來氏の敏腕と多年の經驗によつて今や帝都第一流中一流店として好評噴々たり。自店の基礎が確立するや同業界の革新を目ざして氏は先年主唱して山手解體部分品商組合を創立して同組合長となり創立以來今日まで眞に組合の發展向上のためには私費を投じても業界の革新にあたるなど同業者の畏敬しおく能はざるものがある。既に齡は不惑を越んとして居り人格は愈よ圓熟同業者の徳望殊のほか高く、四圍の信用は一身に集まり而かも如何なる大業をも成し遂げる地位と信用と手腕を兼ね備へてゐる業界の長老の一人としてその活躍は期待さる。

金子 商店

所 在 豊島區池袋一ノ六四五
電話 大塚 五九九番
創立 昭和六年八月
代表者 金子佐久男

沿革 當店は昭和六年島田本店島田喜多郎氏の指導後援のもとに島田第一支店として創立せられ自動車解體部分品販賣に従事、後事業を擴張して金子商店と改稱今日に及べり。

營業種目 解體部分品(トラツク専門)販賣

第一倉庫 池袋一ノ六四五

第二倉庫 池袋一ノ六五二

販路 一般

従業員 三人

取引銀行 武州池袋支店、日本晝夜池袋支店

特色 近時解體部分品販賣界は戰時體制下に新車の輸入禁止より現所有車の維持にあたる一方中古自動車購入にこのところこれらパーツの補供も勢ひセコ物によつて充當するの需要活潑なるものがある。就中トラツクの場合は更に一段と活況を呈してゐるため當店の如くトラツク専門店が目下のところ戰時體制下に時局の波に乗り最もその飛躍を期待される城北方面の一流店である。

金子佐久男

金子商店主
自宅 豊島區池袋六四五

氏は明治三十九年一月澁谷區下通りに於て出生、長ずるに及んで島田本店に入店して早く非凡な商才を發揮して店主より大いに重用せられ自動車解體品賣買の實際を極め、島田氏の後援のもとに昭和六年二十四歳の青年にして早くも獨立するに至れり、氏はその資性豪放磊落、その商風も性格を反映せるか豪快を極め同業者間に豪腹を以て鳴る。即ち氏は一端商談となるやその豪快さを以て大量の注文を引受け或ひは大量の注文を發するなどを狙らつて好機至ると斷ずれば直ちにこれを斷行する。人すべて冒険的な商賣として手を出し得ず唯傍觀すると氏は己が信ずればこの冒険をも敢てして而かも狂なく今日では同業者間の資産家として巨萬の産をなすに至つた未だ少壯有爲の士で漸やく三十歳を越えたるのみで將來の大器として多大の囑望がかけられてゐる。

氏は亦山之手解體商組合の幹事として組合のため大いに盡力せられ山之手方面の業者には信望厚きものありて頗る好評を博しつゝあり、若手同業者の中心勢力として既に重きをなしてゐる。今後解體部分品も次第に品薄が深刻となつて行くととき果して如何なる秘策に出るか興味を呼んでゐる。

吉原 商店

所 在 本所區堅川町二ノ六
電話 本所三四〇九番
創立 昭和七年三月
代表者 吉原常吉

沿革 昭和七年三月吉原商店を本所堅川町三ノ一に創立解體部分品商を開業せり、昭和十年五月現所在地に移轉して業務を大いに擴張す、爾來自動車解體部分品界の好調不調の波を巧みに乗り越えて事業の進展を示めし益々發展を約束せられるに至る。

營業種目 解體部分品販賣、中古自動車賣買、馬車材料卸

工場 本所區堅川三ノ三

販路 東北、北海道、滿洲國、朝鮮

従業員 五名

取引銀行 安田本所支店

特色 當店は地方に營業の主力を注ぎつゝある。遠く朝鮮、滿洲方面にも確固たる地盤を擁して居り、大陸進出政策に呼應して鮮滿へと伸びつゝあるは注目に値する。就中東北、北海道には最も強固な地盤を有してゐる。中古自動車賣買にも非凡な才腕を揮つて中古車界に於ける新進として定評あり、馬車材料卸を早くより營んでゐるが、最近の如く燃料不足時代に馬車の復活などから需要が増加せるなど全般的に活況を呈してゐる。

吉原 常吉 吉原商店主

氏は明治三十九年十一月茨城縣結城郡五箇村に生る。北海道中學校を卒業して直ちに株式會社日向商會に入社業務に勤み先輩社員間にも評判よく大いに面目を施せるも大正十五年中野電信隊に入隊のため退社、昭和三年上等兵として除隊するや、獨立を決意して將來を託し得る事業として解體部分品販賣に従事すべくこれが研鑽をつんで昭和七年三月吉原商店を創立するに至れり。

爾來業界の新人として大いにその敏腕を揮つて解體部分品 中古自動車賣買に於て遺憾なく才能を發揮して着々業界に於ける地盤を築き、地方の有望なるに着目するや遠く滿洲、朝鮮にまで觸手を伸ばす、氏の進取の氣象は何處までも事業に積極性を持つて進み、新人としてはその膽力の据つた商法は將來の利器たるを思はせるに充分なるものあり、今後氏が順調に伸展せんことを望む者は同業者間に多く、明日への挽まざる精進をなしてその期待に副ふべきである。地方進出によつて成功せる氏が行詰れる地方市場を何う開拓して行くかも亦大きな興味を投げてゐる。

趣味は旅行を愛好し體位の向上により明日への飛躍に備へると云はれる。

田村 鱒三商店

所 在 本所區堅川町二ノ一〇
電話 本所五六三番
創立 明治四十年三月
代表者 田村鱒三

沿革 其の創業は古く明治四十年三月深川區靈岸町に銅鐵販賣商を開業せるに始まり爾來これが販賣に従事すること二十餘年にわたり同業界での古參となる、その間大正二年現所在地に移轉せり。

昭和四年自動車解體部分品商に轉業して爾來十年銳意事業の發展をはかり業界の有力店となり今日に及べり。

營業種目 解體部分品、中古自動車賣買

販路 一般

従業員 三人

取引銀行 第百本所支店

特色 當店は自動車解體部分品界に轉向してより早くも十年になり現在では都下解體商の有力者として重きをなし、解體部分品、中古車賣買共に活況を呈して居る。當商店の特色とするところは三十年來の經驗を基礎として顧客本位の店として顧客の機微に觸れて思はず手を出すこと云つた心境に入らしめてより商賣にかゝると云つた並々ならぬ努力をしてゐるものである。これがため固定せる需要層が多く現下の如き非常時局の重壓を蒙らず活況を呈してゐる所以である。

田村 鱒三 田村鱒三商店主

氏は明治十四年十二月栃木縣安齋郡旗川村に生る。氏は二十餘年にわたり銅鐵販賣商として活躍後自動車解體部分品販賣に轉じ、現に江東解體商組合副組合長として組合の長老で穩健論を以て組合の諸問題解決の鍵を與へ松本、雨宮氏等と共に最高幹部として重きをなし、同業者間の信望を益々高からしめてゐる。

氏の人と爲りは寡黙にしてよく事象に對する判断を誤まらず、今日隆昌の基礎は氏が黙々たるうちにも事業に對しては熱意を以てこれを達成する闘志を有して撓まず努力せる結果に他ならず、その一端をよく物語ものは田村商店は在庫商品の豊富なる點を見てもその用意周到さがよくうかがはれる。創業三十餘年の永きにわたつて氏は黙々として事業に勤み、隣人を愛し子弟を訓陶し來たつた。今や業界の長老として重きを加へるとき寡黙のうち人に動かすの力あるは徳望高き所以で、業界に於ける氏の存在はまことに異色ある存在である。

氏は趣味として狩獵を好み獵期に這入るや遠征して山野に獲物を追ひ求めるが、その獲物に狙ひを定めるとき身心一致の哲理は氏の人生哲學であつて、豊かな人格者として知られてゐる。

第百 商店

所在 本所區堅川町二ノ一ノ七
電話 本所 八五五一番
創立 昭和七年十一月
代表者 安藤米太郎

沿革 昭和七年マコト商會主星野定三郎氏の後援の下に第百商店を設立解體部分品商を開業、爾來業務の擴充にあたりマコト商會と提携姉妹關係にあり、中古自動車賣買業をなし今日の隆昌を見るに至る。

營業種目 解體部分品一般、中古自動車賣買
工場 足立區千住東町五一(マコト商會工場)

販路 地方専門特に東北地方

年商 拾萬圓
従業員 四人

取引銀行 日本晝夜銀行

特色 當店は堅川自動車街に於ける花形商店として定評あり、最近では新車輸入禁止より中古自動車の動きが極めて活潑となり加ふるに特殊車、高級車の部分品輸入皆無の状態に解體部分品の需要も激増してストック豊富な當店の利益は豫想外の収益を擧げてゐる。就中地方市場も自動車微發などで可成り中古車が活潑な動きを示め

してゐるため、地方を専門としてゐる當店は頗る好條件に恵まれ活躍が期待され、マコト商會と姉妹關係にあることも大いに強味である。

安藤米太郎

第百商店主
本所區堅川町二ノ一ノ七

明治三十七年愛知縣名古屋市に生る。氏は青年時代より社會の荒波と闘ひ惡戰苦闘の歴史を繰り返しその間に人間修練を積み今日の素地を築きあげた、若くして圓滿なる常識人となつた氏はマコト商會星野定一郎氏と相識るに及んで、星野氏の滿々たる事業慾と義侠心とは遂に安藤氏と相結ぶに至り、星野氏の資本的後援のもとに第百商店を設立の起縁となつた、爾來星野氏の手厚き庇護のもとに氏の不撓不屈の努力と相俟つて順調な發展へのコースを辿り第百商店の今日の隆昌を見るに至つた。氏は撓まざる努力によつてあらゆる苦難をも克服するを以て生活の信條としてゐる。この努力と烈々たる闘志とはよくその趣味にも現はれ、氏はスポーツのなかでも拳闘を最も好む、ボクサーの沸ぎるやうなファイテンングスピリットに倒れて後止むの必死を盡すこのスポーツに氏の處生の信條が盛り込まれてゐる。未だ三十五歳の壯年安藤氏である。その前途は益々多忙なると共に亦洋々たるものがある。

高梨 商店

所在 本所區平川橋一ノ一
電話 墨田 五五五七番
創立 昭和六年三月
代表者 高梨豊司

沿革 昭和六年現所在地に高梨商店を設立して自動車解體部分品販賣に従事、夙に地方進出を企圖して正鶴高價なる型録を作成して地方顧客に配布し、電報一本にて直ちに指定商品を送ることの出来るやうな新企畫を以て地方顧客の吸収にあたり近年地方より注文殺到し現在の發展を示めすに至れり。

營業種目 解體部分品

販路 地方専門

従業員 三名

取引銀行 第百押上支店

特色 當店の特色の型録發行の一語に盡きると云つても過言ではない。解體部分品の如く各種各様に異つてゐる上に年式により又各々異つてゐるのでこれが型録の編纂の如きは頗る至難なことであるが、刻明に各種型各年式によつて精密な調査なして定價を附して顧客に配布、顧客は型録によつて所要の番號を電話、電報で申込み直ちにこれを送ると云つた一つのカードシステムをとつて成功してゐる。

高梨 豊司

高梨商店主

氏は明治三十五年千葉縣海上郡嚶鳴村に生る。長ずるに及んで自動車に興味を持ち遂に自動車運輸業に投じて爾來數年にわたり自からもハンドルを握つて營業の第一線に立つて活躍せるも、昭和六年三月高梨商店を創立して解體部分品販賣に乗り出す、性來研究心深く常に事業に従事しても研究的態度を以て臨み、規調面な性格はまづ業務を整理して個人商店としてはその例を見ざる位整備せる帳簿を以て出納を明かにし所謂科學的な經營のシステムを採用せり、次いで地方への進出を企圖するに至り地方顧客を吸収するため通信販賣の方法を研究して多大の犠牲を拂つて解體部分品型録を完成す、個人商店でかく完備せる型録を作成することは容易な業ではないが氏は日頃の研究心と規調面な性格とは遂にこの難事業を完成して地方顧客に大きな利便を與へる一方、同型録は標準價格として一般取引上にも利用されて大いに業界のために貢献してゐる。

氏未だ不惑にはあと數年を残して居り今後の活動は多大の期待がかけられてゐるところであるが、地方販賣に新機軸を開いた如く再び新企畫により業界に文化的意義をもたらされんことを祈る。

米澤賢治

山之手解體商組合顧問
東京市外立川町

氏は自動車解體部分品界の元老として既に功成り名遂げて郊外立川町に業界を隠退して裕々自適の生活を送つてゐた、氏の業界に於ける足跡を辿れば如何に業界に功績を残せるかをうかがひ知られる。

氏は淀橋區淀橋橋際に米澤商店を経営してT型フォード専門解體商として縦横に敏腕を揮ひ斯業の草分けの一人として大いに活躍、業界の向上發展にあたるべく山之手解體商組合を現和氣組合長等と共に創立にあたり推されて初代組合長となり斯業の發展に盡瘁して大いに功勞あり、長老として益々重きを加へたるも昭和十二年後進に道を譲り隠退するに至つたものである。然るに支那事變突發するや老軀を提げて殉國奉公の赤誠を致すべく、航空兵准尉として出征重要任務につき、少尉に進級して目下飛行機修理部隊長として、かつて業界に於けると同様神速果敢な行動を以て任務遂行にあたりつゝある氏の健在を祈るや切なるものあり。
氏は亦よく酒を好み業界に酒仙を以て知られ酒の上では種々の逸話の持主である。

高桑誠一郎商店

所 在 京橋區越前堀三ノ三
電話 京橋 四三六三番
創 立 昭和七年三月

代表者 高桑誠一郎

沿革 昭和七年高桑誠一郎商店を創立して自動車解體商を開業、高級車専門店として今日に至る。

營業種目 高級車専門解體部分品賣買
販 路 一般

取引銀行 三菱永代橋支店

特色 當店は所謂高級車専門店として定評あり最近の如く高級車が輸入禁止となり、勢ひ部分品も輸入困難なところからこれ等部分品の拂底は深刻で、解體部分品へとその需要が向けられて來てゐるから、當店の如く専門店は豫期せざる収益がある。

高桑誠一郎

高桑誠一郎商店主

新潟縣の人、大正十三年より麴町區麴町三丁目に於て自動車運輸營業を経営して昭和七年高桑誠一郎商店設立まで同事業を繼續同店を設立するやこれに専念し、高級車専門店として特異な存在となり、今日の隆昌を見るに至る。現に越前堀町會幹事として活躍、趣味は寫眞を好む。

園塚 商店

所 在 本所區堅川二ノ二
電話 本所 三五〇四番
創 立 昭和六年三月

代表者 園塚時次郎

沿革 解體部分品販賣の目的を以て昭和六年三月現所在地に栃木屋支店として創立せられ後園塚商店と改稱して事業を擴張、逐日業務進展して今日の隆昌に向ひ現在に至る。

營業種目 解體部分品販賣(フォード、シボレー専門)

工場倉庫 本所區堅川二ノ三

第二倉庫 本所區堅川一ノ四

販 路 一般

従業員 六名

取引銀行 安田本所支店

特色 園塚氏は業界の新人なるもその將來は既に定評あるところで敏腕を揮ひ業界の中堅として活躍しつゝあり、第一、第二倉庫を有して商品の在庫は豊富でフォード、シボレーパーツ拂底の折柄活況を呈しつゝある。

氏は明治四十二年二月栃木屋縣栃木市城内に生れ、栃木屋商店指導の下に開業し現在に至つたものである。氏は現に財を成して信用絶大なるものあり。

月本 商店

所 在 品川區大井南濱川一七〇五番
創 立 昭和七年四月

代表者 月本廣三

沿革 昭和七年現所在地に月本商店を創立して自動車解體部分品販賣に従事して爾來事業の發展を期し各方面に進出、就中京濱間に於ける新進として大いに認められ現在に及べり。

營業種目 一般解體部分品販賣

販 路 一般運輸業者

従業員 一名

特色 月本氏は明治三十二年三月廣島縣に生る。昭和七年創業せられ一般解體部分品商中山の手方面に於ける中堅店として近時頭角を現はすに及んで各方面より漸く注目されて來た。當店は京濱大井南濱川に所在するので同方面が最近に及んで自動車關係工場、業者の一中心地をなすに至り、地理的にも今後大いに活躍を期待される地點に位置してゐるので當面の將來はこの點からも多大の期待がかけられてゐる。月本氏は資性誠に穩和にして如才なく顧客間の氣受けも頗るよく一流商店に伍してめき／＼業績をあげてきたので發展は大いに期待される所である。

葛商店

所 在 京橋區新堀本町一ノ一
電話 六五二五番
創立 昭和四年三月
代表者 葛圭太郎

沿革 葛圭太郎氏の個人經營として昭和四年三月葛商店を創立して、多年自動車修理業で磨いた優秀技術を發揮して再生部分品によるトラクター組立に従事、都下唯一の再生トラクター販賣店として大いに活躍して現在に及びり。

營業種目 解體部分品、トラクター専門組立、(運輸業を兼營す)

販 路 一般
從業員 七人
取引銀行 安田深川支店

特色 當店は再生トラクター組立として都下唯一の店である。現在の如くトラクターの拂底してゐるときこの種の事業は大いに有望視されてゐるが、部分品が同様拂底してゐるため仲々容易ならざるものもあるも、勢ひ再生物でも高値になつてゐるので採算上は有利である。

葛氏は明治三十七年十一月廣島市に於て生れ多年自動車修理事業に従事して現在の事業に轉向せるものである。東京解體商組合の幹事として組合活動に多大の貢献をなす。

中澤商店

所 在 本所區野川町二ノ六
電話 八六一六番
創立 昭和八年十一月
代表者 中澤信連

沿革 昭和八年上京直ちに中澤商店を創立し現所在地に自動車解體商を開業、フォード、シボレー専門店として大いに活躍現在に至る。

營業種目 解體部分品、中古自動車賣買。フォード、シボレー専門

販 路 一般
從業員 五名
取引銀行 住友本所支店

特色 當店はフォード、シボレー専門店として定評あり、最近中古フォード、シボレーの需要は一段と活潑になつて來たので當店の活況も一段と見込まれる筋合にあり、中古自動車賣買も極めて好調である。

中澤 信連 中澤商店主

明治三十三年一月長野縣小縣郡鹽尻村に生る。昭和八年まで長野縣上田市株式會社宮入商會に勤務精勵格勤を以て重用せられたるも東都進出を志して昭和八年上京業界に投ずるに至る。堅實主義の經營は顧客の信用を博し新進店として躍進目ざましきものがある。

合資會社長澤商店

所 在 京橋區明石町三十一
電話 七〇四二番
創立 大正十四年
代表者 長澤元七

沿革 大正六年日本橋區久松町に日之出自動車商會を起し、後大正十四年京橋區湊町明石ガレイチ内に解體商として開業、運輸營業、自動車賣買業、更生自動車販賣附屬品製作をなし昭和二年合資會社長澤商店と改組して今日に至る。

營業種目 自動車賣買、解體品附屬品製造販賣

販 路 東京、地方一般
從業員 五名
取引銀行 三菱銀行京橋支店

特色 當店は自動車解體部分品の元祖にして最古の歴史を有してゐる。常に解體部分品販賣界の向上に寄與し今日の如く自動車經濟の一部門を形成するに至り當業者も多數を算して發展しつつある、この間常に業界の指導的役割を果し來たつた當店は亦、老舗として傳統の歴史を有するのみならず、堅實なる經營は事業内容の充實と共に業界第一を以て開ゆ、當店解體品賣買より部分品或ひは附屬品製作に進出して所謂多角的經營に依り時局の重壓を最少限度に喰ひ止めてゐるのも注目される。

長澤 元七

長澤商店代表社員
自宅 川崎市池田町二〇一番地

明治二十一年九月十三日群馬縣高崎市柳川町六十三番地に生る。大正六年日之出自動車商會を創立經營するに及んで業界への第一歩を印するに至り、自動車賣買用品販賣に轉じて業界事情にも次第に精通して當時未だ商品價値を生ぜざる解體部分品に着眼してこれが賣買を論み豫期以上の業績を挙げた氏は、大正十二年には我國最初のオークションセールを催して一新機軸を劃して少壯事業家としてその地位を築き、波瀾重疊のうちにもよく進路を誤まるところなく長澤商店の基礎を不動のものとなし今日の隆昌を見るに至つた。氏は徳望の人で早くより東京自動車商組合役員に推され組合のためによく盡力するところあり、亦解體部分品界の向上發展のため首唱して東京解體商組合を創立し組合長に推されて輿望を擔ひ困難なる業界の推進力として重大な役割を果しつつあるは獨り氏の古淡に近き人格の反映する所以のものである。至誠一貫組合發展に盡瘁せる功勞は没すべからざるものあり、組合員より齊しく信頼される所以である。趣味として寫眞、旅行を殊に好む。

中瀬 商店

所在 本所區堅川一ノ三
電話 本所 七〇四番
創立 昭和七年十一月
代表者 中瀬友信

沿革 昭和十年十一月中瀬商店を本所區堅川一ノ六に創立解體部分品販賣店を開業せり。後事業の擴張に伴ひ現所在に移轉現在に及べり。

營業種目 解體部分品(シボレー、フォード専門)販賣
販路 一般
従業員 三人

特色 當店は江東自動車解體部分品界に於ける新進として既に不動の地盤を築いて信用頗る厚きものあり、シボレー、フォード専門店としてもその在庫の豊富な點は定評あり、現在の如くフォード、シボレー各年式の部分品拂底の折柄今後の活況も一段と見込れて居り時局の波に乗つてゐる。

中瀬氏は富山縣射水郡新港町に生れ、年少にして上京自動車業界に投じて爾來研鑽今日に至れり。現に江東解體品商組合幹事に推され中堅幹部として活躍しつゝ、ある。趣味旅行

長尾 商店

所在 品川區北濱川一四七番
電話 高輪 七六九五番
創立 昭和七年
代表者 長尾 一

沿革 年少より自動車關係業務に従事せしが昭和七年長尾商店を創立して解體部分品販賣を開始、昭和十一年春現所在地に移轉事業を擴充し以て積極的に自動車運輸方面に進出を試み業績大いにあがり、今日に及ぶ。

營業種目 解體部分品販賣
販路 一般
従業員 三名

取引銀行 日本晝夜品川支店

特色 長尾氏は明治三十六年大分縣日田郡日田町に生れ、長じて上京自動車關係事業にたづさはり居りしが昭和七年獨立して長尾商店を創立して自動車解體部分品界に進出するに至る。氏は多年自動車營業にたづさはつて業界の事情によく通曉してゐるところからその商法も極めて巧妙で屢々意表に出る商賣をなして同業者間の羨望の的となることもあり、近年異常な躍進を遂げ業界の新人として前途大いに囑望さる。

内田 商店

所在 深川區白河町三ノ五
電話 本所 四一九〇番
創立 昭和五年三月
代表者 内田平藏

沿革 昭和五年三月深川區白河町三ノ三に内田商店を創立し解體部分品販賣に従事、昭和十年十月現所在地に移轉して業務の擴張をなし、深川區内に於ける最大の解體店として現在に至る。

營業種目 解體部分品(トラック専門)、トラック再製
組立販賣
販路 一般
従業員 七名

取引銀行 金原銀行、昭和銀行高橋支店

内田 平藏
氏は明治三十一年三月千葉縣野田町に生れ、長ずるに及んでトラック運輸業を開業して爾來トラック運輸界に雄飛して着々その地盤を強化するに至れるも、昭和五年自動車解體部分品販賣に従事して今や深川區内隨一の解體店として各方面より認められるに至る。濃厚篤實な紳士であつて同業者間の信任厚きものあり、現に江東解體商組合の幹事、防護團副群長として大いに盡力して今日の隆昌を見るに至る。

白倉 商店

所在 京橋區湊町三ノ七
電話 京橋 六四二八番
創立 昭和三年八月
代表者 白倉 清

沿革 昭和三年八月白倉商店を創立して自動車解體部分品店を開業、爾來發展を遂げ解體部分品界の中堅商として活躍、現在に及べり。

營業種目 解體部分品(トラック専門)動力用エンヂン
販路 一般
従業員 三名

取引銀行 三和京橋支店

特色 當店はトラック専門の解體店で近時トラック物需要旺盛なる昨今一段と活況を呈しつゝあり、中堅店として大いに活動が期待されてゐる。
白倉氏は明治三十六年埼玉縣北埼玉郡高柳村に生れ、大正七年十六才にして上京、陸軍御用商中島商店に入店して在勤五年に及べるとも自動車界進出を志して長澤商店に入店よく刻苦勉勵して業務に精進し長澤氏より認められ重用されて創立まで同店の柱石として勤め昭和三年獨立して現在に至る。

浦田 商店

所在 城東區龜戸町一ノ一三一
電話 墨田 三七九八番
創立 昭和五年十月
代表者 浦田 繁

沿革 昭和五年十月本所區江東橋一ノ四に浦田商店を設立して自動車解體部分品商を開業、爾來事業日を追つて隆昌に向ひ昭和十三年六月現所在地に店舗住宅を含む新店舗が新築落成するに至り移轉、業務の擴張をはかり今日に至る。

營業種目 解體部分品(フォード専門)
販路、一般
従業員 四名

取引銀行 金原銀行本所支店

特色 當店は去る六月新店舗(店舗、住宅等を合せて百餘坪)が落成するに至り、同業者間での大建築でその盛大の程が偲ばれる。現在フォード専門としては都下有数の店として定評のあるところ、經營は堅實を以て鳴る。浦田氏は明治三十五年二月北海道上川郡江丹別村に生れ、大正十年上京して運輸業に従事して斯業に關心を持ち遂に浦田商店を設立して轉業するに至る。氏はよく將棋を愛好し仲々の趣味人である。

クモデ商店

所在 本所區堅川三ノ三
電話 本所 二〇三〇番
創立 昭和五年三月
代表者 雲出利一

沿革 昭和五年クモデ商店を設立して自動車解體商を開業、爾來業務の擴張に伴ひ組立工場、ガレージを新設して今日に至る。

營業種目 解體部分品、中古自動車賣買、トラツク組立販賣、車庫業
組立工場 本所區堅川三ノ三
ガレージ 本所區堅川三ノ八一
販路 一般
年商 拾萬圓
従業員 五名

取引銀行 住友銀行本所支店

特色 店主雲出利一氏は明治四十一年一月京都市に生れ、弱冠二十三才にして獨立自營、少壯俊敏を以て諷はれ三十才の今日既に確固たる地盤を擁するに至り大いに囑望されてゐる。經營にあたつては新企劃を出して再生トラツク組立販賣にてトラツク拂底時代に活況を呈しつつある。亦中古車賣買にも才腕を揮つてゐる。

山下 商店

所在 京橋區入船町一ノ一
電話 京橋 九九八八番
創立 昭和五年一月
代表者 山下菊野

沿革 彌榮町二ノ一に自動車解體部分品販賣を開業、昭和九年七月當所に移轉店舗を擴張シボレー、フォードトラツク専門の解體部分品販賣にあたり今日に及べり。

營業種目 フォード、シボレー・トラツク専門
販路 東京、地方トラツク業者其他
従業員 三名

取引銀行 第百銀行

特色 當店は山下プロツクの一翼として同プロツクの中堅メンバーである。現にフォード、シボレートラツク専門の解體商として都下有数の商店で在庫の豊富、價格の低廉を以て顧客の好評を博してゐる。戦時下フォードシボレートラツクは車輛の不足が深刻化した爲中古車も急騰するに至りこれがパーツの補給のため需要が激増せるのでフォード、シボレートラツク専門店である當店も活況を呈するに至り、業績はとみは好調を以て飛躍が期待されてゐる。

山本 商店

所在 中野區榮通り一ノ二七
電話 中野 四六七〇番
創立 昭和三年六月
代表者 山本武藏

沿革 昭和三年現所在地に山本商店を創立して解體部分品商を開業、逐日事業の進展により城西方面に於ける有力解體商として内外の信用を博し業界に確固たる地盤を築き現在に至る。

營業種目 解體部分品(フォード、シボレー専門)
販路 一般
従業員 三名

取引銀行 中野銀行

特色 城西方面に同業者少なくそのうちの有力解體店として近來めき／＼と進出しつゝある。而して當店はシボレー、フォード専門なるため、これら大衆車の中古パーツの需要旺盛で近來活況して居る。山本氏は明治三十三年五月山口縣萩町に生る、氏は昭和三年城西方面の手薄なるのに着眼して中野に地を下して店舗を構へて解體商への進出第一歩を踏み出すに至れり、氏の着眼は誤まらず逐日需要は増し城西方面に於ける有力店として繁昌同業者間での當り屋として羨望さる。その性質實剛健にして人の範たるに足る人で信望は益々昂つてゐる。

松本 商店

所 在 本所區堅川町二ノ二
電話 五〇三五番
創立 大正十三年二月
代表者 松本誠一

沿革 大正十三年二月現所在地に松本商店を創立、自動車解體部分品販賣に従事せるも、當時解體部分品は未だ唐女地で最初に斯業に進出せる業界の草分けとして知らる、店主松本誠一氏の天稟の商才は創業早くも解體部分品事業を確立するに至り、續々と輩出する同業者間に於て有数の商店となりその販賣高も逐日増大して都下一流店として自他共に許される位地に登る。爾來順調に進展して業績はとみにあがり、東都随一と稱せられ今日に及べり。

營業種目 解體部分品販賣
倉庫 本所區堅川二丁目
販賣員 九名

取引銀行 安田本所支店、第百本所支店

特色 當店は業界の大御所的存在として既に廣く知られて居り、規模、販賣業績等も東都に於て一、二を譲らざる一流店である。店主松本氏の經營的な手腕は業界の革命兒として營業の刷新を斷行してよく解體商を近代的事業に組織化して大いに業績あがり、解體部分品界は同店の動きによつて左右されるもの尠からず、當店の存在は業界の浮沈に關係すると云つても過言でない程、今日ではその存在意義はたかめられてきた。

松本 誠一

松本商店主
江東解體商組合組合長

氏は明治三十年本所區堅川町二ノ二の現所在地に於て生れ、土地の名望家なり、長ずるに及んで専修大學を卒業、父祖の業を繼ぎ、解體部分品の現狀を見てその將來性ある處から敢然解體部分品商に轉ぜり、氏は業界に於けるインテリでこれが事業を近代的機構のもとに整備して組織的な事業をなしめき、と業績向上して今や帝都隨一と稱せられるに至る。明哲なる理論と敏速果斷は難事にあたりその光彩を發揮してこれを處理して誤まらず解體商の品位向上と事業の發達をはかるべく江東解體商組合を結成して組合長に推され、組合の發展に盡力組合員をよく指導し江東解體商組合は氏の指揮のもとに見事な結束を固めて一致團結時艱の克服に邁進しつゝあり、組合員は齊しく氏の徳望を慕ひてその指導のもとに營業の改善、相互協調の實をあげてゐるのは全く氏の徳のしからしむるところと云ふべく業界稀にみる温厚篤實の好紳士である。氏の經營する松本商店が今日隆々たる發展を示しつゝあるは獨り氏の敏腕に負ふところ大なるも反面これに和して献身的努力を惜まざる店員に對する日頃の訓練の賜物、齡不惑と雖も前途春秋に富む氣鋭の士である。

富士繩藏太郎商店

所 在 京橋區入船町三ノ一
電話 一七一〇番
創立 昭和二年三月
代表者 富士繩藏太郎

沿革 當店は昭和二年三月創業、當初エセツクス専門解體部分品取扱にあたりたるも、自動車界の發達に伴ひ自動車販賣分野に變革を來たしエセツクス専門店より一般物に轉向して事業の刷新をはかり、今日の如く發展を見るに至る。

營業種目 解體卸専門
工場 京橋區明石町
取引銀行 仲間取引専門
從業員 四名

取引銀行 第百櫻橋支店

特色 當店は卸専門店従つて仲間取引に終始してゐる。最近の如く新車の拂底から中古車の値上りとなり、今迄は解體に出されたやうな中古車でもどん／＼使用されてきた爲、解體車が拂底しかつ高値を呼ぶに至つた爲卸専門店の當店あたりの打撃は可成り大なるものありと見られる。然しその一面今日までのストックの値上りによる利益も亦可成り大ききと見られてゐるので、今日までは差引して大差なきも今後は材料の拂底から時局の或る程度重壓は避け難い。

富士繩藏太郎

富士繩藏太郎商店主

氏は明治二十九年四月京橋區八丁堀で生れ、齡不惑に達して圓熟せる事業的妙腕は一段と冴えて近來の活躍は同業者間で齊しく話題にのぼるところ、氏は現に解體部分品卸専門として同業者のみを相手に商賣をしてゐるところから業界事情によく通じて、營業も仲々手堅く着々と地歩を築きつゝあるところはその性格を反映するものか、同業者間の信望日に厚く事業も益々好調に向つて推移しつゝあり、最近では車輛の拂底漸やく深刻化せんとするときよく今日あるを洞察して在庫品は豊富にあり、同業者との需給は圓滑に進んでゐる。氏は現に東京自動車解體商組合の會計をつかさどり業界の發展に大いに活動してゐる。氏は亦趣味としての旅行などもしばしの旅情により英氣を回復し明日への飛躍に備へるなど、常に用意周到な氏の心づかひはその日常生活にまで反映してゐる。

自動車運輸業をも經營してよく困難と云はれる運轉者の指導にあたり着々と利益を収めて盛大に事業に遂行せしこともあり、近年經營を引緊めてきた、氏の事業も所謂建設期から守成の域に達せるもので、今日までは積極的活動により事業の擴張發展にあたり今日よりこれをよく守つて事業の大成をなすときになつた。

古橋 商店

所 在 京橋區入船町一ノ八
電話 京橋 七〇二二番
創立 昭和五年三月
代表者 古橋一泰

沿革 昭和五年京橋區月島東海岸通五丁目二に開業、昭和八年擴張のため現所在地に店舗を移轉今日に及ぶ。

營業種目 一般解體部分品、中古自動車賣買業

工場 京橋區明石町四八

販路 一般

従業員 六人

取引銀行 第百櫻橋支店

特色 解體商を専門に仲間取引を主としてゐるので、當店の經營は他店と異なり逐年商内も増大するに至り同業者間の注目の的となつてゐる。最近中古車界は活潑な動きのなかに重苦しい商況を呈して居るので些さか不活潑なるも當店の經營は微動だもせず好調である。

古橋 一泰 古橋商店主

明治三十七年六月深川區門前仲町に生れ、生粹の江戸ツ子で肌合も明朗潤達で商談も敏速なるため同業者間の氣受けもよく、未だ三十五才今後の活動に待つこと大なるものあり。趣味旅行讀書。

小山玉三郎商店

所 在 本所區堅川三ノ二
電話 本所 五九一二番
創立 昭和六年一月
代表者 小山玉三郎

沿革 昭和六年本所區堅川一ノ二に小山商店を創立して事業を開始、昭和十一年五月業務擴張のため現所在地に移轉、現在に及ぶ。

營業種目 解體部分品、中古自動車賣買

販路 一般

年商 五萬圓

従業員 三名

取引銀行 住友本所支店

特色 堅實な經營振りは同業者間でも定評あり、現在年五萬圓をあげて中堅層の代表的商店である。

小山玉三郎

京都市左京區田中下根町に明治四十一年五月生る。昭和六年年少二十餘才にして獨立自營、少壯有爲の士としてその前途を囑望されて居る、氏は目下應召出征中で一死奉公の念に燃えて立つて得意の美鬚を撫しながら、陣中にあるが、氏的美鬚は同業間の名物で鬚の解體店として名をさせてゐたものである、今や陣中で必らずや鬚の小山として活躍してゐることであらう。

雨宮 商店

所 在 本所區堅川一ノ四
電話 本所 六七六二番
創立 大正十四年一月
代表者 雨宮貢

沿革 大正十四年一月現所在地に雨宮商店を創立して解體部分品販賣に従事、業界にその傳統の歴史を誇つてゐる當店は自動車界が未だ發展への搖籃期を漸やく脱して實用時代に移らんとするとき斯業に乗り出せるものでこれが經營上にも並々ならぬ努力を拂ひ來つた業者にして本所の雨宮を知らざるものなしと云はれる偉大なる存在となり今日に及べり。

營業種目 解體部分品(ダツジ専門)

販路 一般

従業員 二名

取引銀行 日本晝夜本所支店

特色 本所の雨宮商店と云へば解體部分品商間では直ちに通用出来る位の解體部分品界の草分けであつて創業以來今日まで十數年間一貫せる堅實主義の經營を以て終始し既に業務を擴張せしむるより發展せる現事業を如何によく守り育て行くか所謂守成の時代となつてきた、同業者が殆んど建設期にあるとき當店は早くも業界に於ける確固たる地盤を決定し、事業の科學的經營に移つた、同業者間切つての資産を有して、信用絶大なものがある

雨宮 貢

雨宮商店主
江東解體商組合副組合長

氏は山梨縣の人、明治二十年山梨縣東八代郡石倉村に於て出生。大正十四年雨宮商店を興して未だ顧られざりし解體部分品の販賣に従事せり、創業當初は業界に對する世人の認識が足らずこれがため辛酸を嘗め致々として挽まず事業の育成にあたり、自動車界も文化の進運に伴つて本邦交通機關として重要役割を占めるやうになり、解體部分品の需要も漸やく活潑となる、つぶさに開拓者としての茨の路を歩みつゝ數年ならずして氏の苦心は次第に酬ひられるに至り今や本所の雨宮と呼稱せられて業界の大御所として君臨しつゝあり。

氏は處生の信念を質實剛健に置き専ら堅實な經營によつて雨宮商店の今日の築き、産をなしてげに業界の長老として人の上に立つ資格を兼ね備へたる人は稀にみるところである。松本組合長を援けて創立以來江東解體商組合副組合長として好評噴々たるものあり、温厚の長者にして永年の經驗を以て述べる公正なる論旨は常に組合の大勢を支配し業者の倚らしむべき處を明かにして組合員の敬服措く能ざるものあり人の師表たるに足る人である。齡ひ五十を越えて恬淡な性格は益々淡々たる風格を備ふるその健在を切に望む。

齋藤 商店

所 在 麹町區飯田町一ノ七
電話 九段二四九七番
創立 昭和六年一月
代表者 齋藤武政

沿革 昭和六年一月神田區美土代町三ノ四に齋藤商店を創立してホキベツト専門の自動車解體部分品商を開業昭和十年四月現在所在地に移轉業務を擴張して、麴町、牛込、神田、小石川方面に於ける隨一の解體部分商として重きをなし現在に及べり。

營業種目 解體部分品一般
販路 一般
従業員 三名

特色 當店は最初ホキベツト専門解體部分品販賣にあつてゐたものであるが、ホキベツトが不振に陥り需要減退するや直ちに一般ものに進出して麴町一帯に於ける隨一の解體商として大いに認められるに至り、近來めきくと躍進して古豪強豪と相伍して譲らざるまでに至る齋藤氏は明治四十年二月に生れ、少壯氣鋭の士である氏は創業前までは自動車運輸業に従事してゐたもので自動車全般のことに通曉して居り、前途尙春秋に富み身である。氏は亦軍籍にあり聖戰下皇軍將士の活躍に思ひはせて勇躍壯途につく日の一日も速かならんことを願ひ出征の曉は滅死殉國の一念に燃えあがつてゐる。

水野叶商店

所 在 京橋區湊町三ノ七
電話 京橋 五一九番
創立 昭和八年三月
代表者 水野叶

沿革 水野叶商店を昭和八年三月創立して自動車解體部分品販賣を開始、所謂仲間専門を以て漸次事業の發展を圖り今日に及ぶ。

營業種目 解體部分品(一般仲間専門)賣買
販路 一般、同業關係業者
従業員 四名

取引銀行 第百櫻橋支店

特色 當店主水野氏は業界の經營者中最年少者として知られてゐる、氏は大正五年埼玉縣熊谷市に於て生れ未だ二十歳に垂々とするとき富士繩藏太郎商店にあつて勤務五年にして同事業の優秀なるを知るや水野叶商店を設立せしものである。齡二十三歳と雖も本邦第一の稱ある都下中古車販賣界にて事業に従事し弱冠ながらその非凡の才腕を揮つて前途有爲の青年として賞讃を浴びその將來には多大の期待をかけられ、前途尙よく時流に棹さして邁進しつゝある。同業者多數のなかにあつて年少よくその地盤を築きつゝあるは敬服に値する。

ミナト商會

所 在 京橋區入舟町二ノ三
電話 京橋 四五二〇番
創立 昭和二年二月
代表者 山下與作

沿革 昭和二年二月京橋區新湊町にミナト商會を創立して自動車解體部分品販賣に従事、昭和三年一月業務擴張のため靈岸島に移轉、同四年現所在地に移轉せり、其間事業は逐次發展して解體部分品、中古自動車賣買業界に於ける第一流商として確固たる地盤を築き今日の隆昌を見るに至る。

營業種目 解體部分品(特にダツジパーツ)、中古自動車賣買業
工場 京橋區入船町二ノ三
販路 一般
従業員 四人

特色 當店は解體部分品商での有力者として定評あり解體部分品、中古自動車賣買等の各部門に伸びて飛躍的な發展を遂げて都下第一流商としての面目を發揮してゐる。當店は京橋區内に散在する山下プロツクの盟主であつて山下プロツクを中心に一大勢力をはつて業界をリードしつゝある。

尙トラツクの再生組立を開始してより再生トラツクの需要は日に増して殖へて生産力がこれに伴はざる状態にあり今後の發展は大いに期待さる。

山下 與作

ミナト商會主
京橋區入舟町二ノ三

氏は明治二十五年五月札幌市白石町に生れ、大正十三年上京、日本橋區澤鶴組に三年間勤務、業務に精勵して大いに有能の士として認められるに至りたるも獨立を志して昭和二年退社と共にミナト商會を創立して自動車解體部分品商を開業、爾來商賣の複雑デリケートな事業にありて漸次頭角を現はし事業は逐日繁忙に向ふとき、氏は同族をよくこれが協力者に求めて、共に事業の育成に努め各々志を立て、獨立するときこれを後援して現在京橋區に山下氏の同族五人までが解體商として獨立堂々と業界に進出しつゝあるは壯觀で同業者はこれと呼んで山下一家或ひは山下プロツクと云ひ、東京解體商組合副組合長として組合發展に盡力組合の中心勢力として業界をリードしてゐる。現在の如く高度統制が強化されるときあらゆる部門にわたつて統制はまぬがれ得ないところであり解體部分品界のみが統制經濟の外におかれるとは思はれない、そのときにあたつて山下プロツクを結成強化して時局に順應する態勢を備整せることは注目すべきで、今後經營の合理化を徹底強化して、各解體部分品の品種統制から事業統制に進展するとき必ず解體部分品界の王座を占むるに至るであらう。邁進する山下プロツクの推進力たる氏の活動は大いに注目されてゐる。

島田 本店

所在 澁谷區下通二ノ一七
電話 高輪 四八七〇番
創立 昭和二年二月
代表者 島田喜多郎

沿革 本店は昭和二年自動車解體部分品販賣を開始、相次いで再生トラック組立作業をも併せ行ふに至り、逐日事業の進展をはかり今や東都に於ける隨一の解體商として自他共に許すに至り、引續き好調を持續して現在に及べり。

營業種目 解體部分品、中古自動車賣買、トラック組立販賣

第一支店 豐島區池袋

第二支店 中野區本町通二ノ一三

從業員 六人

取引銀行 昭和銀行、第百澁谷支店

特色 本店は都下隨一の解體商として既に定評あり、その事業も解體部分品、再生トラック、中古車と各部門にわたつて居る、殊に早くより再生部分品を利用してトラック組立を行ひ新車同様の優秀車を販賣して業者間に絶大なる好評を博してゐる。中古車賣買に於ても亦活潑な活動をして居り事業は好調裡にあるから戦時體制下の今日基礎は盤石の如く揺なし。

島田喜多郎

島田商店主
自宅 澁谷區下通二ノ一七

氏は明治二十四年五月淺草區神吉町に於て出生、年少の頃より自動車に興味を持ち長ずるに及んで自動車界に身を投ずるに至り愈よ天來の本領を發揮して縦横に鬼才を揮ひ千軍萬馬の同業者に相伍して次第に頭角を現はし島田商店の名は業界に高まり今や都下隨一の解體商として定評を受けるに至る。その間氏はその才腕によつて着々その地盤を築きたるもその裏面には亦苦闘につぐ苦闘が繰り返された、解體部分品界も過般十餘年のうちには幾變遷あり景氣にも浮沈があつたが氏は性來の才腕と不撓不屈の志も初志を貫徹する異常な努力とは遂に苦難を乗り越えて今日の地位を占めることゝなつた。

氏は亦情誼に厚く店員を訓陶してこれが獨立をはからんとするや率先してこれに後援して今日氏の庇護のもとに巢立てる者尠からず同業者間より畏敬される所以のものもこの徳望に依るものならん。

氏は亦山之手解體商組合長として創立以來同組合の發展はもとより業界の革新淨化のため大いに盡力しつゝあり、亦澁谷警察署管内交通安全會理事をも兼任して絶大な信望を博してゐる。趣味としては演藝、旅行を愛好す

品川解體店

所在 品川區高輪南町七
電話 高輪 七七三二番
創立 昭和七年一月
代表者 大竹島六

沿革 昭和七年一月現所在地に於て品川解體店を創立、歐洲物専門解體部分品商を開業、爾來都下隨一の歐洲物専門店として重きをなし逐日事業の發展を見るに至りしも、近時歐洲車の輸入杜絶状態となり品薄のため一般物の取引をも開始して今日に及べり。

營業種目 解體部分品(一般特に歐洲物)販賣
倉庫 品川區高輪南町七
從業員 五人

特色 本店は歐洲物専門店として早くより認められ、歐洲物なら各種車に及んで在庫品も豊富で都下隨一の定評があつた、近時歐洲車の不振から品薄となりこれが營業に依存することの困難なるを知るや漸次一般物へ轉向するに至つた。然し現在でも歐洲物に於ては他店の追隨を許さず斷然たる強味を發揮してゐる。

大竹氏は明治三十四年十二月群馬縣北甘樂郡福島町に於て出生、弱冠にして上京自動車運輸に従事すること十年に及び、其間刻苦精勵日夜の別なく業務に勵み獨立の秋を待ち、昭和七年品川解體店を創立して解體部分品商として華々しくスタートした。

氏は陸軍航空兵上等兵として軍籍にあり、戦時下に減私奉公の赤心に燃へ立つてゐる。現に山之手解體商組合幹事として業界發展のために盡力してゐる。

末廣 商會

所在 京橋區入船町三ノ三
電話 京橋 七四四八番
創立 昭和四年四月
代表者 山下末吉

沿革 昭和二年三月京橋區入船町現所在地に末廣商會を創立、自動車解體部分品商を開業、逐日業務の擴張をはかり、京橋區市場通りの自動車解體商店街で最古の歴史を有し解體部分品界の一流商店に伍して遜色なき位置に進み現在に及べり。

營業種目 解體部分品一般
工場 京橋區入船町三ノ四
取引銀行 第五櫻橋支店
從業員 五名

特色 本店は京橋を中心として山手にわたる山下プロックの一員であつて、山下與作氏の義弟である。本店の強味とするところは山下プロック内で商品の融通その他販賣上の合理化を行ひ解體部分品界に陰然たる勢力をはつてゐる。

山下末吉氏は明治三十八年三月札幌市に生れ、義兄與作氏を助けてミナト商會の發展に大いに盡力、同店の今日を築いて功勞あり、後末廣商會を創立して今日隆昌を見るに至る、現に東京解體商組合會計として信望を博しつゝある。

池田自動車商會

所在 芝區西久保巴町五
電話 芝 一五二番
創立 昭和九年
代表者 池田健治

沿革 中古自動車販賣を目的として池田自動車商會を創立し事業を開始、爾來事業大いに振ひ中古自動車販賣より新車販賣にも進出して業績大いに揚り都下中古自動車販賣業界の異色ある存在として大いに認められ、現在に及べり。

營業種目 新古自動車販賣
販路 タクシー業者、其他一般
従業員 三名

取引銀行 第百銀行、日本晝夜銀行

特色 當商會は都下中古車販賣業界の中堅商店の代表商として定評あり、就中池田氏は中古車界に於ける商賣上手としてその車の鑑別は正確無比を以て知られ、これがため商賣上にも利益するところ多く將來は中古車界の中心的存在として大いに期待されてゐる、中古車界も昨今品薄となり一臺を各業者が奪ひ合ひ状態にあり勢ひ價格も相當無理して吊上ひられてゐるので混沌たる情勢にありて氏の如き存在は光彩を放つてゐる。

大東自動車商會中古車部

所在 芝區芝浦一ノ六
電話 三田 一五七五番
創立 昭和九年
代表者 石關昭吉

沿革 昭和九年大東自動車商會中古車部として創立せられ、同商會の下取車販賣に従事せる他漸次事業の擴張を行ひ一般中古車販賣にも進出して近來飛躍的な發展を示めしつゝあり、斯業に於ける新鋭ながら一方の雄として活躍して現在に至る。

營業種目 中古自動車販賣業
販路 一般自動車業者、運輸業者
取引銀行 第百銀行

特長 當商會中古車部は一般中古車販賣業者と異りフ

オードドライバーの下取車販賣が主たる事業であるからその内容も堅實で大東自動車商會とは不可分の關係に置かれてゐるから同部今後の活動も多大の期待を持たれてゐる。同部の創設者石關氏は群馬縣の人。夙に自動車界に入りかつては山梨縣甲府市にありて乗合自動車事業にたづさはりしこともあり自動車に對する造詣も深く、大東自動車商會横山新松氏を説いて中古車部を創設爾來同部を主宰して近年益々事業好調を辿り、中古車界の重鎮として重きを加へてゐる。

井澤自動車商會

所在 芝區明舟町十二番地
電話 芝 一六五〇番
創立 昭和四年
代表者 井澤正信

沿革 昭和四年に現所在地に於て光藤氏が中古自動車販賣を開業して盛業中なりしものを井澤正信氏が昭和七年事業一切を繼承することになり井澤自動車商會を改稱して井澤氏の經營下に移り爾來中古自動車販賣界に於ける一方の雄として認められて現在に及べり。

營業種目 中古自動車販賣、月賦販賣
販路 一般自動車運輸關係業者
従業員 三名

特色 井澤正信氏は富山縣の人、明治三十四年三月十日生れ、長ずるに及んで自動車界で身を立つべく自動車販賣界に投じて業界進出第一步を踏み出し、爾來日夜業務に精勵して大いに認められ、昭和七年井澤自動車商會を設立して獨立するや年來の俊英は果然經營に新機軸を出して好評を持って迎へられるに至り、目下都下中古自動車界の中堅的存在として發展期にありて各方面に活躍してゐる。その性け明朗にして温順よく顧客の好評を博してゐる。

東京常設市場自動車

所在 赤坂區溜池町三〇番地
電話 赤坂 一二七二番
創立 大正八年三月
代表者 細川 清

沿革 大正八年九月細川商店を創立中古自動車販賣を開始、事業隆昌に向ひつゝあるとき大正十二年の大震災に遭ひ時小石川支店に移轉、再び中央部に進出して數寄屋橋ガレーチ落成と共にダツジブラザース、グラハムブラザース代理店となり活躍せるもその成果あがらず再度中古自動車販賣に専念することとなり昭和十一年五月一日東京自動車常設市場を創立して中古自動車デパートとして中古自動車界に覇を唱ふに至る。

營業種目 中古自動車販賣
販路 一般
従業員 十名

取引銀行 東京山中銀行

特色 常設市場として中古自動車のオークションセルを行ひ一般同業者の交換市場として誕生せるが、最初の計畫とその目的の達成までには行かず、老巧細川氏の指揮下中古車販賣界に活躍中である。細川氏は自動車販賣界の長老で現に東京中古自動車販賣業組合長の要職に在る。

合資會社大山商店

所 在 赤坂區表町一ノ三
電話 立 青山 四五三六番
創立 大正八年
資本金 五萬圓
代表者 代表社員 今井義男

沿革 大正八年神田區今川小路に江戸川自動車商會を創立、自動車營業に従事せるも大震災の厄に遭ひ中止、合資會社大山商店を赤坂區傳馬町に創立して中古自動車販賣を開始、昭和三年赤坂見附通に新店舗を買収移轉、全國一流中古自動車販賣業者の地位を築き今日に及べり

營業種目 中古自動車販賣
販 路 自動車營業者

従業員 五人

取引銀行 第一赤坂支店

特色 當店は今井氏の苦心經營の結果全國一流中古車販賣業者として定評あり、堅實主義を飽迄堅持して稍々もすれば無軌道に走りやすき業界を淨化すべく努力して今日の隆昌を見るに至る。

今井氏は明治三十年十月愛知縣東加茂郡に生れ、丸の内セールフレーザー株式會社に入社爾來自動車事業に關係して今日に至る。

神田橋自動車商會

所 在 神田區錦町一ノ十一
電話 立 神田 二六八三番
創立 昭和八年
代表者 鶴野定助

沿革 昭和八年神田區錦町現所在地に神田橋自動車商會を創立して自動車販賣を開業、爾來中古自動車販賣界に於ける中堅層の代表店として活動、牢固たる地盤を擁して今日に及べり。

營業種目 各種自動車販賣、月賦販賣、金融

販 路 全國
従業員 三名
取引銀行 安田銀行

鶴野 定助

明治三十年千葉縣に生る。自動車販賣に従事すること既に二十三年の永きにわたり業界のオーソリテイとして自動車販賣界の元老的存在である。昭和八年獨立自營を決定して神田橋自動車商會を興し多難な中古自動車販賣に乗り出して爾來五ヶ年間に氏の印せる足跡は偉大なもので中古自動車販賣界の特異の存在たるのみならず月賦販賣による金融業の如きは可成り廣範圍にわたつて居り同業者間の驚異の的となつてゐる。資性明朗潤達にして商賣上手としてその敏腕を夙に顯はれてゐる。前途尙多大の飛躍を期待されてゐる。

吉原 商店

所 在 芝區芝浦南濱町一〇
電話 立 高輪 一九六七番
創立 大正十三年五月
代表者 吉原春吉

沿革 大正十三年五月現所在地に吉原自動車工作所を創立して自動車工作に従事、後吉原商店と改稱して中古自動車販賣業に轉じて中古自動車販賣界に確固たる地盤を擁して今日に及べり。

營業種目 中古自動車販賣(トラック専門)

販 路 一般トラック業者

従業員 五名

取引銀行 第百銀行

特色 中古自動車販賣界に於ける永年にわたる傳統的地盤は抜くべからざるものあり、トラックの需要は日に増大しつゝあるとき當店の如くトラック専門店として定評ある商店は一段と繁忙を極めてゐるが、中古トラックも漸次品薄となつてきてゐるので今後の對策は注目されてゐる。

吉原春吉氏は明治廿五年佐賀縣西松浦郡大川地村に生れ、早くより自動車界に投じて中古車界の元老にしてよく業界の事情に通曉せる權威者で同業者より信望を博してゐる温順な紳士である。業界發展のため今日まで大いに力を盡し功勞溲すべからざるものあり。

中村 商店

所 在 赤坂區溜池町三一
電話 立 昭和六年
創立 中村輯一郎

沿革 昭和六年現所在地に中村商店を創立して中古自動車販賣業を開業、爾來中古車界に於て高級車をはじめ中級車、大衆車の各種車を豊富に持つて各方面に活躍して今日に及べり。

營業種目 中古自動車販賣業

販 路 一般

従業員 五名

取引銀行 第一赤坂支店

特色 中村輯一郎氏は千葉縣の人、明治三十年三月を以て生る。夙に自動車界に入り自動車販賣に於ける經驗を積み、確信を以て中村商店を設立して獨立中古車界に第一歩を踏み出すに至る。氏は温厚篤實、事業經營にもその性格が反映して堅實な經營振りは衆の模範とするに足るものあり、中古車販賣の如き取引上の煩鎖なものにありてもよくこれを實行し居り、内容の堅實なるは業界屈指と云はれてゐる。現に東京中古自動車販賣業組合幹事として組合の發展に寄與する一方業界の長老として重きをなしてゐる。

山二商事株式會社自動車部

所在 芝區琴平町二
電話 芝二〇六二、三五二七番
創立 昭和八年
代表者 社長 鈴木義多郎、中古車部 岩田主任
沿革 當社自動車部は昭和八年芝區田村町三丁目創設せられ、シボレー副代理店として事業を開始、中古自動車買業を兼營して業績大いにあり、昭和十一年現在所在地に移轉して現在に及べり。

營業種目 新車及中古自動車販賣、月賦金融
本 社 麻布區永坂町六六(赤坂 四三番)
自動車部支店 水戸市仲町四八三
販 路 關東一圓
從業員 十二名
取引銀行 第一銀行、三菱虎の門支店

特色 當社自動車部は現岩田主任が經營の衝にあたり敏腕を以て開いて居り、當社の今日の躍進に預つて大なる力がある。月賦金融に於ては手廣く事業を擴張して主要事業となつてゐる。近年水戸に支店を開設して業務を擴張するなど積極的を行つて中古自動車界に於ける第一流店として定評あり、資本的背景も強力なものであるから今後の活動にも多大の飛躍を有してゐるので戦時下にも餘裕たつぶりの活動をなしてゐる。

山口熊吉商店

所在 芝區本芝四丁目二四番地
電話 三田 一六七二番
創立 昭和二年
代表者 山口熊吉
沿革 大正八年大崎町にて機械鍛冶工所を創設し鐵工業を經營、昭和二年山口熊吉商店と改稱して自動車販賣業並に自動車修理工場を開業、昭和五年芝區本芝四丁目に移轉業務を擴張せり、昭和十年六月山口ビル(建坪百八十坪三階建)を建設して移轉、都下中古自動車買業界の重鎮とし活躍今日に至る。

營業種目 貸室業
第一陳列所 芝區本芝四丁目二四
第二陳列所 芝區芝浦梁瀬自動車芝浦車庫内
販 路 バス、トラック業者
從業員 十名
取引銀行 第一銀行、安田三田支店、日本晝夜芝支店

特色 中古車界の特異の存在でバス、トラック専門買買を以て知る、豪腹なる山口氏は商法も亦豪快で大口取引を得意とする。氏は明治三十年栃木縣栃木町に生れ、鐵工界に入り技術を習得せるも後現業に轉じ今日の産をなすに至つた立志傳中の人である。

古瀬 商店

所在 日本橋區馬喰町四ノ九
創立 昭和二年十月
代表者 古瀬捨次郎
沿革 昭和二年十月日本橋區濱町に古瀬商店を創立して中古自動車販賣業を開業、爾來業務の發展に伴ひ昭和六年現所在地に移轉店舗の擴張を行ひ積極的活動をなして、都下中古車販賣界に特異な存在として認められ現在に及べり。

營業種目 中古自動車販賣
販 路 一般
從業員 三名
特色 當店は都下中古自動車販賣界に於ける中堅として手堅い地盤を擁して堅實な經營にあたつてゐる。中古自動車販賣界ほど有爲變轉の激しい業界は少なく今日王者の地位にあつたものが明日は再び一市井人に販るかと思へば、一介のプロカー的な存在からも一朝にして大店舗を構えて華々しく活動すると云つた事象が繰り返されてゐる業界である。榮枯盛衰は世の例とは云へかく變遷極まりなき中であつて十年一日の如くその地位を固く守つてゐる當店の如きは衆に稀なる存在である。

古瀬捨次郎氏は明治廿五年十月福井縣大野町に生る。自動車界には松永商店に入社が最初勤続四年にして獨立今日に至る。東京中古買業組合幹事たり。

佐久間章商店

所在 神田區紺屋町二〇
電話 浪花 一四三番
創立 昭和九年三月
代表者 佐久間章
沿革 昭和九年三月神田區紺屋町現所在地に佐久間章商店を設立、中古自動車販賣に従事、後事業の發展に伴ひ部分品販賣をも開始するに至り、自動車界の新鋭として絶大なる信用を博して益々進展して今日の隆昌を見るに至る。

營業種目 中古自動車販賣
販 路 一般
從業員 五名
特色 佐久間章氏は明治三十四年三月東京市本所區に生る。長ずるに及んで自動車に特殊の興味を持ち關心を寄せてゐたが、大洋自動車株式會社に入社、中古車部長となるに及んでその敏腕を揮つて都下中古自動車販賣界の麒麟兒と持てはやされ大洋の佐久間の名聲一時に高まる。名部長として縦横に活躍すること四年にして、昭和九年佐久間章商店を設立して獨立するに至る。今や業界にありて確固たる地歩を築いて好評噴々、資性明朗調達にして外交の妙手なり、東京中古自動車買業組合幹事として組合のために大いに盡力しつゝあり。

古瀬捨次郎氏は明治廿五年十月福井縣大野町に生る。自動車界には松永商店に入社が最初勤続四年にして獨立今日に至る。東京中古買業組合幹事たり。

三徳自動車商會

所在 芝區琴平町四〇
電話 芝 一八九四番
創立 大正七年
代表者 三室貞一

沿革 大正七年京橋區木挽町六ノ一に三徳ガレーヂを開業し五、六十臺を收容傍ら金融、中古車賣買業に従事昭和八年八月現所在地に移轉、三徳自動車商會と改稱して中古車賣買を専業として今日に至る。

營業種目 中古自動車賣買業
販路 タクシー業者、其他一般
三室 貞一

氏は靜岡縣の出身、明治二十二年二月二十日を以て生る。濱松中學校を卒業して上京、京橋區木挽町に三徳材木店を手廣く經營せるが、進取の氣象に富む氏は時代に目醒めて自動車界に轉業、顧客本位の經營は自然顧客の好評を博して中古車界の一流店として自他共に許されるに至る。その經營は飽迄も懇切丁寧を極めてゐるので固定せる顧客多し、氏は情義に厚くよく人の面倒を見てこれを引立て、義侠心に富んで信望厚きものあり、現に東京中古自動車賣買業組合、芝交通事故防止會役員として大いに活躍してゐる。

木村ガレーヂ

所在 赤坂區田町七ノ五
電話 赤坂 一六八七番
創立 大正十二年九月
代表者 木村安治

沿革 大正十二年九月トラウク運輸事業を開業、大正十三年五月木村ガレーヂを赤坂區田町の現所在地に創立して中古自動車賣買業に轉じ、逐次業務の擴張をはかり今日に及べり。

營業種目 中古自動車賣買業
工場 赤坂區田町七ノ一三
販路 一般オーナー、タクシー業者
従業員 十五名

取引銀行 住友赤坂支店、日本晝夜赤坂支店
特色 當店は中古自動車界に於ける第一流店として信用絶大なものあり、乗用車各車を取扱つてゐるが就中高級車やオーナー向き自動車に於ては他店の追隨を許さざるものがある。既に久しくこの方面に努力せる結果鞏固な地盤を有するに至つたものである。商談も頗る活潑で一流店たるの實録を示めてゐる。

木村氏は明治廿八年八月埼玉縣に生れ、自家用運轉手より身を立て今日の大をなすに至つた努力の人である。

みのる商會

所在 本郷區弓町一ノ二三
電話 小石川 一五五五番
創立 昭和十一年
代表者 小田切登仙

沿革 昭和十一年現所在地にみのる商會を創立、中古自動車賣買業を開業、創立日淺いが帝都自動車販賣界の新進として既に確固不拔の地盤を築き上げ躍進しつゝあり、中古車界の重鎮として現在に至る。

營業種目 中古自動車賣買(一般)自動車部分品販賣
販路 一般
従業員 三名
小田切登仙

氏は明治三十三年山梨縣東山梨郡加納岩村に於て生る大正五年山梨縣立日川中學校を卒業、後上京して自動車界に入り芝區巴町小島自動車株式會社取締役支配人として八年間にわたり同社の經營第一線に立つて活躍、自動車販賣界の棟腕家として知られ大いに敏腕を揮ひ、一躍業界の寵兒となる。昭和十一年みのる商會を創立して中古車販賣界に乗り出す、爾來往年の敏腕振りを發揮して都下中古車の新星として活躍しつゝあり、東京中古自動車賣買業組合常任幹事として業界發展のために貢献してゐる。

エー・ビー・シー商會

所在 深川區白河町二ノ一
電話 六九五〇番
創立 大正十五年三月
代表者 田口政一

沿革 深川區常磐町二ノ八に大正十五年三月エー・ビー・シー商會を創立して解體部分品商を開業、昭和三年五月現所在地に移轉し中古自動車賣買業を兼ねるに至り斯業に確固たる地盤を築いて今日に至る。

營業種目 中古自動車賣買、部分品用品販賣、旭完全
燃焼機製作販賣
販路 一般
従業員 六名
取引銀行 日本晝夜深川支店
田口 政一

氏は明治二十一年十一月和歌山縣有田郡田殿村に生れ青雲の志に燃えて米國に渡り爾來同地に二十年の長年月に在留して其の間自動車關係事業に終始従事、自動車に通曉せるも病を得て大正十二年十二月に歸朝をなし、大正十五年に獨立して現在の事業に従事して業績とみにあがり今日の隆昌を招來す、尙近年旭完全燃焼機を製作販賣してガソリン非常時に優秀燃料節約器を完成して大々的に賣出し性能頗る優秀なるため需要多し、白河町納稅組合組長に就任してよく組合のために盡力す。

比原 商會

所 在 麹町區車町五ノ五
電話 九段 二七七七番
創立 昭和十年
代表者 比原松熊

沿革 昭和九年東京自動車取引所解散に依り取締役社長比原松熊氏が獨立して個人經營を以て比原商會を創立して中古自動車賣買業を開業、爾來逐日躍進を遂げて中古自動車販賣界に不動の地位を築き現在の發展を見るに至れり。

營業種目 中古自動車賣買

販 路 一般

從業員 五名

取引銀行 日本晝夜銀行

特色 當商會は中古自動車販賣界の權威者比原氏の經營に依るもので獨特の販賣策を以て中古車に異色の存在として各方面の人氣をあつめつゝあり、所謂出物に豪華車あり傳統的な強味を發揮してゐる。

比原松熊氏は業界の長老、明治廿八年五月廣島縣安佐郡川内村に生る。大正六年東京タクシー株式會社を振り出して業界に投じ、京橋タクシー自動車商會、東京自動車取引所等を主宰せるも豫期に反し目下は原商會の經營に専念する一方自動車レースの再興に奮闘してゐる。

樋口自動車商會

營業所 京橋區新富町一ノ六
電話 九〇七二番
創立 昭和三年四月
資本金 貳萬圓

沿革 昭和三年自動車販賣業を開業して中古自動車販賣界に進出、漸次タクシー營業、車庫業に業務を擴張し、各部門共に逐日事業大いに進展し業界に確固たる地盤を擁して現在に至る。

營業種目 自動車販賣、タクシー業、車庫業

支店 神田區田代町十三番地

從業員 八名

取引銀行 第百銀行

樋口 四郎

自宅 京橋區新富町一ノ六

明治三十四年六月二十五日金澤市に生る。日本大學政治科より専修大學に轉じ經濟科を卒業、品川區五反田に家具商を営み、昭和三年四月より自動車業に轉じ今日の成功をおさむ、現に東京全市に車庫七十臺所有し、東都タクシー界の中堅として活躍、現に東京自動車々庫業組合副組合長、東京自動車賣買業組合副組合長、タクシー商業組合理事、京橋業組合常任幹事、タクシー商組營業統制委員の諸職を兼ねタクシー界の論客を以て知られ、常に革新的な指導意見を以て業界をリードして新進として大いに盛名をばせてゐる。

廣野自動車商會

所 在 芝區西久保巴町四二
電話 芝一 九七五番
創立 昭和四年
代表者 廣野筆吉

沿革 昭和四年赤坂區田町一丁目廣野自動車商會を創立、昭和十年現所在地に三階建の近代様式に成る廣野ビルを建設移轉、事業發展して自動車販賣界に確固たる地盤を築き今日に至る。

營業種目 新古自動車賣買

販 路 静岡、關東、東北

特色 中古自動車販賣界に確固不動の地盤を築いて居り、責任ある取引は顧客の信用を博して益々販路を擴張しつゝある。就中當店は地方に強靱な需要層を有してゐることが絶大な強味となつてゐる。

廣野 筆吉

明治三十一年静岡縣清水市に生れ、上京して自動車販賣界に身を投じ幾多の辛酸を嘗めて今日の地盤を築く、その性頗る温順にして商取引の輕快なるは顧客より持てはやされて商談も活潑に動きつゝあり、都下中古自動車販賣界の一方の雄として活躍してゐる販賣界の中堅として業界發展のため寄與するところ尠からざるものあり、給不惑に達して事業の完成に急ぎつゝある。

合資會社森自動車商會

所 在 芝區西久保巴町
電話 芝 三五五九番
創立 昭和八年
代表者 森小太郎

沿革 昭和八年芝區神谷町に森自動車商會を創立して本邦最初の中古自動車日賦、月賦販賣制を以て事業を開始するや都下中古自動車販賣界にセンセーションを捲き起すに至り、漸次事業の進展に伴ひ自動車修理にも進出して降昌に向ひ昭和十一年芝區西久保巴町現所在地に移轉業務の擴張にあり現在に及べり。

營業種目 中古自動車賣買並に修理

販 路 自動車營業者並に一般

從業員 十五名

取引銀行 第百芝支店

特色 當商會は中古車界不振の近來にあつてめきくと躍進して事業の擴張をはかり積極的活動をつゞけつゝある。日賦の中古車販賣の新企劃は業界に衝撃を與へて注目せられ危懼された新販賣方法は圖に乗つて遂に今日の成功をかち得るに至れり。

森氏は濃厚篤實の紳士で東京モーター時代よりの販賣界の東才を謳はれた人である。

原商店

所在 京橋區本捲町八ノ三
電話 銀座 八五四番
創立 昭和七年七月
代表者 原 穂積

沿革 昭和七年現所在地に原商店を創立して自動車タイヤ販賣修理を開業、逐次用品部を設けて業務を擴張して今日に及べり。

營業種目 自動車用・荷車用再生タイヤ、自動車附屬品一式販賣
販路 東京、地方
従業員 五名

取引銀行 安田銀行芝支店

特色 當店はタイヤ界に於ける信州プロツクの中心人物で信州プロツクがタイヤ界の中心勢力となつてゐる今日、當店の動向は大いに注目されてゐる。

原 穂積

明治卅二年十二月六日長野縣上伊那郡東箕輪村に生るライオン社、梁瀬車庫商事部に入りタイヤ部主任となり昭和七年獨立まで勤続、非常な活動家でその手腕は業界に定評あり、今日發展の一途を辿りつゝある。

西原タイヤ商會

所在 京橋區築地一ノ一
電話 京橋 五四七七番
創立 昭和四年二月
代表者 西原和吉

沿革 昭和四年二月トラック運輸業を開業、昭和五年二月現所在地にタイヤ販賣並に修理の事業を始め今日に至る。

營業種目 タイヤ修理並に販賣
販路 一般
年商 一萬圓
従業員 五名

取引銀行 第一銀行銀座支店

西原 和吉

明治三十年長野縣上高井郡小布施村に生れ、大正六年上京、大正十年慶應義塾商業學校を卒業するや直ちに梁瀬自動車株式會社車庫に勤務し主としてタイヤ修理技術を習得す、昭和四年獨立してトラック運輸業を經營せしが翌年タイヤ販賣、修理に轉じタイヤ販賣界の中堅として活躍、東京タイヤ販賣業組合理事、東京タイヤ商組合幹事にして堅實第一主義が氏の信條である。

凹凸舎

所在 赤坂區田町一ノ一五
電話 青山 七〇三〇番
創立 大正十四年十一月
代表者 平田和男

沿革 大正十四年凹凸舎を設立してタイヤ修理業を開始、爾來業務を擴張して静岡縣熱海、京橋區横町に支店を開設事業を擴張して現在に至る。

營業種目 新古タイヤ販賣並修理
支店 京橋區横町 静岡縣熱海市熱海
販路 自動車運輸業者、其他
従業員 十名
取引銀行 第一赤坂支店

特色 當舎は再生タイヤ界に傳統の地盤を持つて居り平出氏は東京タイヤ賣業組合の有力メンバーでタイヤ界には確固たる勢力を有して同組合を牛耳りつゝある人で信用は絶大なるものがある。

氏は長野縣上伊那郡東箕輪村に明治二十九年九月出生長ずるに及んで上京業界に身を投じ信州人氣質をうけついで氏は飽迄も堅忍不拔よく今日の隆昌を招くに至る。

尾久バルブ製作所

所在 荒川區尾久町二ノ五六〇
電話 下谷 六九〇五番
創立 昭和二年
代表者 中村茂平

沿革 尾久バルブ製作所を創立してバルブ、インサイド製造販賣に従事、逐次事業の擴張をはかり第一分工場より第四分工場まで増設して斯界に冠たる存在となる。製品の優秀なるを認められ現に陸海軍航空隊御用、陸軍自動車隊御用をつとめて國産バルブ界の優秀工場として現在に至る。

營業種目 バルブ、インサイド製造販賣
第一分工場 荒川區尾久町二ノ五〇五
第二分工場 荒川區尾久町五六〇
第三分工場 荒川區尾久町五〇〇
第四分工場 陸海軍航空隊御用、陸軍自動車隊御用、一般タイヤ業者

特色 當所は近年著しく躍進して來て工場の新設擴充を行ひ生産力の擴充に努めつゝあるも軍需向きバルブ、インサイドの受註相つきこれが消化にさへ困難を感じてゐるが、中村氏の良心的經營は民需への不安を一掃するため鋭意これが製造にもあたりつゝあるので工場能力をフルに動かして生産能率をあげることに全力を傾倒してゐる。尙當所は有望事業を獨占的におさへてゐるので今後の活動は大いに注目さる。

金井タイヤ商會

所在 芝區新橋三ノ一ノ九
電話 銀座 三四九七番
創立 昭和二年十一月
資本金 五萬圓
代表者 金井芳松

沿革 昭和二年金井タイヤ商會を創立してタイヤ修理事業を始め、修理機及ゴム原料販賣に業務を擴張して今日に及べり。

營業種目 タイヤ修理機、ゴム原料販賣並にタイヤ修理、コンゴウライニング發賣元

工場 板橋區志村前野一、二
販路 再生タイヤ業者、一般運輸業者

取引銀行 住友新橋支店

特色 當商會はタイヤ修理機、ゴム原料を都下再生タイヤ業者に供給して居り、近時ゴム原料の著しい昂騰と生ゴム饑饉なかにあつて微動だもせず、修理部は繁忙を極めて活況を呈してゐる。

店主金井芳松氏は群馬縣の人、明治三十一年一月十一日出生、業界に身を投じてより不撓の努力をつゞけて、あらゆる困難を克服して都下一流店となり同業者の美望の的となつてゐる。堅實主義をモットーとして此方針のもとに經營してゐるタイヤ界の論將として聞えてゐる。

影山タイヤ工業所

所在 淺草區日本堤一ノ六
電話 淺草 一一八一番(呼)
創立 昭和四年一月二十六日
代表者 影山憲吉

沿革 下谷區龍泉寺町二二八番地に影山タイヤ工業所を創立してタイヤ販賣修理を開業昭和六年現所在地に移轉業務を擴張す。

營業種目 新古タイヤ販賣並修理、馬車用タイヤ販賣

工場 淺草區地方今戸町八四番地

販路 市内一般運輸業者及地方

従業員 三名

取引銀行 東京貯蓄銀行駒形支店

特色 都下再生タイヤ工業界の中堅として活動、近年地方よりの發註旺盛、近年地方進出を試みつゝあるは注目し得る處である。

影山憲吉氏は 明治三十年三月二十日群馬縣多野郡美九里村に生る。大正八年上京してより化學工業に關心を持ち日暮里にセルロイド加工業を營み後再生タイヤ工業に轉ず、現に東京タイヤ業協和會を結成して副會長の重職にあり、近來その人格益々圓熟の域に達して同業者の信望日に厚きもあり。

横濱護謨製造株式會社

本社 横濱市鶴見區平安町二ノ一七
電話 鶴見 五六八、七〇九番
創立 大正六年十月十三日
資本金 參百八拾萬圓(全額拂込)
役員 取締役社長 中川本吉、専務取締役 荻原孝吉、取締役 小室泰治、同 小原清次、同 長谷川鐵太郎、監査役 後藤元治、同 木村豊吉

沿革 當社は古河電氣工業株式會社の傍系事業として大正六年創立、昭和六年タイヤ製造工場の竣工と共にグットリツチシルバータウンの名稱で發賣するや需要家各方面にその品質の優秀性を認められるに至り、牛馬車、手車にも當社製ゴムタイヤが採用せられ、今や工業用ゴム製品、タイヤ共に年々その需要量を激増し、その販路は國內は言ふに及ばず、既に滿洲國、支那、印度、南洋南米方面と逐年海外市場へ進出するに至る。昭和九年には一部工場の増築をなし、同十年には米國資本の肩替をなし、十二年四月よりタイヤ名を「ヨコハマ」と改め、又工業用ゴム製品も改稱し、眞に優秀國産品の製出に向つて邁進しつゝある。

營業種目 ヨコハマタイヤ及チューブ、工業用ゴム製品

東京販賣店 芝區田村町五ノ七
工場 横濱市鶴見區平安町(工場建坪一萬坪)
販路 日本全土、朝鮮、臺灣、滿洲、支那、印度、南洋、南米

従業員 社員 二五〇名、従業員 五〇〇名

取引銀行 第一銀行、三菱銀行

特色 當社は古河電工の仔會社で時局景氣を満喫してゐる。即ち當社は事變以來特殊需要旺盛なるため生産力をこの方面に振向けてゐる。生ゴムの非常管理に依りゴム工業者は何れも原料手當に狂奔してゐるが、特殊需要は割當外となり原料の供給を受けるので不安なく、民需は可成りの壓迫を受けてゐるも収益力は増加して居り、時局會社として戦時體制下に益々重要地位を占むるに至つた。現在直ちに増資擴張計畫を遂行するとも考へられないが、これも近き將來と見られる。事變前はタイヤ三社の競争激化せるため生産過剰となりタイヤの低落と市場混亂に陥り悲觀されてゐたが、事變に依り見事建直り前途は大きな期待がかけられてゐる。最近輸出は海外各地に及び相當の業績をあげてゐたものであるが、輸出入品臨時措置法に依り輸出も禁止的狀態にあつたが、リンク制の採用に依り再び輸出に注力されるから業績は一段と好調を期待される。